

# 徳島の剣道

特集：原田勝居合道範士誕生 第25号



徳島県剣道連盟



# 原田 勝 先生の演武

平成二十一年一月四日  
於ソイジヨイ武道館

表紙

題字 堀江幸夫

さし絵 村嶋恒徳

## 巻頭言

# 範士誕生の慶びを剣連の力に！

徳島県剣道連盟会長

遠藤一美



平成二十年五月三日、居合道範士の審査会において、見事、原田勝美先生が合格されました。全国で僅か四名の合格であり、その一人に原田先生がなられたわけです。徳島県としては、平成

九年五月の平尾勝美先生以来、十一年ぶりの快挙であります。

称号・段位審査規定の第二条に、「称号・段位を通じ、範士を最高位とする。」と明記され、また、範士号の付与基準として、「範士は、剣理に通暁、成熟し、識見卓越、かつ、人格徳操高潔なる者」とされています。その厳しい条件をクリアーされた原田先生に心より、お慶びを申し上げます。

原田先生の居合道範士に至る秘話がこの特集に掲載されていますが、最も大きな要因は、先生の愚直なまでの求道心と地道な修練であったと推察いたします。ここに師との出会いがあり、原田先生を大きく成長させていく上昇気流が湧き上がってきたように思います。

仏教の経文の中に「喜とは自他ともに喜ぶことなり」とあるそうです。「喜」と「慶」で漢字は違いますが、意味するところは同じであると考えます。本当の喜びは自他ともに喜ぶ心にあるとの意であり、そのことが人生を豊かで深いものに変えていけるものになると思います。

この範士誕生の慶びを居合道部だけでなく、徳島県剣道連盟全体の慶びとし、さらに剣連の力に変えて、今年の各種大会・審査会で見事な成果を残していきましょう！

# 『徳島の剣道第二十五号』目次

巻頭言……………遠藤 一美……………1

## 《特集 原田先生の範士拝受》

居合道範士の称号を拝受して……………原田 勝……………5  
 無双直伝英信流に光明……………三谷 昭雄……………8  
 すばらしい原田勝先生……………大澤 孝彰……………10  
 居合道範士誕生を祝して……………高橋 憲司……………11  
 鹿島神宮奉納全国選抜  
 居合道八段大会に参加して……………原田 勝……………12

## 顕彰一覧

平成二十年度徳島県中学校剣道優秀選手……………16  
 平成二十年度徳島県高等学校剣道優秀選手……………17  
 剣道有功賞  
 竹刀を握って五十六年……………坂下 彦之……………18  
 少年剣道教育奨励賞  
 少年剣道教育奨励賞を受賞して……………大石 雅生……………20  
 少年剣道教育奨励賞を受賞して……………柳山 紹生……………22  
 体育功労賞  
 体育功労者表彰を受賞して……………福井 軍二……………24  
 全日本学生剣道選手権  
 全日本学生剣道選手権大会に出場して……………大石 洋史……………26

## 先生を偲ぶ

父と剣道の思い出……………宮崎 洋明……………28  
 岡崎明先生を偲んで……………磯部 洋一……………29  
 蝦名久作先生を偲ぶ……………西山 伸二……………30

## 全国講習会報告

西日本中央講習会……………河田 清実……………31  
 居合道中央講習会を受講して……………高橋 憲司……………40  
 第四十六回中堅士講習会に参加して……………生田 浩章……………42  
 佐藤博信先生講習記録……………手塚十三子……………44

平成二十年度全日本剣道連盟後援徳島県剣道秋季講習会

(指導法・日本剣道形) 記録……………手塚十三子……………48

女子審判法研修会……………竹内佳代子……………53

日本剣道形(初心者回)講習会の実施について……………中村 稔裕……………56

日本剣道形講習会に参加して……………田中 邦明……………57

## 徳島の剣道史

阿波刀の歴史 新々刀編……………坂本 憲一……………58

撃 剣……………竹原実太郎……………65

## 大会所感

県西で、二十回の剣道大会を開催して……………大石 雅生……………67

## 各種大会に参加して

第三十回全国スポーツ少年団剣道交流大会に

徳島県チーム監督として参加……………久保 隆司……………69

第三十回全国スポーツ少年団

剣道交流大会に出場して……………永野みきみ……………72

第三十回全国スポーツ少年団

交流大会に参加して……………西 柚衣……………73

第五十六回全日本都道府県対抗

剣道優勝大会に参加して……………近藤 亘……………74

第二十五回最後の家庭婦人剣道大会に参加して……………富永ますみ……………75

四国矯正官大会に出場して……………住友 直城……………77

全国高等学校選抜剣道大会に出場して……………阿南工業高校 櫻木 鉄也……………78

……………阿南工業高校 賀上由里奈……………79

全国選抜大会に出場して……………富岡東高校……………79

全国高等学校体育大会に出場して……………阿南工業高校 福川 敬太……………81

……………阿南工業高校 細川 美波……………82

インターハイに出場して……………富岡東高校……………82

第三十八回全国中学校剣道大会に出場して……………那賀川中学校 谷口 奨真……………83

……………那賀川中学校……………83

第三十八回全国中学校剣道大会に参加して……………福多 博史……………85

……………福多……………85

終わり、そして始まり……………那佐 萌……………87

……………那佐……………87

第五十回全国教職員剣道大会に参加して……………小西 美穂……………88

……………小西……………88

全国高専女子剣道大会……………湯城 豊勝……………90

……………湯城……………90

第三回全国都道府県対抗 少年剣道優勝大会に参加して……………久保 隆司……………92

第三回全日本都道府県対抗

少年剣道優勝大会に出場して……………谷本 晃佑……………94

全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会……………斎 浩市……………95

第四十七回全日本女子剣道選手権大会に出場して……………吉岡 穰……………97

……………吉岡……………97

全日本東西対抗に出場して……………米倉 滋……………98

第六十三回国民体育大会に参加して……………近藤 亘……………99

久しぶりの本大会出場……………平野 誠司……………101

全日本居合道大会に参加して……………吉岡 修一……………103

全日本剣道選手権大会へ出場して……………近藤 正章……………106

第五十一回全日本実業団剣道大会に出場して……………木里 健一……………107

全国警察剣道大会……………山名 信行……………108

夢の舞台に立って……………日和田慈海……………110

平成二十年度徳島県高齢剣友会活動状況……………笠井 勝……………112

第二十一回全国健康福祉祭かごしま大会……………西岡 金若……………117

ねんりんピック鹿兒島二〇〇八報告……………西岡 金若……………117

随 想

剣及び鐔の変化と戦術の関連……………勝沼 信彦……………120

国の武道振興の流れについて……………石井 博……………121

子象物語……………三木 毅……………123

相撲道に観る……………藤本 雅史……………126

家 紋……………南 充美……………129

すべての出会いに感謝……………須藤 恭宏……………131

雑感	松村 克隆	133
「走った」思い出	近藤 敏晴	134
剣道との出会い、そして再会	勝野 晴孝	136
<b>称号・段位合格者</b>		
七段に合格して	山田 浩司	138
七段試験	曾根 徳治	139
できない自分を認める	佐々木和人	141
六段に合格して	磯部 健治	142
六段に合格して	谷 喜史	144
称号・段位合格者一覧		145
<b>がんばろう徳島</b>		
部活だより		
北島中学校	本村 賢二	150
道場・教室だより		
川島剣道スポーツ少年団	猪野 和男	155
木頭錬心館	岡田 豊	157
平成二十年度 大会記録		159
徳島新聞に見る戦いの跡		183
平成二十一年度 昇段審査学科試験問題・解答例		211
平成二十一年度 徳島県剣道連盟行事予定表		217
平成二十一年度 審査実施計画表		219
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等		220
<b>編集後記</b>		



## 特集 原田勝居合道範士誕生

### 居合道範士の称号を拝受して

原 田 勝

平成二十年五月三日、京都武道センターにおいて行われました居合道範士の称号審査会において、全日本剣道連盟より居合道範士の称号が私に授与されました。これも偏に地元の先生方のもとより全国の諸先生方の温かいご支援とご指導、ご鞭撻の賜と存じ、衷心より深く感謝申し上げます。平成十九年度から受審が出来る年限は来ておりましたが、範士の称号は自分には余り縁のないものと思ひ、受審を見送っておりました所、居合道範士の平尾勝美先生をはじめ全国の多くの先生方より合否は別として受審だけはしなさいと有り難いお言葉を頂きました。それにより、師匠である居合道範士の三谷昭雄先生のお許しと、徳島県剣道連盟会長のご推薦をも頂き、受審をしました所、はからずも有り難く授けて頂くことが出来ました。武道センターの入り口へ合格者の発表がなされた時は、何かの間違いではなからうかと自分の目を疑いました。後日証書を頂いて初めて実感したような次第でした。

思い起こせば、居合を始めて約四十三年の歳月が過ぎておりま

した。昭和四十年、剣道教士（故）大澤善二郎先生との出会いにより始まりました。剣道は強くなれ、居合は上手くなれ、段位などは必要でないとわれながら、剣道と居合の手解きを受けました。大澤善二郎先生との稽古は、ほとんど毎日でした、私の勤務の非番日には朝から晩まで二人だけの稽古でした。最初の三十分ぐらいは毎回、大きな和についての講話でした。

その頃、剣道範士（故）堀江幸夫先生が理事長になられ、大澤善二郎先生を通じ、徳島県は居合道が不調なので居合道に力を入れてくれないかとの要請があり、奨励の意味なのか認定で私に居合道三段を頂きました。そのころは剣道の方に興味があり、それほど居合をしようとは思いませんでした。（旧）木頭村の大和錬心館では成年の剣道は盛んでしたが、少年剣道がなく、不思議に思ひ、先輩の先生方に聞いてみると稽古の時間帯が合わない事がその理由でした。そこで私がやることとなり、剣道の事も、指導方法も何も分からぬままに、関係機関や地域の方の協力を得て少年の部をつくりました。最初の指導者として、日曜と祭日以外は年間を通じ毎日稽古をし、三年が経つと、それなりに少しづつ成果が出始め、県下大会でも優勝出来るようになりました。

尚、剣道が楽しくなった数年後、職場の定期検診で心臓疾患が発見され、剣道にドクターストップが掛かり、それを期に少年剣道も後輩に譲り、一時は何をする気にもなりませんでした。大澤善二郎先生から居合なら出来るのではないかと言われ、医師に相談をした結果、しばらく様子をみてからと言われましたが、隠れ

て居合を抜いておりました。その旨、堀江先生にお伝えすると、まず大澤善二郎先生に相談をして居合の師匠を捜せと言われました。居合を教えてくれる先生を紹介するのはたやすいが、師匠は自分の納得する先生を自分で見つけなさいとも言われました。その頃、香川県で居合道の都道府県別大会が行われており、徳島剣連より五段の選手として出場の依頼がありました。それまで居合道に大会があり、試合があるという事は全然知りませんでした。

大澤善二郎先生ご他界後、居合道の師匠を求めて近県の各大会にはほとんど参加しました。各大会で先生方の演武を拝見させて頂くうちに何年かして、特に心に残ったのが高知県の無双直傳英信流の(故)範士、三谷義里(寿山)先生でした、後に居合道範士九段・剣道範士となられました。この先生を置いて他に師は無いと心に決め、門をたたくことにしました。今になって思えばこの時の決断が自分にとって人生最大の分かれ目であったと思っています。この時、他の先生に師事していたならば、今日の自分はなかったと思います。もし、三谷義里先生が弟子に出来ないと言われた時には、それを区切りに居合道からは手を引く決意でした。しかし、快くお引き受け頂き、養心館、三谷門下の末席に加えて頂きました。

当時は徳島県側、高知県側共に道路事情が最悪でした。往復四時間余りの道を週二回通い、先生がご在宅で自分も非番の時にはお話を聞きに行くことにしました。道場での稽古は、まず先生が何本か抜かれた後に弟子たちが抜き、最後に全員で抜くという内

容でした。技の善し悪しについてはあまり言ってはくれませんでした。又何を聞いてよいのかも分からず、月日は流れました。そのうちにこの道は教えてもらうのではなく、自ら学び取るものと自覚するようになり、それからは道場での稽古は勿論、各大会に於いても三谷義里先生、三谷昭雄先生の居合の演武は必ず拝見し、勉強する事に徹しました。

私が先生のお宅を訪ねる度に毎回必ず、私に言ってくれ事は、「天狗になってはいけない。謙虚にしなさい。天狗になると居合だけでなく人生そのものがだめになる。」と、いうことでした。先生のお話は決まって日中戦争勃発時から第二次世界大戦終結までの話からでした。それを概ね二時間、居合に関する事はたまに五分〜十分ぐらいでしたが、その時のお話し頂いた事が今になって思えば実に重要な事ばかりでした。その時の教えは今も私の居合に対する信念として生きております。又、「いくら稽古をしても目に見えて上手になるものではないが、稽古は休まずしなさい。謙虚に真面目に創意工夫をしながら一生懸命、稽古をしておれば、人が放っておくはずがない。」とも聞かされました。また、特に、感謝したい事の一つに先生の奥様(故)三谷正子様のご存在があります。お伺いする度に、私を実子の様に大事に接してくれた事は、大きな支えとなりました。今でも思い出す度に目頭が濡れます、そんな優しくして筋金入りのお母さんでした。

ある時、先生が「遠くから時間をかけて私の所へ来てくれるのは嬉しいが、君の地元・徳島の先生を大事にしなさい。選挙でも



地三に慕のない人はまず落ちますよ。」とも教わりました。その頃、徳島県内においては剣連主催の居合道の講習会では、永年にわたり大阪より全国的にも高名であった剣居共に範士九段（故）坂本吉郎先生と居合道範士八段福田一男先生（後に九段）が指導においていただいていたました。講習会を通じて両先生にも一方ならぬご指導を頂きました。また両先生がご来県の折りには必ず堀江幸夫先生もお見えになっていました。

県内の範士の先生方のように礼を尽くせば良いのか分からず、機会ある度に平尾勝美先生の居合の稽古を拝見し、講話等は全部記録をして特に大事なことは部員には伝えることにしました。また堀江幸夫先生、大澤孝彰先生、両剣道範士のお稽古は機会ある度に礼を尽くすつもりで必ず正座をして最後まで拝見させて頂く事にしました。その様な事を続けるうちに剣道の両範士の先生から私の居合に対してのご教導も頂けるようにな

りました。ある時、堀江幸夫先生より、「私の稽古を最初から最後まで正座を崩さず見てくれるのは君だけだ。」とのお言葉を頂き、それからは、お会いする度に剣道と居合道、処世道について多くの事を、なお詳しくご指導頂くようになり、大変有り難いことでした。

堀江幸夫先生のご支援で、徳島剣連の居合道部長も十五年間努めさせて頂きました。特に印象に残った事の一つに、「居合を木頭の子や川にも学んでみてはどうですか。」とも言われました。このように多くの先生方のご指導のおかげで身に余る居合道範士の称号を頂くことができました。県内の先生方はもとより全国の先生方に、下から押し上げて頂き、上から引張り上げて頂きました。居合道八段の時も、この度の範士の称号にしても自分では何ほどの苦労もせず、頂いたような気がして誠に申し訳ないような思いです。特に三谷義里先生ご他界の後、師事している三谷昭雄先生には多大なご支援、ご指導を頂き大変有り難く感謝申し上げます。自分にとってこれからは真の修行の始まりだと自分に言い聞かせ、気も新たに、視点を変え初心に返り、ゼロから出発しなければと思っております。又、この道発展のため微力ながらも少しでもお役に立てるよう日々、精神誠意、精進に努めなければならぬと、決意も新たにしました次第です。

寿山の峰は遥かなり、我はまだ御山の裾野に辿りも着けず

# 無双直伝英信流に光明

三 谷 昭 雄



原田勝先生、この度の居合道範士号ご  
取得、誠におめでとうございます。取得  
すべき人が、すっきりと範士号を授かっ  
たと感じ、大変嬉しく衷心よりお慶び申  
し上げます。

範士とは剣の奥義を修められ、剣理は高く、豊かな識見と力量  
のもと、指導力に秀で、徳操・高潔な人物であることが条件と云  
われますが、原田先生の直向ひなむかきな実践と実績、剣道・居合道界へ  
の貢献と人望が評価され、本年のご取得に結びついたと思われま  
す。同じ道を歩むものとしてこれほど嬉しく、心強い思いはござ  
いません。

最近の居合道範士号の取得は極めて難しく、年間一人か二人と  
いう、超難関の世界となっております。そうした状況下での原  
田先生のご取得は、まさに衝撃的な慶びでした。

本年、徳島県剣道連盟の推薦をいただき、即、その年に取得さ  
れたことは、この世界では異例の出来事といって過言ではありま  
せん。原田先生の人徳の賜物でしょう。

さて、我々が修煉している居合道とは、「居合わす敵の殺気を  
感知し、先をかけて我が身を守る武道」であり剣道と一体のもの

です。そもそも居合道は戦国時代に山形で創始され、その後、多  
くの流派に分かれて発展しましたが、戦乱が収まると武道の修煉  
も沈静化されていきました。そうした中、江戸時代の初期に居合  
の武を収めた者が土佐藩に召抱えられ、江戸から土佐へ入りを入  
したことから、居合は土佐藩内で受け継がれ、やがて「お留流」  
として隆盛を極め、江戸末期には「無双直伝英信流」と称して集  
大成しております。

その「お留流」であったものが明治時代に東京に伝わり、やが  
て形を変えて全国に広がり、戦後、「夢想神伝流」と称して現在、  
全剣連の居合道人口の七割を占める大きな流派となって発展して  
いることはご承知のとおりです。

一方、元来の「無双直伝英信流」は四国四県と岡山県全域の居  
合道人口を占有しているものの、他地域では関西圏を中心に二十  
府県で他流派と共存して居る現状で、全国での占有率は三割弱の  
状況です。かつて、全剣連の居合道界をリードしてきた英信流の  
先達も他界し、存命のリーダーも高齢に拍車を掛け、まさに現在  
の英信流は後継者不足の危機的現状なのです。

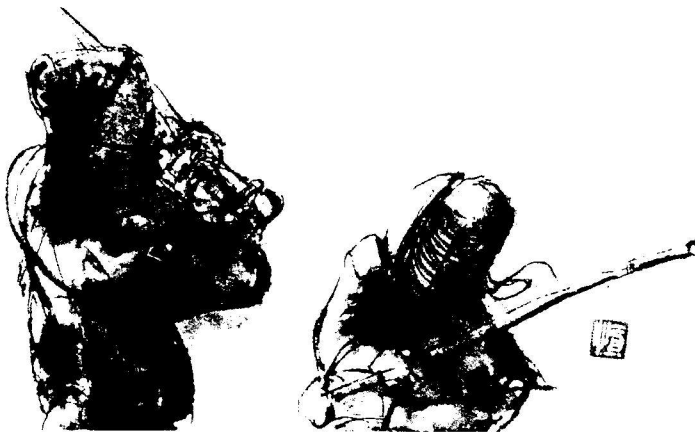
こうした現況下で、原田先生の範士取得は「無双直伝英信流」  
の将来に光明を見る欣きん快な慶事なのです。

原田先生はかつて、全日本大会で選手として活躍され、その後、  
徳島県剣道連盟の居合道部長として県内の居合道振興に敏腕を振  
るわれ、一方、全剣連西部地区講習会・審査会を主管し、重責を  
果たされました。現在は全剣連の六・七段審査員、全日本居合道

大会の審判員として、その重責を果たされており。四国四県の合同稽古会でも正しい古流の普及と後進の育成に情熱を注がれるなど、八面六臂の活躍で、誠に頼もしい限りであります。

また、八月末の八段選抜の鹿島神宮居合道大会には四国代表の選抜選手として出場され、見事、準優勝の栄にも輝かれました。名実共に真の範士として、今後の活躍にも一層、注目が集まるどころであります。

これからも、原田先生は居合道界の新進の範士として益々、ご多忙の日々が続くものと思われませんが、健康管理こそが範士の模範を示すべきことの一部と心得られまして、末永く徳島県剣道連盟、全日本剣道連盟、そして、我々、無双直伝英信流居合道の仲間のために、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます、お祝いと致します。



# すばらしい原田勝先生

大澤 孝 彰

原田先生は私の亡父（善一郎）の愛弟子です。いや、むしろ内弟子と言ったほうが良いかもしれません。私が嫉妬を抱く様な可愛がり様でした。原田先生も最初は剣道から始められ、熱心に稽古されて上達も早かった様に思いました。亡父は一生懸命教える余りももっともとうまくなるだろうと欲張ったのかも知れませんが、「立派な体をして居るのに剣道はもう一つだなあ。居合をやるか。」と手ほどきしたのです。居合はほんとうに孤独な修行ですが、原田先生は真面目に辛抱強く一人でとことん努力されてすぐに亡父や私の「レベル」では指導出来無くなりました。

それから大変だったと思います。徳島県には当時原田先生を指導出来る先生はいなくて県外の先生の所へ教えを受けに通い始めました。高知県の沢田先生、三谷（親子）両先生始め全国の先生の所へ長年に亘ってびっくりする程通い指導を受け研究修練したのです。原田先生は郵便局に勤務されていましたが、長年に亘り数知れない程修行に行かれたのですから、さあ大変です。奥様のほんとうに色々な意味での御支援が無かったら到底出来なかった事と思います。

この事は大変失礼ですが、先輩の先生であられる平尾勝美範士八段先生も同じだった、いや原田先生より以上に大変だったのだ

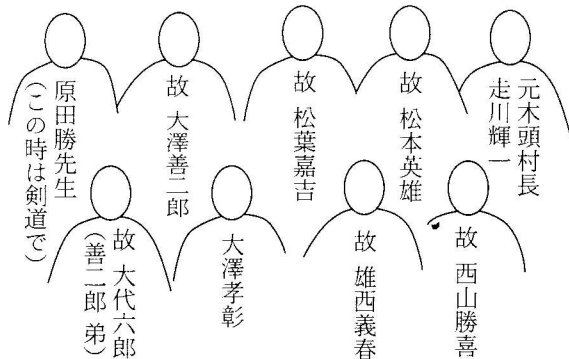
と頭の下がる思いです。

全国の居合道の盛んな大きな県から見れば、徳島県なんて田舎の弱小県かも知れません。しかし、平尾先生に続き、原田先生が居合道範士八段になられたのです。今後、いろいろと大変だと思えますが、徳島県居合道発展のため御協力下さいますようお願いして、お祝いの言葉とさせて頂きます。「バンザイ原田先生！」  
「バンザイ奥様！」  
「バンザイ徳島県居合道！」

那賀川の清き流れの居合道 範士八段心技一体



昭和45年3月14日 9日間七道場交歓親善試合  
九州一周武者修行出発の朝（木頭練心館道場前）



## 居合道範士誕生を祝して

居合道部 高橋 憲 司



原田勝先生には此度の居合道範士へのご昇格、誠にめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。居合道部部員一同たいへん名誉なことと共に慶びと致しているところでございます。

原田先生がこの日を迎えられましたのは、先生ご自身のご精進があつてのことは申すまでもありませんが、これまで永年ご家庭を支えてこられた奥様の功に対して改めて「ご苦労様でした」と申し上げ、先生と同様に敬意を表したいと思ひます。

思い起こしますと、私が昭和四十五年に徳島錬心館を尋ねまして、大澤善二郎先生に居合の手ほどきを受け始めていました頃、原田先生は時折木頭から二軒屋（現在の城南町）の道場を訪ねて来られていました。そこでは一緒にお稽古をさせてもらつたことはなかつたと思うのですが、一年位が経って大澤先生から「木頭へ行かないか」と連れられて木頭の大和錬心館へ参りまして、その後、木頭の道場で度々一緒に稽古をさせていただくことになりました。

こう申しては失礼ですが、私が知っております初めの頃から原田先生は居合が上手でありました。ご本人が居合が好きであつた

と思うのですが、兎に角よく工夫をされてお稽古をされてきました。平成十一年に若くして八段に昇段されましたのも、先生ご自身のようなご精進があつてのことでありまして、そして今もなおよくお稽古をされておられることには感銘と敬服の思いを強くしております。また、平成二十年は茨城県鹿島市の鹿島神宮における六年に一度の勅祭の年に当り、八月三十日には全国選抜居合道八段大会が開催されました。因に同神宮の例祭が六年に一度の勅祭の年に武神である「武甕槌大神（タケミカヅチノオオガミ）」に武道を奉納するもので、六年前の平成十四年には全国選抜剣道七段戦が行なわれています。平成二十年奉納演武には全国から居合道八段十名が選抜されて、予選を経て決勝戦に三名が進み、その中に原田先生も居り、二位入賞を果されました。正に日頃の修練によるもので見事と云う他ありません。

昭和五十年に大澤善二郎先生が亡くなられた後、原田先生と私は師事しました先生は違いましたが、今も時折お稽古を見ていただいて、三十五年余りお付き合いさせていただいており、有難く思っております。原田先生は非常に思慮深く奥の深いお人柄であり、範士の称号に相応しい方であります。

先生にはこれまでよりもさらに全国的な場での活躍を求められるお立場になって大変であると思いますが、どうぞお身体に気をつけられて地元徳島の居合道の発展にお力を添えていただければすよう宜しくお願いいたします。

# 鹿島神宮奉納 全国選抜居合道八段大会に参加して

原 田 勝

鹿島神宮に於いては六年に一度、天皇陛下の御名代であらせられる勅使参向の下、勅祭が齎行されています。今年は勅祭にあたり同神社の祭神である武神の大神様の御神徳の発揚及び、我が国古来の武道である居合道の普及発展を祈願し、居合を奉納する事となりました。

平成二十年八月三十日(土)に主催・鹿島神宮、主管・鹿島市剣道連盟、後援・全日本剣道連盟による鹿島神宮奉納全国選抜居合道八段大会が行われました。大会選手選考委員の先生方が全国より居合道八段十名を選考されたわけですが、運良く私もその中の一人に選ばれました。

大会前日には役員と私達選手一同が鹿島神宮に正式参拝をし、大会の成功と無事を祈願して、大会当日を迎えました。その日は小雨に時折陽がさす無風の大変むし熱い日でした。午前八時半から開会式が神事に則って執り行われ、大会長の鹿島則良宮司が「鹿島の大神様の大前において日頃の精進の成果を披露して下さい。」と挨拶されました。審判員の先生方も全国で高名な先生方ばかりなので、選手の方も気合い十分と見受けられる中、まず予選が行われ、各自が修行する古流の初伝、中伝から自由に五本を



抜く事とし、演武者の順番は当日抽選により決まりました。三人の審判員の採点により上位三名が残り、その中の一人に私も入れて頂きました。

決勝戦は審判員五名により行われ、技は各流派の奥居合五本で行なわれました。箱根神社八段戦も三回出させて頂いているし、もうこれが最後の八段戦になると思ひ、鹿島神宮の大神様に居合を奉納する気持ちで無心で抜いたつもりでしたが、未熟ゆえ欲が出たのか、元々実力が無いのか、結果は残念ながら二位となりました。

最後に審判の先生方が模範演武を兼ねて居合を奉納されました。鹿島神宮の木目の込んだ天然木の板で本殿前に造られた特設会場はまれに見る立派なものであり、体育館とはひと味違ったものでした。各選手の地元からの応援団に加え、全国からの参拝者も含み、大観衆の中で居合を抜かせて頂くことは、とても光栄でした。しかも、全国からの居合道八段十名の中の一人として参加させてただただだけでも名誉なことであったと思ひ、鹿島神宮を後にしました。

## 原田勝先生の経歴

昭和二十一年二月十日 徳島県那賀郡那賀町平谷字平谷向一番地に生まれる

### ▽職歴

昭和三十九年十二月 郵政事務官 徳島県出原郵便局に奉職  
平成十一年六月 出原郵便局を局長代理にて退職  
平成十八年七月 法務省第三三三〇号人権擁護委員  
現在に至る

### ▽剣歴

昭和四十年三月 那賀郡(旧)木頭村の大和錬心館において(故)大澤善二郎先生より剣道・居合道の手ほどきを受ける。

昭和五十年五月 高知県香美市土佐山田町の養心館道場に入門を許され、剣道範士・居合道範士九段(故)三谷義里先生、剣道教士・居合道範士三谷昭雄先生に無双直伝英信流を学び、現在に至る。  
全日本居合道大会五段の部に三回、六段の部に三回、七段の部に三回出場し、うち七段の部でベスト八、二回  
平成十三年・十五年・十六年に居合道全国選抜八段戦箱根大会に出場し、平成十三年に三位入賞  
平成二十年に鹿島神宮奉納全国選抜居合道八段大会に出場し二位入賞

平成十一年五月 居合道八段  
平成二十年五月 居合道範士

### ▽徳島県剣道連盟役員歴

平成元年四月〜平成十五年三月 県剣道連盟居合道部部长  
平成十五年四月〜平成十九年三月 県剣道連盟審議員  
平成十九年四月〜現在 県剣道連盟副会長

## 平成二十年度 顕彰一覽

### 居合道範士 (全日本剣道連盟)

○原 田 勝 (昭和二十一年二月十日生れ)

平成二十年五月、京都における範士号審査会において難関の居合道範士に合格する。合格者は僅か四名であった。

### 剣道有功賞 (全日本剣道連盟)

○坂 下 彦 之 (昭和十二年一月十三日生れ)

昭和五十四年度より、徳島県剣道連盟事務局長、審議員を歴任し、現在に至っている。剣歴においても、国体出場十五回、第四十八回国体では団体優勝に貢献し、全日本東西対抗五回出場、全日本都道府県大会九回出場と、本県において抜きん出た実績である。また、県内講習会での講師、各種大会での審判長を務めたことを含め、徳島県剣道連盟の運営全般に情熱を傾注して、剣道連盟発展と剣道普及に多大な貢献があった。

### 少年剣道教育奨励賞 (全日本剣道連盟)

○穴吹少年剣道教室

過疎化のあおりを受け、少年人口の減少が続いている地域ではあるが、先人から引き継いだ剣道教室の維持発展に心意気を示し、粘り強く教室の運営に取り組んでいる。これまでに多くの剣士を社会に送り出し、現在も剣道を継続している者が多く存在している。

○阿南少年剣道教室

昭和四十八年に設立され、県内各種大会での優勝実績を誇り、卒業生が阿南市内の中学校・高校に進学し、常に徳島県剣道界をリードしてきた伝統ある教室である。教室卒業生が指導者として、生涯剣道を率先垂範しており、一般愛好家の活動拠点としても阿南支部の中心的役割を果たしている。

### 体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

○福 井 軍 二 (昭和十四年四月二十一日生れ)

教員在職中は、水産高校・阿南工業・徳島東工業で教鞭をとりつつ、高校剣道の隆盛に貢献している。また、徳島県剣道連盟の常任理事・理事として、青少年育成に尽力し、現在も審議員として剣道発展のため、努力している。

## 第五十六回 全日本学生剣道選手権大会 準優勝

○大石 洋 史（昭和六十一年十月二十四日生れ）

富岡西高校卒業後、大阪体育大学へ進学し、大学剣道の本格的な修行を実践する。徳島県出身の男子学生として、初めて、全日本学生剣道選手権大会で準優勝の快挙を成し遂げる。女子学生では、坪井さくら（富岡東高校卒・筑波大）（静岡在住、現姓・内田）が平成十一年・十二年の二年連続準優勝の成績を収めている。

## 鹿島神宮奉納 全国選抜居合道八段大会 準優勝

○原 田 勝（昭和二十一年二月十日生れ）

全国より居合道八段十名が選抜され、その中で準優勝となる。過去においても原田勝氏は平成十三年居合道全国選抜八段戦箱根大会で三位入賞を果たしており、それに続く今回の準優勝は徳島県居合道史上初の快挙である。



## 平成20年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	谷 口 奨 真	那 賀 川
2	井 上 稔 大	那 賀 川
3	井 上 幹 大	那 賀 川
4	廣 井 大 晃	那 賀 川
5	住 友 俊 介	那 賀 川
6	小 籾 京 藏	木 頭
7	小 野 竜 弥	木 頭
8	関 口 真 生	木 頭
9	中 田 雄 斗	木 頭
10	宮 浦 慎 治	鳴 門 一
11	斎 田 悟 志	鳴 門 一
12	賀 上 陽 介	阿 南 一
13	西 岡 大 輝	阿 南 一
14	住 友 勇 輝	阿 南 一
15	神 元 真 樹	阿 南 一
16	山 西 浩 平	羽ノ浦
17	生 島 大 空	羽ノ浦
18	岡 田 宣 孝	加 茂 名
19	篠 原 拓 也	徳島文理
20	片 山 聖 也	県立川島
21	川 野 賢 太	相 生

No.	女 子	学 校 名
1	西 柚 衣	那 賀 川
2	佐 藤 綾 佳	阿 南 一
3	工 藤 麻 美	阿 南 一
4	松 浦 名 穂	阿 南 一
5	藤 本 あ み	阿 南 一
6	小 川 瑞 季	阿 南 一
7	那 佐 萌	那 賀 川
8	澤 田 菜 摘	那 賀 川
9	岡 内 拓 未	那 賀 川
10	長谷川 愛 実	那 賀 川
11	青 木 万 里 子	那 賀 川
12	杉 谷 雪	牟 岐
13	水 田 有 記	牟 岐
14	山 本 千 尋	加 茂 名
15	河 野 結 花	加 茂 名
16	井 上 亜 美	徳 島
17	中 西 綾 華	県立川島
18	小笠原 周 子	徳島文理
19	藤 本 千 晴	池 田 一
20	丸 岡 悦 子	城ノ内
21	三 島 菜 摘	北 井 上

## 平成20年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	鈴 木 健 太 郎	阿南工業
2	櫻 木 鉄 也	阿南工業
3	杉 谷 玄 矢	阿南工業
4	福 井 一 馬	阿南工業
5	福 川 敬 太	阿南工業
6	大 塚 亮 太 郎	城 北
7	森 出 大 介	城 北
8	山 口 拓 也	城 北
9	酒 卷 依 暉	川 島
10	柳 谷 俊 樹	川 島
11	大 森 駿 斗	川 島
12	岡 田 佑 介	川 島
13	尾 方 俊 彦	川 島
14	岩 雲 祥 吾	川 島
15	高 島 健	徳島市立
16	土 山 康 平	徳島市立
17	正 村 良 太	徳島東工業
18	高 島 健	徳島東工業
19	出 口 卓 弥	徳島文理
20	福 田 寛 也	徳 島 北
21	向 原 紳 悟	富 岡 西
22	福 永 啓 人	富 岡 西
23	平 井 悠 基	富 岡 西
24	松 本 凜 太 郎	富 岡 西
25	大 垣 俊 喜	脇 町
26	佐 藤 裕	脇 町

No.	女 子	学 校 名
1	川 田 沙 織	城 北
2	井 上 奈 津 実	城 北
3	梅 本 有 紀 子	城 北
4	中 川 知 香	城 北
5	高 橋 理 恵	川 島
6	横 川 由 佳	池 田
7	高 岡 晶 美	富 岡 西
8	今 川 和 美	富 岡 西
9	永 浦 瞳	富 岡 西
10	西 田 奈 央	富 岡 西
11	賀 上 由 里 奈	富 岡 東
12	延 谷 美 帆	富 岡 東
13	細 川 美 波	富 岡 東
14	芳 田 裕 美 子	富 岡 東
15	壺 内 美 沙 希	富 岡 東

# 剣道有功賞

## 竹刀を握って五十六年

坂下彦之



私はこの度、全日本剣道連盟より剣道有功賞を受賞いたしました。身に余る光栄であり、遠藤会長をはじめ連盟先生方の温かいご厚情の賜物であります。心から厚くお礼申し上げます。

私をはじめ竹刀を握りましたのは、戦後禁止されていた剣道が解禁されました昭和二十七年高校一年生の夏休みであります。或る日、一級先輩の張間貢さんと会った時「鳴門一中体育館で剣道をしているから、お前もせんか」と誘われました。家には叔父が旧制中学校時代に剣道をしていた時の竹刀、防具がありましたので、私は剣道をする決心をいたしました。防具一式を持って体育館へ行き、先生に稽古をお願いしますと「よし、頑張れよ」と言って励ましてくれたのが堤茂先生でありました。十月頃だったと思いますが、体育館で堤先生と稽古されている堀江幸夫先生の素晴らしい剣捌きに一目惚れしました。それ以来、堀江先生を目標に今日まで稽古に励んで参りました。

高校卒業後、叔父の紹介で和歌山の染色会社に就職しましたが、事情があって昭和三十三年四月、鳴門の実家に帰って来ました。堀江先生のお宅へ帰郷のご挨拶に伺った折、警察官になるよう勧められ、その年の十二月に警察官採用試験を受けました。運良く合格することができ、翌年の昭和三十四年四月一日徳島県警察巡查を拝命し、県警察学校に入校いたしました。警察学校では、剣道の授業で警察剣道師範の魚沢清太郎先生、柔道は湊庄市先生に指導を受けました。

翌昭和三十五年三月に警察学校を卒業し、四月一日徳島西警察署勤務を命じられ、また県警察剣道選手に指名を受け、四国管内警察剣道大会に補員として出場いたしました。

昭和三十六年春の異動で機動隊に入隊、剣道特練員となり、堀金実先生をはじめ斎木雄二先生、松村克隆先生、香西忠先生、岡本健三先生、堀部武志先生、鶴和孝一先生と共に稽古に精進いたしました。

昭和四十六年十月から徳島東警察署をはじめ、川島署、阿南署、捜査一課機動捜査隊と一線勤務をしてまいりました。

昭和五十二年四月に東京中野の警察大学校に術科指導者養成科第十二期生として入校いたしました。警察大学では、伊保清次教授、松永政美助教授、講師として中倉清先生（居合道）、長島末吉先生（古典）、小沼宏至先生（一刀流）の先生方にご指導いただきました。同期生としては、小笠原宗作（警視庁）、友永隆雄（高知）、三宮一宏（佐賀）、牧野武資（愛知）、亀井義記（宮城）、

東恩納（沖繩）に私の八名でありました。この警察大学における六ヶ月間で私は一回り大きくさせていただいたように思います。

昭和五十四年三月、堀江先生が警察剣道師範をご退任され、四月一日に私が師範に就任いたしました。また同時に徳島県剣道連盟理事長に堀江先生、副理事長に大澤孝彰先生、事務局長に私が選任され、其の後、師範を昭和六十三年三月まで、事務局長は平成二年まで務めました。その間、種々沢山の事がありました。その事案を思い出しながら列記します。

。第二十七回全日本東西対抗剣道大会の開催

昭和五十六年十月二十日（徳島市立体育館）

。全日本警察剣道大会（上部） 徳島県警 第三位入賞（初）

昭和五十六年十一月三日（日本武道館）

。全日本剣道選手権大会 福多雅英選手 第三位入賞

昭和五十八年十一月三日（日本武道館）

。全日本剣道選手権大会 近藤巨選手 準優勝

昭和六十年十一月三日（日本武道館）

。全国警察剣道選手権大会 近藤巨選手 第三位入賞

昭和六十一年五月三十日（日本武道館）

また、県剣道連盟発展の為

。警察、教員、実業団の三者対抗剣道大会開催

。四・五段受審者の事前講習会の実施

。級・初段受審者の実技審査に切り返しの実施  
等が挙げられます。

平成九年春に県警を退任しました。現在、県剣道連盟の審議員を務めさせていただいております。私も年を重ね七十二歳、後三年で後期高齢者紅葉マークでございます。この度の受賞を機に気を引き締め精進しまして、微力ではありますがお役に立てればと思っております。

今後とも会員皆様のご指導、ご交誼をお願い申し上げます。

合掌



## 少年剣道教育奨励賞

### 少年剣道教育奨励賞を受賞して

穴吹少年剣道教室 大石 雅 生



この度、穴吹少年剣道教室が全日本剣道連盟から「少年剣道教育奨励賞」を受賞致しました。これ一重に、常日頃何かとご指導ご鞭撻を頂いています県剣道連盟の諸先生方をはじめ、数多くの教室関係者並びに地域の皆様方の御陰と感謝しております。本当に、ありがとうございます。

さて、穴吹少年剣道教室は昭和五十六年四月一日、故石井一郎先生（五段）の下に穴吹小学校体育館で「穴吹町少年剣道教室」として産声をあげました。当時、石井先生は三島小学校々長を最後に教職を退かれ、穴吹町教育委員会（現美馬市教育委員会）社会教育指導員として勤務されておりました。折しも、穴吹小学校校舎建て替え工事が完了し体育館が新設された時でした。早速、剣道教室を開こうということになり、剣道経験者の私と奥村敏彦氏（三段）の三人が指導陣となり、小学生二十九人を集めて発足いたしました。その頃はまだまだ子供たちも多く、体育館内はと

ても賑やかで、石井先生を中心に保護者も一体となって子供を指導したものです。その甲斐あって、昭和五十九年度には教室生が八十一人を数えました。練習日や練習時間の調整を行い、また中山圭吉先生（五段、元穴吹中学校校長）や町内外の先生方も応援に駆けつけてくださり、とても充実した剣道教室の運営だったと思います。中山先生には、今も剣道教室の顧問をお願いしております。その後、平成十七年三月一日の町村合併に伴い、同年四月一日より教室名を「穴吹少年剣道教室」に改めました。

また、当教室の旗には「水心」の二文字を入れております。この二文字は、宮本武蔵の五輪書から引用したもので、もともとの五輪書では、武蔵は「水の巻」で精神と肉体の両面から自己をいかに鍛錬するかについて説いています。心の持ち方、目の付け方、構え方等詳細に説いているものですが、これらについてはその神髄は子供たちには到底難しく、われわれ指導者が常に自己研鑽していかなければならないものと思っています。しかしながら、その心を少しでも子供たちに伝えることができたらと思いい、教室旗にその思いを込めました。そして、子供たちにはできるだけ分かり易く、また人生の一つの指針となるような言葉にと指導していただきます。そのほか、本来の「水の巻」の心とは少し違いかとは思いますが、現代の社会にあった形での「水の心」の指導にも取り組んでいます。つまり、「水は生命の源、大切にしなければならぬ」といったところからはじまり、環境を守ることの大切さ等を指導していくことに心がけています。

平成に入り、急激に少子化が進んでいます。ましてや、地方では小・中・高を問わず学校の統廃合がなされ、それに比例するかのようには子供たちの剣道人口も減ってきています。ご多分に漏れず、わが剣道教室もその一途をたどっているわけではありますが、指導者並びに保護者の間では一人でも多く入会してもらえよう頑張っている今日この頃です。幸い、平成二十四年度から中学校教育の中で武道とダンスが取り入れられる運びとなりました。できる限り、たくさんの中学校で剣道を採用していただけるよう望んでいます。

終わりに当たり、今回の受賞に際し当教室を推薦していただきました県剣道連盟の先生方、並びに当教室をこれまで支えていただきました数多くの諸先生方、地域の方々に改めて深謝し御礼の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございます。



「少年剣道教育奨励賞」受賞記念写真  
穴吹少年剣道教室

# 少年剣道教育奨励賞を受賞して

阿南少年剣道教室 榊 山 紹 生



この度、阿南少年剣道教室が全日本剣道連盟より栄誉ある「少年剣道教育奨励賞」を頂き、身にあまる光栄に存じております。剣道連盟の先生方を始め、多くの剣道関係者の方々にお礼申し上げます。

阿南少年剣道教室は、昭和四十八年、今は亡き、剣道範士・清原栄先生を中心に徳島県剣道連盟会長・遠藤一美先生、徳島県剣道連盟監事・有賀秀敏先生が阿南市内の青少年の健全育成、並びに剣道の発展・振興を目指し開設されました。

三十五年の歴史を持つ阿南少年剣道教室も稽古場所には苦労があったようで、旧阿南市スポーツセンターから始まり阿南警察署・セニア会館、富岡小学校と転々と移動しましたが、現在は阿南市武道館にて火・金、阿南第一中学校武道館で木曜日・の週三回、稽古に励んでおります。また、毎週火・金曜日の午後九時〜十時まで一般の稽古会を行っている為、多くの先生方に来て頂き、指導者同士の稽古も活発に行われています。

## 「集中力」

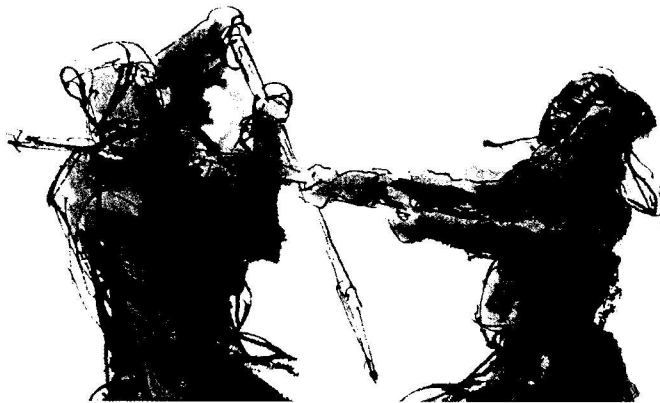
阿南少年剣道教室の団旗には、「集中力」という言葉が刻まれています。何事にも精神を研ぎ澄まし、取り組む姿勢が大切であ



り、剣道においては、緊張感のある稽古ができてこそ勝負においても、思わぬ力を発揮するものです。基本稽古から集中力を高め、団旗に恥じぬよう生徒、指導者とも稽古に励んでおります。また、礼儀作法や感謝の気持ちを忘れぬよう稽古の始めと終わりに「道場訓」と「感謝の言葉」を全員で唱和しています。

私は開設当初の昭和四十八年、小学三年から阿南剣道教室に入部し多くの先生方にご指導頂き、現在は指導者の一人として少年剣士と共に汗を流しております。私自身も小学生時代の恩師と共に少年指導に関わり、現在も剣を交え稽古できる喜びを感じております。稽古は、人から言われてするのではなく、常に目標を持ち自ら進んで稽古をする気持ちを養い、生涯剣道へと繋がるような指導を目指し、今後も保護者・指導者一丸となって取り組んで行く決意を新たにし、この賞に恥じないよう精進して参ります。

今後ともご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。受賞の挨拶とさせていただきます。



## 体育功労賞

### 体育功労賞を受賞して

福井 軍 二



表記の表彰などまさか私が一瞬戸惑い恐縮致しましたが、大変お世話になっている剣道連盟のご推薦をいただいたことに心から感謝と御礼を申し上げます。

この機会に自分の剣道感について過去を振り返り、これからの剣道を如何に修練していくかを考えてみたいと思います。

学校での剣道の指導は、水産高校十一年、阿南工業四年、東工業十六年、の三〇年余りでした。水産高校では総体前のライオンズ大会優勝を機に総体を含めて県下の全ての大会で、団体優勝をなし、一時期七本の団体優勝旗を手にした十一年間でした。自己との苦しい戦いの日々でしたが、生徒と共に汗を流すことにより、生徒から多くを学び、自分も剣道の基本を向上させることができ、生徒に感謝しています。阿南工業では、故下村富夫先生のご指導を賜り、坂本信幸先生と生徒を連れて全国各地に遠征をし見聞を広げることができ、有難い幸運な日々を過ごせました。

東工業ではマイクロバスを導入して、春夏冬の休業中は家庭も顧みず、四国・九州・中国・近畿地方と五万kmに余る遠征をして総体優勝を目指しましたが、ベスト四までの成果で終わりました。現実の教育現場で放課後、自分の稽古時間を毎日設けることは並大抵のことではありませんが、公務を先読みして即断即行で処理し、出来得る限り無駄な時間を省き、練習時間を確保する努力をしてきたと思っています。

私は、「剣は語らず」「師弟同行・同汗」をモットーに酷暑、厳寒をとわず生徒一人ひとりと真剣に汗を流して、自然に相手の気持ちに分かる喜びを感じてきたように思います。体調、喜怒哀楽、友人関係、家庭の事情等、何か日常と変わったことがあれば、動作や剣先に現れそれを感じられるはずです。私にもっとその感じる力があれば適切なアドバイスや指導も出来ていたのではないかとともに思います。

剣道を指導して得たことは「教えることは学ぶことである。」ということに尽きるのではないかと考えています。

故恩師大澤善二郎先生は、剣道の技術的なことより、人の生き方・考え方を強調されていました。試合では勝とう勝とうと焦るのではなく、沈着な正しい剣道で自然のうちに勝ちとなる堂々たる試合をご指導されました。

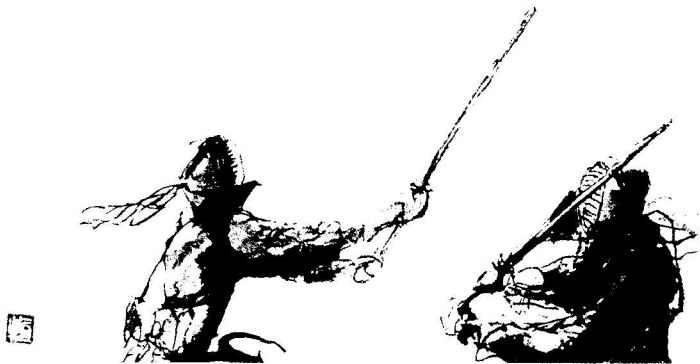
私は剣道を始めて五十数年過ぎましたが、面を着ける度に剣道が難しく思うようになり、迷うことが後を絶ちません。六十を過ぎて足腰が弱くなり、さらに、難聴になって人の助言を聞かず、

自己主義になっていることに気づき、反省しています。これからの剣道は生涯、基本を中心にさらに正しい切り返し、打ち込み、足さばきを研鑽し、人々との出会いを大切に、頭脳を柔らかくしたいこうと思います。

今、中学校で武道が必修科目となるこの機会は、剣道指導のあり方が問われる大切な時期です。剣道を志し、汗を流してきた我々にとって「一度竹刀を握った人間」が生涯剣道に興味と関心を持ち続ける指導とは何かを考究、実践し、日本の伝統的運動文化である剣道を通して、人間形成に役立たせたいものです。

指導者においては常に謙虚で一人ひとりの人間の人格を認め、相手の意欲を引き出す資質と共に、生徒と汗と涙を惜しみなく流すことができることが必須条件であろうと考えています。

おわりに、私は昨年九月下旬、ある病気にかかり四ヶ月ほど病院に通いましたが回復せず、原因も判明せず夜も眠れず、苦しい闘病が続く毎日でしたが、今年二月になって原因を究明することができ、回復の兆しが五ヶ月ぶりに現れ、安堵し、健康管理の意義を身をもって体験しました。残された人生、健康管理を配慮し、剣道を通しての社会貢献に尽くしたいと思えます。



# 全日本学生剣道選手権大会に出場して

大阪体育大学 大石 洋史



平成二十年七月五日、六日に全日本学生剣道選手権大会が大阪府立体育館で行われました。私は個人戦と、東西対抗戦の中堅として出場させて頂きました。大会に向け、走り込みやメンタルトレーニング、ビデオ研究など自己分析やモチベーションを高める事を練習の中心に置き、大会に臨みました。

当日の試合内容と言うと、まさか決勝戦まで勝ち進めるといふような内容のものではありませんでした。決勝までの試合で先制される試合が三試合もあり、苦しい試合ばかりでした。そのなかでも特に印象に残っている三試合を紹介したいと思います。

準々決勝戦。鹿屋体育大学の坂口選手との立会いです。応じ手が非常に上手い選手なので、慎重に攻めて一本を狙いに行きました。手元が上がる所に小手を狙いに出たのですが、逆に打ち終わりに引き面を打たれてしまい、先制されました。いつもなら焦りがでてしまうのですが、今日三回目の先制される展開だったので、逆に落ち着いて試合が運ぶことができました。中盤、私の出す技が坂口選手をとらえはじめました。旗が一本あがる打突が二、三度続いた後、遠間から思い切り突きから面にわたるとこれが見事

一回戦	大石洋史	ド -	小村 (東農第網走)
二回戦	大石洋史	メコ - メ	富松 (専修大学)
三回戦	大石洋史	メメ -	青野 (徳山大学)
四回戦	大石洋史	メメ -	松原 (法政大学)
五回戦	大石洋史	ココ - コ	三宅 (慶応義塾大学)
準々決勝戦	大石洋史	メメ - メ	坂口 (鹿屋体育大学)
準決勝戦	大石洋史	コ -	西村 (筑波大学)
決勝戦	大石洋史	コ - メ	畠中 (国士舘大学)

に一本になりました。その後延長戦になり、二十分過ぎに鏢迫り合いからの引き面を決め、長丁場の試合を何とか凌ぐことができました。

準決勝戦。相手は筑波大学で二つ年下の西村選手との戦いです。名門九州学院出身で、昔からの力がある戦手であり、まさに全国トップレベルの選手です。立会いから激しい打ち合いとなりました。五分間の試合ではお互いに決め手がなのまま延長戦に入り、体力的にもかなりきつい状況で、自分を動かすのは気力だけで、集中力が切れた方が負けると感じました。延長三分くらいで西村選手の片手突きが私を捉え、やられた、と思いました。旗は一本だけでその直後に担いで小手に跳ぶと一本となりました。運も味方にしながら、なんとか決勝に進むことができました。

決勝戦。国士舘大学の畠中選手です。学生ながら世界選手権大会の日本代表候補であり、今学生剣道界でその名前を知らない人はいません。そのくらいのスター選手であり、憧れの相手との試合でした。内容は初めの二分くらいは攻めることができたが、延長に入り面を奪われる所まで完全に攻められる内容でした。体力、気力、技術ともに完敗でした。同時に剣を通して彼の努力が伝わってきて、自分の未熟さを痛感しました。

試合終えて全国の舞台でこのように活躍できたのは幼い頃からの取り組みの成果だと感じました。そして多くの先生方からの指導、家族からの支えがあったからだと思います。これからも基本を大切に、高い目標を持ち続け、日々精進していきたいと思

ます。



# 先生を偲ぶ

## 父と剣道の思い出

宮崎 洋明 (旧姓 岡崎)



僕と剣道を巡り会わせてくれたのは、父(岡崎 明)です。小学生の頃から稽古に付き添って、時には厳しくまた時には優しく指導と助言を続け、亡くなるまで見守ってくれました。

父が七段に合格した時には、本当に嬉しそうに夜遅くまで自慢していた姿を思い出します。

また、僕が五段に合格した時も、自分自身の事のように、喜んでくれました。六段、七段と合格するまで、見届けると口癖のように言っていました。一人前の姿を見せる事ができず、最後まで心配させて後悔しています。

平成十九年、体調を崩し胃ガンが発覚してからも、どんなに調子が悪くても、引き受けた審判には必ず参加していました。会場では、大好きな剣道を見ると目が輝き、生き生きとした顔になり、大変幸せそうにしていました。亡くなる一週間前まで、剣道に携わっていました。また、稽古に誘われたりもしました。亡くなっ

た後に手帳を見ると、二ヶ月先まで、審判の予定を入れていました。

僕が、平成二十年四月に結婚してからは、孫ができるのを楽しみにすると同時に、剣道をさせる準備もし始めました。それも叶える事が出来なかったのも残念に思います。

本当に心から剣道を愛していたと思います。「剣道愛」という言葉が似合います。余命以上の人生が送れたのは、剣道のお陰でもあります。するの、見るのも好きだった剣道を、この世でもっと続けたかったと思いますが、出来なかった分は、天国でし続けています。

最後になりましたが、生前に父と交流のあった先生方には、大変お世話になりました。平成二十年七月二日の告別式にはお忙しい中、また遠方から沢山の方にお集まり頂き、有難うございました。父の偉大さを家族が実感しました。父を超えられるよう頑張りますので、今後ともよろしく願います。



## 岡崎明先生を偲んで

徳島支部 磯部 洋 一



私が岡崎明先生に初めてお目にかかったのは、昭和五十一年で先生が二十代後半の頃でした。自動車を購入のため、徳島市論田町の三菱自動車を訪れたときでした。道路沿いに社屋があり、その奥の

別棟の二階に剣道場があることが分かりました。学校卒業以来、竹刀を持ったことはなかったのですが、再度剣道をやってみたいと思いたち、部外者の私でも稽古をさせてもらえるかお伺いしたところ、販売担当の方が岡崎先生を紹介してくれました。第一印象は「侍のような雰囲気を持った人」だと感じました。その当時は木曜日が稽古日であり、三菱社員はもとより、現在県剣連の役員になっておられる方々も何人か参加されており、にぎやかな稽古会であったことを、懐かしく思い出します。私は職場から帰宅すると、三菱道場へ何年か通いました。その当時先生は既に五段を保有しており、稽古をお願いしても、まったく歯が立たなかったことを記憶しております。また、毎年六月に高知市で行われる、西日本実業団剣道大会にもチームの一員に加えていただき、試合に参加したことが良い思い出となっております。

その後、私は故中川虎雄先生のもとで稽古をするようになりま

したが、同じ徳島支部でもあり、岡崎先生とは時々お目にかかり、また稽古もお願いしておりました。ある年、高松市で六段審査会があることを聞き、見学に出かけました。そのとき岡崎先生も受審されており、実技審査の一部始終をスタンドから見せていただきました。その折の印象が非常に強かったので、ご紹介したいと思います。「はじめ」の合図とともに岡崎先生と相手が立ち上がり、気迫を出し合いました。剣先の攻防があり、相手が面に出ようとしたところ、一瞬早く岡崎先生が相手の面を打っていました。見事な出ばな面でした。その後、相手は今度こそという気迫で面に打って来ましたが、先生は面返し胴を打ち、それからは剣先で相手を制し、有効打突を与えないまま終了になりました。これを見たとき、観客の私は合格すると確信しました。結果はそのとおりでした。その後、先生は七段に昇段されましたが、高松市での実技審査が、最も鮮やかに私の臉に残りました。私も後日、六段、七段審査に挑戦することになりますが、あのときの岡崎先生の立会いをずっとイメージに持ち続けて参りました。

先生は昨年、鬼籍に入られました。お通夜にお伺いし、奥様とお話することができました。そのときの奥様の言葉ですが「普通であれば、(手術後)これほど長く生きられなかったのに、剣道が主人を生かしてくれました」という言葉が強く心に響きました。目的を持った生き方が、寿命さえ延ばすことができるのだと教えられました。先生の棺には稽古着が納められ、安らかな御顔でした。きっと天国でも大好きであった剣道を、先輩剣士とともに楽

しんでおられること思います。  
慎んでご冥福をお祈りいたします。



ありし日の岡崎明先生

## 蝦名久作先生を偲ぶ

小松島支部 西山伸 二

「大きくバリーと切るように打たないと。」蝦名先生の言葉が今も心に残っています。先生は北海道のご出身で、とても重たい竹刀「鉄小六」というのを使っておいでたように思います。私が社会人になった頃、稽古をお願いした時、先生の凛とした気に圧倒され、体当たりをしても何か固い壁に当たったような気がしたことを覚えています。社会人大会では、一度私と同じチームで大将として出場していただき、風格のある構えの崩れない試合でした。小松島市の中学校の新人大会や総体では、いつも審判長を快く引き受けてくださり、大会後の講評では、「大きくしっかり切れるように打つこと」を常におっしゃっていました。いつも毅然とした立ち振る舞いで、私のような若輩者にも一人前のように関わってくださることがとても嬉しかったように思いました。「いつ稽古をなさっているのですか。」とお尋ねすると、「毎朝素振りを一千本庭でやっているよ。」と教えてくださいました。

蝦名先生から学ばせていただいた剣道の奥深さ、そして何より人として相手を尊重し、謙虚に生きる姿に少しでも近づけるよう、稽古に励みたいと思います。

先生のご冥福をお祈りいたします。

# 全国講習会報告

## 第四十三回剣道中央講習会

(西日本) 報告

河田 清 実

平成二十年四月五日～六日に神戸市中央体育館で行われました第四十三回剣道中央講習会(西日本)に、徳島県より久保隆司先生と私が派遣されました。

今回の講師は、指導法・太田友康範士、審判法・村上濟範士、剣道形・熊本正範士のすばらしい講師陣でした。

講習会の内容は以下のとおりです。

### 一、指導法

剣道が最近、非常に乱れてきた。本来、日本の剣道は攻撃的な正確を持っていたものが防御が主になってしまった。昭和二十七年に全剣連が発足した時、日本の剣道はこれから体育・スポーツとしてやっていく、と宣言した。これ故かどうかは不明だが、剣道が試合偏重、勝利主義の方向に流れてしまった。

本来の日本の剣道は、心法(心)の探求が目的であった筈である。今、剣道がこのように乱れてきたのは何故だろうか。勝った

めには手段を選ばず、というような剣道が全国的な広がりを見せてきているということは、指導者を真似することからきているのである。従って指導者が本当に日本の剣道を認識して、正しい指導をしてゆけば、今の日本の剣道はいっぺんによくなる。今の乱れた剣道を立派な良い剣道に転換して欲しい。良い弟子を育てるためにはいい師匠になってもらいたい。このようなことを全国の指導者にお願したい。このことは、平成十九年十二月の剣道文化講演会で森島範士から述べられている。

現代剣道の課題になるが、近年の学生の剣道の稽古を見ると、多くの問題点が見られる。例えば、刀法面から言うと、竹刀操作において中段の構え左手の納まりが悪く、腕が伸び切った状態になっていたり、打った時に手首が立った状態になっている。体法(体)から見ると、打間に入る時に歩み足でしか入れない。踏み込んだ時に左足を引きつけられない。従って体勢を立て直せられないというような点が見られる。

中学・高校で身に付けた剣道における悪習は、簡単に直せない。だから、基本は最初の段階が非常に大切である。試合においても、いわゆる三所隠し、と呼ばれるような刀法に外れた防御法などが生まれている。打たせないように間に入って、鏢迫り合いにもっていかなど、攻めではなく、守りの形を取ったやり方が一般的になってしまっている。

剣の理法ということを頭に置いた指導が大切である。剣道の理念の中にも、試合・審判規則の第一条の中にも、理法というもの

がうたわれている。理法に添うためには、基本を大切にしてゆかねばならない。昔から剣道は中心の取り合い、鎧の攻防と言われている。有効打突を実現するという達成課題のためには、互いの中で執り行われる合理的な手段、方法が最も大切である。

あまりに勝負に捕らわれすぎるために、基本というものが疎かになっていように見受けられる。例えば、建物について言えば、高い建物ほど基礎が堅牢である。同じように立派な剣道を目指すためには基本が大切になってくるのは言うまでもない。基本というものは、物事の最初だけをいうのではなく、レベル、つまり、段階に応じて存在する。例えて言うと、基本の概念というのは、螺旋状の様なものである。基本―応用―基本―応用とグルグルなっていくものである。初段から八段までそれぞれの基本がある。八段にも当然基本はあるわけで、基本を正しく認識して、いつも基本に還る、という気持ちを持ってやらなければならない。

基本は山登りによく例えられる。一つの山に登ったら、また次の山を目指すという姿勢であらねばならない。そのためにはまた麓に下りて、次の高い山を目指してゆくということ、初めの山で経験した同じ過程を経験してゆくということ。これが基本のあり方である。

いい剣道をして行く、そして、いい指導者になるには、指導をしながら示範し、基本の大切さを十分に認識しながら取り組んで行くべきなのである。剣道の理念は間違った方向に流れようとする剣道を元に戻すべしと昭和五十年に制定された。「剣道は剣の

理法の修練による人間形成の道である。」剣の理法というのは剣による攻防打突の理法を言っているのである。

剣による攻防打突の理法というのは、つまり、剣を使う理法、すなわち理に叶った攻防を言っているのである。それは天地自然の理に添っていないければならない。剣道の技術的な課題は究極的には太刀の使い方である。太刀の正しい使い方によって太刀は正しい道筋を通ることが出来る。太刀筋の乱れた稽古は見苦しい。少年の指導に於ても、子供に合った竹刀、長さや重さなど適正に選んで行くことも大切だと思われる。

攻防打突が理に叶うためには、正しい修練が必要となってくる。修練を大別すると、心法―刀法―体法となり、言葉は違うが気―剣―体とも言える。指導法の重点事項の中にも気剣体の一致ということが述べられている。

心法というのは、平常心を養い、道徳心を身に付けることが基本である。正しく立派になると共に、信頼される社会人になるということが最も大切である。

刀法というのは、鎧で防ぎ、物打ちで打つということを常に念頭に置きながら取り組むことである。

体法というのは、自然体で構える中段のことである。体に無理のない自然の状態が一番良い。

常に反省をしながら、精進努力することに全力を傾け、自分の稽古に責任を持つことが非常に大切になってくる、剣道は教え合うものであり、やっつけ合うものではない。打たれることを恥じ

ず、相手と合気になって、むしろ打たれて学ぶという姿勢が大切である。打たれない稽古は最初から防御的な稽古では進歩は望めない。

自分を捨て切る稽古、打たれたら工夫しながら修練して行くことである。理念では技を練り、心を磨き、徳を積むということになり、剣の理法を修練する過程における様々な作用が人間形成への道と繋がるものなのである。

心法―刀法―体法の修練が道へと繋がる。人間形成の道となるのである。武道の概念は武道の鍛錬による人間形成であり、剣道は武道なのである。武道というのは、剣道の場合、日本刀の刀法なのである。その刀法による人間形成を図るのが剣道の理念ということだ。

剣の理法の修練が手段、人間形成が目的である。剣道の理念では手段と目的がはっきりしている。稽古や試合は手段であって目的ではない。従って、この手段を間違えると目的である人間形成に辿り着かない。

いい師匠に付いて正しい剣道を身に付け、それを後進に伝えて行く。それではじめて剣道が人間形成の道となる。今の剣道界は、試合で勝つこと、段を取ることが目的となっていないだろうか。そうであるならば、手段を選ばずということになってしまう。この際、剣道の理念を十分に理解して、立派な指導をして行かなければならないのではないだろうか。

指導法の中にこの剣道の理念の概念を十分に取り入れて行かな

ければならない。指導法のあり方についてになるが、指導の心構えとして、剣道の理念の制定後にも相変わらず勝負にとらわれすぎた現状から、指導者がどういう指針を示すかという必要性に迫られている。

指導の理念として、平成十九年三月に「指導の心構え」が制定されている。

#### 指導計画について

昔やったことに基づく経験則でやることが多いが、指導する場合は、指導計画とか、指導目標などをしっかり設定して、それにより対象者の発育段階なども考慮に入れながら指導計画を作る必要がある。その中で講習会資料を熟読し、参考にし、活用して行く。例えば、攻めについてなどは理解が難しい場合もあるが、講習会資料を吟味しつつ、具体的に示しながら、例えば、相手の構えが崩れたらそこを打つ、とか説明しながらの指導が大事になってくる。攻めには、剣による攻めとか、技による攻めとか、気による攻めとかあることを初歩の段階でも、この程度は説明して行く必要がある。初級者、中級者、上級者、それぞれのレベルによって指導内容を考える必要がある。対象者に応じて何を狙いとしているか、導入から展開までどのように組み立てるかを考えた上で、指導計画を作ることが重要である。

#### 教育的作用について

学校教育では教師が教材を媒介にして生徒の資質の向上を図るというのが一般的な考え方である。しかし、剣道の場合は必ずし

もそのような考えに集約されるものではない。特に剣道の場合は教材がない場合でも直接的に教師の影響が生徒に及ぶものである。

教材に関係のない教師の姿勢、態度、気風、考えなどが生徒に影響する。剣道にあっては指導者の生き様そのものが教材となることができ、すなわち、教育とは人が人を作る、人が人によって作られるものであると考えられる。教材そのものの立場にある剣道の指導者は指定同行（していどうぎょう）という考え方の下、弟子と共に道を求めて行く修行者である。

指導者と弟子は共に道を求めていく同行の士である。このような考えに基づいて、教師の人格的な影響によって弟子の人格形成が期待される。従って、指導者には厳しい人格的資質が要求されてくると言える、剣道の教育とは教師が生徒の中に入って、一緒に考えて考え、教え、育てる、道を伝えることである。このような教育理念に添った指導が望まれる所である。

「道を伝える」という気持ちで取り組まなければならない。剣道は日本の伝統的な運動文化であるという視点で考えると、剣道の実践者はつまり伝統的な運動文化の継承者である。剣道を将来に伝えて行く伝達者の立場でもある。剣道を伝えて行くという活動の主体は、人である。人が変わることによって感動の考え方や内容に変化があってはならない。

剣道の道はひとつである。自分が受け継いだ道を正しく伝えて行くという責任があることを知らねばならず、ゆめゆめ忘れてはいけないことである。剣道を正しく継承していくという認識を指

導者が持たねばならず、ゆめゆめ忘れてはいけないことである。

剣道を正しく継承して行くという認識を指導者が持たねばならない。剣道の指導、特に学校現場では同世代の指導の場合が多く、元立ちと掛かり手とが相互に交代する展開が多く見られる。

これらは近世から近代にかけての一对一の師弟同行型から一対複数という団体教授型へと指導場面が変わってきた。しかし、その実は、いつの時代になろうと教える側と教わる側の緊迫した稽古場面が中心であり、そこに互角の力量を持つもの同士が役割交代して指導場面が構成されている。

今日の剣道指導の場作りの課題はこの道すじを正しく求めて行くことにかかっているとと言っても過言ではない。対象者への眼差しが指導を決定すると言っても良いであろう。

終わりに、剣道の理念に言う、剣の理法の修練による人間形成の道とは、正に、自らの向上と他者への指導が同時に、指導場面で求められていることである。指導法の基本的な概念としてはこの理念を大切に受け止めて行くと言うことである。

剣道を学ぼうとする者の目的は多岐であるから、それらも考え合わせながら、しっかり、剣道の本質を伝えて行く努力をする。注意ばかりの指導から長所を伸ばす、いわゆる誉めるということも大いに取り入れて行かねばならない。

折角、剣道を始めたのにある程度上達して来ているにも関わらず止めて行くという現状もあることも重要視して、研究課題として捉えてかなければならないであろう。

## 二、審判法

全剣連平成二十年度の重点方策として、試合・審判規則を厳正に運用し、審判能力の向上ならびに試合内容の充実を進める。重点事項として、

- (1) 主催各大会を実施し、その充実を図る。
- (2) 諸団体の行う重要な大会を後援し、その充実に協力する。

### 審判について

研修会および講習会を通して、試合・審判規則の厳正な運用を進めると共に、現場への浸透能力を図る。

- (1) 講師要員（試合・審判）研修会に於いて審判能力の向上を図り、審判実技ならびに指導講師の養成を図る。
- (2) 試合・審判規則とその細則の厳正な運用により、審判能力の向上ならびに試合内容の充実を図る。
- (3) 女子審判の能力と技術向上を図り、質の高い審判を養成する。

### 審判の目的

審判の目的は、試合・審判規則を正しく運用し、試合による全ての事実を正しく判断し、決定することである。

### 審判員の任務

審判員の任務は、適正な試合運営に努め、試合の活性化を図り、必要に応じて善導する教育的任務もある。さらに審判員の「使命は何か」「資格は何か」を白覚する必要がある。

審判員の判定には絶対的な権限が与えられている。従って、審判員は独善や主観的になってはいけない。妥当性と客観性に基づ

いた自己の決断によって判断しなければならない。そのためには自らが稽古を積み重ねて、その技術を高めると共に、審判技術の向上に努めなければならない。

### 審判員の心得

#### 一、一般的要件

- (1) 公平無私であること
- (2) 試合・審判規則（細則）、運営要領を熟知し、正しく運用できること
- (3) 剣理に精通していること
- (4) 審判技術に熟達していること
- (5) 健康体で、かつ活動的であること

#### 二、留意事項

- (1) 服装を端正にすること
- (2) 姿勢・態度・所作などを厳正にすること
- (3) 言語が明晰であること
- (4) 数多く審判を経験し、反省と研鑽に努めること
- (5) よい審判を見て学ぶこと

剣道は審判の経験が必要である。経験がない机上でルールブックを見ただけで審判がうまくできるわけではない。柔道などではルールブックを読んだだけでやっているようであるので、重大なミスやトラブルを起こしているのは周知の事実である。キチンとした態度で臨むことはいうまでもなく、二日酔いで審判に立つなどあってはならない。

次に有効打突の見極めが重要になってくる。規則第十二条を見てほしい。

## 規則第十二条

有効打突は、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものとする。

この中にうたわれていることは絶対的に欠かすことのできない条件なのであって、一つでも欠けたら一本とはならないことを認識しておかなければならない。

有効打突の要素・要件もしっかり捉えておくこと。

要素Ⅱ間合い、機会、体捌き、手のうちの作用、強さと刃え

要件Ⅱ姿勢、氣勢―発声、打突部位、竹刀の打突部、刃筋

少年の大会、日本選手権、八段選抜、などのようにそれぞれのレベルがあり、それに添った審判をすることが大切だがその大会のレベルによって多少の差はあっても、打突部で打突部位を打つとかなどの基本的条件はレベル差があっても変化はない。

少年の大会だからと言って、打突部位を打ってはいないのに、「ま、いいか」というような安易な気分になって一本にとったりすることがあってはならない。安易なジャッジは大会の品位を汚し剣道の質を下げることに繋がることを肝に銘じておかなければならない。基本条件の要素・要件は大会が違って同じように運用する。ただ、少年大会などは程度を見て適用する。

試合・審判委員会の委員長が交代する度に規則をいじくったり、改正したりする傾向があったが、今後は役員が代わったとしても、

全剣連では規則をあまりいじくらないようにすると原則として決めている。

## 体当たりと押し出しの区別について

打突後の体当たりや相手を崩して打突するなど、打突に結びつく行為でなければ不当な押し出しとなる。打突の意志が無く、押し出す目的であったかどうか見極める。堪えられる程度の接触なに出たのかどうかなどを見極める。

相打ちに近い打突に対して赤旗二本、白旗一本と表示があった。

この判定について主審が確認の意味で合議をかけることは原則として不適切であるが、ただし、一方が小手で他方が面などのような場合は錯誤の疑念や表示の不明瞭など（旗をいったん上げてすぐまた上げ直すなど）があった場合は判定をより正確にする意味から合議をかける場合も有り得る。

## 鏢迫り合いについて

鏢迫り合いが長く続くような場合は次の観点から判断する。

- 一、正しい鏢迫り合いをしているか（鏢と鏢が接しているか）
- 二、打突の意志があるか（技を出す気があるか）
- 三、別れる意志があるか
- 四、故意に時間を空費していないか
- 五、競い合っているか
- 六、逆交差をしていないか（常時、あるいは許容範囲を超えて）
- 七、相手が引いて行くのに付いて行って一本を決めるでもなくただ乱暴な打突をしていないか

### 有効打突の判定について

打突には一本にとってもいいし、取らなくてもいいというよ  
うな、いわゆるグレーゾーンが  
ある。

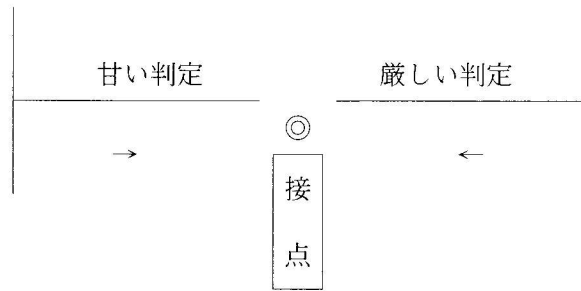
お互いの判定を接点に向けて  
縮めていき、一つにするのがベ  
ストである。幅が広がらないよ  
うに接点を求めるのである。高  
校生の大会の時の審判だが、一  
人の八段の主審が特に厳しい判  
定をし、いつも判定が割れてい  
て一致しなかった、という例が  
ある。このようなことは問題で

ある。試合後に反省や意志統一の機会を持てば、このようなこと  
も防げるのである。判定の基準をあわせる努力も必要なのである。

### 審判員の位置取りについて

三人の審判員の気持ちに合わせて、連携が必要である。コッ  
は主審の移動に気配を察知して副審はサツと位置取りをする。移  
動は、切り込み法を使って、素早く、原則として主審を頂点とす  
る二等辺三角形を維持する。選手の動きを察知して先取りする必  
要がある。この際、主審の状況を読んだ動きが重要となってくる。

### グレーゾーンの実体



### 審判示範事項

○ 審判旗の保持の仕方——体側に垂直に持つ（旗の後端が突き出  
ないよう）。

○ 移動は素早く歩み足で——位置が決まったら足をさっと引きつ  
けて踵を閉じる。

○ 目線は外さない——下を向いて移動しない、真っ直ぐ前を見る  
○ 旗は体側斜め横に上げる——前かがりに上げない。  
（角度はうたっていないが、概ね45度）

○ 中止は真上に真っ直ぐ上げる。

○ 「止め、止め」などと二度宣告しない——一度だけ鋭く「止め」  
と宣告する。

○ 棄権の場合は白旗の上に赤旗を交差させる。

○ 引き分けは旗を頭上で棹の部分（取っ手の軸）重ねる——赤  
旗を前にする。

○ 反則は発生したときと同時に表示する。

○ 認めない時の表示は三、四回分かり易くはっきり振る。

○ 旗で、「前に出て」などの指示をしない。

### 韓国防具の改造品の問題点

一、異様な観があり、人に不快感を与える（吐き気を催し、気分  
が悪くなった人がいた）。

二、顔や目がみえづらく、公平性に欠ける。

三、伝統的文化の観点から問題点があるのではないか、という声  
が上がっている。

審判実技（演習）における留意事項

次期審判員席は下座側に設ける。全剣連の主催大会では審判は一回一回交代し、試合場で二列になっての交代はしない。次期審判は腕組み、足組みをせず端正に座す。旗の持ち方は特に取り決めるのではないので、審判長の指示が無い限り、三人が意志統一して、持って座る。

旗を持って定位置に移動するときは、二本指で、旗を押さえ、軸を手の内にしまって歩く。そうすれば旗がバラけない。旗の巻方は立て巻、横巻と、二通りある。基本的にはどちらでもよいが、大会によっては審判長により決められる場合があるのでその時はそれに従う。

定位置についたら三人が同時に開き、終わるときも同時に巻く。

主審の注意すべき点

開始の宣告は両選手の気が満ちたところを察知して、鋭く「始め」と宣告する。そうすれば、試合者を活気づけ、試合の活性化に繋がる。

審判員の注意すべき点

試合中止のルールを知る。

一、反則の事実

二、負傷や事故

三、危険防止

四、竹刀操作不能の状態（自分で解消できるような状態かどうか見極める）

五、異議の申し立て

六、合議

以上のような場合、中止宣告する。

審判法の指導をするときの留意事項

専門用語を使って説明する。（×タスキ、○目印、×ゼッケン、○名札など）

その他の問題点

鏝迫り合いで、双方が激しく動き、位置がクルクル変わるような場合は、審判はいちいちそれに合わせて二等辺三角形を作ろうとしないで、選手の動きを見極めて制止したときなどを見て、位置を取る。

面を打って行ったら、打たれた方が、のけぞって避けた。この場面は一本とはならない。竹刀の打突部が届いていれば一本とはしない。（全剣連の考え方）

一般的な試合の場合、活性化を図るために、宣告や指示は命令調でやる。（鋭い声）（京都大会の範士の立ち会いなどは別格）

鏝迫り合いでは、相手を崩して次の技を出すよう指導して行く必要がある。ボクシングではクリンチをすればレフリーが割って入って分けるが、剣道はそうではない。今後の課題として残る。

竹刀操作ができないような場合に、一方が解消しようとしているのに、そうさせまいとするもう一方は、反則になるかどうか合議の対象となる。

審判は自分の考えと意志によって旗を上げる。他の審判に追隨

するようなことは絶対しない。旗がピクツとして上げそうになったりする場合があるがこれは心の迷いである。見極めてしっかり上げる。

逆交差は許容範囲があるのでその中で判断する。瞬間的なものか、打ちの流れの中なのか見極める。

### 竹刀の破損について

竹刀が破損したら取り替えさせるが、その際検量を受けたものかどうか見落とさない。検量を受けていなければ取り替えさせる。ただし、試合が始まってしまつて後にわかつた場合は反則として扱う（二本負け、その後の試合に出場できない——不正用具）。

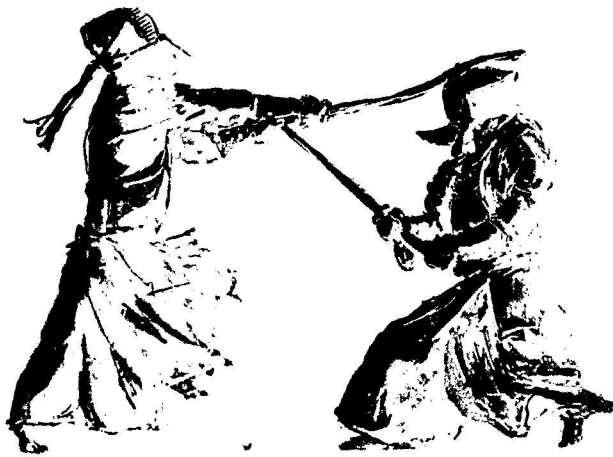
### 試合中

赤、白が激しく動き回り、位置が入り乱れることが多くある。目印をよく確認しながら審判する。試合者、観衆が安心し、信頼するような審判を目指す（公平無私、厳正な態度）。

### 三、剣道形

三人一組となり、打太刀・仕太刀・指導者役をローテーションで担当し、それぞれの組で剣道形の内容を深めていく形式で行なわれた。

詳細については、紙幅の関係で今回は省略することとする。



## 居合道中央講習会を受講して

居合道部 高橋 憲 司



全日本剣道連盟主催の第三十五回居合道中央講習会が、平成二十年九月十三日・十四日の二日間京都市武道センターにおいて各都道府県から二百名が会して開催され、本県から今年度は原田勝先生と私

が受講いたしました。私自身は平成十五年以来五年ぶりに参加させていただきました。この講習会は全剣連が地元での伝達講習会を行うことを条件に各都道府県の剣道連盟に派遣を要請するもので、その受講内容は九月二十一日松茂町第二体育館において原田先生と共に伝達講習いたしました。

一日目(十三日)午前九時からの開講式に続いて岸本千尋委員長長の講話があり、その中で「解説書に書かれている内容が基本である。講習会も回を重ねた今、棚谷委員長の時に英文に翻訳するために同一動作を同一表現として書き改めたことで、例えば「受け流しにふりかぶる」、「後」、「臍前」等の表現にやまもすると誤解を生じる点が見受けられる。所作が武道として合理的であるか行間の意味を考えてみる必要がある。」とのお話がありました。そのあと全日本剣道連盟居合の解説書に基づいて武田講師の説明・小倉講師による演武によって、礼法及び十二本の術技の解説があ

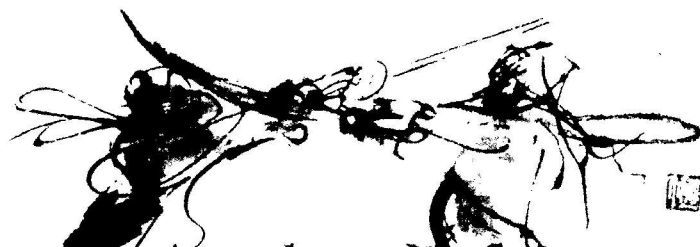
り、午前中の講習を終えました。昼食を挟んで午後は二十名程の七班に分かれ、各班に講師が付いて終日各講師による熱心な指導があり、受講生が実技演武を行って稽古を重ねて受講しました。私は安永毅講師の班に属しました。各講師は事前に申し合わせをして統一見解を確認してはいたのですが、各講師にはそれぞれ個性があつて先の武田講師の説明・小倉講師の模範演武とは若干の差異を感じたのは同班の他の受講生も同様であつたようでして、班別での受講内容はここでは割愛させていただきます。

二日目午前中は十月二十五日に仙台市において開催予定でありました全日本居合道大会に向けて、同大会の審判員を務められる先生方を中心に又、範士の先生が参加していない道府県は受講生が、選手役の受講生の模擬試合によって「時間超過」「指定技間違い」等についての「合議」「判定」の下し方、審判旗の揚げ下げ、審判席への入退場等を質疑応答を交えて、繰り返し約三十分予定時間を超過する程に熱心に講習が実施されました。午後に入って各流派に分かれて「古流の研究」が実施され、我々無双直伝英信流は、武道センターのメイン会場を夢想神伝流と二分して武田清房講師・山崎正博講師を中心に実技演武を行いました。演武は称号段別に「正座」「立膝」「奥居合」「座業」「立業」の順に行い、そのあと両講師とも「地域・道系によって若干順序・所作に違いはあつても大方は同じであるから、自分の習われたことの研鑽に努められるように」とのお話してありました。

午後四時、途中事故もなく講習会の全日程を終了し、閉講式の

後、散会となりました。

二日間に渡って各都道府県より参集しました受講生が、各自熱心に受講したことは申すまでもありませんが、親身になって指導に当たられた各講師の先生方また会の運営に当たられた京都府剣道連盟の役員の方々に深く感謝申し上げます、今後、地元徳島での居合道の技術向上また普及発展に微力ながらお役に立ちたいと感じながら会場を後にしました。



## 第四十六回中堅剣士講習会に参加して

徳島支部 生田浩章



平成二十年五月二十一日～二十五日の五日間の中堅剣士講習会に参加し、講師の先生方には基本の大切さをしっかりと指導していただきました。

まず、開講式では福本専務理事より、「柳生研修会」として多くの諸先輩から語り継がれ、全国から参加した中堅剣士が、道場で寝食をともにしながら、自らの剣道の修練とその指導を、まさに事と理を一致させて研鑽する場所であります。講習会といいますが、内実は、中堅剣士の強化です。安易な気持ちでは、参加しないように。」と括を入れられ、あいさつとされました。

初日、奥園講師による講話では、「観見二つの目付」について行われ、観の目を強く、見の目を弱くして相手を見るには見た目にとらわれず心の目で見ることの大切さを学びました。続いて、浅野講師により、素振り、切り返しを行い、五日間の厳しさを示すかのよう、素振りを一本一本丁寧に振る大切さ、切り返しも肩を使ってしっかり打つ大切さの指導を受けながら、何度も繰り返し、返すうちにその大切さを改めて実感させられました。その後、講師の先生方との稽古で初日を終えました。

二日目朝稽古の後、午前中に中田・浅野両講師による、「日本剣道形」では、立会い前の作法から意義・目的・構え方の説明がありました。その後、太刀の形七本・小太刀の形三本を解説していただきながら行い、「日本剣道形」の大切さを実感しました。

午後は浅野講師による「指導法」では打ち切るための素振り、肩を使っての切り返しの大切さを上級者として常に心がけるようにと、指導していただきました。その後「区分稽古」が行われ、私自身初めての体験でしたが、本当にきつく、大変でしたが、お互い励ましあうことで乗り切ることができました。この日を境に講習生全員一つになり、五日間負けずがんばろうという気持ちになりました。

三日目、朝稽古午前と鈴木講師による「指導法」は、①攻め打つ ②攻めて打つ ③攻めて打たせて打つ ①②は剣道の表半分③は裏半分であると、攻め方であるこの三つについて説明されました。その後の稽古では攻めるには足の大切さの指導を受け、すり足・追い込みを行い、また身に付いた悪い技・癖をなおし、「大技は早く、小技は強く」と指導を受け、基本打ち・技稽古と行いました。

午後は上垣・松田両講師による「木刀による剣道基本技稽古法」では「日本剣道形」につながる指導として学びました。続いて、有馬講師による「指導法」では、足さばき・技稽古を指導いただきました。特に驚いたのは、有馬先生の足さばきで、道場の端から端まですり足・追込みを、自身が何度も手本を見せたことです。

その時、先生より若いわれわれができないでははずかしいと思ひ、必死にがんばりました。三日目とあり、かなり体中筋肉痛になっていましたが、有馬先生の講習生を笑わしながらの指導もあって、乗り切ることができました。

四日目、氏家講師による「指導法」は、肩を使っての素振りの重要性を説明されました。素振り・切り返しを行い、最後に大きく早く肩を使って、百本切り返しを何度か行い、充実した稽古内容で終わりました。

午後は村上講師による「審判法」で「剣道試合審判規則・細則」に則った説明が行われました。特に有効打突の見極め、またコート内への入退場、審判員の立つ位置と二等辺三角形を崩さない位置取り、審判員の立姿について、厳しく指導を受け、実技を行い、審判技量の習得に努めました。

最後は、医学博士の長野講師による「スポーツ医学」では剣道とアトピー性皮膚炎や花粉症などのアレルギーとの関連について学びました。

以上、五日間それぞれの先生方の指導を受け、基本の大切さ・基礎力の重要性を身をもって経験することができました。この経験を、これからの少年指導にまた徳島剣道連盟に少しでも貢献できばと思います。

最後になりましたが、このような貴重な研鑽の場を与えていただいた、徳島県剣道連盟の先生方に心から感謝いたします。



# 佐藤博信先生講習記録

事務局次長 手塚 十三子



平成五年に開催されました東四国国体以来、本県剣道強化アドバイザーとして毎年、佐藤博信先生（東京・範土八段・元警視庁主席師範）をお招きして国体強化のご指導を仰いでいます。以下にその概要を報告します。

八月三十日（土）・三十一日（日） 県警察学校体育館

第一日目 ●基本錬成（十四時～十五時十五分）において

## 佐藤先生評

### 準備体操

体操とは、自分の身体に合った①柔軟性を保持する。②筋力のアップを図るなど。その際の留意点として、疎かにしないこと。自分の身体に役に立つ体操をすること。いい加減でなくしっかりやること。

### 素振り

やり方によって剣道の力にものすごく作用する。工夫して行うこと。素振りもやり方一つです。大事なのは跳躍力です。距離を長くする。上下だけでは何もならない。打つ力、打つ距離を意識して。肩関節の柔らかさ、全ての基礎です。足幅も意識しながら

ら、なるべく上下動しない。水平に（稽古においても）。相手が上下動で来たら分かる（もろい）。それを無駄にしないで活用する。

### 基本錬成

やり方、心掛け次第。相手が打たせてくれる。下から押し上げてくる技はなかなか打てない。腰を入れること。ここから届くという間合。基本打ちの時、最大の努力をしていないと実践に役立たない。実践に役立つ基本打ちを工夫すべき。小手の打ち方を見ると、小手ががら空きになっている。打った方向へと手を伸ばすこと。後の態勢ができるための基本打ちをすること。稽古の間中、相手から目を離さないこと、これは基本。胴打ちもしっかり。二の太刀が出ること。剣道は普段やっていることを直せと言われてもなかなか直らない。面技を返して相手に注目しながら正対する。すると、姿がよくなる。態勢が崩れない。美しい剣道は強い。美学。

### 応じ技

折りに触れて練習を。相手が来たとき受けっぱなしが一番悪い。剣道は相手が打って来た時にどうするか、さがってはいけない。危ない。さがると負け。「何を」と、前へ出る。極意は相打ちの勝ち。決死の気持ちが必要。余して、外してはだめ。だれもこんな勝負は褒めない。そのために応じ技を身につけよう。体力を使わず、「美」だけでさばける技、それが応じ技。年配になると受けっぱなしになる。そのためには足を横着しないこと。

足さばきさえよければ衰えない。惰性でやっているのが多い。一生懸命↓もう一工夫、そうしないと剣道がよくなるらないのです。

●試合練習（十五時十五分～十六時十分）において  
佐藤先生評

成年女子

塚原……上段の技の練習をしっかり、徹底的に鍛えよ。

柏原……上段に対して中途半端な間合い。入らない時||遠間。入る時||近間。

猪尾……動きがともよい。引き面がともよかった。相打ちは取りづらい。攻めてから打つ。引いてはだめ。

玉田……面打ちの時、起こりが大きい。そして攻めてから打つこと。

成年男子

宮本……上段は全部さらけ出して相手の起こりを誘う覚悟がないとだめ。「危ない」と思ったら我慢する。

上段は度胸がないとだめ。肝の据わった稽古を。  
住友……もっと素早く入る。打たない時は遠間。

近藤正……甘い、もっと気合を入れて、相手を突き倒すぐらいの気迫で。

山名……両手のバランスを同時に使うこと。問題は、間一髪、どこで決めるか、押さえたところは打っている。

ること。もう少し思い切って間合を詰める。小太刀で相手の刀を制してから打ちの速さが要求される。

福多……初太刀小手、「さあ、来い」の気合が相手に対する攻め。

平野……上段に対する小手打ちの研究を。

西谷……よい試合。高段者の年期の入った打ち。打ったら必ず一本になる打ちを。

近藤亘……いいところは相手の起こりにちゃんと合わせるところ。大事なところは「合気」

総評

エンジンは全開、アクセルが入ると「ボン」。①基本練習をしかり。②いつ打つかが問題。③絶対にひかない。どこから攻めると相手が崩れるか、その態勢を崩して気持ちをも崩す。攻めて打つことが大切です。

第二日目 ●剣道形（四本目から・九時三〇分～一〇時三〇分）

〈四本目〉いつでも顔は相手の方を向く。

〈五本目〉仕太刀は剣先を打太刀の左拳につける。その時、まごまごしない。打太刀は面が届くところまでいく。（間合が近すぎると思うところまで入る）。仕太刀の

頭から顎まで切り下げる気持ちで正面を打つ。仕太刀はすり上げたら間髪入れず、躊躇せずに打太刀の

正面を打つ。仕太刀が剣先を打太刀の顔の中心につけながら右足からひいて、諸手左上段に振りかぶる時、手の内を緩めないで身体ごとさがる。その辺の氣迫が大切。

〈六本目〉お互いの連携動作。打太刀は仕太刀がすり上げやすいように小手を打つ↓その剣先は喉にいく。仕太刀の小手すり上げは軽妙な技、手の内を柔らかく。

〈七本目〉仕太刀は打太刀の捨て身の面を抜き胴で射止める。目線を外さない。胴は抜くのではなく「切る」↓太刀を腰に取る↓足のねじれを直す。

形は氣の争い。細かいところ―作法―自ずと理に適っているのです。氣合が入ると手は伸びる。小太刀は構えを解いても左手はいつでも活用できること―氣が全身に満ちている。技の前後の動作。構えを解いた時の手は待機させる。

〈小太刀一本目〉

打太刀は仕太刀の頭の真ん中をねらう、横を打たない、正しく親切な打ち方。氣位、格好よく。右手を折らずに、右拳が少しでもよいから上に上がるように。(摩擦音がするように)。

〈小太刀二本目〉

仕太刀入身。打太刀の正面を柔らかくすり上げる。腕を上げる。右鎧で受け流す時、腰を遣う。手首を柔らかく鎧を使うと、刀を扱う上で大切な要素となるものがある。打太刀の正面を打つのが

先。そして二の腕を押さえて残心。

〈小太刀三本目〉

仕太刀下段半身。打太刀が正面を打つ時、太刀の力が緩むと、仕太刀がそれをすり上げる時に右肩が上がった状態になってしまう。打太刀はそこをしっかりと意識することが大切。仕太刀は残心を示す時、打太刀に身体や顔を近づけない。打太刀は仕太刀のどこを切ってやるか、相手がどういう技で返してくるかをきちんと考えること。

大切なことは二人の氣合、緊張の糸が切れないこと。最後の座礼まで。礼儀作法を大切にす。出ていくところから本舞台なので。出入りに威厳をつけて、礼法は大事です。氣力を込めて莊嚴に。お辞儀はていねいに。裾さばきは立つ時のことを考えて。手の表現法は目につきます。修行の度合いやていねいさが分かります。

● 試合練習 (一〇時三十分～十一時三十分)

佐藤先生評

成年女子

竹内……応じ面一本で決めるとよい。打ってこなければ打つていく。双方がその繰り返しでは、勝負がつかない。受けたら返す。何度もいいところに手を出しているが、まだまだ稽古が足りない。打つ機会を

成年男子

勉強する。相手の起こりが見えた時打つ。

山名……手を出している。達者で結構だけれども、せいぜい二、三本でよい。手数が多い。相手とやって起こりをねらう。勝率は三割から半分まで。短い竹刀をどう使うか考えて、片方に行き過ぎないこと。自分が主導権を取ると強い。相手をビクッとさせる。緩んではだめ。細かいところ、どこを打つか。横手……えらいよ。二刀に対して見事な小手。

西谷……最高の一本を決めたらその一本を守らないと。手首の効かせ方を工夫するように。(手首が緩んだ)。面の勢いが感じられる。面を打って返されるようではだめ、威勢のよい剣道をしないと。大将は弁当持ち覚悟。戦い方には定石がある。絶対に打たせない守り強さ。大将は絶対に軽はずみなことをしない自制心が必要。打つチャンスが見えてくるまで。慢心しないで謙虚に。なんとしても負けけない。まだまだ本気になった試合をしないとだめです。

8月30日(土) <成年女子>

先鋒	中堅
塚原	猪尾
⊗   一本勝	⊕   一本勝
柏原	玉田

8月31日(日) <成年女子>

大将
竹内
⊖   一本勝
富永

8月30日(土) <成年男子>

先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
宮本	近藤正	山名	福多雅	西谷
⊗   ⊙	⊗   ⊙	⊗   ⊙	⊖   ⊗	⊗   ⊙
住友	金野	前田	平野	近藤亘

8月31日(日) <成年男子>

次鋒	中堅	副将	大将
川添	山名	福多博	西谷
⊕   一本勝	⊖   ⊖	⊗   ⊖	⊖   ⊕
金野	横手	前田	鈴木

# 平成20年度全日本剣道連盟後援 徳島県剣道秋季講習会(指導法・日本剣道形)記録

事務局次長 手塚 十三子

西出 功範士八段をお迎えして、標記講習会が、平成二十年十月十九日(日)鳴門ソイジョイ武道館で行われました。以下に、その資料をお示しします。

## 日本剣道形講習会資料

- 1 剣道形解説書
- 2 剣道講習会資料（日本剣道形～重点事項等）
- 3 実技全般要点
  - (1) 入退場・立会前後の所作
    - 入場～正面に向かって左・右から入場時の「打太刀」「仕太刀」の位置（要領）
    - 退場～正面に向かって左・右から退場時の「仕太刀」のまわり方（要領）
  - (2) 刀を持った手を前後に振らずに歩く法
  - (3) 正座時の留意点
    - 袴さばきをしない ● 両足の位置 ● 刀の扱い～鞘の揺れ
  - (4) 刀の持ち方・置き方・握り方・帯刀
    - 二刀 ● 巻留 ● 円形の鍔 ● 鐙こじり
  - (5) 抜刀
    - 鞘引き（腰のひねり） ● 納刀
  - (6) 刀のそり
  - (7) 刀の軽重と立会
  - (8) 左諸手上段、脇構え
  - (9) 小太刀の構え（3種）
  - (10) （剣先を）つける、とは
  - (11) 打・仕（すべりどめ）の関係～（立会）打太刀が左へと移動する傾向
  - (12) 形の稽古方法
    - 息を止める ● 9歩の間のとり方（中央横手） ● 5歩さがる要領

#### 4 各本数ごとのポイント（打突部位を知る・部位を打突しているか、届いているか）

##### 〔太 刀〕

- 1 本目 ● 柄もろとも ● 左足を伴う ● 横手と一足一刀の間
- 2 本目 ● 小手にくるのを察知した時点で ● ふりかぶり ● 刀の高さ（剣先）
- 3 本目 ● 剣先の高さ（そり）～打（咽喉部）、仕（胸部） ● なやされた剣先方向
- 4 本目 ● 小さく3歩 ● 上段振りかぶりで止めない（一拍子） ● 切り結ぶ高さ  
● 刀身を削るようにして ● 刃先の向き（打・仕）
- 5 本目 ● 正面打ち（顎まで） ● 頭上まで充分引きつける（一拍子）  
● 顔の中心につける要領（浮かさず引く）
- 6 本目 ● 剣先（上段の左拳）～ 後中段 ● 打・仕とも右足から元の位置へ
- 7 本目 ● 気当たり～胸部を突き的气势で突く（交差の高さ～肩）  
● 足運びと振り上げ時機（上体は移動しない） ● 目付  
● 打太刀は脇にとらない

##### 〔小太刀〕

- 1 本目 ● 中段半身（剣先は顔の高さ）  
● 入身（氣勢を充実して相手の手元に飛び込んでいく状態）  
● その場で刀を合わす
- 2 本目 ● 中段半身（剣先は顔の高さ）  
● 拳で自己の鼻頭をすり上げる  
● 上から押さえ（関節より上部）～大木に蟬 ● 残心（体を進めない）
- 3 本目 ● 下段半身の構え（太刀の下段の高さ） ● すりあげ（刀身の活用）  
● すりおとし（刀身の活用）～小太刀の先 ● すり流し（刀身の活用）  
● すり込み（刀身の活用）～膝頭をめざす ● 一文字・十文字

## 指導法講習会資料

### 平成20年度全剣連事業計画（指導法関係）

#### ○ 基本方針

「剣道の理念」に基づき、高い水準の剣道人の育成に心がけ、国内外各層への剣道普及を図り、社会から高く評価される活力ある剣道界の実現を目指す。

#### ○ 重点方針

指導・教育体制の強化を通じて、質の高い剣道を育てる。

#### ○ 重点事項

- 指導教育の実効を挙げるため、各種講習会における指導法の充実と現場への浸透を一層推進する。
- 指導法を担当する講師要員の研修会を実施する。
- 「剣道講習会資料」の的確な活用を一層推進する。
- 「剣道指導要領」を発刊し、現場への浸透を図る。

#### ○ 剣道講習会資料

- 剣道の理念 → 剣道修練の心構え → 剣道指導の心構え

#### ○ 指導法の基本概念（指導目的）

- わが国の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承してその発展を図り、「剣道の理念」に基づき高い水準の剣道を目指す。

## 指 導 目 標

稽古・試合・審査は連動（一体）していることを認識し、段位審査の「付与基準」及び「着眼点」を指導目標として指導する。

### 指導法に講習における基本的事項・重点事項より

#### 1 基本（所作抜粋）

審判員としての視点から、稽古・試合・審査を見た場合、基本的な所作（運営要領中の試合者要領を含む）は指導の分野であり、これを「指導」の段階で身につけさせることによって稽古・試合・審査・運営がよくなる。

- 着装（堅固な着装、面ひもの長さ） ● 立礼の位置 ● 礼（角度・不適切な礼）
- 鰐・中結の位置
- 着装の乱れを直すとき、合議時など境界線の内側（身体の一部または竹刀が境界線外に出ないように）
- 立ったままでの納刀 ● 不戦勝等で宣告を受ける要領 ● 審判員が定位置に着くまで試合場内に入らない ● 試合中止要請にいたるまでの努力（剣先が袖、脇の下、面垂れの下等にひっかかった場合の措置等） ● 正しい鰐せりあいの指導及び分かかれ方・左拳を中心線から外す防御体制をとる前に打つことの指導
- 開始線について

#### 2 実技 ～ 基本動作

##### （1）礼法

- 立礼 ● 正座（左座右起、袴さばき、形） ● 座礼

##### （2）構えと納刀

- 堤刀 ● 帯刀（剣先をあげない、床と水平にしない） ● 蹲踞と抜刀（下から×、真上から×）
- 納刀（立ったまま、蹲踞）

##### （3）竹刀の握り方（刃筋） ～ 意識して身につける

- 回る形態及び手首を右斜めにしての構え（注意）

##### （4）素振り

- 上下振り ● 斜め振り

(5) 空間打突

- 正面 ● 左右面 ● 開き足 ● 連続

(6) 基本打突 ～ 一足一刀の間合いからの一拍子での打ち切り

- 正面打ち ～ 踏み込み足について

(7) 切り返し

- 振り上げと呼吸要領（原則として一息）
- 面の前で切り返さない（左拳額の上まで）
- 本数を決めない
- 受け方（引き入れる、打ち落とす、両手の高さ）

(8) 体当たり

- 面打ち体当たり後（腰を中心に）両拳を相手の下腹部からすくい上げる（押し上げる）要領
- 柄と柄の交差 ● 当たる瞬間手元を下げる ● 左手を強く意識して押し返す

(9) 鍔ぜりあい

- 正しい鍔ぜりあい ● 反則を誘う鍔ぜりあい ● 分かれる方法

3 実技 ～ 応用動作（約束動作から攻防実践へ）

- 一見単調と思われる基本・応用技をくり返すことによって、得意技が身についていく

- 仕掛け・面一応じ 起こり面・小手（起こりは本来起させるもの）  
すりあげ面（表・裏・前・後・さばき）  
すりあげ胴（抜き胴）  
応じ（返し）胴、（面を迎えての胴）

- 仕掛け・小手一応じ 小手相打ち面  
すりあげ面（螺旋状）

● 仕掛け

- 1 面 ー 応じ（上記技自由）
- 2 小手 ー 応じ（上記技自由）
- 3 面か小手 ー 応じ（上記技自由）
- 4 双方仕掛けー 双方応じ ♪

# 女子審判法研修会

竹内 佳代子



期日 五月十七日(土)十八日(日)

会場 日本武道館研修センター

(千葉県勝浦市)

主催 (財)全日本剣道連盟

「女子審判の能力・技術の向上を図り、質の高い審判員を養成する」ことを目的として実施され、今年で三年目になるこの研修会に全国から集まった二十四名の研修生の一員として、初めて参加させていただきました。

本研修を受講した女性研修生は、全国家庭婦人大会または全日本女子選手権大会の審判を行うそうで、そのための審判法研修会となっているそうです。「最近の女性剣道のレベルは向上していると高く評価している。そのため、来年度から家庭婦人大会をやめ、新たに女子の都道府県大会を開催する。さらに女子剣道の高いレベルを目指すためにも、女性審判員の技能の向上が不可欠である。」と、村上講師先生からお話をいただきました。その責任を担う一員として、本研修を受講できることに重責と共に喜びを感じました。

## 第一日目

### 審判員の心得

○剣道試合・審判・運営要領の「四、審判員の五つの一般的要件」の確認。

#### ○留意事項

- (1) 服装を端正にする。
- (2) 姿勢・態度・所作などを厳正にする。後ろ姿が特に大事。
- (3) 言語が明晰である。活性化を図るため、命令調の宣告でない。ただし、高段者に対しては別で、選手にに応じて変わっていくものである。
- (4) 審判経験をふやし、反省と研鑽に努める。
- (5) よい審判を見て学ぶ。見とり稽古
- (6) 協調性と適切な連携。三人の審判員の旗が割れるのが多くなると、不信感につながる。他者への追従はだめだが、グレイゾーンの判定を、いかに三人の審判員が協調して見ていくかが大事である。
- (7) 勇気ある決断。

#### ○有効打突の確認

#### 試合審判規則の要点

○規則とは―筋道・普遍性・社会通念・常識。剣道を正しく受け継ぎ、教育性を考慮してつくられたもの。試合の場に応じて対応できるもの。

#### ○審判規則の確認

第一条(目的)が特に大事。

第十二条(有効打突)その大会の参加選手の中の高い選手にレベ

ルをあわす。

第十七条（諸禁止行為） 不当なつばぜり合いとは……①つばとつばがふれあっていない。②技をだす意志がない。③相手の引き技の封じ込み。④分かれる意志がない。⑤競い合っていない。

⑥長時間の逆交差。⑦分かれる際に相手を突くなど不当な打突。

**審判法実技**

○正しい用語を使う。

「審判主任」 ×コート主任

「名札」 ×ゼッケン

「目印」 ×タスキ

「相互に礼」 ×お互いに礼

○勇気ある決断を行う。

○位置取り。副審同士の旗が互いに見える位置。

○審判旗がびくびく動くと信頼をなくす。あえて下腹に力を入れる。

○審判旗の柄の部分が見えないようにする。

**第二日目**

**審判としての認識度の確認**

一、審判員の任務について

二、つばぜりあいの反則の見極め

**審判法実技**

講師先生からは、「全体的に見て審判が上手であった」と、お褒めの言葉をいただきました。ほとんどの皆さんが、本研修の二日目、三度目の受講経験者で全国大会の審判も経験されているた

めか、他の方の審判の様子を見せていただいても、とても堂々と審判をされていました。また、研修生同士でも、審判の所作や有効打突に関して意見を交換し合い、緊張感の中、積極的に研修を深めようとする雰囲気があり、大変勉強になりました。夜も各部屋で勉強会が行われ、先輩先生方から優しくご指導をいただき、大変ありがたかったです。全国で活躍される有名な先生方と同じ研修を受けることができ、交流をもつことができたことも、本研修で得られた大切な財産となりました。このような機会をいただいたことに感謝すると共に、研修で学んだことをこれからしっかりと活かしていきたいと思えます。

第3回 女子審判法研修会 日程表  
【平成20年5月17日(七)～18日(日) 於・日本武道館勝浦研修センター】  
財団法人 全日本剣道連盟

5月17日(上)		5月18日(日)	
		7:30	朝食
9:00	受付 事務室前ロビー	9:00	審判としての認識度の確認 研修室
9:30	開講式 研修室	10:00	審判法実技 大道場 ※試合者は国武大男子
9:45	審判員の心得 研修室	10:10	審判法実技 大道場 ※試合者は国武大男子
9:50	審判員の心得 研修室	10:50	審判法実技 大道場 ※試合者は国武大男子
10:50	試合審判規則の要点 研修室	11:00	開講式 研修室
11:00	昼食 食堂	12:00	開講式 研修室
12:00	昼食 食堂	12:00	開講式 研修室
13:00	審判法の理解 研修室	13:00	開講式 研修室
14:00	審判法実技 研修室 ※試合者は国武大男子	14:00	開講式 研修室
16:00	審判法実技 研修室 ※試合者は国武大男子		
16:10	稽古 研修室		
17:00	入浴		
18:00	夕食 食堂		
20:00			
22:00	消灯		



## 日本剣道形（初心者対象）

### 講習会の実施について

中 村 稔 裕



本年度標記講習会が八月六日～七日の  
両日ソイジョイ武道館において実施され  
た。

今回も徳島県剣道連盟審議委員坂下彦  
之先生を講師に招き、充実した講習会が  
行われた。

今回は学校行事と重複したところが多く、五十余名の参加となっ  
たものの、その大半が日本剣道形を行うのが初めてであり、次の  
事項を重点に、学ぶ者が理解しやすいよう反復練習を行った。

- (一) 立会前後の作法、立会の所作、刀の取扱いについて。
- (二) 正しい刀（木刀）の操作について。

(三) 打太刀、仕太刀の関係、呼吸法、目付、残心、気迫について。  
特に坂下講師のユーモアを交えた指導は好評であり、受講生は  
休息时间も惜しみ互いにテキストを見たり、講師に質問する等、  
納得出来るまで練習を繰り返す熱心さに感心させられた。

今回、受講生の中に剣道経験の浅い中学校剣道部顧問先生が生  
徒と一緒に受講され、生徒達にも励みになる範を示された事は特  
筆に値するものであります。

暑い盛夏の中での講習でしたが、受講生全員が一本目から七本  
目までマスター出来ました。終始熱心にご指導頂きました坂下講  
師先生に厚く御礼申し上げますと共に、受講生の皆様御苦勞様で  
した。この講習会が長く継続されます事を願って報告とします。



## 日本剣道形講習会に参加して

加茂名中学校 田中邦明



僕は、平成二十年八月六日、七日の二日間に行なわれた日本剣道形講習会に参加させて頂きました。

講習会では、初級、中級と自分達の経験によりグループ分けをし、中村先生や坂下先生を中心に指導して頂きました。

僕は小学生の頃、少年剣道教室で剣道形を習っていました。それは、地元の大会で剣道形を披露するためです。あんなに練習したのだから少しは覚えているだろうと思っていました。でも、講習会が始まると、体が全く動かさずとても不安になりました。特に三本目では、左足を引かなければならない所を右足を引いてしまったり、七本目では胴を打った後、相手から目を離してしまったり、足の位置がちがっていたりしました。忘れていた事がたくさんあって、不安と緊張がつのるばかりでした。

だから、何度練習しても上手くできませんでした。しかし、その都度先生からいいねいに細かい所までご指導頂きました。練習していくうちに、形は自分一人だけでしているのではないと気がきました。いくら手や足の位置を覚えても、相手と息が合わなければ形はできません。

まず、相手の事を考えて、心を合わせて剣道形をやる事が大切だと思いました。しかし、そのためには、自分自身もっと形をよく理解し、覚えていなければなりません。自分の動きに自信ができれば、自然と相手を思いやることができ、心を合わせて剣道形ができるのではないかと思います。

二日目になると、剣道形の手順もよくわかり自信を持って木刀を振ることができるようになりました。来年になると僕も初段の審査に挑戦します。この講習会で習得したことを忘れないように毎日練習を重ねて合格したいと思います。熱心にご指導して下さいました先生方、本当にありがとうございました。



# 徳島の剣道史

## 阿波刀の歴史 新々刀編

阿波国十代藩主 蜂須賀重喜の派遣刀工

坂本憲一

はじめに



阿波の新々刀（江戸時代の安永年間から明治の廢刀令までに造られた刀）の動向は、数々の要素から大きく分けて二期に区分することができる。

その一期に当たるものは、阿波国十代藩主蜂須賀重喜（一七三八～一八〇一）という強力なパトロンを得て、地場の刀工達が他国著名刀工の技術を盛んに移入し、以後の道統が確率された宝暦年間から文政年間に至る間の動きである。

一方、十三代藩主蜂須賀齋裕（一八一二～一八〇一）の兵制改革の影響を受けて鉄砲重視の思想が蔓延、ついには、二大流派（水心子門笠井・石川一門）の刀工群をも包含し、二八〇有余人といふ未曾有の鉄砲鍛冶を排出した天保年間から慶応年間に至る動向で、これが第二期の流れである。

そのうち、ここでは阿波における新々刀界の第一期の動向をとらえ、重喜公が果たした役割、重喜をとりまく五人の刀工とその作例について述べることにする。

### 蜂須賀重喜の役割と周辺の刀鍛冶

武器の発達、乱世という世情の中でこそ高められる。だが、阿波の新々刀の始動は、武器発達の常識とはいささか異なった形で始まったといつてよい。阿波の新々刀界を語るには、その黎明期に重喜が果たした役割を見逃すことはできない。

十代藩主蜂須賀重喜は、元文三年（一七三三）、秋田の新田領佐竹老岐守義通の四男として生まれ、宝暦四年（一七五四）、阿波二十七万石の藩主の座につく。聡明で希望に満ちた青年藩主は、逼迫していた藩財政の建て直しのため「宝暦御建直し」と呼ばれる国政改革に着手するが、それを不服とする重臣達と真っ向から衝突する。



十代藩主蜂須賀重喜儒葬墓



旧大谷御殿表門（現徳島市国府町井戸寺山門）

芝野栗山（一七二八〜一八〇七）を招いて藩儒とし、質素儉約を旨とするが、明和六年（一七六八）、「阿波国徳島の城主松平阿波守重喜国政平ならず士民難困」『徳川実記』の理由で、心ならずも幕府から隠居を命ぜられてしまった。以後大谷邸に籠もり、藩主時代とは、うって変わって贅沢三昧の日々を過ごす。周辺には文人墨客、種々の職人衆が繁く往来し、趣味の道には金子を湯水のごとく費やす人物となるのである。

ともあれ、この時期から「国政平ならず」に相反して、重喜という途方もない財力をもった人物によって阿波の芸術文化は大きく花開くのである。絵画（東州斎写楽Ⅱ重喜公がフイクサー説）、

金工（堀江興成）、漆芸（観松齋・飯塚桃葉）しかり、そして刀剣である。

中でも重喜は、部屋濟み時代は、大名の子息には珍しく剣術に明け暮れた時期もあり、武器類には、特に興味を示したといわれ、阿波藩への婿入りに際しては、大広間に居並ぶ藩士一同をしりめに城

山の武器蔵に足を進め、出迎えの重臣達を困惑させたという逸話を残すほどの人物であった。

隠居後の重喜は大谷御殿（重喜が隠居を命ぜられてから移り住んだ別邸。荘厳で贅を尽くした大邸宅で、これを世に大谷御殿と呼んだ。重喜死去と共に数日にして取り壊されたと伝えられ、その一部は今、四国八十八ヶ所霊場第十七番井戸寺の山門、徳島市佐古諏訪神社前の石橋として残る）入りするや新たに在地の刀工達を召し抱え、あるいは従前の刀工達の中から数名を選び、他国著名刀工の元へ作刀修行のため派遣して、以後彼らに惜しみなく援助の手を差し伸べるのである。

まず、四代藩主蜂須賀光隆の代より藩工に列していた海部氏吉（徳島氏吉Ⅱ海部実兵衛）に加えて、すでに大坂の尾崎助隆門で名声の高かった安芸佐之（身分は佐名河内村の御蔵百姓）を佐名河内村より召し出し、御殿のある八万村に鍛造地を与え士分格として出仕させる。これが重喜が保護した刀工の第一号で、以後四代の継承をみて安芸一門となる。二代目の佐寿は、重喜没後の文化十年（一八一三）、藩の御厩付鍛冶として取り立てられ、馬の轡と刀の両輪で制作に励む。三代目の佐重も藩工に列して数々の優品を遺すが、放蕩癖から遊廓で没する。墓石には「廓道良意居士」とあり、これほど生前の人となりを表した戒名は他に無い。佐重の兄弟も皆鍛冶となり、一門多いに繁栄する。刀鍛冶としての終焉は明治末期。安芸要作が、軍刀鍛冶として第四十三連隊に属し従軍、明治三十七年六月二十六日、日清戦争の猪園子溝の戦



刀工安芸一族の墓所（向って左側が佐重の墓、廓道良意居士）

いで戦死して幕を閉じる。

重喜はさらに十分格の鍛冶四名を選び、江戸の名工水心子正秀のもとへ作刀修行のため派遣する。これが世にいう阿波の派遣刀工である。石川正守・同止直・笠井尊輝・近藤宗利等四名の刀工で、彼らは大いにその技量を發揮し、新々刀期の中

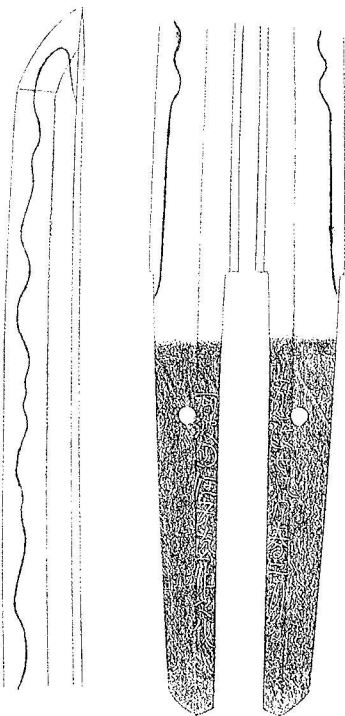
心的刀工へと成長するのである。もっとも、重喜がこれら派遣刀工の師に水心子を選んだことは、正秀の名声もさることながら、水心子と部屋住み時代の重喜との親密な関係があったからである。阿波入りしてからも重喜と水心子は身分こそ違え、趣味の刀剣を通じて盛んに交流をもったらしく、このことは、水心子の『刀剣実用論』収録の文面に阿州公（重喜）のことが登場することからもよくわかる。

### 尾崎助隆門安芸佐之並びに水心子門四人の刀工と作例

押形1の脇指は、安芸佐之の典型作ともいべきもので、刃長

五四・二樋、反り一・〇樋、茎長一七・〇樋、重ね厚く、身幅広く、中鋒延びごころとなり、刃文は濤乱刃を見事に焼き、刃縁には豊かな沸をつける。銘は表に「阿波国住安芸佐之作」と作者銘、表に「寛政七年乙卯春二月日」と年紀銘がある。

蜂須賀重喜公が派遣刀工とは別に深いかかわりをもったのは安芸一門である。この安芸一門の祖が安芸佐之である。先祖は戦国末期、隣国の土佐安芸郡一帯（現高知県安芸市）を支配した安芸国虎で安芸氏滅亡後、その子千寿丸が阿波の地に逃れ佐名河内村で帰農したと伝える。出自はともかくとして、鍛冶職に従事したのは佐之の父の代からで、そのことは、文化年間の『八万村棟付帳』からも窺える。しかし父は農鍛冶に終始したらしく、それらしき作品は見あたらない。

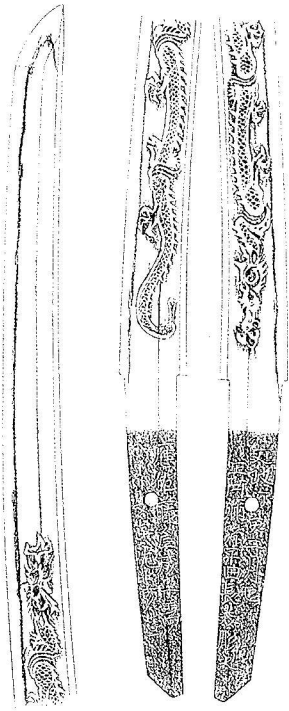


押形1 脇差 銘（表）阿波国住安芸佐之作  
（裏）寛政七乙卯春二月

佐之が農鍛冶を脱して大阪の尾崎助隆の門をたいたのは、切銘に著しく変化が現れる寛政四・五年頃と思われる、この期以後の作例はきわめて助隆に酷似する。この脇指の地刃の出来は勿論のこと、特に切銘は師にそっくりといっても過言ではない。以後、安芸佐寿をはじめとする安芸一門はこの銘振りに範をとっている。

押形2は、安芸一門二代目佐寿の脇指である。地刃共に刃え、なかなかの優品である。長銘に切られた銘は歴史的にも貴重で、銘文中「文政寅二月日正阿弥孫平田長美彫之」とあって、刀身彫は平田長美が施したことがわかる。ちなみに平田長美は阿波正阿弥で知られる金工師平田家八代で、活躍期は文政頃、しばしば佐寿の刀に彫を施している。

押形3は、派遣刀工の一人石川正守の刀である。刃長六九・

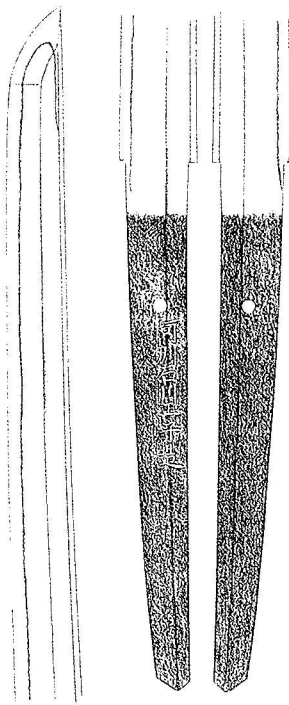


押形2 銘(表) 応佐藤為成子需安喜佐寿造  
(裏) 文政寅二月日正阿彌孫平田長美彫之

二纏、反り一・二纏、茎長二一・五纏、地鉄は小柰目肌よくつみ無地風。刃文は中直刃、匂口締めまりごころで小沸が豊かにつく。茎には化粧鍔鑑がかり、先は入山形となる。表目釘孔下鎧筋よりに五字銘がある。

石川正守は、県西の岩倉別所(現美馬市脇町)に住した。先祖は板野郡板西で二百貫を領した武士と伝え、江戸初期に美馬郡岩倉の別所に移り住んだ。藩政期は郷士の身分を持ち、数代にわたって鍛冶(鉄砲鍛冶とも)職を業としていたと推測される。幕末にいたり、正守・正直が出るに及び刀匠としての地位を高め派遣刀工の一人に推された。

本刀は正守が水心子門での修行後、報恩の意味をこめて鍛えた一振で、久しく蜂須賀家に伝来していた。特に姿がよく、それま

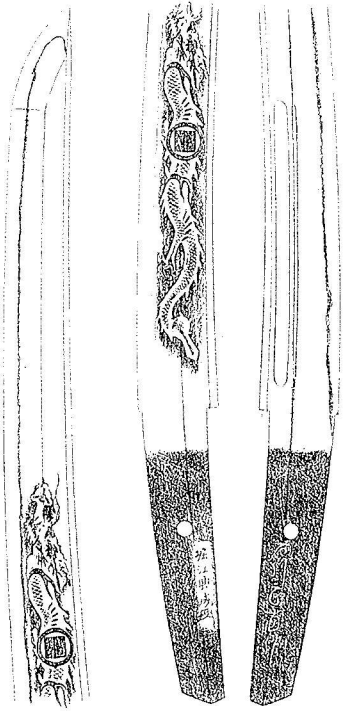


押形3 刀銘 阿州石川正守造

での地方色が抜け、出来は師水心子にせまっている。ちなみに、この刀は、昭和二十八年、徳島県の文化財に指定されている。

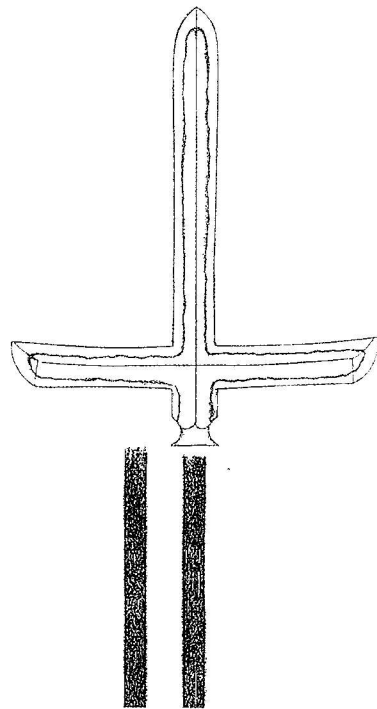
押形4は、同じく派遣刀工の一人、石川正直の脇差である。刃長四〇・〇糎、反り一・二糎、莖長一三・二糎、身幅・重ね共にたっぷりあり、地鉄が小柰目肌よくつき、地沸が厚く、地景はむらなくついてきわめて精美、匂口あくまで深く、名刀の条件をあますことなく備えている。

本刀は、石川正直の傑作刀で兄正守（親子説もある）と共に水心子正秀が入門後、重喜公に献上したもので、重喜愛刀の一つであった。後江戸詰め金工師堀江興成（？〜一八四四）が拝領、自らの名を所持者銘として金象眼したと伝える。地刃ともにすこぶる優れ、阿波の郷土刀中、最右翼に属する一振であろう。



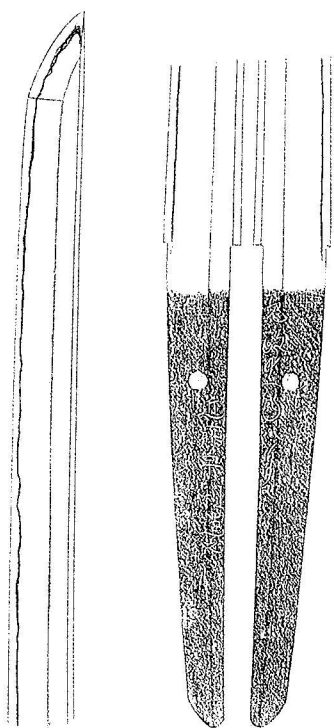
押形4 脇差 銘（表）石川正直作  
（裏）金象眼銘堀江興成（花押）

押形5 十文字槍 銘（表）阿州尊輝  
（裏）文化八末年八月日



押形5は、派遣刀工の一人、笠井尊輝作の十文字槍である。刃長一八・二糎、莖長三四・二糎、両鑄造、両枝が共に上向する上がり鎌十文字の形状を呈する。鍛えは小柰目肌よく詰み、刃文は直刃に小足がよく入り、刃縁には砂流し、沸よくつき、下半荒沸を交えるなど変化に富む。

笠井尊輝は、笠井近義を鍛冶職の祖とする笠井一門の二代目である。先祖は、先の石川正守同様、蜂須賀氏入国以前からの土豪で、その出自は室町時代に遡る。笠井家七代目の近義の代になって鍛冶職となり、この近義の第一子が尊輝である。多くの兄弟の中でも出藍の誉れ高く石川正守・正直とともに派遣刀工の一人に加わった。江戸留学は二十歳過ぎ、派遣刀工中、最年少の人物であった。同人の作にはしばしば「照・輝」の字を併用しているも



押形6 刀 銘(表) 近藤宗利造  
(裏) 寛政十年八月日



笠井尊輝の墓(東禅寺山墓地)

の文化八年以降、大成してからは主に輝の字を用いている。

押形6は、数少ない近藤宗利の刀である。刃長六六・七厘、反り一・〇厘、茎長一八・四厘、身幅やや狭く、反り浅く、総じて小振。体配、地刃の出来は古調を示し、大和伝写の一振といえる。

近藤宗利は、俗名佐一郎といい、派遣刀工中、すぐれた技量をもちながら以後の継承を見ないのがこの刀工である。水心子の「門人帳」に「松平阿波守家士」と記録されており、旧来、江戸詰め御目見得以下の土であったことが取沙汰されてはいるが、本県には、まったくの足跡を見ない。ただ、文化元年の『中小姓格名面』に、中小姓格として近藤佐一郎の名があり、文化十年から文政八年までの『江戸住御家中増減調』には出奔した人物名が多数列挙されているが、その中に文化十一年二月十三日付けで近藤佐一郎なる人物がいる。出奔の理由などは記されていないが、もしこの人物が宗利と同一人物とするならば、先の資料とも考え併せると、派遣刀工中もっとも身分(中小姓格)が高く、筆頭格の人物だったことになる。そして出奔の理由は、文化十一年という年紀が重喜が没した翌年のことであり、保護者亡き後の身辺の急変から失意のうちの出奔ともとれる。『阿淡秘録年表』にも重喜が没した翌年に、素行不良の能役者や絵師が大量に追放されていることからそうした経緯は大いに推測できる。ただ、断定出来ない一つの理由として、出奔したとされる文化十一年紀以後の作品があげられる。「文化十三年八月日阿州臣宗利造之」、「文化十四年八月日 阿州臣近藤宗利造」、「文化十三年阿州士近藤宗利」

等の短刀が現存しており、果たして脱藩の罪を犯した者が「阿州臣」を名乗るものなのか。また、そうしたことが許されるのだからかという疑問が残る。いずれにしても今後の究明が待たれる刀工の一人である。

### おわりに

今回は、阿波における新々刀界の黎明期ともいべき、十代藩主重喜の時代を中心に述べてみた。

第二期に位置づけた天保年間から慶応年間に至る流れは、物情騒然とした世相にもかかわらず、阿波藩がとった日和見的政策が功を奏し、国情は極めて穏やかな時代であった。

この時期、やがて訪れるであろう動乱期を予測した十三代藩主齋裕の兵制改革は、多くの鉄砲鍛冶を生んだ。そのため刀工界は一時的には衰退した。だが再び盛り上がりを見せ、鉄砲鍛冶に身を委ねながらも刀鍛冶として槌音を絶やさなかった者、ひたすら斯道を歩んだ者、併せて四十有余の刀工を排出する。この期はまさに鉄砲鍛冶・刀鍛冶共存の時代であったのである。そして雨乞踊りのために九州から駐槌刀工を迎えるなど、阿波ならではの現象を呈しているのも実に興味深いところである。

ともあれ、海部・安芸・笠井・石川・大西(横山)一門など、四十有余の鍛冶を擁した阿波の新々刀工群も、明治時代という一大変革によって、その大半が衰退、中期にはほとんどが終焉を迎えてしまう。そうした中であって明治九年(一八七七)の廃刀令

後もひたすら伝統を守りぬいた刀匠がいる。吉川祐芳(天保元年生、明治三十年没)一八三〇―一九七)である。この吉川祐芳こそが新々刀界の有終の美を飾った刀匠といっても過言でなからう。そして、その子吉川大明(安政三年生、明治四十二年没)一八五六―一九〇九)によって、現代刀(廃刀令以後現在まで、伝統的鍛練法によって造られた刀剣類。第二次世界大戦の需要に伴って造られた半鍛刀は昭和刀として除外。)へとその道統が継承されてゆくのである。

次号、現代刀編「徳島の現代刀匠」



# 撃 剣

竹 原 実太郎



ご存じのように、我国の剣術は昭和二十五年に全日本剣道連盟が発足以来、正式に「剣道」となり撃剣は死語となっている。しかし、先年亡くなった父・竹原

常雄は支部に稽古に行く際によく「撃剣に行く」と言っていた。筆者が物心ついた時から聴かされていた。

当時の支部は武徳会徳島支部のことであり、稽古はもとより撃剣の意だった。以来、約八十年が経過したが、最初に馴れ親しんだこの「コトバ」は今も記憶の底にあって忘れ去ることはない。

「撃剣」について、福島大学の中村民雄教授はその著書『剣道事典』（島津書房）の中で次のように述べている。

江戸初期までの武術はまだ未分化で、総合武術として行っていたが、それが次第に弓・馬・槍・剣・柔・砲・居合・薙刀といった、それぞれの種目ごとに分化し、独立の流派を立てて教授するようになっていった。それにともなって、刀剣の操法を表す名称も、「剣術」「剣法」「刀術」「刀法」などと呼ばれるようになった。これらの名称がどの流派で、いつごろからどのように用いられたのか、個別事例についてはよくわからない点も多い。

さて、「剣道」という用語も、多分にこのような流派的な個別事例として表れてくる。最もはつきりしているのは、筑前（福岡県）秋月藩士の安倍五郎大夫頼任が、寛文七年（一六六七）「剣術」を「剣道」といい改めて、「安倍立剣道伝書」全十九巻を書き著したことに表れている（安河浄生『安倍頼任伝』省文堂書店、一九七三年）。しかしこの用例も、「剣術」という用語ほど一般化した呼び名とはならず、安倍流のみの用語に終わっている。

江戸時代後期から幕末期になると、新流の台頭と、竹刀打込み稽古法の普及とにより、「撃剣」という用語がそれらいい表すことばとして再び注目されはじめた。源徳修『撃剣叢談』（寛政二年）や筒井六華『撃剣難波之棟』（安政二年）など、書名にも用いられたように、この時期においてはやったことばである。しかし何といっても、明治六年（一八七三）四月に、榊原鍵吉によってはじめられた「撃剣興行」の盛況が「撃剣」ということばをはやらせた大きな原因であった。したがって、明治期には、「剣術」というよりも「撃剣」といった方がより一般的な呼び方であった。明治四十四年（一九一）七月三十一日、中学校令施行規則の一部改正により、はじめて正科教材に採用された時、「撃剣及柔術ヲ加フルコトヲ得」と、「撃剣」ということばを用いたのもそのあたり

に理由があったからである。

明治三十六年生の父・竹原常雄にとっては「撃剣」という呼び

方が一番なじんでいたことが、中村教授の指摘からも明らかである。

天明八年（一七八八）神田猿楽町に道場を開いたのが岡田十松吉利と云い、戸ヶ崎熊太郎に師事したか影響をうけたかは詳細不明だが、その名『撃剣館』と称し、当時名高く、門弟の数は四千人におよんだと云う。ここにおいて筆者が支持する撃剣館の登場となる。いづれ条件さえ整えば筆者の道場を撃剣館と改名したいと、ひとりひそかに楽しんでいる今日この頃である。



# 大会所感

県西で、二十回の

剣道大会を開催して

穴吹少年剣道教室

大石 雅 生



第二十回県西部

小中学生剣道美馬

大会が平成二十年

九月十五日（敬老

の日）、美馬市穴

吹町の穴吹スポーツセンターで開催されました。参加団体は、小学生三十一団体、中学校二十校、選手総数四百三名でした。どのチームの選手も持てる力を遺憾なく発揮し、正々堂々と戦っている姿に応援に駆けつけた保護者らからは熱い声援が飛んでいました。

というわけで、ここで本大会について少し述べさせていただきます。はじめ

に、本大会を開催するきっかけになったのが先程紹介した穴吹スポーツセンターの落成です。同スポーツセンターは、平成元年三月に完成しました。そこで、完成を記念しているいろいろな催し物が繰り広げられました。その中で、町教育委員会から穴吹町少年剣道教室に「こけら落としに剣道大会をやってみないか」と打診があったわけでもとより、それまでに私たち剣道教室関係者の中では、阿波ライオンズ大会や鴨島大会・山川大会・池田大会のような大きな大会をいつかやってみたいな、大会に呼ばれるだけでなく呼んでみたい、いつもお世話になっている他の剣道教室の皆さんに少しでもお返しができたら……と話し合っていました。そこに町教委からの打診、渡りに船だったわけです。早速、大会準備に取りかかりました。とは言え、剣道大会なんかやったことがない。何をどうしていいかわからないわけです。そこで、剣道西部地区の重鎮、市場町（現阿波市）の坂本裕二先生（剣連剣道史担当理事）にご指導を仰ぎました。大会案内の事、会場設営の事、審

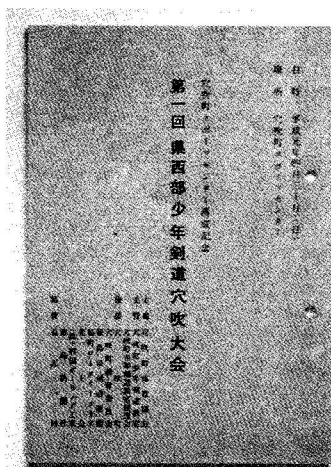
判員の事、大会経費の事等すべて懇切丁寧にお教え頂きました。また、前日の会場設営、当日の大会運営にも足を運んでくださり、御陰をもって平成元年四月三十日、当時の阿波郡・麻植郡・美馬郡・三好郡から小学生十九団体、中学校六校、選手総数二百七十六名のりっぱな第一回大会ができました。坂本先生には、本当にお世話になりました。その後、指導者や保護者の中からは「この大会を一回だけで終わらすのはもったいない。せめて二、三回は続けよう。」との声があがり、今回まで続けることができましたわけがあります。また、本大会は平成十七年三月に町村合併があったため、十六回大会までは町体協主催・剣道教室主管で行い、十七回大会からは市体協・剣連美馬東支部（十八回大会から美馬支部）主催で行っています。

さて、大会の根本である経費について少し述べておきたいと思います。第一回大会については、スポーツセンターのこけら落としであったため、町からの助成金が約二十万円程あったように記憶しています。し

かしながら、それだけでは足りず、町内業者等に広告料という形で協力をお願いすることになりました。その時、強力な助っ人となってくれたのが教室生の保護者です。中でも、当時剣道教室の後援会長だった笠井幸弘氏は私に対し「金のことなら心配するな。わしに任せ。しかし、事務的なことは分らん。お前がやれ。金は、保護者。事務は指導者と分担してやろうじゃないか。」と励ましてくれました。それが基盤となり、以来広告料集めは保護者が中心となって動いてくれました。また、笠井氏を中心に「大会を行うに当たり軍資金を作っておこう。」という事で、教室生の保護者から一戸当たり月千円を徴収し、次回の大会に当てることとしました。このように、合併までの穴吹大会（合併後は、美馬大会）は、保護者の強力な助っ人があって開催できたものです。その中には、他の大会への強い恩返しのような気持ちがあったことは忘れてはなりません。その後、十七回大会からは町村合併に伴い大会運営に対する体制を変えつつも、その取り組みは穴吹大会を踏襲しつ

つ今日に至っております。

終わりに、本大会に協力して下さいました地元業者並びに保護者の方々、そして本大会に参加し盛り上げて下さいました各剣道教室・道場・中学校及び審判員の先生方に厚く御礼を申し上げ結びと致します。



# 各種大会に参加して

## 第三十回全国スポーツ

### 少年団剣道交流大会に

#### 徳島県チーム監督として参加

徳島清風館道場 久保隆司

平成二十年三月二十六日～二十八日

静岡県武道館

徳島清風館道場平成八年開館し、平成十三年からスポーツ少年団に登録して七年になります。門下生で初めて平成十七年に岡田紘平君（現文理高校二年生）が徳島県中学生男子代表となり、第二十八回宮城大会に出場し、その時に残念ながら応援に行けませんでした。

今回、平成十九年度の中学生男子代表として、岡田宣孝君が代表選手となり、今回は応援に行ってみたくて思っていました。まさか私が監督をする事になるとは思ってもいませんでした。

小学生の代表選手は、徳島県内外で活躍

している強豪徳島至誠館の門下生である田

中君・岩原君・高木君・玉田さん四名と、

徳島農業高校の大先輩藤本先生がご指導さ

れる加茂名少年剣道教室の永野みきみさん、

また中学校女子は名門鴨島少年剣道教室の

西柚衣さん（平成十九年全国中学校総体で

優勝した那賀川中学校の主軸選手）と言う

メンバーです。本来なら、徳島至誠館中山

先生かもしくは藤本先生が、徳島県チーム

を率いて頂くことが本筋であるわけですが、

中山先生から切なる依頼に私も悩みました。

職場でも郵政の分割民営化による平成十九

年十月一日施行から初めての決算期で、大

変な時であったからです。幸い、上司や同

僚の理解を得て監督を受諾いたしました。

そして、全員が集まって稽古、練習試合等

行うのに阿南市から徳島市、吉野川市と遠

距離である上に各道場学校の遠征行事など

スケジュール過密で大変でしたそんな折に、

徳島少年剣道教室生田先生、徳島中学校豊

田先生のご協力で練習試合をさせていただきました。

そして、兵庫県赤穂市赤穂武道館で、岩

本哲也先生（赤穂剣道連盟役員、関西福祉

大学監督、兵庫朝日新聞監督）のご協力で

兵庫県第二位で前年度優勝チームとの練習

試合を行い、かなりのレベル差を感じて、

選手達は各道場での稽古内容への取り組み

意識も変わったように思えました。

大会前の三月上旬、香川県チーム監督の

林剣道スポーツ少年団宮武先生の、ご配慮

で四国四県と和歌山県のチームで内容の濃

い練習会を開催していただきました。徳島

チームの雰囲気作りが充実して、今回全国

大会で優勝した和歌山県チームにも最後の

トーナメント決勝戦本数差で勝ち、本番前

を選手のムードは最高の気分となりました。

本大会内容は以下の通りです。小学生予

選リーグを突破し、決勝トーナメント一回

戦で敗れ、ベスト十六で優秀賞を受賞しま

した。

中学生女子個人では西柚衣選手が第三位

で、しかも優勝した岡山県の選手に準決勝

戦で敗れたものの、剣道として少しも劣ら

も高い評価をいただきました。

男子個人戦での岡田君も初戦で敗退いたしました。が、剣道の内容は堂々としており、徳島県の代表として立派なものでありました。

そして、今回徳島県代表となったメンバー  
田中君・高木君・岩原君・永野さん・玉田さん・岡田君・西さんは本当に可愛くて賢く立派な選手たちでありました。こんなに素晴らしい選手たちと出会えて数ヶ月間一つの夢を見れたことに感謝したいと思いません。

私は選手に剣道の技術指導はほとんどしていません。それぞれの道場、教室で心身を錬磨され徳島の代表に選ばれた選手ですから、ただ精神面における心の持ち方、剣道を楽しむこと、チームワークを一番の課題として参りました。

この大会出場に対して遠藤会長、徳島県知事、県議会議員、県教育長、徳島市長、徳島市議会議長、徳島市教育長、徳島至誠館館長からお志を頂戴し感謝いたします。また、選手の保護者の皆様には、年末年

### 第30回 全国スポーツ少年団剣道交流大会

(静岡県武道館 H20年3月26日～28日)

#### 予選リーグ 1 試合

校名	先	次	中	副	大	勝者	本数
徳島	田中	永野	高木	玉田	岩原	5	10
	⊗ド	⊗メ	⊗メ	⊗メ	⊗メ		
山口							
	水野	山口	前田	梅本	山根	0	0

始、年度末のお忙しい中、練習試合、大会前の準備大会にと素晴らしいサポートを頂き感謝いたしております。特に玉田さん、岡田さんにおかれては保護者間のまとめ役として、ご尽力頂き誠にありがとうございました。

平成二十二年三月には徳島大会が開催される事により、視察のため、三木理事長、米倉副理事長の同行があり、貴重な助言アドバイスを頂き、ありがとうございました。徳島大会で地元チームの輝かしい成果と大

#### 決勝トーナメント 1 回戦

校名	先	次	中	副	大	勝者	本数
徳島	田中	永野	高木	玉田	岩原	2	5
		⊗	⊗メ	⊗	⊗		
宮城	⊗	ドメ					
	木村	田中	菅野	新村	渡部	3	5

#### 予選リーグ 2 試合

校名	先	次	中	副	大	勝者	本数
徳島	田中	永野	高木	玉田	岩原	2	5
	⊗	⊗		⊗メ	⊗		
神奈川	⊗				ココ		
	伊藤	川村	佐藤	坂本	守屋	2	4

成功をお祈り申し上げます。  
 最後に今回このような経験を  
 させていただき、ご指導、ご協  
 力いただいた皆様に、深く感謝  
 いたします。ありがとうございます  
 ました。



## 第三十回

### 全国スポーツ少年団 剣道交流大会に出場して

加茂名少年剣道教室

永野 みきみ

平成二十年三月二十六日から二十八日、静岡県武道館で第三十回全国スポーツ少年団剣道交流大会が行われました。まさか私が全国大会に出場できるとは思っていませんでした。小学生では、私以外の人はみんな至誠館の人だったので少し不安でした。一日目の二十六日は開会式を行い、日本剣道形を見て、基本練成を行いました。やはり全国なので基本がしっかりしている人ばかりでした。それが終わると、交歓交流会というのを行いました。プレゼントを渡したり、ゲームなどを行いました。全国の人達と交流を深めることができたので良かったですと思います。

二日目の二十七日は予選リーグでした。予選リーグは三チームで行いました。私達

の所には神奈川県と山口県がいました。昨日の基本練成のことを思い出すと少し不安になりました。でも、久保先生が「楽しんでこい」とおっしゃったのですごく気持ちよく楽になりました。最初は山口県とでした。すぐくみんな落ち着いた試合ができていたので、勝つことができました。

次は、神奈川県とでした。相手の先鋒の動きを見ていると明らかにさっきのチームとは違いました。でもそんなことは気にせず試合に臨みました。この試合も勝つことができましたけど、危ない試合でした。この結果、明日の決勝リーグに行けたので嬉しかったです。

そして、いよいよ三日目の二十八日の決勝リーグが行われました。私達は、ベスト八をかけて宮城県と戦いました。決勝リーグなので予選リーグとは雰囲気の違いがありました。その時はすぐくきんちようしてました。先鋒が負けていたので、私があんとか取ろうと思っていました。そして面を取りました。取ったら私は、逃げようという気持ちがありました。だから後ろにさがって

面が来ると思い、面をうけようとした所を胴があいていてぬかれてしまいました。すると私はあせってしまい「始め」の合図ですぐ面を打った所をすり上げられ面を打たれました。その後は、中堅、副将は勝ったけど、大将が負けて三一二という形で負けました。結果はベスト十六でした。すぐく悔しかったです。みんなが涙を流しました。私は、まだまだ練習不足だと思いました。

私達が終わった後に、中学生女子個人で出場している西さんが三位という素晴らしい成績を残したのですすごいと思いました。最後に、久保先生、保護者の方々、また、たくさんの方々本当にありがとうございます。これからこの経験を生かして頑張っていきたいと思います。

## 第三十回

### 全国スポーツ少年団

#### 交流大会に参加して

鴨島少年剣道教室

西 柚 衣

平成二十年三月二十六日から二十八日、静岡県武道館で、第三十回全国スポーツ少年団剣道交流大会が開催されました。私は小六と中二の二度も出場することができ、うれしさと身の引きしまる思いでした。二年前には一本も取れなくてとても悔しい思いをし、今回は一本でも取れるようにと強い気持ちで大会に臨みました。

結果は三位入賞、負けてから、「三位だよ。」

と言われて初めて入賞した事に気付きました。目の前の一試合一試合に集中していた自分に驚きました。この結果もうれしかったのですが、私はこの大会でもっと大事な事に気付きました。

宿舎は監督と選手のみで、保護者とは別々

になります。中学生は中学生同士の部屋でお互いに知らない人ばかりでもとても心細くなるだろうと思っていました。しかし、開会式のリハーサルで隣にいた香川県の人と部屋が一緒だということを知り、思い切った話しかけ、仲良くなることができました。これをきっかけに宿舎でも積極的に話しかけていきました。すると、みんな明るくてすぐにうちとけ、おしゃべりをしたり、写真を撮り合ったりと仲良くなり、楽しく全日程を過ごすことができました。そして、またどこかの試合会場で会えることを約束してそれぞれの県に帰っていきました。

スポーツは強いこと、勝つことだけが目的ではなく、それを通して友達の輪を広げられたり、支えてくれる周りの人達に感謝することを気付かせてくれる、それがこの大会の目的なのだと思います。

私が幼稚園の年長の春、道場に入門して十年になります。怪我もしました。スランプもありました。やめたいと思うことも何度も何度もありました。けれど剣道が続けてきて良かった、やめなくて良かったとい

は心から思います。いつかまたどこかの大会で会うかもしれない、試合をするかもしれない仲間達、その時のために必死に稽古に取り組みたいと思うようになりました。

不器用な私は、やっと自分が、実は剣道が好きなんだと気付きました。小さい頃から人の何倍もやらないと出来なかった私に、道場の先生は笑いながら、「西の不器用は丁度良い。」

と、私はなんだかほめられた気持ちで稽古をしていたことを思い出します。知らないうちに、剣道が私の生活の一部となり、やがて、剣道中心の生活になっていきました。

これまで育てていただいた、道場の先生方、中学の先生方、稽古会等でお世話になった先生方、先輩方、チームメイト、道場生みんな、全国にいるライバル達、そしてお世話になった保護者の方々、ありがとうございました。みなさんのお陰で全国スポーツ大会に足跡を残すことができました。

# 第五十六回

## 全日本都道府県対抗

### 剣道優勝大会に参加して

監督 近藤 巨

平成二十年度の幕開けとなる標記大会が、四月二十九日（祝）、大阪市中央体育館において開催されました。

この大会は、職業・段位・年齢などによる区分ごとに選ばれた男子五名、女子二名の七人制で行われる各都道府県の総合力が試される試合といえます。

#### 二月二十四日の予選の結果

- 先鋒 小西美穂（阿南第一中学校）
  - 次鋒 日和田慈海（吉野川市役所）
  - 五将 山崎砂織（主婦）
  - 中堅 福多博史（阿南第一中学校）
  - 三将 佐藤 智（県警機動隊）
  - 副将 原 知永（会社員）
  - 大将 高木壽史（会社員）
- の七名が選ばれ、私が監督を務めることとなりました。

ベストエイト突破を目標に、週二回（水

曜・土曜）の連盟稽古会を中心とした強化を行いました。とはいっても、選手は、南部・西部と分かれており、また勤務等の関係で全員が揃って稽古ができる状況ではありませんでした。

そうした中、四月五日、京都で行われた近畿地区の都道府県出場チームの合同稽古に参加する機会を得ることができて、試合勘、チームのまとまりが培われたように思います。

大会本番は、一回戦は、シードで、二回戦からの出場となりました。新潟県、宮城県との勝者と対戦となりましたが、次年度に国体開催を控えている新潟県が二対〇で勝ち上がって本県との対戦となりました。

#### 二回戦

- |    |       |    |
|----|-------|----|
| 徳島 | 四―〇   | 新潟 |
| 先鋒 | 小西 コー | 相場 |
| 次鋒 | 日和田 × | 伊藤 |
| 五将 | 山崎 ×  | 荒川 |
| 中堅 | 福多 メー | 宮田 |
| 三将 | 佐藤 メ反 | 下間 |

副将 原 コーメ 金光

大将 高木 × 吉田

試合は、先鋒小西選手が幸先よく勝ち、次鋒日和田選手、五将山崎選手が引き分け、中堅福多選手が勝ったため、流れが自軍に流れてきました。三将佐藤選手、果敢に攻め相手の反則を誘うなど二本勝ちを収め、

チームの勝利を決定しました。副将原選手は京都遠征から全試合二本勝ちの快進撃を続けており、本番でどんな試合をするか楽しみな一戦でした。本番でも終始自分の剣道に徹し、相手に一本は与えたものの勝利しました。大将高木選手、落着いた試合運びで引き分け。結局、四勝〇敗で快勝し三回戦へ進出しました。

次の試合に勝てば念願のベストエイト進出となります。対戦相手は、長崎県と三対二の接戦で勝ち上がった茨城県。

#### 三回戦

- |    |        |     |
|----|--------|-----|
| 徳島 | 一―五    | 茨城  |
| 先鋒 | 小西 コー  | 粉川  |
| 次鋒 | 日和田 メメ | 遅野井 |
| 五将 | 山崎 メ   | 佐藤  |

中堅 福多 ーメメ 鍋山

三将 佐藤 × 海老原

副将 原 メドーメ 平岡

大将 高木 ーメ 坂本

結果は、以上のとおり先鋒が一本負けを喫すると、流れを我が方に変えることができないうまま、中堅まででチームの負けが決まってしまう。

唯一意地を見せたのは副将原選手でした。

日頃の修練は嘘をつきません。素晴らしい試合で一矢を報いてくれました。

残念ながら、今回も目標には後一步届きませんでした。

剣道は、日頃の稽古を如何に充実したものにすることが大切です。今回の試合を通じて得たものは、今後の自分の稽古の糧として活かしていくてくれるものと思います。

終わりにりましたが、ご支援して頂いていたいただきました剣道連盟会長を始め会員の皆様にお礼を申し上げ、ご報告と致します。

## 第二十五回

### 最後の全国家庭婦人

#### 剣道大会に参加して

麻植支部 富 永 ますみ

平成二十年七月十九日日本武道館にて開催された、第二十五回全国家庭婦人剣道大会にむけ、予定通り前日徳島を出発しました。当り前の事ですが、選手は皆家庭の主婦です。仕事を持つ人もいて、勤務の調整をしたり留守にする間の家事をこなしての出発となりました。

移動中は皆女子高生のようにしゃぎ？若かりし頃にタイムスリップしたようでした。ここで、道中いくつかある中でのエピソードを一つ、飛行機に搭乗したにもかかわらず、離陸直後、席を移動し、デンと友の横に座り真面目な顔で一言、「もう誰も乗ってけえへんのだろ」の言葉に選手は当然…(その後爆笑) この人誰？まあ、なんやかんやありました、無事ホテルに到着。試合前日なので、好きなお酒もほどに？

??その日はおとなしく就寝ZZZZZZ??

試合当日晴天、朝食を済ませそれぞれ身支度を始めました。袴の帯を硬く締める頃には昨日とは打って変わって口数も少なく、妻そして母である顔から剣士へと風貌をかえていました。いざ日本武道館へ出発、ホテルを出るとあちらこちらから玉ねぎ屋根の武道館へ吸い寄せられる様に、続々と選手が集まってきました。私にとっては二度目の日本武道館、一度目は、「全国中学校選抜剣道大会」もう何十年前も前の事です。あの時の武道館は、とても大きく感じられ感動したのですが、この度はわりと、普通に見ることが出来ました。

ここで、あらためて今大会のメンバー紹介をいたします。徳島陣営を率いる監督に平野悦子、先陣きって先鋒・柏原葉月、次へ続けと次鋒・北村環、要となる中堅・美馬敦子、心強い副将・岩木淳子、そして私、大将・富永ますみ。

予選リーグは何度も入賞経験のある東京都(B)と北海道が対戦相手です。

予選リーグ第一試合

徳島 東京都 (B)

柏原	×	鎌田
北村	×	北原
美馬	×	深井
岩木	×	村上
富永	×	牛木
0 (0)		2 (4)

予選リーグ第二試合

徳島 北海道

柏原	×	関口
北村	×	小久保
美馬	×	深井
岩木	×	村上
富永	×	中原
1 (2)		3 (5)

(1)東京都二勝〇敗・(2)北海道一勝一敗・  
(3)徳島〇勝二敗

この試合で唯一ポイントを先取した岩木選手は、落ち着いた様子で、相手との間合いを計り、一步踏み込みすかさず、「面」気合いも十分文句無し的一本。二本目は、相手も焦ったのか打ち合いになりましたが、

相手がひるんだところに「面」。

その試合内容から普段の、厳しい稽古の様  
子もうかがえました。残念ながら、予選突  
破にはなりませんでしたが、勝ち上がって  
行く他県の試合を身近で見たり、学生時代  
の友とも再会でき、来てよかったと思いま  
した。それから、決勝戦では館内のライト  
が全て消され一点のスポットライトの中、  
太鼓の音を合図に試合が開始されました。

決勝戦に相応しい最高の演出に誰もが

「次は私たちがこの場で……」と来年の、

この大会に向け一層の  
励みになっていたに違  
いありません。しかし  
残念な事に今大会をもっ  
て、全国家庭婦人剣道  
大会は幕を下ろす事に  
なりました。開会式で、

大会長の口から正式に  
発表があり、私にとっ  
ては、最初で最後の思  
い出深い大会の一つと  
なりました。

息子二人が、剣道を始めなければ、私も

道場へ足を運ぶ事は、まだまだ無かっただ  
ろうし、今大会に参加することもなかった  
と思います。チャンスを与えた二人の息子  
と、背中を押してくれた主人に感謝。そし  
て、親子共々ご指導頂いた鴨島剣道教室の  
三木先生及び諸先生方、本当にありがとう  
ございました。

これからも、ご指導の程宜しくお願い致し  
ます。私もこの経験を生かし精進して行き  
たいと思います。



## 四国矯正官大会に出場して

徳島刑務所 住友直城



私は、平成二十年四月一日に徳島刑務所に拝命しました。私は、六歳から剣道を始め

武館少年剣道教室・阿南第一中学校・阿南工業高等学校・中部大学を経て現在に至っております。

拝命後の平成二十年四月下旬に四国四県の施設対抗の大会があり、私は早くも選手として出場させていただきました。大会では、先輩方と日々の稽古を積み、優勝チームのみが出場できる全国大会を目指して大会へ臨みました。試合は四チームでの総あたり戦で、徳島刑務所チームは四位、私自身の成績は三戦三引き分けで、納得いく結果ではありませんでした。拝命し初めての試合でプレッシャーに負け、大会独特の空気に飲み込まれてしまい自分の力を全て発

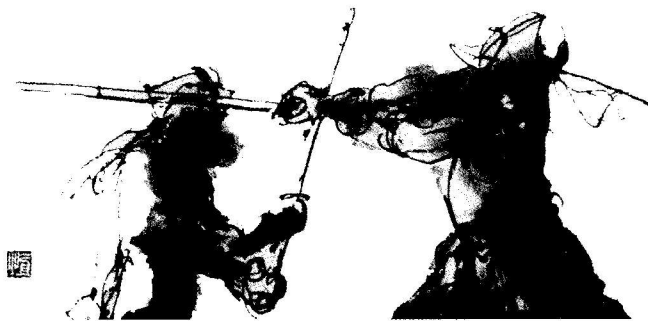
揮することができず、自分に足りない部分が多いことに気づかされました。その後も、徳島県下の各大会に出場してきましたが、納得する試合内容も成績も残すことはできませんでした。これらの大会で学んだこと、反省したことを今後の稽古にいかし、来年リベンジできるよう頑張っていきたいと思っています。

刑務所支部に入ったばかりではありませんが、これからより一層自分の剣道を高めていこうと思います。また、学生剣道から社会人の剣道へと成長していくため、先輩方との稽古から学び、また、県内の先生方と稽古できる機会には多くのことを学んでいきたいと思っています。もう一度基本にかえり、しっかりと自分の剣道を練り直していきたくと考えています。

早くも昨年の施設対抗の大会から一年が近づいてきました。今年こそは先輩方と一致団結し、優勝を目指します。全てを出した試合ができるよう、今から意識を高め稽古に励んでいきます。

最後になりましたが、先生方、先輩方に

稽古をつけていただく機会にはよろしくお願ひします。徳島県で自分の剣道を磨いていきたいと思っていますので、今後とも御指導の程宜しくお願ひ致します。



## 全国高等学校選抜

### 剣道大会に出場して

阿南工業高校 櫻 木 鉄 也

平成二十年三月二十七日から二十八日に愛知県春日井市で第十七回全国高等学校剣道選抜大会が開催された。県予選を勝ち抜き、昨年に引き続き二年連続で出場することができた。

昨年の大会では、予選リーグを突破し、決勝トーナメントに進出しベスト16という成績を残しており、今年はその成績を上回り、全国の強豪校と肩を並べることを目標に、日々の練習にはげんだ。

予選リーグ第一試合は富山県代表の龍谷富山高校、決して勝てないチームではなかった。しかし、全国大会の独特の雰囲気や、県の代表として恥ずかしい試合はできないとの重圧からか、私を含めチーム全員がとても緊張し堅くなっていくのがわかった。試合前ミーティングで緊張をほぐそうと話したが、緊張は簡単には取り除くこと

はできなかった。

いよいよ試合が始まった。私は先鋒として勝利し、良い流れのまま次につなげたいと思ひ積極的に攻めることを決めていた。しかし、一本を先取したものの一本を取り返され引き分けとなった。続く次鋒・中堅も引き分け、副将が二本負けをしてしまった。大将戦で二本取らなければならなくなったが、そう簡単には取ることができない。二本勝ちをするために打ち急いだところを反対に打たれ、大将も一本負けし、二一〇で負けてしまった。

つづく第二試合は東京都代表の高輪高校だった。このチームは昨年のこの大会の予選リーグでも対戦し、二年連続の対戦となった。一試合目に負けてしまった私たちは、二試合目だけは絶対に勝つと強く決意して、試合に臨んだ。結果、二一〇で勝利することができた。しかし龍谷富山高校が高輪高校に勝ったことで私たちは予選リーグ敗退が決まった。

この大会はとても悔しい結果になったが強豪校の戦いを見て、また実際に試合をす



ることで多くのことを学んだ。そして自分たちの課題もたくさん見つけることができ、貴重な経験となった。

私たちがこのような全国大会に出場できたのも、毎日厳しく指導して下さった先生方、物心両面で応援をしてくださった諸先輩方、保護者の皆様のおかげであると思う。そして何よりも辛いことや嬉しいことを共有できる剣道部の仲間が存在が大きかった。たくさんの方々に感謝する気持ちを忘れないようにしたいと思う。

これまで剣道を続け、技術だけではなく礼儀や精神力・忍耐力・感謝の気持ちなどたくさんを学んだ。社会人となっても、剣道を通して学んだことを活かし仕事に励みたいと思う。

## 全国選抜大会に出場して

富岡東高校三年 賀 上 由里奈



第十七回全国高等学校剣道選抜大会は、三月十七・二十八日と、愛知県春日井市総合体育館で開催されました。大会前のチームは、

適度な緊張感と高揚感があり、とても良い雰囲気でした。また部員全員が上位入賞という一つの目標に向かってまとまり、意気込んで大会に臨むことができました。

予選リーグの対戦相手は、北海道の札幌日本大学高校と、千葉県の木更津総合高校でした。第一試合目の札幌日大戦では、先鋒が二本勝ちし、次鋒、中堅、副将、大将と引き分けて結果一対〇で勝つことができました。まず一勝ということでホッとした部分もありましたが、反省点も少しあったので第二試合目までの間のアップの時間にもう一度気持ちを入れ直しました。「絶対

に予選を突破して二日目の決勝トーナメントに残るんだ」という気持ちを全員が持っていました。

第二試合目の木更津総合戦では、私は交代で副将として出場しました。全国大会で実際に試合をしたのはこれが初めてでした。先鋒が一本取り返したものの二本目を取られ負けてしまいました。続く次鋒が逆に一本取り返されたものの二対一で勝ち、中堅が一本勝ちをして、チームの流れはこっちにあると思いました。しかし副将戦で私が二本負けをしてしまい、大将も二本負けで結果二対三で惜しくも力及ばず逆転で負けてしまいました。この一敗は本当に悔しくて、今でもはっきり覚えています。私たちの全国選抜大会はここで終わりとなりました。しかし今思えばこの負けがあったからこそ今の自分たちがあるのでないかと思えます。この大会を通して学んだことはとても多く、次に生かすことができました。私にとってこの経験は人生においても貴重な経験となりました。

最後に、この全国大会という大きな舞台

に立つことができたのは、今までご指導して下さった先生方や先輩方、また保護者の方々の支えがあったからこそだと思います。私がキャプテンとしてやってくることができたのも、仲間やいろいろな人の支えがあったお陰です。高校三年間、剣道部として生かされたことを誇りに思っています。言葉で何と言いましたら良いのかわかりませんが、この感謝の気持ちだけはこれからも絶対にわすれることはありません。



# 全国高等学校総合 体育大会に出場して

阿南工業高校 福川 敬太

平成二十年八月二日から四日にかけて、埼玉県越谷市総合体育館において開催された全国高等学校総合体育大会に、本校剣道部が三年ぶりの出場を果たしました。

県総体ではチーム一丸となって困難を乗り越え一戦一戦を戦い抜き、みんなで掴んだ全国総体への切符でした。出場が決まっただけからは、「全国上位進出」という新たな目標に向けて気持ちを引き締め直しました。そして、それぞれの思いを高めていきながら、全国大会の日まで一生懸命稽古に打ち込みました。

予選リーグ一回戦の相手は福島県代表の安達高校でした。大きな舞台での初戦という事で緊張していましたが、気持ちでは負けないようにチームの心を一つにして挑みました。積極的に攻めましたが、相手も鍛え上げられたチームであり簡単には打た

せてもらえませんでした。二対二の接戦で大將戦となり、私の出番がきました。自分の得意な技を積極的に仕掛けて一本とることができ、三対二で勝利しました。

予選二回戦は広島県代表の広島皆実高校と対戦しました。この試合に勝てば決勝トーナメントへ進出できるところでしたが、受け身になってしまったところを攻め込まれ、五対〇で敗れてしまいました。

結局、予選リーグにおいて一勝一敗で敗退してしまい、悔しい思いで一杯でした。しかし今、振り返ってみると、自分たちの持てる力を存分に発揮し、試合そのものを十分楽しむことができたのではないかと思います。

私の三年間の高校生活は非常に充実していました。素晴らしい先生方にご指導いただき、最高のチームメイトに恵まれ、家族が支えてくれたからこそ、今まで頑張れたのだと身にしみて感じています。これからも感謝の気持ちを忘れることなく、「生涯剣道」の人生を歩んで参ります。そして日々の精進を怠ることなく、今までお世話になっ



た方々への恩返しをしていきたいと思っています。皆様本当にありがとうございます。

# インターハイに出場して

富岡東高校三年 細川 美波



平成二十年八月

二、四日、埼玉県

越谷市総合体育館

で「限界を超え飛

び立つ君よ、永遠

の風になれ」のスローガンのもと、第五十五回全国高等学校総合体育大会剣道競技が行われました。

県総体では、十七連覇することができ、インターハイ予選リーグ突破に向けて、私たちの次なる目標は「四国大会優勝」となりました。四国大会では、苦戦しながらも予選リーグ・準決勝を勝ち進み、決勝戦。チームの調子もどんどん上がっていき、ここまで来たからには絶対優勝するという気持ちで挑んだ結果、六年ぶり十二度目の優勝をすることができました。この結果に自信をもち、またインターハイに向けての課題も見つかり、残りの学校練習もチーム一

丸となり、充実した練習をすることが出来ました。

そして私たち三年生にとっては最後の夏となるインターハイが始まりました。今大会は二年生が中心となったメンバーでした。私は外の三年生の今までの思いも全て出し切り、悔いのない試合をしようという気持ちでした。



予選リーグの相手は大分県代表の大分高校と群馬県代表の健大高崎高校でした。初

戦は大分高校。先鋒は引き分け、次鋒・中堅・副将と勝ち、勝負を決め、まず一勝しました。第二試合目は健大高崎高校。力は似ており、自分たちの持っている力を出せば勝てる相手でした。先鋒・次鋒と負けてしまい〇―二。しかし、中堅・副将と勝ち、試合は二―二と振り出しとなりました。大将戦で惜しくも敗れてしまい、二勝した健大高崎高校が予選リーグ突破を決めました。

私の最後のインターハイは予選リーグ敗退という結果で終わりました。悔いはないという嘘になりますが、一つの目標に向かってみんなが頑張ってきたことは私の大きな財産となりました。

私が富岡東高校に入り、インターハイ・国体などさまざまな経験をすることができたのは、飯田先生をはじめたくさんの方、OB・OGの方々、保護者の方々、いつも温かく見守ってくれた両親のおかげです。また、しんどい練習も一緒に乗り越え

てきた先輩・同級生・後輩に感謝していま  
す。私は大学へ進学しても剣道が続けるつ  
もりなので、剣道ができることに感謝の気  
持ちは忘れず、充実した毎日を送り、自分  
自身がさらに成長できるように頑張りたい  
と思います。



## 第三十八回全国中学校 剣道大会に出場して

那賀川中学校三年

谷 口 奨 真

平成二十年八月二十一日から二十三日の  
三日間、富山県西部体育センターにおいて  
全国中学校剣道大会が開催されました。

那賀川中学校男子剣道部が全国大会に出  
場するのは十七年ぶりのことです。僕達の  
チームのメンバーのほとんどがプレッシャー  
に弱く、試合になると実力が発揮できずそ  
れで何度も辛い経験をしてきました。

しかし、今年は絶対に市総体で負ける訳  
にはいきませんでした。まず僕達の一番の  
目標は県総体に出場することから始まりま  
した。毎日、厳しい練習や遠征を続け、部  
員全員が一丸となって試合に勝つことがで  
きました。

県総体の決勝戦で木頭中学校と戦うこと  
となり、相手チームをよく知っているだけ  
に不安はありましたが、自分達が今までやっ

てきたことを全て出しきろうとメンバー一  
人一人が声をかけ合いました。松葉先生に  
背中を押されたことで気持ちが楽になり、  
観客席からの応援が大きな力となり優勝す  
ることができました。夢であった全国大会  
出場するからには予選リーグ突破を目標に  
練習しました。

そして全国大会、大会一日目は入場行進  
と開会式が行われ、その後、個人戦が行わ  
れました。会場に入った瞬間ピーンと張り  
つめた空気の中、緊張でおしつぶされそう  
になりましたが、嬉しい時も苦しい時も共  
に乗り越えてきた監督の先生方や仲間と行  
進できる喜びで胸が熱くなりました。

大会二日目、いよいよ団体戦。予選リー  
グ一試合目は福島県代表の平第二中学校で  
東北一位の強豪校です。先鋒がまず一本取  
り、次鋒が引き分け、中堅が一本負けし、  
副将の自分で絶対に取ってこなければいけ  
ないという思いが強くなりすぎ一本が決め  
られず引き分け、大将戦になり、一本負け  
で、悔しくも一―二で負けてしまいました。  
二試合目は、群馬県代表の白沢中学校で、

先鋒、中堅が引き分け、次鋒、副将、大将が勝ち、三―〇で勝利しました。納得のいく結果を残すことができませんでした。全国大会に出場し、これから剣道が続けていく上で大変多くのことを学ばせていただきました。そして、この大会に出場できたのも、松葉先生をはじめ、斎先生や出場の心から喜んでくださった少年剣道の山田両先生、二反田先生にご指導いただいたお陰と感謝しています。それから今までずっと僕達を見守り、応援して下さいった保護者の方やOBの方々本当にありがとうございました。

剣道を通して大切な人との出会いがたくさんありました。この大会で学んだことをこれからの剣道に役立て、努力を惜しまず頑張っていきたいです。

K 組	平二中 (福島)	那賀川中 (徳島)	白沢中 (群馬)	得点	勝者数	勝本数	順位
平二中 (福島)		$\frac{2}{2}$	$\frac{8}{4}$	2	6	10	1
那賀川中 (徳島)	$\frac{1}{1}$		$\frac{7}{3}$	1	4	8	2
白沢中 (群馬)	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{0}$		0	1	4	3



## 第三十八回全国中学校 剣道大会に参加して

阿南第一中学校剣道部

監督 福多博史

「ふりそそげ！・きらめく笑顔 北信

越の太空に」のスローガンのもと、第三十八回全国中学校剣道大会が富山県砺波市において盛大に開催されました。中学生剣士にとって最大の舞台であるこの大会に、阿南第一中学校女子剣道部が二年ぶりに参加することができました。今までご指導していただいた先生方。後輩のために時間をたっぷり稽古に来てくれた卒業生。そして、毎日の稽古や県外への遠征にご理解・ご支援をいただいた保護者の方に支えられての出場であったように思います。本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。たくさんのお客様の中、胸をときめかせ入場行進をしたこと。緊張の中、気持ちを奮い立たせ試合に臨んだこと。決勝トーナメントに進出できず、悔し

涙を流したことが。一つ一つのことが彼女たちにとって大きな財産となり、今後の人生への糧となるものと確信しています。そして、全国大会出場を目指し、稽古を積み重ねてきた日々が何よりもかけがえのないものになっていると感じます。

平成十九年四月、前監督の村井先生の後を引き継いで、伝統ある阿南第一中学校剣道部の監督をさせていただきました。不安と期待の中でのスタートでしたが、ひたむきに剣道に取り組む生徒たちを見ながら、私自身、身が引き締まる思いがしました。生徒たちと過ごしたこの二年間は私にとってとても貴重で、充実したものになりました。そして、たくさんさんの経験と感動を味逢わせてもらいました。とても感謝しています。

女子部員は三年生五名、一年生一名という少人数ではありますが、全国大会出場を目標に毎日稽古に取り組みました。なかなか思い通りの結果が出ず、目標を見失いか



たこともあったように思います。しかし、たくさんの方の応援によって最後まであきらめず、気持ちを持続することができました。また、県内の他の中学校との合同稽古

や錬成会、県外のチームとの練習試合など剣道を通して知り合った仲間と切磋琢磨しながら日々成長していくことができました。

全国中学校剣道大会では、感謝の気持ちを忘れず、部員全員が気持ちをひとつにして試合に臨みました。予選リーグにおいて、山梨県代表の甲府西中学校と大阪府代表のPL学園中学校と対戦しました。どのチームも県の代表として実力のあるチームであったように思います。初戦、緊張の中でのスタートとなりましたが、生徒たちは自分たちのペースを崩さずに試合を進め、勝利することができました。予選リーグ最後の試合は同じく一勝しているPL学園中学校との対戦です。近畿大会優勝チームということもあり、地力のあるチームでした。この試合に勝ったチームが決勝トーナメントに出場することができることあって、両チームとも緊迫した雰囲気がありました。試合はどの選手も気迫あふれる攻撃をしかけていくことができました。しかし、相手のペースを崩すことができず、敗れてしまいました。決勝トーナメントでの試合を目標に臨

んだ本大会であったため、今回の結果はとも残念ではありましたが、生徒たちは本当によく頑張ったと思います。

今後は全国大会出場に満足することなく、阿南第一中学校剣道部の発展に努力していきたいと思えます。そして剣道を通して一人一人が人間として大きく成長できるようにがんばっていただければと考えています。これからもご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



## 終わり、そして始まり

— 中学四国総体に優勝して —

那賀川中学校三年

那 佐 萌



「ここで練習をするのも最後だね。」

四国大会へ行く

前日、三年生のみなどとそんな話を

しました。一年生の四月に入学し、新しい環境で何もかも新鮮でした。これから新しい仲間達と頑張っていくのだと思うと楽しみな反面、不安はありました。それから入部して、あっという間に三年生の先輩は引退していきました。二年生の先輩が中心となり自分達をまとめてくれ、私達はただ先輩の後ろをついていくだけでした。だから、先輩と一緒に過ごすことがあたり前になり、先輩がいけないということは考えられませんでした。それから私達は二年生になって、先輩ができました。今までは自分のことで

精一杯でしたが、これからはそういうわけにはいきません。先輩という立場がどんなに難しいか知りました。そして八月、先輩は引退していきました。いざ自分達が中心となり、チームをまとめるようになると今まで先輩たちがやってきたことの大変さが分りました。しかし、大変なことばかりではありませんでした。試合で何度も対戦したチームと親しくなり、人とのつながりが広がりました。また、みんなの気持ちが一つになったときは、言葉では表せないほど嬉しいものでした。こうして振り返ると、みんな楽しんで過ごしたことや辛い稽古と一緒に汗を流したこと、悔しくて一緒に泣いたことなど、今となってはいい思い出です。そんな思い出がいっぱい詰まった道場をもうすぐ離れるのだと思うと、寂しくてもたまりませんでした。

ついに四国大会へ出発する日がきました。二時間で着く短い距離でしたが、もっと短く感じました。その日はホテルの一室にみんなが集まり、わきあいあいと過ごしました。

そして試合当日。それぞれのいろいろな思いを胸に臨んだと思いますが、誰もが最後の大会になるということで、一試合でも多く試合ができるようにしたいと思っていたと思います。体調やメンタル面などで、万全の状態ではない者が多く、リーグ戦の一試合目から厳しい試合が続きました。しかし、気持ちとチームワークで一つ一つ乗り越えていくことができました。そして迎えた決勝。先鋒が二本勝ちをしました。次鋒から大将まで、その一本と一勝の重みをみんなの想いをつなぐことができました。大差ではありませんでしたが、先鋒から大将まで気持ちをつなぎ、一人一人が自分の役割をすることができたから、このような結果につながったと思います。改めて一本をつなぐことがいかに難しく、大切であることを知りました。

しかし、私達だけの力でここまで来たわけではないと思います。いつも熱心に指導してくださった斎先生と松葉先生をはじめとした先生方、どんなときも私達のためにかけで支えてくれていた保護者の方々、頼



りない私達に何も言わず、一生懸命ついてきてくれた後輩達、そして温かく見守り応援してくれていた先輩方、いろいろな人の支えがあったからこそ今の私達がいるのだと思います。また、喜びや悲しみ、楽しいことや辛いことを共に分かち合った仲間、これから先、こんな仲間めぐり合うことがないかもしれません。私にとってかけがえない宝物です。

感謝の気持ちを忘れずに、私達はそれぞれ自分達の道へ進んで行こうと思います。ありがとうございました。

## 第五十回全国教職員

### 剣道大会に参加して

阿南第一中学校

助教諭 小西美穂



平成二十年八月十日(日)、愛媛県武道館において第五十回全国教職員剣道大会は、盛大

に開催されました。私自身、本大会は初出場となります。第五十回という節目の大会に、徳島県代表として出場の機会をいただき、光栄に思っています。ありがとうございました。

会場となった愛媛県武道館は、高校時代から試合や練習試合等を重ねてきた場所でもあり、慣れた環境の中で試合をすることができました。出場者の中には、同年代の顔見知りの選手も多く、声を掛け合いながらリラックスして試合に臨むことができました。全国大会に行くとなつかしい剣友に

会える楽しみがあります。

さて、いよいよ試合。面をつけ立ち上がると、気合いを入れるためにいつものように指、首、背中、腰、足の骨をボキボキと鳴らして、拳で胸を一発ドンッとたたいてコートに入りました。

初戦は栃木県の山田博子選手。間合いを詰めずに打ちを出してしまったり、なかなか技が決まらなかったりと納得のいく試合ができませんでしたが、何とか試合後半に出小手を取り、一本勝ちをすることができました。反省点の多い試合内容だったように思います。次はもっと足を使って、積極的に攻め込んでいこうと気合を入れ直しました。

二回戦目は福岡の橋本佳奈選手。初戦に比べて体も動き、積極的に仕掛けていったと思います。しかし、時間ぎりぎりのところで引き面をとられてしまいました。自分の得意技でもある引き面での敗退は悔しかったです。一瞬の気の緩みを指摘された一本でした。まだまだ力が足りないことを強く実感しました。

最後に、本大会連覇の鹿兒島の下川美佳  
選手の活躍について書きたいと思います。

数々の大きな大会でも上位入賞されている  
選手です。私が大学時代の頃から、鹿屋体  
育大学でコーチをされており、憧れの選手  
でもありました。共通の知人を通じて何度  
かお話をしたこともあります。とてもパ  
ワフルな方でいつも圧倒されます。防具を  
つけるとさらにそのパワフルさは増し、一  
戦一戦気迫あふれる試合運びに思わず見入っ  
てしまいました。

このような先輩、同期の友人たちの活躍  
は大変嬉しいもので、自分自身、いい刺激  
を受けました。自分も頑張らなければ、と  
いう気持ちになりました。私は、精神的に  
も技術的にもまだまだ未熟です。剣道から  
学ぶものは技以外にもたくさんあり、奥の  
深いものです。さらに多くの人と剣を交え、  
稽古を積み精進していきたいと思えますの  
で、今後ともどうぞよろしく願います。

以下、徳島県関係の戦績

●団体戦

一回戦 滋賀 一対一 徳島(本数負)

●個人戦 幼・義務教育の部

一回戦 松本 | ㊦宮井(和歌山)

●個人戦 高・大・教委の部

一回戦 磯部 | ㊧㊨小川(京都)

●個人戦 女子の部

一回戦 小西㊩ | 山田(栃木)

二回戦 小西 | ㊪橋本(福岡)



## 全国高専女子剣道大会

阿南高専剣道部

顧問 湯城 豊勝



全国高専女子剣道大会は、高等専門学校での女子の剣道人口を増やすことを目的に開催

しているためオープン競技となっています。しかも、出場しやすくするために三人制として今年で第七回目になります。

八月下旬、天然クーラーが効きすぎて寒くなった釧路へ行ってきました。本校は昨年三位ということもあり、今年も連続メダルを、さらに鈴鹿のV七阻止を合言葉に試合に臨みました。今年の予選リーグは、日程の関係により、四チームによって一つのリーグ内で二チームと対戦するリングリーグ戦方式でした。とくにこの方式では対戦しないチームの勝ち数や取得本数が不気味となります。いつの試合でも一本にはもの

すごい重みがありますが、とにかく大将の選手には勝敗が決した後の一本の大事さを十分に説明して、ともかく予選リーグの二試合を戦いました。結果としては、いずれの試合も大将戦の時間終了まで試合がもつれました。

初戦の熊本電波高専には中堅の不戦勝ちのラッキーもあり、本数勝ちで辛勝しましたが、次の呉高専には引き分けてしまいました。いずれの選手もどうも動きが悪い、寒さのせいかと思いましたがこれは相手も同じ条件です。そして予選リーグ終了。それまでの他チームの試合展開を思い出しながら、もしかすると対戦しなかった鶴岡高専との代表戦になるかなと思いつち結果を見に行くと、わずか一本差で決勝リーグ進出という際どさでした。先鋒・市瀬、中堅・村田の頑張りはもちろんのこと、大将をつとめた横手と船越がしっかり粘ったことが勝利に大きく貢献しました。

決勝リーグではまず徳山高専と対戦です。先鋒・市瀬が見事なメンの二本勝ち。これが一気に波に乗るかと思ったものの相手も

さすがに強く、中堅・村田が引き分け、大将・久津間は二本負けでチームも引き分けてしまいました。次の鈴鹿戦は三人とも手に汗を握る熱戦となり、一進一退の攻防を繰り返しましたが仲良く引き分けです。この試合では三人とも本当によく攻める試合ができたと思います。大将・久津間も一本取ったかと思わせるメンもありました。そして最後の試合では鈴鹿高専が徳山高専に楽勝、阿南は引き分け二つながら銀メダルに輝きました。

試合が終わっての感想ですが、運の良さを感じた今年の試合でした。合計四試合で一勝三分け、しかもそのうちの二勝は相手のメンバーが足りなかったのです。しかしながら、たとえ引き分けが多くても決して消極的にはならず、積極的に技を出しての結果であるし、優勝チームとも大接戦であったことは賞賛に値すると思います。監督としては、勝たなくとも負けない試合の大事さを勉強させてもらいました。キャプテン佐藤は試合に出なかったものの、普段の練習から本番の試合までずっとチームをうま

第7回 全国高等専門学校女子剣道大会



くまとめ、市瀬・村田・横手・船越・久津間は試合で頑張り、全選手が一丸となってチームの勝利を目指したことは褒めてやりたいです。昨年と今年の大会において、鈴鹿に接戦に持ち込んでいるのは阿南だけでした。来年こそはという気持ちで練習に励み頂点を目指したいです。最後に、本校剣道部コーチの北條憲治先生には厚く御礼申し上げます。

第七回 全国高等専門学校女子剣道大会試合結果

阿南高専 第二位

1. 日時 平成二十年八月二十三日(土)

2. 場所 釧路高専第1体育館

3. 結果

◇予選リーグ Cブロック

阿南 1(4) 1(3) 熊本電波

先 市瀬 メ×メ 高山

中 ○村田 ○○ー

大 横手 メーメメ 畑本○

阿南の本数勝ち

阿南 1(1) 1(1) 呉

先 市瀬 × 串田

中 ○村田 ー 天野

大 船越 ーメ 堀本○

引き分け

1勝1分け

取得本数差で決勝リーグへ

◇決勝リーグ

阿南 1(2) 1(2) 徳山

先 ○市瀬 メメー 瀬田

中 村田 × 福原

大 久津間 ーメメ 寺崎○

引き分け

阿南 0(0) 0(0) 鈴鹿

先 市瀬 × 松岡

中 村田 × 馬場

大 久津間 × 石井

引き分け

鈴鹿 2(3) ー0(0) 徳山

① 鈴鹿 1勝1分け

② 阿南 2分け

③ 徳山 1分け1敗

### 第三回全国都道府県対抗 少年剣道優勝大会に参加して

監督 久保隆司

標記大会が平成二十年九月十四日（日曜）大阪府大阪舞洲アリーナで開催されました。

徳島県剣道連盟少年部で、徳島県下の全道場と全教室に依頼して、各道場教室より二～三人の選出された少年剣士達で、四月より月一回の強化錬成会で基本錬成内容、練習試合内容、参加出席割合等の選考基準で、徳島県代表としてふさわしい選手を選んで選抜チームを組みました。

今回代表選手は、上田真奈さん（鴨島少年剣道教室）・岩木里穂さん（徳島少年剣道教室）・後藤田康君（川島少年剣道教室）・谷本晃佑君（佐古少年剣道教室）・藤坂直道（わかあゆB&G少年剣道教室）で、私が初めて監督として出場しました。小学校チームは強化錬成でも、また各地方大会でも優秀な実績をあげていますので、

大会前日の練習試合でも他府県チームとの対戦も引けを取らない中々の成績で、行動・態度・チームワークもよく、明るい元気な雰囲気でありました。

前夜のミーティングでも明るく、プレッシャーを感じず、伸び伸びと自分を信じて剣道を試合を楽しむ様に選手達に伝えました。

しかしながら、予選リーグの試合組み合わせは、今回一番厳しいゾーンでした。東北の強豪宮城県と優勝候補の大阪Aであり、対戦結果は、徳島県一勝対三勝宮城県、徳島県〇勝対四勝大阪Aで詳細は以下の通りです。

結果的に残念な成績でしたが、全国の強豪・今大会に優勝した大阪Aと対戦でき、私も選手達も今大会出場で大変勉強になり、今後の剣道人生にこの経験を生かして行きたいと思います。

本大会出場にご協力いただいた先生方また保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、今後とも徳島県剣道連盟少年部に對しましても暖かいご指導ご協力を宜しく

お願いいたします。

合掌



## 小学生の部

### [予選リーグ1試合目]

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
徳島	上田	岩木	後藤田	谷本	藤坂	$\frac{1}{1}$
				メメ	—	
宮城	メ	ド	コメ		—	$\frac{4}{3}$
	千田	佐々木	三浦	廣中	小松	

### [予選リーグ2試合目]

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
徳島	上田	岩木	後藤田	谷本	藤坂	$\frac{0}{0}$
				—		
大阪 A	メメ	メド	メド	—	メメ	$\frac{8}{4}$
	福島	山田	野瀬	山下	奥山	

徳島県0勝2敗で予選リーグ敗退



### 第三回全国都道府県対抗 少年剣道優勝大会に参加して

佐古剣道クラブ

谷 本 晃 佑

八月三日、「副将、佐古剣道クラブ 谷本晃佑」と呼ばれた瞬間、「やった!」とその場で叫びたかったほどうれしかったです。昨年から徳島県の強化練習に参加していた僕は、みんなの前で名前を呼ばれたい。呼ばれるように頑張ろうと心がけてきました。だから今年の強化練習は、最初から目標を持って参加してきました。それだけに、すぐうれしかった瞬間でした。

それからは、九月十四日、大阪府の舞洲アリーナで開催される大会に向け、日々体調管理に気をつけたり、ケガをしないように注意して生活しました。また、強化練習で指導していただいた松村先生や久保先生からは、着装はもちろん、堂々とした構えとまっすぐな打ちを常に注意されていたので、勝敗もありますが、徳島県の代表とし

てはずかしくない剣道ができるように、今まで以上に一生懸命練習に励みました。

大会前日に、会場での練習がありました。他県の激しい練習を横目で見ながら、僕たちも練習をしました。不思議なことに、今回一緒に来ているみんなといれば、ぜんぜん負ける気がしないし、それよりもワクワクしてすごく楽しめました。練習以外にも、ホテルなどでは、中学生の先輩方にも優しくしてもらって、すごくリラックスできました。

いよいよ大会当日、予選リーグの相手は、宮城県チームと大阪府Aチームでした。僕たちは、チーム一丸となって精一杯の力を出し切りましたが、決勝トーナメントへ進むことができませんでした。残念な結果となってしまいましたが、全国大会の舞台へ立てたこと、全く違うチームから集まったみんなと仲良くなれたこと、練習時の心構えなど、試合結果以上に得たものが多くありました。

これからまだまだ、強化練習も残っています。その中にはライバルもたくさんいます。

今回得たことをこれからの剣道で発揮し、より一層切磋琢磨していきたいと思います。沢山の先生方や保護者の方に見守られながらここまで来られました。ありがとうございます。これからもご指導よろしくお願ひします。



# 全日本都道府県対抗

## 少年剣道優勝大会

監督 齋 浩 市

平成二十年九月十二日から十四日の日程で第三回の標記大会へ監督として参加いたしました。今回の選手は先鋒「西」次鋒「湯浅」(以上那賀川中) 中堅「岡田」(加茂名中) 副将「久保孝緒」大将「久保公緒」(以上徳島文理中)の各メンバーでした。いずれも今年度の県総体上位入賞者であり、今回も充実した布陣で臨むことができました。

予選の組み合わせは優勝候補の一角と噂されていた大分県および東京都と同一リーグとなり、初戦から厳しい戦いが予想されました。特に第一試合の対戦相手の大分県には昨年度の全国総体で団体三位に入賞した杵築中学校の主将高倉選手を大将に擁し、予選リーグの好カードとして注目も集めました。

試合は予想していたとおり、一本を争う

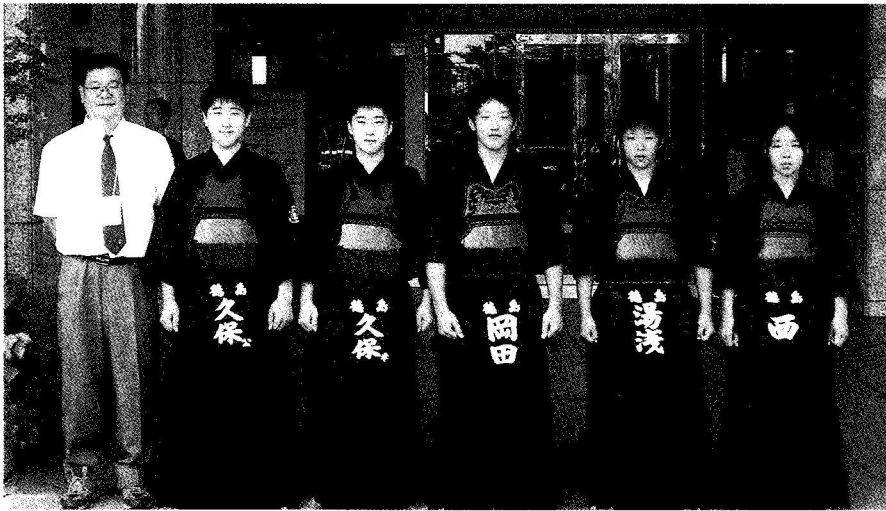
緊迫した展開になりました。先鋒、次鋒は相手も全国総体入賞の実力者でもあり、試合等でも対戦したことがあることから無理に勝負をさせませんでした。こちら側が仕掛け、相手は後の先を狙うといった流れで両方とも引き分けになりました。続く中堅戦。岡田選手は、前日の稽古でも動きがよく、この試合でも期待されましたが、中心を割ったすばらしい面打ちで見事に二本勝ちを収めてくれました。ここで副将の久保孝緒選手は様々なことを考えたと思えます。相手の大将は高倉選手。兄弟でもあります。大将の公緒選手を「少しでも楽にしてあげたい」そういった思いが迸るような積極的な技を勇猛果敢に仕掛けました。結果は不運な一本負けになり、本数一本リードの大将戦になりました。場内の注目を集める中、大将戦が始まりました。

相手の高倉選手は、どうか一本を取るために、下からすくい上げるような斜めの小手や、相手の死角から狙うような引き面などありとあらゆる技を繰り出してきました。お互い激しい攻防の後一本ずつを取り

合い残り約二十秒。引き分けはこちらの本数勝ちになるため捨て身の相手に対して久保選手も落ち着いて試合をコントロールしていました。残りわずかでしゃがみ込むような体勢からの小手に旗が二本挙がりました。後の東京との対戦では危なげなく勝利したことを考えるとまことに惜しい試合となりました。

チームとして行動したのが、合同練習等でのわずかな期間ではありましたが、選手の皆さんはそれぞれ県の代表として全力を尽くしてくれたように思います。特に二試合とも雰囲気には臆することなく豪快な飛び込み面で勝利した岡田選手や相手選手の引き面の癖を読み、的確にその起りを引き技で捉えた久保選手など一人一人の可能性と能力の高さを証明した大会になったように思います。

最後になりましたが、終始全ての面でお世話をいただいた松村先生や久保先生、関係の皆さんに心から感謝を申し上げます。また、正々堂々とした試合をしてくれた選手の皆様、温かい応援をいただいた保護



者の皆さんや小学生の選手の皆さんにもお礼を申し上げます、ご報告に代えさせていただきます。と思います。

## 中学生の部

### [予選リーグ1試合目]

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
徳島	西	湯浅	岡田	久保	久保	$\frac{3}{1}$
	—	—	メメ		メ	
大分	—	—		メ	メコ	$\frac{3}{2}$
	津島	小西	日隅	平川	高倉	

### [予選リーグ2試合目]

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
徳島	西	湯浅	岡田	久保	久保	$\frac{8}{4}$
	メメ		メメ	メコ	メコ	
東京		コ				$\frac{1}{1}$
	安部	小川	山口	長堀	肝付	

徳島県1勝1敗で予選リーグ敗退

## 第四十七回全日本女子

### 剣道選手権大会に出場して

吉岡 穰



全日本選手権は、  
たぐさんの経験と  
刺激を与えてくれ  
る場であった。技  
術、精神面、全て  
において大きくステップアップするきっかけを与えてくれる。

今回は、幸か不幸か、三連覇中の村山千夏選手と戦うことができた。これほどのビッグネームと対戦できることは何よりも幸せなことである。トーナメント表を見た時は発狂したが、このようなことでもない限り剣を交えることは叶わない。

かなりの長身である村山選手は私の目標とする剣士である。面の鋭さ、身長を生かした攻撃に防御。試合を見るだけでも学ぶものはたくさんあるが、対戦することでまた村山選手の素晴らしさ、そして凄みを改

めて感じた。

試合は、延長戦、フェイントを仕掛けたところに面を乗られて一本。未熟さを痛感させられる結果となった。

徳島の代表としてこのような大舞台に立たせて頂いたからには、一つでも上へ勝ち進んでいき、結果を出したい気持ちはある。しかし、これほどまでに相手との勝負を楽しめる大会は他にはない。

村山選手は何度も全国制覇を成し遂げている経験豊富な超一流選手。片や、失うものなどない学連の試合でさえ負けてばかりの新参者。村山選手に今回のしかかったプレッシャーは計り知れないものである。初戦ということもあり、動きも良くなかった。浮き足立った場面も所々見られた。しかし、要所を締める所はさすがに王者といったところであろうか。

技術、経験、全てにおいて劣っている私が勝るもの、それは気持ちしかないと思っただけだ。長いスランプに悩まされていた頃ではあったが、村山選手と試合できることに心躍らせていたこともあっ

てか、前日からの体の動きも悪くはなく、気分も盛り上がっていた。

しかし、ただ「勝ちたい」それだけの気持ちでは埋まらないものを感じた。格の違いを見せつけられた。

今大会、村山選手は四連覇を逃したものの、決勝まで勝ち進んだ。

精神力の弱さが何よりの課題である私は、その精神力の強さに尊敬の念が絶えない。代表としてこのようなチャンスと、貴重な経験を積ませて頂いた恩を、近い将来、結果で返せるよう日々努力したい。



## 全日本東西対抗に出場して

米 倉 滋

第五十四回全国東西対抗剣道大会は、平成二十年九月十四日岡山県体育館（桃太郎アリーナ）で開催されました。

東西対抗戦は、日本を東西に分けて選抜された女子十名、男子七十名の剣士が一对一の個人試合を行い、その総合成績で勝敗を争います。

全日本選手権大会等の優勝大会形式と異なり、京都大会同様の演武会形式を採り、出場選手の修行過程や技術を対戦者と競い、披露するというものです。当然勝敗もその一つの要素でありますが、各選手の気位、剣風、技倆なども総合的に評価される、伝統ある格式高い大会であります。

大会の冒頭、武安義光大会長から「本大会は、剣道の真髄を問い、世に剣道の認識を高めるのが目的です。日頃の修練の成果を十分に発揮し、充実した試合を展開しました。」

女子の部は二対二の大将戦となり、延長の末、東軍の大将古谷選手が小手を決め、東軍が勝利しました。

男子の部は、先鋒戦、次鋒戦とも相手を意識しすぎて捨て切った技が出ず、延長戦となりましたが、三十二将の七段戦から、攻め合いから冴えた打突が随所に発揮され、有効打突が決まることに会場から称賛の拍手が送られました。序盤戦の十四組、先鋒から二十二将までの対戦成果は七勝七敗の五分五分、相譲らない展開となりましたが、続く二十一勝から八将までの十四組は、西軍の十一勝三敗と大きくリードを拡げ、その勢いそのまま逃げ切り西軍が勝利しました。私は西軍の十二将として出場、茨城県の香田郡秀選手と対戦し、幸いにも二本勝をおさめ西軍の勝利に貢献することができました。

このような立派な大会に出場させて頂き大変光栄に感ずると共に、今後益々精進努力を重ね、再び大会の檜舞台に立てるよう練習に励みたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



## 第六十三回

### 国民体育大会に参加して

近藤 亘

「剣は心なり、心正からざれば剣又正しからず。剣を学ばんと欲すれば、まず心を学ぶべし。」島田虎之助生誕の地、大分県において十月四日から六日までの三日間、第六十三回国民体育大会「チャレンジ！おおいと国体」剣道大会が開催されました。本県選手は、三次予選の結果、次の選手に決定しました。

先鋒 山本義征（大阪体育大学）

次鋒 山名信行（県警機動隊）

中堅 福多博史（阿南第一中学校）

副将 福多雅英（城西高校）

大将 西谷肇一（城北高校）

今年のメンバーには、二刀・上段がおり、また、中堅・副将が兄弟で出場と、多彩で実力のある選手が揃いました。

ベストエイト入りを目標に、週二回（水曜・土曜）の連盟稽古会に加え、八月三十

日・三十一日の二日間、東京から範士八段佐藤博信先生をお招きし、強化稽古を実施しました。また、九月六日・七日の二日間、広島県で行われた国体強化合宿（十八県参加）にも参加し、選手強化を行い本番に臨みました。

一回戦は、シードとなっており、二回戦からの出場となります。二回戦の相手は、愛知県と熊本県の勝者であり、どちらが上がってきても強豪チームです。

愛知県と熊本県の試合は、二勝二敗で大將戦にもつれ込む白熱した勝負となり、結果は、愛知県が接戦を制し、本県と対戦することになりました。

徳島県と、愛知県の試合結果は、次のとおりです。

二回戦

徳島県 2-3 愛知県

先鋒 山本 メメーコ 鶴飼

次鋒 山名 ーココ 外山

中堅 福多博 ーメコ 中村

副将 福多雅 コー 東

大将 西谷 メーメメ 祝

先鋒戦は大学生同士の戦いとなりました。山本選手、立ち上がり小手を先取されましたが、動揺した様子もなく終始攻め続け、面二本を奪い逆転勝ち。幸先のいいスタートをきりました。

次鋒・山名選手、相手は愛知県警の外山選手。長身で全日本選手権でも上位に入賞している実力者です。いざ試合が始まると、普段の山名選手の動きではなく、なにか萎縮しているように見えました。相手のペーすで試合が流れ、小手二本を奪われてしまったのです。

山名選手の負けは、チームにとって大きな痛手でした。

中堅・福多（弟）選手、ここで奮起して貰いたいところでしたが、相手の動きが上まわっており、小手と面を連取されました。一気に流れが愛知県に流れると共に、もう後が無くなりました。

副将・福多（兄）選手、相手は全日本東西対抗等で活躍しているファイトマンの東選手（教士八段）。ここで福多選手、持ち前の勝負強さを発揮してくれました。

堂々とした試合振りで、相手に付け入る隙を与えず、延長戦に入りました。開始間もなく、相手が大きく振りかぶって面を打ってこようとしたところの出小手を見事に切って落としました。二勝二敗で大将戦に持ち込みました。

大将・西谷選手の相手は、試合巧者の祝選手（教士八段）。面を先取されましたが、目の覚めるような見事な面を取り返し、対に持ち込むと、試合は西谷選手のペースになってきたと思われました。が、信じられないことが起こりました。相手が打った面、私は「当たっていない!」と思いましたが、審判の旗は、無情にも上がったのです。非常に残念でしたが、仕方ありません。

今年の国体は、破れはしましたが、強豪愛知県を脅かす素晴らしい試合内容でありました。

勝利の女神は地道な努力を重ねている者にいつかは必ず微笑んでくれるものと信じます。

徳島県剣道連盟が「稽古の連盟」として一丸となった時が、素晴らしい結果の出る

時ではないかと思えます。剣道連盟の皆様  
のますますの奮起をご期待申し上げ、ご報告と致します。



## 久しぶりの本大会出場 (国体成年女子)

成年女子監督(強化部長)

平野 誠 司

### 《国体四国ブロック大会(香川県開催)

平成二十年八月十七日》

第一試合 徳島県 三―〇 高知県

第二試合 徳島県 三―〇 愛媛県

第三試合 徳島県 二―一 香川県

(二位 徳島県が本大会出場)

### 《国民体育大会剣道協議(大分県開催)

平成二十年十月四日》

第一試合 徳島県 〇―三 三重県

平成十四年の高知国体に出場して以来、六年ぶりに四国ブロック大会を勝ち上がり本大会出場となりました。それも、全勝優勝しての突破であり、本大会での活躍に大きな期待が出来るメンバーでした。

そのメンバーは、先鋒に大阪体育大学一

年生の平野千尋、中堅に会社員(ルキーナうだつ)の猪尾満紀、大将に鳴門市第一中学校教諭の竹内佳代子という布陣です。

しかも、先鋒の平野選手は学生で大阪在住、中堅の猪尾選手は協町にある介護施設で泊まり勤務もあり、大将の竹内選手は鳴門で中学校の先生と、それぞれ住んでいるところから勤務体系や生活リズムまで、一緒に集まって強化するには非常に苦勞するメンバーでありました。

そんな中で、七月二十五日〜二十六日には岐阜県で行われた国体強化合宿に強行参加し、他の十四県のチームと試合稽古を繰り返し行いました。結果は、やる試合やる試合、負けるわ負けるわ、最低最悪の出来であり、みんなで意気消沈して帰ってきたものです。しかしながら、この見事なまでの負けっぷりに三人は開き直りとも言えるべきやる気、モードとなり今まで以上に稽古をやり出したのです。お盆も返上して県警の暑中稽古に参加し、暑行の中で心身の調整を見事にやってのけたのでした。

四国ブロック大会は、八月十七日に香川

県にて開催されました。前日の調整稽古も当日のアップも三人には何の気負いもなく、ただ淡々と集中力をポンプアップしているようでした。今思えば、やり切ったという澄んだ気とも言うべき心境でしょうか。静かに燃えていたように見えました。

結果は、ほとんどパーフェクトに近い勝利で優勝です。何とも言えない感動ともいえる内容でした。

しかしながら、この三人に突然の悪夢が襲いかかります。国体二週間前の九月十五日、稽古中に中堅・猪尾選手のアキレス腱が完全断裂をしてしまいました。

選手にとって怪我をすることはよくあります。まして猪尾選手はこれまで膝の半月板を痛めており、この怪我とはうまく付き合いながら稽古をしていました。しかし、今度ばかりはタイミングといい、ダメージの大きさといい、これほどの怪我はない……痛い。

中堅・猪尾選手は出場を断念し、予選二番手であった協町中学校教員の上久人未選手と交代することになりました。

新メンバーでの大分国体の本大会。会場は豊後大野市。めざすは初戦突破のベスト八であります。対戦相手は三重県。岡田範士を中心に非常に鍛えられた女性剣士の層の厚い県であります。

先鋒・平野選手は前半から惜しい技を繰り出しますが決定力不足、有効打突とはなりません。延長に入り、相手の引き技に追いついて放った小手、ここに更に引き面を合わされ決められてしまいます。

中堅・上久選手は果敢に先をかけますが、相手は一枚上手でした。間合いでうまく捌かれてしまいます。技と技の合間に面を二本連取されます。万事休す。

大将・竹内選手だけでもと思いきや、強豪井上選手に惜敗。三対〇。

成年女子では久々の本大会出場でしたが、勝負の厳しさを痛感させられる大会となりました。まだまだ上位進出には力不足。そして、運がなかった。でもベスト十六。やればできるという自信と、これから何をしたいのか、しなければならぬのか。単に稽古して、単に試合に行つて

というだけではいけません。愛好する仲間を増やし、女子剣道を盛り上げていくところから始めなければ、新しい戦力は備わってこないでしょう。新しい仲間の存在はすばらしい力となります。

「一人では何もできない。

一人が創めなければ何もできない。」

(石田くにお)

女性の一人一人が剣道を思いやってこそ、また頑張つてこそ、それがまた少年剣道へ輪が広がり、老若男女、三世代制等、現代における剣道のあり方を示す方向性が見えてくるように思います。

剣道は決して勝った負けただけじゃない。

打った打たれただけでもない。

日常の営みから非日常の世界へ。

剣道で対峙する空間と時間に

爽快感を創造するもの。

その爽快感が充実感となり

生活に应用することで人生が豊かになる。

気持ちのいい汗を流してください。

きっとその後には清らかな風を感じられるでしょう。

いっどこから吹くかもしれない。

その風を受けるためには

帆を上げることが必要です。

心地よい清風を体全体で

味わってください。

その純粋な感動を思い出してください。

来年度から都道府県対抗優勝大会と家庭婦人大会がリニューアルして、高校生・大学生を入れた男女別々の大会となります。県の名誉をかけた総力戦の様相がはっきりと見えてきます。

「来たれ、女性剣士」「頑張れ、若手剣士」です。

# 全日本居合道大会に

## 参加して

監督 吉岡修一

平成二十年十月二十三日(日)宮城県仙台市体育館において第四十三回全日本居合道大会が開催されました。十七年ぶりの二回目の宮城県での大会です。大会会場となりました宮城県仙台市は独眼流の異名を馳せて豪勇知将振りを発揮し、六十二万石を領有した仙台藩主伊達政宗公の城下町であり、文武を誇る歴史があります。また、宮城県が生んだ偉大な武術家であります居合道藩士九段(故)檀崎質郎友彰先生は、夢想神伝流第十八代宗家であります。また檀崎先生は五〇〇年の歴史を持つ夢想神伝流第十六代宗家・中山博道先生から道統の全てを伝授され、これを継承されると共に多くの門人の育成に心血を注ぎ、斯道発展に尽くされた偉大な武術家であります。今大会に本県より私が監督、七段の部に岸田光博選手、六段の部に高野康寛選手、五段の部に

四宮博選手がそれぞれ選ばれ出場しました。今回、監督はじめ各段選手四名が徳島県徹心道場(道場長・居合道範士八段平尾勝美先生)より選ばれたことは初めてでないかと思われまます。

戦績は以下の通りです。七段の部・岸田光博選手は一回戦で岡山県の山洪数則選手と対戦し、三対〇で敗れました。相手の山洪選手は前回の岡山大会での優勝選手でありました。

六段の部・高野康寛選手は一回戦で熊本県の住吉秀生選手と対戦、二対一で勝ち、二回戦で新潟県の駒形健一選手と対戦し、三対〇で敗れました。

五段の部・四宮博選手は一回戦はシードで、二回戦で島根県の山本京子選手と対戦して、三対〇で敗れました。

都道府県別得点で優勝は地元宮城県、二位は千葉県、三位は静岡県でした。各段優勝者は七段の部では地元宮城県の佐々木幹彦選手、六段の部は静岡県の山崎卓司選手、五段の部は長崎県の廣瀬正祐選手でありました。本県の順位は、出場四十六都道府県

中四十位でした。

なお、個人演武に出場されたのは本大会で審判をされました居合道範士八段原田勝先生と居合道範士八段平尾勝美先生でありました。試合の勝負は紙一重気迫のこもった実に見ごたえのある試合が多く見られました。今大会に際しまして、徳島県剣道連盟会長遠藤一美先生はじめ役員の先生方にはご指導ご鞭撻賜りましたことをこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

また、大会前には居合道範士八段平尾勝美先生、居合道範士八段原田勝先生、居合道部長高橋憲司先生から強化練習会等におきましてご指導賜りましたことかさねて厚くお礼申し上げます。

諸先生方にご指導ご鞭撻を賜わりながら、戦績が不振でありましたことは、監督として責任を痛感いたしております。

大会終了後いつも感じることは勝負は紙一重であり、いかに稽古量を多くして理合にかなった練習するかにかかっていると思われます。以前にも書かせてもらいましたが、居合道歌に「居合道とは己が心に克つ

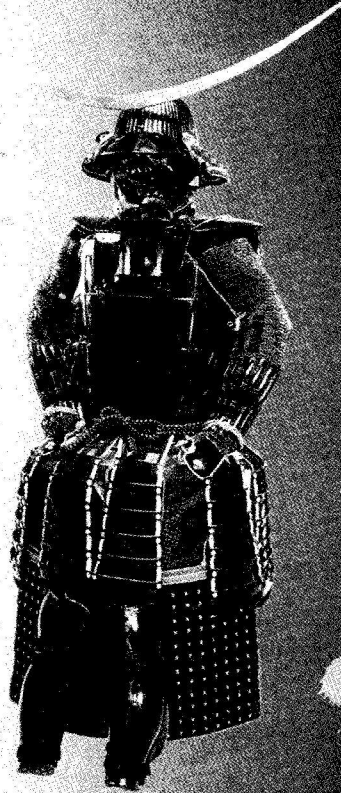
ばかり人の非を見て人にさからうな」と歌  
われています。

次回大会は長崎県で開催されます「己に  
克つ」ことにより、稽古をつみ、居合道部  
員の技量向上をはかり、上位に入れますよ  
うより努力いたしますので今後  
とも宜しくお願い致します。

第四十三回

# 全日本居合道大会

都道府県対抗優勝試合



**日時** 平成二十年十月二十五日(土)

午前九時開会

**会場** 仙台市体育館

主催／(財)全日本剣道連盟

主管／宮城県剣道連盟

後援／文部科学省

宮城県・宮城県教育委員会・仙台市

河北新報社・東北放送

## 第43回全日本居合道大会都道府県別得点表

番号	都道府県	五段の部			六段の部			七段の部			合計	順位	団体戦
		選手名	得点	順位	選手名	得点	順位	選手名	得点	順位			
1	北海道	古野 耕一	2.07	9	村木 廣志	0.00	39	松橋 貞雄	2.06	9	4.13	15	
2	青森	角田 正美	1.04	17	若松 通	0.00	39	小池 明	0.00	37	1.04	43	
3	秋田	佐藤 良広	1.03	22	内田 幹夫	2.06	11	石田 純士	0.00	37	3.09	23	
4	山形	矢口 良治	1.03	22	中川 佳洋	0.01	33	鈴木 清和	2.06	9	3.10	19	
5	岩手	岡田 泰章	0.00	39	小野 順	2.07	9	三浦 由紀夫	0.00	37	2.07	31	
6	宮城	佐藤 将傑	4.12	3	赤塔 徹	5.14	2	佐々木 幹彦	6.18	1	15.44	1	優勝
7	福島	五十嵐 敦子	0.00	39	井上 貴宏	2.06	12	渡川 譲	0.01	33	2.07	31	
8	茨城	齋藤 健一	2.06	12	関 展秀	3.10	5	島村 信之	1.04	17	6.20	11	
9	栃木	大島 武	0.00	39	福田 和雄	2.05	13	永井 壽雄	1.04	17	3.09	23	
10	群馬	古澤 泰弘	0.01	33	植田 陽一郎	0.00	39	小堀 康之	3.08	6	3.09	23	
11	埼玉	原口 展昭	1.03	22	柳川 淳	4.12	3	小宮山 克巳	3.08	7	8.23	5	
12	東京	古本 庸介	3.09	5	及川 秀司	2.04	16	市川 学	3.10	5	8.23	5	
13	千葉	氏平 憲正	5.15	2	川瀬 毅	1.04	17	秋葉 広行	5.14	2	11.33	2	2位
14	神奈川	原田 渡	2.07	9	折原 靖幸	1.03	22	森島 一機	4.13	3	7.23	8	
15	山梨	早川 憲一	1.04	17	萩原 康	3.08	8	相川 宗敬	2.06	9	6.18	12	
16	新潟	川口 聡	0.01	33	駒形 健一	2.07	9	品田 賢一郎	0.00	37	2.08	29	
17	石川	山口 春夫	1.04	17	作田 剛也	1.03	22	河西 洋治	1.03	22	3.10	19	
18	富山	浅岡 恵美	1.04	17	三羽 康秀	0.00	39	室谷 智明	1.03	22	2.07	31	
19	福井	酒田 雅人	0.00	39	西出 和男	0.00	39	玉村 伸治	1.03	22	1.03	44	
20	長野	篠田 知也	1.03	22	山田 昇	0.00	39	藤森 秀茂	0.00	37	1.03	44	
21	静岡	松下 武人	4.11	4	山崎 卓司	6.16	1	勝瀬 文孝	1.04	17	11.31	3	3位
22	愛知	石田 耕一	2.07	9	三宅 紀芳	3.08	6	木ノ本みゆき	0.01	33	5.16	13	
23	岐阜	伊藤 彰	1.02	32	八ツ崎 光昭	1.03	22	岡田 廣志	0.00	37	2.05	40	
24	三重	服部 浩也	1.03	22	早川 雅章	1.03	22	森田 栄津	0.00	37	2.06	37	
25	滋賀	藤原 優一	0.00	39	尾前 二男	1.03	22	門前 正二	1.03	22	2.06	37	
26	京都	鎌山 龍弘	0.01	33	村川 正俊	1.03	22	谷 光二	1.02	32	2.06	37	
27	大阪	黒木 教夫	0.00	39	川下 康明	1.04	17	伏見 仁史	1.03	22	2.07	31	
28	奈良	清水 洋	1.03	22	森川 進	1.03	22	松向寺小夜子	1.03	22	3.09	23	
29	和歌山	池田 祐人	1.04	17	磯崎 誠治	1.03	22	熊本 博	0.00	37	2.07	31	
30	兵庫	益子原 稔博	0.01	33	澤井 駒三	1.04	17	尼崎 厚	1.04	17	2.09	28	
31	岡山	岡安 誠	2.06	14	直原 徳賢	1.04	17	山洪 数則	4.10	4	7.20	9	
32	広島	柴原 富雄	0.00	39	宮脇 誠吾	0.01	33	大垣 俊三	0.01	33	0.02	46	
33	山口	國本 哲也	3.07	6	山中 一馬	0.00	39	阿部 美言	0.00	37	3.07	27	
34	鳥取	福永 正博	1.03	22	森本 進一	1.03	22	山根 武	1.04	17	3.10	19	
35	島根	山本 京子	2.06	12	岡田 一男	1.03	22	宮本 照孝	1.03	22	4.12	16	
36	香川	六車 和頼	0.01	33	齊藤 宏晶	1.04	17	柳瀬 正清	1.03	22	2.08	29	
37	愛媛	伊藤 恵文	0.01	33	宇都宮 聡	0.01	33	菊池 達也	1.03	22	1.05	42	
38	高知	小松 修夫	0.00	39	亀井 洋祐	4.10	4	森本 恒世	1.03	22	5.13	14	
39	徳島	四宮 博	1.03	22	高野 康寛	1.02	32	岸田 光博	0.00	37	2.05	40	
40	福岡	松嶋 幸一	2.04	16	世利 慎吾	0.01	33	國方 孝之	2.05	15	4.10	17	
41	佐賀	川上 みどり	0.00	39	柿原 重則	0.00	39	小柳 節男	0.00	37	0.00	47	
42	長崎	廣瀬 正祐	6.15	1	高木 志伸	2.05	13	宮崎 友彦	2.06	9	10.26	4	
43	大分	大石 俊介	3.07	8	西野 孝	2.05	15	小坂 隆一郎	2.06	9	7.18	10	
44	熊本	塚本 眞一	2.05	15	住吉 秀生	0.01	33	林田 三也	0.01	33	2.07	31	
45	宮崎	三宅 喬	1.03	22	中村 高達	0.01	33	片貝 知明	2.06	9	3.10	19	
46	鹿児島	西田 忠正	3.07	6	中村 一夫	3.08	6	林 悟	2.04	16	8.19	7	
47	沖縄	譜久原 朝彰	1.03	22	町田 宗光	0.00	39	仲井間 憲亮	3.07	8	4.10	17	

### 大会結果(上位入賞者)

団体の部
個人の部

	五段の部	六段の部	七段の部
優勝	宮城県 廣瀬 正祐	山崎 卓司	佐々木 幹彦
二位	千葉県 氏平 憲正	赤塔 徹	秋葉 広行
三位	静岡県		

# 全日本剣道選手権大会へ

## 出場して

警察支部 近藤正章



二年前、初めて手にした全日本選手権大会への切符。何とか一回戦は突破したものの、二回戦で自分の苦手とする上段対策ができておらず、結果的にも内容的にも悔いを残した大会となった。

私はこの時の悔しさを忘れまいと心に誓い、毎日の稽古に取り組んできた。今回の出場は私にとって二年前とは違った意味を持つっており、前回ののように悔いの残らない大会にしたかった。

大会の約一ヶ月前、届いたメールの内容にて、対戦相手が神奈川県代表の正代選手であることを知る。彼は上段の剣士である。次こそは取り組んできた課題の一つである上段とどう向き合えるか、苦手意識は残る

ものの、この一回戦を突破しないことには次に進めない。もう一度気を引き締め直し、徹底的に上段対策に取り組むことにした。

ここからは自分との戦いである。苦手意識の克服、上段への攻め、技、自分の課題を明確にし、稽古に臨むよう心掛けた。多くの先生方が応援して下さい、気持ちを奮い立たせてくれた。中には上段に構えて稽古をつけて下さる先生、特別に時間をさいて下さる先生等、普段では教わる事のできないような貴重な時間を下さった事に感謝の気持ちで一杯になる毎日だった。

晴れやかな気持ちで迎えた試合当日、相手が誰であれそんな事は関係ない。やるべき事はやった、あとは自分をどれだけ信じられるか、自分という人間を全てさらけ出し「さあ、試合だ。」

試合開始、早い仕掛けで間合いを詰めてくる相手に対し、私の中の苦手意識は完全に無くなっていた。遠い間合いから打ち込まれる小手、面、全てが見えていた。互いに手の内を探り合い延長戦へ突入。そして徐々に私のペースとなり最大のチャンスが

訪れた。私は一瞬早く攻め入り、片手で防御した相手の左小手を打ち込んだが旗は上がらない。その後同じ攻めを突破口にと、懐に入り、今度は決死の諸手突きを放つも、相手に面を合わされ、これが一本となり私の負けが確定した。試合はその後、正代選手が決勝戦まで勝ち進み、遂には優勝を成し遂げた。

今大会を通じて、最大の反省点は、数少ないチャンスを一本に出来なかった事である。今後は、新たなこの課題を克服できるよう稽古に励み、次こそは私を支えて下さった多くの方々の期待に応えられるよう剣の修行に精進していきたい。



## 第五十一回全日本実業団

### 剣道大会に出場して

日亜化学工業 木 里 健 一

平成二十年九月十五日、第五十一回全日本実業団大会が日本武道館で開催されました。この大会は全国の実業団約三百が集まる実業団の大会の中で一番大きな大会です。

私たち日亜化学工業剣道部は、この大会でベスト八進出を活動目標に掲げて毎週木曜日午後七時から阿南市の大潟武道館で稽古を積んでいます。

三交代勤務を行っている部員もいて、稽古に部員全員が揃うことはほとんどありませんが、各部員が毎年個人目標を掲げて活動し、レベルアップに取り組んでいます。かって、第四十七回大会ではベスト十六の実績を残しています。

今大会、一回戦が第一試合でした。武道館内全十六コートの先鋒が揃って一斉に試合が開始され、今までに無い緊張感につつまれました。

初戦の相手は豊田自動織機。先鋒は初戦が第一試合の緊張感からかいつもの調子が発揮できず、開始早々に引き面を先取されてしまいました。その後、冷静さを取り戻せずに容易に面に行ったところに出小手を連取されて二本負け。

流れが相手チームの方に傾きかけたところで、次鋒の私にまわってきました。私はこの大会は過去四回、次鋒・中堅・大将を務めて出場していますが、一度も勝利出来た事はありません。毎回、チームに又迷惑を掛けてしまったという悔いばかりでした。勝負の掛かったところで負けてしまい、あまりの悔しさに涙した大会もありました。

今回は絶対に悔いが残らない試合をして帰る!!という気持ちで試合前から攻めると決めていました。試合が始まり、積極的に攻めていきました。相手と打ち合いの中で間合いが少し離れた瞬間がありました。少し遠い間合いでしたが、思いっ切り面に飛び込みました。相手は遠い間合いだった為、少し前に詰めるところで、面が当たり先取

することが出来ました。一本目を先取出来た後も攻めて行く気持ちに変化はありませんでした。その後も攻め続けて面を連取出来ました。

先鋒が二本負けして流れが相手に傾きかけた時に、流れを引き戻す事が出来、又大会で初勝利を掴むことが出来ました。思い切った技を出せた事、一本目を取った後も消極的にならず最後まで積極的に攻められたことが私の初勝利に繋がったと思います。

その後の試合展開ですが、中堅も鮮やかに面・小手を連取し二本勝ち。メンバー誰もが勝利は目前だと思っていました。副将戦では六年ぶりにこの大会に出場したためか少々緊張気味の立ち上がりでしたが、流れがこちらにあったこともあり積極的に技を出していきました。惜しい打突も何度かありました。面に飛び込んだ際に抜き胴を取られてしまいました。焦ったところに小手を連取され、二本負け。これで二(四)一(二(四))になり、勝負は大將戦にもつれ込みました。大將戦、流れは完全に相手ペー。一本目不本意な面を取られてしまう。

果敢に技を出し続けたが、足が止まったところを小手を取られ、試合終了。

最終的に一回戦敗退という不本意な成績で大会を終えることとなりました。

敗戦後に感じたことは、試合の流れというのは非常に重要で、メンバー全員が流れを読み、どういった勝負が必要なのか冷静に考えなければならぬということです。

大会に参加していつも思うことは、上位チームとの間にはそれほど大きな実力差があるとは思いません。ただ、上位に上がるチームは勝つことへのこだわり、気持ちを切らない試合運びが出来ていると感じます。去年から主将に任命され、指揮を取っていますが、今後は稽古メニューを考え、実践し意識できる稽古メニューを考え、実践していきたいと思います。

最後になりましたが、今大会に出場するに際してご支援ご鞭撻いただきました皆様方にお礼を申し上げますと共に今後より一層の指導御鞭撻の程宜しくお願い致します。

## 全国警察剣道大会

警備部機動隊 山名 信行

平成二十年十月十六日日本武道館で全国警察剣道大会が行われました。

この大会は三部制で行われます。

一部は十二チーム（七人戦）、二部と三部は各一八チーム（二部は六人戦・三部は五人戦）で編成され、各部とも三チームによるトーナメントリーグ戦が行われ最初のリーグ戦の結果によって昇格・降格の入れ替えが行われる非常にシビアな大会です。

我々徳島県警は昨年三部から昇格し、今年度は二部で戦いました。

最初の一次リーグは、共に一部常連の佐賀県警と北海道警という強豪県です。

第一戦 佐賀県警戦

先鋒 六條洋選手。先手先手を取り、得意の引き面と飛び込み面で二本勝ち。

次鋒 六條勝選手。初めての全国大会のため動きが堅く、後手に回り面に乗

られ、一本負け。

四将 敦賀選手。相手は全剣連強化指定

選手でもある笹川選手。試合前半に思い切った面的一本を先取するも二本取り返される。

三将 佐藤選手。惜しい技が幾度とあったが決定打が無く、引き分け。

副将 川添選手。お互い積極的に技を出すも引き分け。

大将 山名。ここで引き分けならチームは負け。一本勝ち以上で勝ちという場面勝負にでも時間終盤、出ばなの小手を奪われ、一本負け。

結果佐賀県警に対し一対三で敗れました。

第二戦 北海道警戦。

先鋒 六條勝選手。先鋒戦らしく激しい技の応酬。時間内に勝負はつかず延長戦へ。延長に入って間もなく小手に飛び込み据えたかに見えたが、相手が同時にすり上げた面が決まり、一本負け。

次鋒 六條洋選手。相手は身長一九〇センチメートルを超える長身の選手。

臆することなく攻め込み相手の居着

きを捉え、面に乗ったかに見えたが、旗があがらず、先鋒戦に続き延長戦へ。勝負は延長戦中盤互いに面に飛び込み判定は相手側に。先鋒戦に続き、一本負け。

四将 横手選手。全国大会初出場にもかかわらず、思いきった技で勝負に出る。しかし出ばなの面を乗られ、一本を先取されてしまう。このまま終わってしまうかと思われたがすぐさま面に戻り返し勝負に持ち込むも、小手を奪われ、四将戦を落とす。

三将 佐藤選手。前衛を三つ落とし後がない。佐藤選手、果敢に攻め込む。

試合時間は五分。五分間相手に息つく間を与えないほど攻め込むも相手も引き分ければ勝負が決まるためなかなか捉えることが出来ない。時間内に勝負はつかず、三分間の延長戦へ。延長戦に入って佐藤選手の勢いは止まらない。息も絶え絶え、足もつれながらも攻め込む。しかし、時間が押し迫ります。もう駄目かと

思われた時間終了直前、執念で飛び込んだ面が相手の居着きを捉え、面をもぎ取る。執念の一本勝ち。

副将 川添選手。佐藤選手の執念でもぎ取った一本で一気に流れをこちらに引き寄せたいところ、しかし相手は佐賀の笹川選手と同じく全剣連強化指定選手の若生選手。川添選手も一本をもぎ取ろうと攻め立てるが中々自分のペースに持ち込むことが出来ない。そして試合は延長戦へ。相手を引き出して胴に変化しようとしたところへ先に面に乗られ一本負け。この時点で勝負が決してしまう。

大将 山名。勝負は決まってしまうが、来年に向けこのままで終わるわけにはいかないという意地で試合に臨み、面を二本連取しました。

結果として、北海道警にも二対四で敗れ、チームは二敗し、来年度は三部降格となっていました。

非常に残念な結果となっていました。が、この敗戦をばねに来年度は三部で上位

に進出し、一年で二部に返り咲き、一部の舞台で戦えるようこれからもチーム一丸となって精進していきたいと思えます。



# 夢の舞台に立って

## — 全日本官公庁剣道大会 —

麻植支部 日和田 慈海



平成二十年十一月一日(土)東京武道館にて全日本官公庁剣道連盟創立四十周年記念・第四

十回全日本官公庁剣道大会が開催されました。

この大会は、全国の官公庁（政府機関・地方自治・公社・公団・事業団）に勤務する職員を対象とし、団体戦と個人戦（男女）の種目により行われます。

私は、中井幹晴前吉野川市助役（現防衛省）よりこの官公庁大会を紹介していただき、四年前より吉野川市役所職員として出場しています。

徳島県・吉野川市PRの機会をいただくと同時に、自分の剣道が全国の舞台でどこまで通用するのか、私にとっての新しい

挑戦が始まりました。

しかし、全国大会ともなればそうあまいものではありませんでした。はじめて出場した時は、二回戦で敗退。次は三回戦で敗退という結果。全国の壁の厚さを痛感しつつも、いつかは頂点に近づきたいという夢を持ち続け、稽古に取り組んできました。

そして昨年の大会、やっとベスト8で敢闘賞をいただけました。うれしさの反面、正直いって自分にはここまですが精一杯かなという思いにも駆られていました。

そんな気持ちをもう一度奮い立たせてくれたのは、やはり家族の支えでした。大会に向けて稽古に打ち込むためには、毎日のトレーニング、また出稽古などと家庭にかける負担も大きいものになります。しかし、その負担に何も言わず妻は私を支えてくれました。そんな妻、そして子供のためにもここであきらめるわけにはい

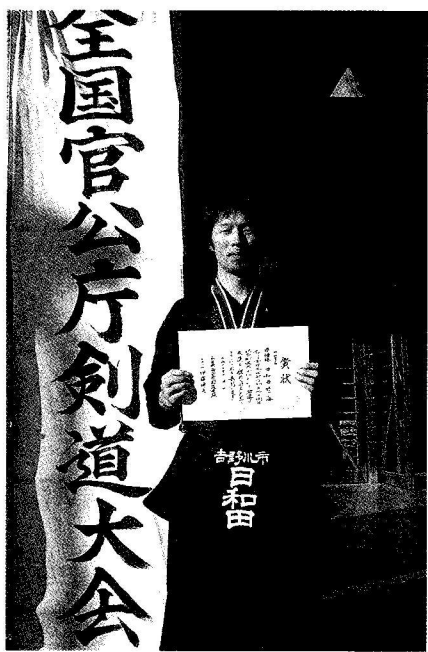
かない。それにこれ以上負担もかけられないという思いから今回の記念大会に賭け、背水の陣で稽古

に励みました。

大会当日、なぜか今までにない緊張感に襲われましたが、「やれるだけのことはやってきたから後は自分を信じて出し切るう」と気持ちを切り替え試合に臨みました。

序盤戦から厳しい試合になることは予想していませんでした。その予想通りの展開となり、一回戦は辛うじて判定勝ち。二回戦のみ二本勝ちできたものの、後の試合はすべて延長戦での決着となりました。私にとっては、昨年のベスト8を超えたことだけでも十分すぎる結果でした。

迎えた決勝戦。「赤・吉野川市役所 日和田選手、白・警視庁剣道クラブ 濱崎選



手」アナウンスが流れると同時に湧き上がる歓声とどよめき(?) 私は夢であった全国大会決勝戦という最高の舞台に初めて立つことができました。

相手は警視庁の若手現役選手。ここまできたら胸を借りるつもりで、勝敗に拘ることなく自分の剣道を取りきるだけです。結果は、惜しくも引き胴を取られて敗れましたが、思っていた以上にいい勝負ができて、満足のいく内容だったと思います。

試合終了後、家で待っている妻に準優勝の報告をしたところ、「やるやん!」と喜んでくれ、まだまだ私の挑戦は続いていくな……(汗)ということを感じました。

私は、日頃より「いい剣道」を目指して稽古に取り組んでいます。なかなか結果が出ず、自分の進むべき剣道の道に疑問を感じたり、夢をあきらめかけたこともありましたが、今回の大会で自分の進むべき剣道の道、そして先生方からご指導頂いた剣の教えは決して間違いではなかったことを確信できました。

そして、これからも剣道の「勝ち」では

なく「価値」を大切にし、普及と発展に少しでも貢献できるように、また徳島県を全国にPRしていけるよう尽力していきたいと思えます。

○個人戦(男子)

日和田慈海(吉野川市役所) 戦績

・一回戦

日和田慈海 判定

遠藤 瑞士(茨木・勝浦市役所)

・二回戦

日和田慈海 ココ

鈴木 康人(埼玉・川口市役所)

・三回戦

日和田慈海 コ

天内 達哉(神奈川・横浜刑務所)

・四回戦

日和田慈海 メ

田中 陽一(千葉・いすみ市役所)

・準々決勝

日和田慈海 コ

五十嵐将之(神奈川・横須賀刑務支所)

・準決勝

日和田慈海 コ

社頭 佑(京都・京都刑務所)

・決勝

日和田慈海

濱崎 勇輔(東京・警視庁剣道クラブ)

○第四十回全日本官公庁剣道大会結果

団体戦

優勝 陸上自衛隊別府(大分)

二位 府中刑務所(東京)

三位 名古屋拘留所(愛知)

三位 第五○普通科連隊(香川)

個人戦(男子)

優勝 濱崎 勇輔(東京・警視庁剣道クラブ)

ラブ)

二位 日和田慈海(徳島・吉野川市役所)

三位 関内 弘樹(宮城・宮城刑務所)

三位 社頭 祐(京都・京都刑務所)

個人戦(女子)

優勝 山下久美子(東京・警視庁剣道クラブ)

ラブ)

二位 今村 友美(東京・警視庁剣道クラブ)

ラブ)

三位 山北 麻未(愛知・笠松刑務所)

三位 中津留知世美(大阪・大阪拘留所)

# 平成二十年度

## 徳島県高齢剣友会活動状況

事務局長 笠井 勝



徳島県高齢剣友会は、遠藤一美会長のもと、八十九名の会員（平成二十年四月末現在）

で活動を進めてきた。

平成二十年度は、主な行事として次の活動を実施した。

- ・第十四回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（二〇〇八とくしまねりんピック）開催
- ・第二十一回全国健康福祉祭鹿児島大会（ねりんピック鹿児島二〇〇八剣道交流大会）参加
- ・南部地区稽古会開催（阿南市）

### 〈十二月〉

- ・原則として、第二・第四土曜日の午後二時から、松茂町第二体育館他で、定例の稽古会を開催

### 〈毎月〉

- ・以上の行事の内「第二十一回全国健康福祉祭鹿児島大会（ねりんピック鹿児島二〇〇八剣道交流大会）」については、直接関係する会員の先生からご報告いただくことにして、その他の活動について事務局の方から報告することとした。

### ◎第二十三回徳島県高齢者剣道交流大会

平成二十年四月二十日（日）午前九時から県立中央武道館で実施

開会式の後、日本剣道形が、打太刀・錬十六段滝本博文先生、仕太刀・錬士六段丸

岡偉人先生により行われ、その後、会員選手二十四名による交流試合が団体戦・個人戦の順に展開された。

団体戦は、八チームによりトーナメント戦が行われた。

○優勝：徳島B（美馬勝行、中村稔裕、西岡金若）

○二位：麻植（日野利之、出葉成一、三木毅）

○三位：徳島A（忠津和憲、高島稔之、勝沼信彦）

○三位：板野（久次米繁興、笠井勝、高田豊）

個人戦は、二十三名の選手が年齢別の四グループに分かれて、トーナメント戦を行った。

「特組」優勝（遠藤一美）、二位（糸田川美千男）、三位（勝沼信彦、高田豊）

「A組」優勝（滝本博文）、二位（西岡金若）、三位（有賀秀敏、東内勉）

「B組」優勝（中尾正輝）、二位（三木毅）、三位（高島稔之、中村稔裕）

- 〈四月〉
- ・第二十三回徳島県高齢者剣道交流大会開催

### 〈五月〉

- ・第二十回土佐生涯剣友会交流大会参加

### 〈六月〉

- ・第三十回全日本高齢者武道大会参加

### 〈七月〉

- ・西部地区稽古会開催（美馬市）

### 〈十月〉

「C組」優勝（美馬勝行）、二位（忠津和

憲）、三位（丸岡偉人、日野利之）

団体戦・個人戦の大会が終了した後、徳島県高齡剣友会総会が開催され、平成二十年度の行事予定、予算案等が審議され了承された。

午後からは、全日本高齡剣友会（高崎慶男、橋本保治、支倉真人）及び、愛媛県高齡剣友会（三好耕二、藤田守也、川村博昭、向井健司、織田端）の合同チームと、土佐生涯剣友会（横山大道、篠崎俊雄、友永隆雄、戸田七夫、吉本貢、岡本守雄、栗尾博義、中野金夫、山本進、川沢洋佑）との親善交流試合を実施した。

土佐生涯剣友会 対 徳島県高齡剣友会

2勝（3本） 1勝（1本）

土佐生涯剣友会 対 全日本・愛媛合同

3勝（7本） 2勝（4本）

全日本・愛媛合同 対 徳島県高齡剣友会

4勝（6本） 2勝（4本）

親善試合後、全参加者による合同稽古を行った。

本県会員による試合だけでなく、全日本、

愛媛、土佐の各選手との親善交流試合・合同稽古も行うことができ、大変実りの多い一日となった。

午後六時から第二道場であるホテルグランドパレス徳島において懇親会が開催され、全日本、愛媛、土佐、徳島の高齡剣士三十八名が杯を片手に剣道談議に花を咲かせた。

### ◎第二十回記念土佐生涯剣友会交流大会

平成二十年五月十日(日)午前九時から高知県立武道館において、土佐生涯剣友会の第二十回記念大会が開催され、午後に行われた土佐生涯剣友会、愛媛県剣連、徳島県高齡剣友会の交流大会に、徳島県からは八十年代の遠藤一美先生、高田豊先生、糸谷文雄先生の他、西岡金若先生、有賀秀敏先生、福井軍二先生、泊利治先生、日野利之先生及び小生の十名が参加し熱戦を繰り広げた。

交流試合後、合同の稽古会があり、旧知の剣友が技を競い合った。

夜の第二道場は、高知共済会館において、三県の剣友が美酒の杯を交わしながら、剣道談議に花が咲いた。

交流試合結果

愛媛剣連 対 徳島県高齡剣友会

2勝（2本） 2勝（2本）

土佐生涯剣友会 対 徳島県高齡剣友会

4勝（7本） 0勝（0本）

### ◎第三十回全日本高齡者武道大会

平成二十年六月二日(日)午前九時から日本武道館において、剣道、銃剣道、なぎなたの三武道大会が開催された。

徳島県からは、剣道の部に徳島県高齡剣友会会長遠藤一美先生が寿B組（八十歳から八十四歳）、中山啓男先生、西岡金若先生が特組（七十五歳から七十九歳）、東内勉先生、有賀秀敏先生がA組（七十歳から七十四歳）、高島稔之先生、泊利治先生、三木毅先生がB組（六十五歳から六十九歳）、三木弘子先生と小生はC組（五十五歳から六十四歳）の個人戦にそれぞれ出場した。

個人戦は、四名一組のリーグ戦で二試合行い、成績の良い選手が決勝トーナメントに進出して、決勝を争うという方式である。

前年からは、団体戦も実施されるようになり、全国から十六チームが出場した。

団体戦は、大将八十歳以上、副将七十歳以上、中堅七十歳以上、次鋒六十五歳以上、先鋒五十五歳以上という年齢制限が付いている。

本県は、大将遠藤先生、副将西岡先生、中堅有賀先生、次鋒高島先生、先鋒三木先生のメンバーで出場した。

トーナメント第一回戦は、千葉県チームと対戦し、二勝一敗で勝利した。第二回戦は、東京都チームと対戦し、0勝3敗で敗退した。ちなみに、東京都チームは本大会で優勝した。

この大会で圧巻だったのは、三木弘子先生の活躍であった。個人戦予選リーグ戦で、福島県の男性剣士をメンとドウで下し、大阪の女性剣士をメンとドウで勝利して、リーグ一位の成績で決勝トーナメントに進出した。そこで、東京の男性剣士と対戦し、互角の試合運びの中、メンを頂いて一本負けとなった。

更に、三木先生は、昼食時間帯に実施された剣道女性総合トーナメント戦に出場され、一回戦東京の剣士をメン、コテで破り、

二回戦東京の剣士をコテで一本勝ちした。三回戦も東京の剣士との対戦となり、接戦の末、メン一本で惜敗した。なお、この対戦剣士は優勝を果たした。

◎西部地区稽古会

平成二十年七月十二日(土)午後二時から美馬市穴吹スポーツセンターにおいて、剣道連盟美馬支部長大川功先生のお世話で実施した。

稽古会には、高齢剣友会員の他、地元美馬支部会員の先生方、地域の小中高校生剣士が集い、広い会場内を一杯に使って、地よい汗を流した。

稽古会の後、有志の先生方は、第二道場である保養センター美馬温泉において、剣道談議に花を咲かせた。

◎第十四回徳島県健康福祉祭剣道交流大会  
(二〇〇八とくしまねりんピック)

平成二十年十月五日(土)午前九時から松茂町第二体育館において実施した。

開会式の後、日本剣道形が、打太刀・教十七段美馬勝行先生、仕太刀・教士七段端村武先生により行われた。

準備運動の後、会員選手二十五名による交流試合が、団体戦・個人戦の順に展開された。

団体戦は、十チームによりトーナメント戦が行われた。

・優勝：徳島B(中村稔裕、沢井勝之、端村武)

・二位：徳島A(美馬勝行、高島稔之、西岡金若)

・三位：阿南A(北條憲治、遠藤一美)

・三位：麻植(日野利之、出葉成一、三木毅)

個人戦は、二十五名の選手が年齢別の四グループに別れてトーナメント戦を行った。

〔特組〕優勝(遠藤一美)、二位(糸谷文雄)、三位(西岡金若)

〔A組〕優勝(張西政晴)、二位(有賀秀敏)、三位(西岡侃)

〔B組〕優勝(高島稔之)、二位(久次米繁興)、三位(中村稔裕、笠井勝)

〔C組〕優勝(美馬勝行)、二位(北條憲治)、三位(佐野博志、平

（正明）

### ◎南部地区稽古会

平成二十年十二月十三日(土)午後二時から阿南スポーツ総合センターサブアリーナにおいて実施した。

参加者は、高齢剣友会会員並びに阿南支部会員及び、少年、少女剣士の合計五十七名であり、熱気溢れる稽古会となった。

なお、午後六時からの第二道場は、ロイヤルガーデンホテルにおいて、有志二十四名参加の懇親会が行われ、年間の反省、更には次年に向けての希望などの剣道談議が盛会裏に行われた。

### ◎定例の稽古会

定例の稽古会は、従来毎月第二土曜日の午後二時から県立中央武道館で行われていたのが、会員内からの要望により、月二回の稽古会を実施することになり、道場も新施設で駐車場の広い松茂町第二体育館とした。

毎回の稽古会には、十五名から二十名前後の会員が参集し、熱心に心技体の向上を目指して努力している。





南部地区稽古会



西部地区稽古会



第三十回全日本高齢者  
武道大会出場者

# 第二十一回

## 全国健康福祉祭かごしま大会

### ねんりんピック鹿児島

#### 二〇〇八報告

西岡金若



みだしの大会が平成二十年十月十五日から二十一日までの間開かれ私達五名(別記)

の選手一同は、「かごしまで元氣・ふれ合い・夢噴火」の大会テーマのもとチームワーク良く夢と希望に胸ふくらませ鹿児島西北端の歴史的出緒のある出水市総合体育館での剣道大会に臨みました。結果は次のとおりです。

ご覧のとおりで各選手は持味を出して健闘しましたが、僅少差で決勝トーナメント戦進出はできませんでした。しかし、個々の試合は高段の相手に一歩もひけをとらず堂々と対し、内容のあるもので今後研鑽努

力せば将来大いに期待できると確信した次第です。

以下参考までに感想の一端を記述します。(敬称略)

まず初戦相手は川崎市ベテラン七段佐藤、当方先鋒松浦、高段者に対し臆せず、持ち前の張りのある発声、気合よく打こんでいく堂々たる内容でしばし互角の攻防はお見事でした。

次鋒日野もよく頑張った、第二戦では京都府右上段の上脇田に降りおろす機会を与えず先々と攻めたて引き分けは立派。地元の上段使いの某と日頃練習していてよかったとは本人の弁。

中堅谷は六段今野を相手に彼独得の積極的な攻撃で④③二本勝ち。わがチーム唯一の勝者となるとともに京都府戦でも引き分け、負けなしの活躍は天晴れ、敬服のほかなし。

副将福井、大将西岡ともに持味を出して攻防の限りをつくも決め得ず、快心とはいかなかった。私の場合、西部地区での練習試合後、細川先生にお伺いした折、「今一

### 鹿児島ねんりんピック剣道試合結果

チーム名	先	次	中	副	大	点
川崎市	佐藤 七段64才	舟橋 五段65才	今野 六段65才	白井 七段66才	富田 七段75才	2
	ココ	メ				3
徳島県			コメ			2
	松浦 四段60才	日野 五段61才	谷 五段61才	福井 七段69才	西岡 七段78才	1

チーム名	先	次	中	副	大	点
京都府	田村 七段61才	上脇田 六段62才	長尾 六段65才	山口 七段70才	羽場 七段80才	1
				メメ		2
徳島県						0
	松浦 四段60才	日野 五段61才	谷 五段61才	福井 七段69才	西岡 七段78才	0

H20. 10. 26 開催場所 鹿児島県出水市 総合体育館

歩踏みこんで打てば必ず相手にとどく」と教えられたが、まだ身についていなかったのです。高額の旅費を授業料として得た数々の教訓、反省を貴重なカテとして、今後ますます精進をと思う気持は選手皆同じです。それはともかく、このたびは本当に苦勞様でした。また、不出来な監督で至らぬことも多々あったと思いますが、皆さんに助けられてなんとか無事終ることが出来ました。

また、本大会出場に際し、稽古その他お世話になった剣友会事務局ほか剣友の皆様誌上あつくお礼を申しあげます。

有難うございました。

### 《選手の手》

**日野利之、松浦武信** 私たちを鹿児島県民あげて歓迎していただいたこと、特に出水市の皆さん、出水商業高校剣道部の皆さん、プラカード先導して入場して下さった女子部の皆さん、有難うございました。高段の先生方と剣交知愛、試合ができたことはとてもありがたかった。

**谷博** 県民の皆さん、剣道会場の地元出

水市民の関係者の温かいもてなしに頭の下がる思いです。剣道部男女の皆さん、本当にありがとう。感謝の気持はいつまでも忘れません。

**福井軍二** 個室で宿泊させてもらえてよかったです。二十五日早朝、ロイヤルホテルからの桜島の眺めは素晴らしく今も臉に焼きついている。剣道は何と言っても守りを良くする、すなわち「構え」が大切、今回もそのことを強く感じた。出発から帰着まで選手のチームワークがとても良かった。鹿児島県の皆様に感謝します。

### 鹿児島今昔

鹿児島と言えば薩摩、この「さつま」という国の語感には古い者には何とも神秘的で無気味な感じをあたえつづけてきた様に思う。かつてさつま飛脚は帰りのないメイドと同じでありました。

しかし、今日ではまったく一新し、ねんりんピック主催県として全県あげ、その成功に力を注いでいる姿は私たち目にしたすべての事に満ちあふれていました。大会ブ

ロによれば、本上の最南端、薩摩、大隅二つの半島と多くの離島からなる南北六百キロメートル、温暖で広い県土に屋久島、桜島、緑豊かな森林、温泉など豊かな自然と個性ある歴史文化をもっています。

それらのなかで市の中心部に位置する公園内に鴨池陸上競技場があり、そこで総合開会式が行なわれました。

十月二十五日、皇族ご臨席のもと十二時三十分開式、各旗入場、選手団入場、各都道府県代表の紹介（アピール）が行なわれなんとこの大役が回り合せて今年には剣道に当りました。ちなみに、旗手は弓道で監督大将の桑島孝郎氏（元電々公社後輩）が務めました。

徳島県は山口県に続き、五十一番で私はメインスタンドに立ち旗手を先頭に近づいてくる選手団に小旗を振りながら迎えることにしました。

アナウンサーの紹介に次いで私はマイクの前に進み「情熱と感動と癒しの甲徳島、鳴門の渦潮や阿波踊りの如くここ鹿児島で旋風をまき起します。」生涯に記念すべき

天与のチャンスを剣道精神ここにありとばかり気力充実させてのアピールを行ないました。

ついにやった、やり遂げることができた、なんともいえない達成感、満足感にひたりました。有難いことでした。



なお、この入場行進にはほほ美ましい小学生一〇名も応援として参加してくれました。それは県北山間部の児童数一〇名の江南小学校と喜界島の湾小学（児童数二百余）の子供たちです。そして両校から沢山な応援メッセージが届けられました。



# 随想

## 剣及び鐔の変化と

### 戦術の関連

県剣道連盟副会長

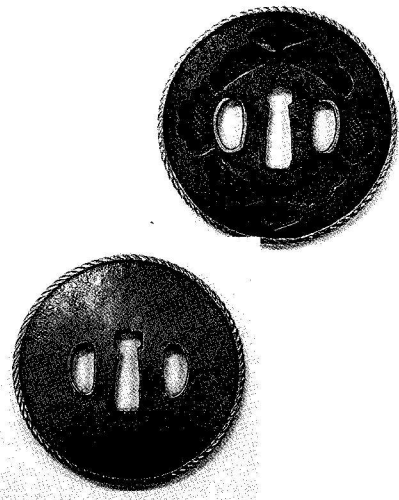
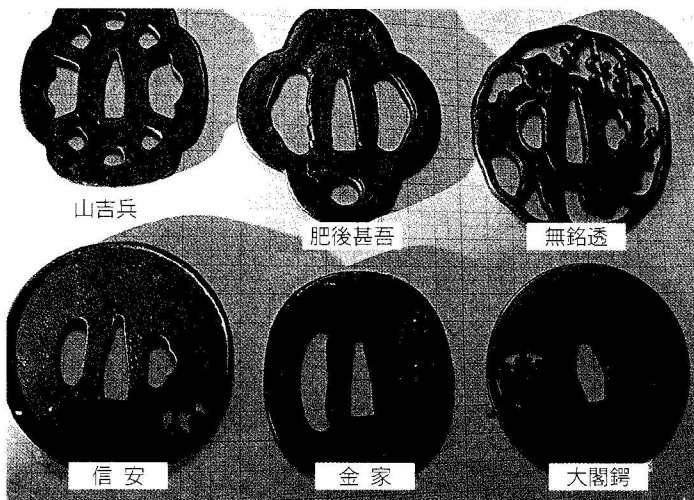
勝 沼 信 彦



剣の形状及びそれにともなう刀装は、その時代の戦闘法、社会形態により大きな変化を

してきた。私の父は、数十本の刀を持ち、数百枚の鐔を持っており、日本でも数知れた収集家でありました。私はそれを受け継いだわけですが、若い頃、多くを「飲み金」に売ってしまいました。今に至っては、おしかなかったと思うものもあります。さて、父から聞いたことを思い出し、鐔の変化は大変面白いと思いますので、紹介いたします。先ず、奈良時代は、韓国と同様、直刀で

ありました。その代表は、山吉兵、金山等の鐔の形が示しています。やがて、源平時代に近づくとも馬上戦が主になり、鐔はあまり重くなく、比較的薄手で、特徴的なものは、「腕抜」穴が右下にあり、手から離れないようにしました。これは、右手首に、「紐」で止める為であります。左手は、馬の「手綱」を持っている為です。この時代には、あまり頑丈な鐔はありません。しかも刀は、馬の走力を利用して引斬る効果を狙って「反り」の深い長刀が多くなりました。備前長船の古刀がその代表です。鐔も軽くて強いもの、尾張の透かし鐔等が代表です。室町時代になると、長刀が多くなり、鐔も大きく厚いものが多くなりました。色々の胴太抜刀がその代表です。戦国時代によると、鉄砲の発達と集団戦の為、打刀は比較的短くなり、反りは浅くなりました。鐔もそれに合った小さく、しっかりしたものに変化し、三河鐔の信安や金家を代表とするものになりました。江戸時代になると、武士の象徴としての飾りとしての意味が多くなり、平和が続い



た為に、芸術品・美術品としての鍔が尊重されるようになり、埋忠や安親・本阿弥等のものが多く出来ました。一方では、江戸時代は剣術流派が多く出来て、流派ごとに好みが出来たようですし、徒歩での平地・家内での斬り合いが多くなりました。居合いを使う人は、「透かし鍔」を愛用したようです。空気抵抗が少なく、剣先にスピードがかかる為です。「突技」の有効性から刀は、「反り」が浅くなりました。幕末には、幕府がフランス式軍装を取り入れて、馬上でのサーベルのような軍装にしたので、鍔は極端に小さいものにした「突兵装」と言われるものも出現しました。

特に、最後に味のある鍔の一例を紹介いたします。私は、古い剣客の本で、鍔の表が「金張り」で鏡以上に光る鍔を使い、一瞬相手の目を太陽反射で眩ませて斬るという刀法を読んだことがあります。父から譲られた中に、表が金張りで、鏡以上に強く光る鍔を持っています。面白いことです。

## 国の武道振興の流れについて

徳島県教育委員会体育健康課

石井 博



「都市化、少子化の進展や経済的な豊かさの実現など社会が成熟化する中で、家庭や地域の教育力の問題や、個人が明確な目的意識を持ったたり、何かに意欲的に取り組んだりすることが以前よりも難しくなりつつあることが指摘されるようになってきている。こうした状況の中で、近年、教育をめぐって、子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、問題行動など多くの面で課題が指摘されている。」

これから述べる内容も含めて、いささか引用が多くなるが、武道振興に関連する国の考えや取組の一端を紹介させていただくことで、剣道振興に関連する現状を、一人でも多くの方々を知っていただきたい。

国の教育の方向を決める時に、大きな影響力を持つものとして中央教育審議会がある。この審議会は、文部科学大臣の諮問に依じて、教育の振興等の重要事項を調査審議し、文部科学大臣等に教育に関する意見を述べるもので、これまでの経緯からして、多くの場合、この審議会の内容が、ほぼ十年に一度、改定される学校現場の教育内容を示す学習指導要領の方向付けをしてきた。

平成二十年一月十七日に示された中央教育審議会答申の中で、「武道については、その学習を通じて我が国固有の伝統と文化に、より一層ふれることができるよう指導の在り方を改善する。」とあり、これを受けて文部科学省では、平成二十四年度からスタートする新学習指導要領で「武道」を中学校一・二年生に必修化することとなった。

また、前述の教育振興計画では、「我が国固有の伝統的な文化である武道の振興を支援する。」「中学校保健体育の武道必修化に伴う施設整備や教員研修を支援する。」とあり、国を挙げて武道の振興に努めていく流れとなった。

平成二十四年度からの武道完全実施に向けて、国の方では、緊急的な条件整備が必要と考え、指導者対応・施設対応・用具対応の三本柱の重点項目を決め、平成二十一年度の予算案として、それぞれに計画を挙げている。一〇〇年に一度と言われている今日の厳しい財政状況の中で、なかなか当初に想定していたような十分な条件整備は困難との見通しではあるが、上記の三本柱は、武道の振興にとって欠かすことのできない内容なので、何とか、平成二十四年度の完全実施までに、国・県・市町村や武道関係団体が連携をとり、共に知恵を絞りながら対応していくことが肝要であると考え

る。  
文部科学省の編集した今回の新学習指導要領解説の剣道領域の中では、「相手を尊

重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること」とあり、その意味として、武道は、相手と直接的に攻防するという特徴があるので、相手を尊重し合うための独自の作法、所作を守ることに取り組みようとしていることを示している。そのため、自分で自分を律する克己の心を表すものとして礼儀を守るという考え方があることを理解し、取り組めるようにする。なお、伝統的な行動の仕方の指導については、単に形の指導に終わるのではなく、相手を尊重する気持ちを

込めて行うことが大切であることに留意する。」とある。

上記のように、剣道界にとっては、大いなる追い風が吹いている。少子化等による剣道人口の減少や経済状況の悪化からくる社会不安などのさまざま課題を克服しながら、今この時、武道振興の流れに乗って、徳島県内各地で剣道振興に積極的に取り組んでいくべき絶好のチャンスが訪れた。



# 子象物語 夢を託して

理事長 三木 毅



「子象物語」と題したが、世間にはあまり知られていない事柄で私が出会った堀江住職の謙虚で誠実な情熱を体感した物語である。

昨年六月二十五日の徳島新聞朝刊。一頭  
の象の写真が目飛び込んできた。「ラン  
ガがマリーか」と直感したとたん、その左  
横のタイトルが「人気ゾウ『ランガ』死  
ぬ」であった。私は「なんで!! どうして!!  
なんちゅうこっちゃ!!」と一瞬胸に強いド  
キット感を覚えた。

なぜなら、私は徳島動物園に子象のラン  
ガとマリーの二頭をスリランカ国から譲っ  
ていただくお膳立てをした一人である。動  
物園に象がいることは子供達にこのうえな  
い大きな贈り物になる。そして、将来二頭

の象から赤ちゃんが生まれることを大きな  
夢としてこれまで強い強い関心をもってラ  
ンガとマリーの成長を見守っていたからで  
ある。

そもそも、徳島動物園には「花子」とい  
う象が三十二年間、子供達の人気をよんで  
いたのであるが、平成四年六月に老衰死し  
てしまったのである。象舎には象をかたどっ  
た滑り台が置かれ子供達の気晴らしになっ  
ていた。スリランカから象が贈られる話は、  
三木俊治市長時代の平成四年十一月に徳島  
市がスリランカ国に対して中古の消防車と  
救急車を寄贈した際である。スリランカに  
は多数の象が街中を闊歩しているほどの象  
の国と言われ、三木市長が「花子という象  
が老衰死し、動物園に象がいけない。」こと  
を話題にしたことから始まるのである。領  
事が象の寄贈を快諾したと判断した徳島市  
はスリランカから象の寄贈が実現しそうな  
ことを公表したのである。

そんな矢先、私にとんでもない話が持ち  
上がってきたのである。それは平成六年春  
先のことである。牟岐警察署に赴任間もな

い頃に牟岐町所在の正観寺「堀江明徳住職」  
との出会いがあり、不思議にも意気投合の  
間柄となったのである。とある日、堀江住  
職が私に対して「三木さん、象いりません  
か。」というのである。私は木彫りの象の  
ことと思ひ「木彫りの象はかなり大きいの  
をもっていきますのでいりません。」とお断  
りをしたところ、住職は「いやいや、生き  
た子象ですよ。」というのである。私は瞬  
時に、象にまたがっている姿を想像して冗  
談たっぷり「退職後に実家のある吉野川  
の堤防で象乗りできますなあ。」と返した  
ものの住職曰く「実はスリランカから子象  
一頭を私の寺に贈呈する。」という話があ  
り、どうしたものかと答えが出ないとい  
うことから、意気投合中の私に象をもらって  
欲しいというのである。

私は、こんどこそ真顔で「いりません。」  
と返事をしたとたん、堀江住職は「それな  
ら腹が決まりました。象の寄贈は断ります。」  
というのである。そこでまでよ、こんなよ  
い話を投げるにはおしいと思ひ、考えを巡  
らしたところ、象は動物園でいるのが当た



情で小躍りの気分で即刻、小池市長に電話をいれることができたのである。その後、幾多の経緯を経て、平成八年五月一日にランガとマリイが徳島動物園に到着したのである。

私と堀江住職が象寄贈に取り組み始めて約二年を経過したことになる。五月十六日贈呈式前夜祭がクレメントホテルであり、翌十七日に動物園で贈呈式が挙行された。スリランカ外務大臣以下十二名のスリランカ当局者や徳島市長はじめ関係者が集ったこれらの式典に当然堀江住職と私は招待され、大喜びの心境で出席したのである。堀江住職との会話では、長かった交渉話や二人の出会いがなければ象の贈呈は実現できなかったなど有頂天な話ばかりであった。そして互いに年をとった頃、象の赤ちゃんが生まれることであろうから共に象を見に行こうという夢一杯の話を語ったものであった。

——が、残念にもランガが突然死したことで一瞬にして夢がすっ飛んでしまった平成二十年六月であった。

紙面の都合を考え、子象に対する夢物語の経緯を表面的に述べてみたが、堀江住職が精力的に取り組んだ水面下の話は幾多の苦勞があったのである。それは私が一部始終知っていることからこそ堀江住職が寡黙でいられるのである。人との出会いはいくらもあるが、堀江住職はとてつもない大きなスケールの人物で、特にスリランカ国においては親子二代に亘って非常に感謝される業績がある。例えば、大規模な紅茶園を造成して贈与したり、幼児教育のために幼稚園を建設して贈与したなど人知れずの大きな活動が続けてきたのである。このため大統領や首相、国会議員にも接することができる大きな人物なのである。

こうした幾多の業績や経験は万人が持ち合わせないその人の財産として身についたものなのである。堀江住職は自分が判断し結論として口にしたことに対して誠実に取り組み、成就させることができるのである。それは真の価値を生み出し、人との絆を強固なものとし、しかも生涯続く大事なものとなるのである。そのように考えれば、私



が堀江住職と出会えたことは、人としてのお人柄ご人徳、そして力量を知ることとなり、自然と敬意を表すばかりなのである。そして、それは大きな宝物を得たことになり、この上ない感謝の気持ちが充満することとなったのである。

ワシントン条約があり、種の保存・保護に指定されている象は国を越えて一頭を動かすことは不可能である。今後、マリーのお相手をどう探すかである。国内でのお相手探しは実現の可能性がないではない。関係者の強い熱望が成就できることを切に願ひ、赤ちゃん誕生の暁には堀江住職と子象を見に行くことに夢を託したいものである。



## 相撲道に観る

事務局長 藤 本 雅 史

年齢を重ねてくると、月日の経つのが早く感じるのでしょうか。

丑年の新賀を迎え、剣道連盟の新年互礼会、新年稽古会が始まったと思いきや、「徳島の剣道」の発刊の時期が巡ってきた。昨年末、広報部長の木原先生から戦々恐々の原稿依頼分が届いてから、二年越しに頭を悩ましていました。丁度、新年が明け、相撲界では初場所が行われていたので、感じたままを書いてみたいと思います。

今場所は話題の横綱「朝青龍」関が進退をかけた場所であり、マスコミでも大きく取り挙げられ、テレビのニュースでもその日の結果が報道されていた。館内でも満員御礼が続くなど大いに盛り上がっていた。今日は負けるか、この相手には歩が悪いぞ、と思ひながら観戦しているうちに段々と調子を上げて、結果は一四勝一敗で見事優勝、完全復活を遂げました。ここ一番の集中力

は流石でした。

反面、三ヶ月間も休場した力士に刃が立たず、易々と優勝を許した他の力士の不甲斐なさにも落胆しました。毎日、どんな稽古を積んできたのだろう。観戦していると、気合いが入りすぎ、上体が突っ込みすぎる力士、手だけで相撲を取り、下半身、足が動かない力士、それに引き替え、腰から下が安定してすり足で土俵まで押し出す圧力、自分の得意の型になる先手の立ち合い、慌てず機を観て一気の攻め等々、実力の差をまざまざと見せつけられました。

これは、剣道にも通じることで、気が走り過ぎ懸々になる、打気が強く手だけで上体が突っ込む、足捌きが悪く姿勢が崩れる、観すぎて待ちになり先手を許す等々、現在の私の不甲斐ない剣道と一緒にあることに気づきました。「云うはやすし、行うは難し」で、他人様の批判はできても、実行は難しいの実感です。

そして、見事に優勝を果たした横綱ですが、喜怒哀楽の激しさ故、土俵上でガッツポーズ見せたり、また勝負の着いた後のダ

メ押しや、土俵下で相手をにらみ続けるなどの態度が品位に欠けると、早くも批判の声が上がっています。

徳島新聞には「やんちゃさと負けん気の強さ、他の力士を呑み込むかのようにして朝青龍がよみがえった。しかし、横綱審議委員会からはガッツポーズで喜びを表現したことで問題視する意見も出た。武蔵川理事長が注意する意向を示し、海老沢委員長は礼に始まり、礼に終わるのが相撲、理事長が直接注意するのは重いものがある。」と。

毎日新聞には「騒ぎに対しモンゴルへ帰国前に朝青龍と報告、謝罪に来るべきだ」と高砂親方の態度を非難。師匠が『私から



厳しく注意しました。』など何らかの態度を示すのが筋。指導者として恥ずかしい。と厳しい言葉を連ねた。」とある。

相撲界のトップ武蔵川理事長は、朝青龍だけでなく、指導者としての師匠まで批判をしています。

ガッツポーズと云えば、思い出するのが柔道です。時代は少し古くなりますが、東京オリンピックで、オランダのヘーシング選手が無差別級で日本の神永選手を「けさ固め」で破り、外国人として初めて優勝をした時の出来事です。優勝を決めた瞬間、コーチ、仲間が歓喜して試合場へ駆け上がってくるのを制止、静かに乱れた柔道着を正して、試合相手に対し礼を尽くすことに務めました。そして、「相手と正々堂々と一所懸命勝負をして立派な試合ができました。自分一人では立派な試合はできない、だから負けた相手の前で自分だけ喜ぶのは失礼です。」とコメントしています。

ところが現在の柔道界はどうでしょう。勝った瞬間、跳びはね、走り回り、何度もガッツポーズをしています。柔道本来の姿

は、投げた瞬間、押さえ込みに入り、息を止めてしまおうのではなかったでしょうか。勝負に走り、競技本意になってしまった感じがなりません。そして、優勝後のインタビューではVサイン、応援席に向かってガッツポーズをしている選手が多々見受けられます。

剣道の全日本選手権で優勝した選手が、ここにこしてVサイン、応援席に向かってガッツポーズをして喜びを爆発させている姿を想像できるでしょうか。幸いにもこれまでの優勝選手は、礼儀正しく、優勝に満足せず、未だ道半ば今後の精進を誓い、謙虚にインタビューに答えている姿を観て、すがすがしい爽快感を覚え、心から拍手と祝福を送っています。

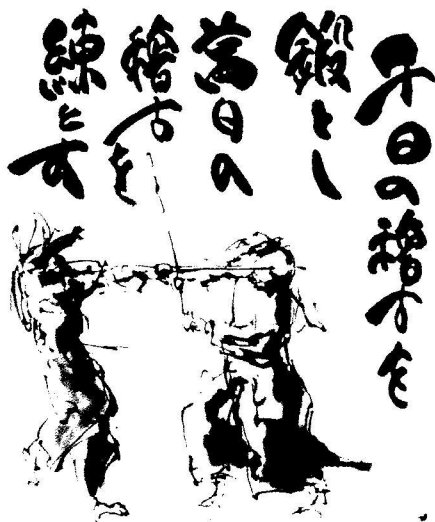
同じ日本の伝統文化である剣の道を歩む者として、相撲道、柔道の悪癖を他山の石とし、武道本来の道を全うしたいものである。

今回横綱としての品位が問われたが、礼儀正しい力士は大勢いる。土俵下の控え席に入場する際、審判の親方の前を通る時に

手刀を切って会釈をする力士、もっと丁寧な力士は一旦立ち止まって、きちっと頭を下げている。また勝負に負けただけで、相手ときちっと正対をして礼を尽くしている力士、等々見習うべき点が多々ある。品位とか品格とは一朝一夕には身に付くものではなく、毎日の心掛けにより自然に備わって来るものだと思う。

持田盛二先生の「剣道と気品」の中には、気品は正しい心、澄んだ気から自然に発する、えもいわれぬ気高さである。心が端正でなければ、気品は生まれない。形が端正でなければ気品は沿わない。いたずらに勝負に拘泥するとき、品が悪くなる。私心、邪念にとらわれて、稽古に無理がある中は、気品が添わない。形の方面より言うなれば、稽古着や道具の付け方が正しくなければ、品は添わない。姿勢の悪いものや動作の粗野なものも品を傷付ける。一本の稽古も卑しくもせず、ただ真剣、ただ一心、その心掛けがあったら、求めずして上達し、求めずして気品ある稽古となること請け合いです。——と書かれています。

頭为天辺から足の先まで細心の気配り、準備をして、お相手をして下さる目の前の剣士に誠心誠意、真剣に稽古をお願いする、終われば感謝の気持ちをお忘れず、礼を尽くす。そんな稽古を積み重ねていくことが剣の理法を全うしつつ、人間形成の道に繋がっていくものと確信します。少子化が叫ばれています、勝負、競技に拘泥することなく、ほんまもん、本物の良き伝統文化である剣道を伝承していきたいものである。



# 家紋

徳島県高齢剣友会

南 充 美



教職を退いて、

これからは剣道も  
県内の同じ方々と  
稽古と試合をして  
終わるのではと思っ

ていた私でしたが、先輩の先生が県外へ出る道を開いて下さいました。

その一つは全日本高齢者武道大会にすぐ出場できたことです。徳島県高齢剣友会は故清原栄範士を中心に全国に先駆けて全日本高齢剣友会に入会されました。そこで私は第九回（昭和六十二年）より、東京の日本武道館で行われる例会に毎年参加、平成十八年六月には同会では初めての表彰式で、全国功労者九名の方々を代表して感謝状を頂きました。

二つめには徳島県高齢者剣道交流大会。そこに毎年四月東京から五名、高知からは

土佐生涯剣友会の方々十名が来られ、交流を深めることができました。五月の土佐生涯剣道交流大会には徳島から十名が参加しますが、私はこの会に毎年欠かさず参加しています。

三つめは全国健康福祉祭（ねんりんピック）です。ねんりんピックは平成元年大分大会から始まり、二〇〇七年茨城大会で二十回目となります。毎年連続して参加できない大会ですが、茨城大会まで選手として参加、丁度半分の十回出場する事ができました。当初県内だけと思っていたのが、以上のように県外に行くことにより各地に多くの剣友ができたことを感謝しています。また、五月には京都大会が開催されています。昇段・称号審査受験のために行ったその会には、一年間の剣道修練の成果を披露する演武大会があります。そこで偶然私にとっては大切な一人の方との出会いがあったのです。

その方々は美馬郡つるぎ町の小野寺恒義氏と山口県下関市の南忠明氏でした。この二人は共に居合教士七段・剣道教士七段で

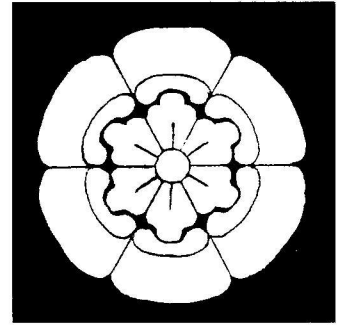
すが、それぞれが着けている胴の家紋が同じであることに気付いていたようです。そこにやはり同じ紋をつけた私に加わり三人の話し合いが始まりました。そしてお互いが先祖を同じくする同族であることが判明、三人とも私の家の先祖である旧美馬郡一宇村の南家につながりがある方々だったのでした。その後は毎年一回京都の演武大会で出会い友好を深めました。残念ながら小野寺氏は平成十七年五月他界されました。

下関市小月町の南氏は平成十九年十月本家の墓参に御夫婦でマイカーを運転し、旧一宇村を訪れたとのことでした。その折、本家の火災で焼失したとされていた瀬昇の名剣とその他二振三腰を村内の地藏寺にて拝見されたそうです。その名剣は鎌倉期文永の名工備前三郎国宗作との事でした。

## 「この三人の共有する家紋について」

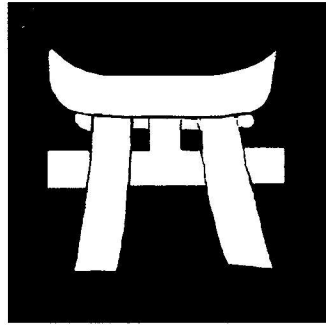
小野寺氏は私達三名の遠祖で奥州宮城の名門でありました。正平七年（一三五二年）後村上上皇の御編旨みんしにより、阿波郡朽田庄を頂き、その後数代経家及経年の後、天正

### 小野寺備中守 一族の家紋



六つ瓜と六つ唐花

### 南家本家紋



三年に小野寺備中守惟義が久千田（朽田）開城、その一族の家紋は六つ瓜六つ唐花である。

その後、小野寺備中守は土洲長曾我部元親が阿波に進攻、小野寺一族は逃れて美馬郡一宇山に入る。

そのうち世は豊臣秀吉の天下となり、天正十三年春蜂須賀家政が入国阿波国主とな

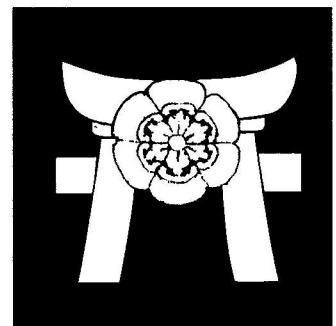
る。小野寺氏は嫡男長吉と弟吉郷、この兄弟は蜂須賀氏に従って功を認められ、長吉は「南」の姓と二百石を賜わる。

四代目は南八蔵勝家と言った。この八蔵が所用で江戸から大阪に至り天正寺を参詣したが、折柄大勢の石工たちによって天王寺の鳥居を建立中であった。この鳥居が余りにも巨大で建てることができず思案にくれていたところ、みかねた南八蔵勝家は千人力の秘法を以って一人で建立したという話である。その功績で南家は天王寺の許しを得て鳥居の家紋を持つ事になり現在まで続いている。

ところが、南家の本家は明治十三年大火によって伝来の家と家財財宝を焼失し大阪に移った。その後、一宇村の中心となったのが分家である。私の家であり、そこで家紋は鳥居の中に従来の小野寺家紋を入れたものになっています。

日本では家紋は家の象徴です。昔は分家するときには本家と区別するために本家の紋を変形して用いたり、また全く別の紋を家紋にする例が多く見られたのですが、近

### 家紋



年はそうした習慣もなくなりました。しかし、伝承された正しい紋章は後世に伝えて行くのが良いと思います。

#### 付記

四百年余の昔、先祖小野寺備中守が一宇山に入った時、その子に男子三人がありました。それらについて参考までに記しておきます。

嫡男 源六。南氏を稱す。石高（二百石）  
二男 吉郷（六郎三郎）「北」の姓を稱したが三代目源内が「喜多」と改める。

長宗我部軍が祖谷に居座ろうとしたのを排除、祖谷地方鎮庄に功ありとのことで百石を賜わり祖谷政所まんごころとなる。

三男は孫六郎 谷氏を稱し一宇山政所と

なり、石高三十石。庄屋五代目、弥九郎（貞之丞）の時、租税の不満で村人が一揆を起そうとしたのを押さえ、単身藩公に直訴したが許されず、村の衆代表六名と鮎喰川原で処刑され、絶家した。

ちなみに小野寺一族は源氏である。



## すべての出会いに感謝

阿南支部 須藤 恭宏

最近余りうれしくないニュースが良く目に付きます。

先日も引きこもりを解消したくて、自分の父親を刺殺するという、考えられないような痛ましい事件が報道されていました。

登校拒否、引きこもり等、対人関係をうまくできない、心に病を持った人たちも増えていきます。

何年前かの、富岡西高での牟岐剣友会の稽古始めで、驚敷の吉田祖先生が挨拶された中に、「人間とは人の間と書きます、親子、師弟、先輩、同僚、後輩等代々受け継がれてきた、人と人の繋がりを大切にしていきましょう」と言うような趣旨のことを言っておられたように思います。

本当に人は、自分一人では生きてゆけません。人と人の繋がりが、

出会いを大切にしていかなければと強く思ったものです。

お陰で私には、剣道を通して沢山の先生方や、保護者の方々、又同僚、後輩、子供たちとの出会いがあります。特に子供たちとの出会いには本当に素晴らしいものがあります。そして、自分が子供たちから学ぶことも少なくありません。剣道をしている子供たちの笑顔を見ると、本当に剣道をしていてよかったな、この子供たちに出会えてよかったなあと思います。

何年後には、中学の授業の正課に剣道



が取り入れられると聞いています。一人でも多くの子供たちが剣道に出会い、そして多くの人たちが繋がっていくことがとても楽しみです。

武道としての剣道には、現在の人たちが忘れがちな精神的な要素が沢山あります。ただ単に「スポーツとしての剣道」ではなく、代々先達から受け継がれてきた「武道としての剣道」を教え、そして学んでいただきたいものです。

剣道は礼に始まり礼に終わるとされています。試合又稽古の後で、勝ち負けや打った打たれた等のみにこだわることなく、相手に対して感謝する心や、思いやりの心を大切にしています。

剣道を通して、人と人の繋がりを大切に、相手に対するいたわりや畏敬の念、又感謝する心をしっかり学び、一人でも多くの人たちが精神的に強くなって欲しいものです。

私も剣道を通して、これからも多くの人たちと出会い、人間的にもまだまだ成長してゆきたいと願っています。

そして、次の時代に繋がって行く、一つの出会いを大切にして行こうと思っています。

最後になりましたが、今まで出会った剣道連盟の先生方、又剣道を愛する皆さんに心から感謝申し上げますとともに、まだ出会えていない方々とのご縁を楽しみにしています。

皆さんこれからもよろしく願います。

四



## 雑感

松村克隆

「徳島の剣道」編集部より原稿の依頼があり、「これは大変だ、年末年始も無いではないか」等と独り言をいっていると横から家内が、「あなたは毎日が日曜のようなもので、何もしていないのだから、ボケの防止になるかも知れないから、書いてみてはどうか。」との思わぬご宣託を受け、それでは書こうと机に向かった。平素より生活の中で問題意識を持っている訳でもなく、考えてもよい題材などなかなか浮かんでくる筈もない。そうこうしているうちに締切日は迫ってくる。これはどうしたものかと思ひ悩んでいたところ、ふと以前知己より庄子関係の本を何冊か紹介していただき心に感銘を受けたことを思い出した。

庄子は、「寓言」、「重言」、「卮言」の言葉からなっている。「寓言」とは、自分のいわんとすることを他人が、また動物等人で無い物とか、他の物事にことよせて意見

や教訓を述べた言葉。いわゆるたとえ話。

「重言」とは、寓言にやや近く、自分の説では無い古の偉い人の説。「卮言」は臨機応変調子のよい言葉。以上のような形で話しを進めている。今回は、「木雞」の話を取り上げたい。

紀渚子という闘雞師が周の宣王のために闘雞を飼育した。

十日すると王はたずねた。

「雞は使いものになるか？」

紀渚子はこたえた

「だめです。いまのところむやみに強がって威勢を張っています。」

それから十日して王はまたたずねた。

すると紀渚子はこたえた。

「まだ使いものになりません。他の雞を近づけると、まだぐっとにらみつけて気負います。」

それから十日して王はまたたずねたすると今度は紀渚子が答えた

「もう完璧です。他の雞がなき声を立てても、もはや何も反応も示しません。遠くか

ら見ると木で作った雞のようです。無為自然の道を完全に身につけています。他の雞で相手になろうとするものはなく背をむけて逃げだしましょう。」

これは紀渚子と周の宣王との闘雞問答に託して勝敗にとられぬものこそ無敵の強者、無心こそ最大の武器であることをあきらかにしている。

木雞の話について、安岡正篤先生は、「人物を修める」のなかで横綱双葉山関の若い時代にまだ人物ができていないといつて、この木雞の話をし、額を送った。双葉山は、額を部屋に掛け、朝に晩に静坐し、木雞の工夫をし、名横綱になった。横綱双葉山関は七十連勝ができなかった時、「イマダモクケイニオヨバズ」の電報を安岡先生に送った。安岡先生は横綱双葉山関が七十連勝目前で敗れたことを知ることとなった。(双葉山の六十九連勝はいまも相撲界の連勝を記録として破られていない。)

この「木雞」の話を横綱双葉山関自身が「相撲求道録」という本に書き、後に自然



に広まり有名となった。

孔子は「七十にして心の欲する所に従って、矩を躓えず」と言っているが、私は七十にしてまだまだ人間が出来ていない。知己がこれらの本を私に紹介してくれたのは、少しずつ勉強をし、人間を磨きなさいということであつたのだらうと思う。

引用文献

「荘子」福永光司（中国古典選 朝日新聞

七・八・九巻）

「莊子物語」諸橋轍次（講談社学術文庫）

「人物を修める」安岡正篤（竹井出版）

# 「走った」思い出

鳴門支部 近藤敏晴



色々迷った末、

今回は「走る」とについて書きたいと思います。

小学生の頃、私

はかけっこが遅く運動会ではいつもビリの方で走るのが嫌いでした。それが変わってきたのは中学生の時です。私の通っていた大麻中学校は山に囲まれるように建っており、当時は野球部やバレー部など多くのクラブが裏山を走るトレーニングをやっていました。私も部活のトレーニングでよく走りました。話をしながら歩いたりして遊び半分でしたが、少しづつ距離を走ることに慣れていったように思います。二年生の寒中マラソンでまずまずの順位に入り、三年生の時にクラス対抗千五百メートル走の選手に選ばれました。おそらく本当に足の速い子は長距離を敬遠したため、自分が選ば

れたのだらうと思いますが、運動会でいつもビリのほうを走っていた自分にとっては思ってもみなかったことで頑張らなければと練習に励みました。しかし、本番では緊張で思うように体が動かず、最後から二番目の成績に終わってしまいました。

これがきっかけとなって走ることが身に付き、高校・大学時代はテストで剣道の練習が無い時にはランニングでよく汗を流しました。（素振りも一緒にやっておけば良かったのに……）

社会人になり、仕事の後で会社のグラウンドなどをよく走りました。同じように走っている人たちと話をするようになり、一緒にランニングチームを作って県内の吉野川マラソンや日和佐タートルマラソンなどのレースに参加するようになりました。吉野川マラソンでは直線の堤防上を走る距離が長く、ゴール地点は見えているのになかなか到着できず苦しかった思い出があります。県外では、一九八八年五月の小豆島オリィブマラソンに参加し、ハーフマラソンを走りました。当日は良い天気で風も無く内海

湾を眺めながら気持ち良く走れました。後半はきつかったですが、一時間三十五分でゴールすることができ、大満足の結果でした。

気を良くして次はフルマラソンに挑戦ということで一九九〇年三月の篠山ABCマラソンに参加しました。仲間の車に乗せてもらい前日午後には篠山到着。軽くジョギングして翌日に備えました。翌朝準備を整えてスタート地点の篠山町役場へ。参加者が多いのでスタートラインからかなり後方で待ち、スタートの号砲から数分遅れで走り出しました。完走を目標にキロ六分のペースで十キロ、二十キロ地点を通過。これなら案内簡単に完走できるかもしれないと思っただのもつかの間、靴下が擦れて足の裏が痛くなってきました。二十四キロの折り返しを過ぎたあたりから本格的に痛くなり、「マラソンは二十五キロから」というのは本当だと実感しつつ、三十キロを通過し三十五キロの関門に向かいました。三十五キロ地点では三時間四十分(?)で関門が閉鎖され、それ以降に着いた人はバスでゴー

ル地点まで強制送還されます。私は関門閉鎖の少し前に通過することが出来ほっとしましたが、体の状態はますます悪化し、腰から下全体の筋肉が痛くなって残りの七キロはほとんど歩く状態でした。沿道からの声援に助けられて、なんとかゴールの篠山城跡に到着。タイムは四時間三十分でした。完走したものの終盤ほとんど歩いてしまったことが残念です。

今から思えばその頃が体力的にピークで、その後仕事で忙しくなったこともあってレースに出ることもほとんどなくなりましたが、今でも時々走っています。もう一度フルマラソンに挑戦して歩かずに完走するという夢があり、いつかかなえたいと思っています。

もう故人となられていますが、剣道九段の中野八十二範士や井上正孝範士は学生時代には剣道をしなが、駅伝の選手でもあったそうです。また、現在もかなり著名な剣道家も稽古以外に自分の足腰の鍛錬のため、ランニングをされていると聞きます。私においてもこのランニングがいつか剣道に活

きてくるのではないかと密かに期待しているところです。

もちろん剣道の稽古にも励みますので、よろしくお願いします。



# 剣道との出会い、

## そして再会

勝野 晴 孝



私と剣道との出会いは今から約四十年前、小学校三年生の時である。当時、男の子のスポー

ーツといえば何といっても野球であった。私が生まれ育ったのは東京の調布市という所で、リトルリーグ（硬式の少年野球リーグ）で当時有名であった調布リトルのお膝元である。調布リトルは世界大会でも優勝するような名門中の名門で、スポーツの得意な子は次々とリトルリーグに入団し、遊び仲間が一人、また一人と減っていった。超健康優良児（つまりは肥満児）であった私は、端からリトル入団は諦めていたため、仲間が減っていくことに寂しさを感じていた。

そんな時、遊び仲間の一人が、近所の剣

道場へ入門することになった。友達と遊ぶ時間が欲しかった私は、軽い気持ちでその友達と一緒に入門することにした。これが私と剣道との出会いである。特に剣道がやりたくて始めたわけではなく、単に友達と一緒にいる時間を共有したかっただけである。そんな不純な動機で始めた剣道ではあったが、稽古は一生懸命やった。東京の片田舎の、小さな町道場であったが、指導には国士館の末次先生がいらっしやった。また同門には堀部あけみ、まゆみ姉妹等が居て、今考ええると稽古環境は非常に恵まれていたのである。最も当時は稽古の厳しさだけしか心になく、いつも稽古が終ることを心待ちにしていた。当時、もっと一生懸命稽古していれば、もう少しマシな剣道が出来る様になっていたのであろうが、非常に残念である。

中学、高校、大学と進学しても、当然のように剣道部へ入部した。あまり器用ではない私には剣道が性に合っていたのである。しかし、大学を卒業して会社へ入社してから、剣道とは無縁の生活を送るようにな

った。十五年以上も剣道から離れてしまい、このまま剣道をやることがないのだらうと思っていたが、十年前に息子が急に剣道をやりたいと言いつ出した。最初は子供の様子を見に行くだけであったが、見ているうちにまた剣道をやりたいくなり、伊賀先生にお願いして仲間に入れていただいた。また、武田先生に誘われて始めた居合で、高橋先生にも巡り会う事ができて、私の剣道との再会はとても素晴らしいものとなっている。

剣道は、夏は暑い中重い防具を着けなければならぬし、冬は足の指先が痺れるほど冷たい床の上で裸足で稽古をしなければならぬ。おまけに防具は臭いし、冷静に考えたら野球やサッカーほどスマートではない。何故そんな剣道を、もうすぐ五十歳になるオッサンが汗水たらして稽古しているのだろうか？何でそんなに剣道が好きなのだろう？

剣道の、他のスポーツにはない魅力とは何であろう。武道としての特性、日本の伝統文化性等よく言われるが、現在の私にとっ

ては世代を超えて真剣に勝負できることが一番の魅力となっている。小学生、中学生からそれこそ還暦、古希を越えられた先生方まで一緒になって汗を流し、真剣に剣を交えることが出来る。これが一番の魅力である。

現在、私は北島少年剣道教室でお世話になっているが、幸いにも小学校低学年の子供たちが多数入団し、彼ら・彼女らと楽しい稽古をさせてもらっている。彼らには強い剣士になってもraitたいことはもちろんであるが、それ以上に長く剣道を続けてもらえる剣士に育って欲しい。そのためにも、私自身が遠藤会長始め諸先輩方を見習い、正しい剣道を身に付け、末永く続けて行きたい。まだまだ若輩者ですが、川田支部長始め板野東支部の先生方、剣連の皆様、これからもどうぞ宜しくお願い致します。



## 称号・段位合格者

### 七段に合格して

山田浩司

五月十日、愛知審査において九回目の挑戦、まる三年がかりでなんとか七段に合格する事ができました。途中、何度か諦めかけたこともありましたが、先生方の熱心な御指導と多くの方々の励ましの言葉で諦めず挑戦しつづけた結果、合格する事ができ、本当に、感謝の気持ちでいっぱいです。

私は大変稽古に恵まれており、お手本となる先生が身近で稽古をつけて下さったと同時に、共に七段を目指し、一緒に稽古を出来る先生方がおられたことでした。

時間の許す限り稽古に取り組み、日曜日以外は全て稽古しました。その内容を少し紹介します。

月曜会の稽古（城東中学武道館・午後八時～午後九時半）では、稽古の前半は面打

の基本稽古を徹底して行います。自分が意識したことは、先生がいつも言われる、左足を継がず一挙動で左拳をきかし、剣先を鋭く強く振り、打った瞬間『ポクッ』と音の出る面打を心掛け稽古しました。

月曜会以外でも、日亜化学の稽古会（阿南大湯武道館・木曜日・午後七時～八時）、一心館道場の稽古会（美波町赤松・景山美雄先生館長）稽古前半、基本打を行います。常に『ポクッ』と出る音を意識し、基本打を心掛けました。又、地稽古の時には常に立ち合いを意識し、先生がいつも言われる『攻める』・『溜める』・『捨てる』と自分に言い聞かせながら取り組みました。

審査の一週間前の最後の稽古では、踏み込む音と打った音が響いたようになってきた気がして自信が持てるようになりました。子供達に指導している事を、そのまま自身に指導している、そんな気がしました。

審査当日、緊張感の漂う中『克己心』と書かれた面タオルを頭に巻き『攻める』・『溜める』・『捨てる』と何度も繰り返し自分自身に言い聞かせて、目を閉じ誰の立

ち合いを見る事なく自分の番を待ちました。審査を終え合格発表の時、数少ない受験番号の中に自分の番号を見つけた時には、お世話になった先生方の顔が一人一人浮かんできて、涙が止まりませんでした。

今、自分は七段に合格しましたが、自分の中では今からがスタートと思っております。本当の剣道が今始まったばかりです。五十才までが基本といっていますがその意味がよくわかります。

今後も尚いっそう努力し、上を目指し稽古を続けていきます。又、自分をここまで育ててくださったご恩返しの意味を込めて、少年剣道指導、後輩の育成に務めて参りたいと思っております。

## 七段試験

阿南支部 曾 根 徳 治

平成十八年四月、八年ぶりに母校の阿南工業高校に赴任しました。このことが昇段に大きく影響したと思います。それまでは、受験資格があっても稽古不足を理由に「七段を目指そう」という強い気持ちになっていませんでした。赴任して一年、仕事になれ体力的にも回復してきたと感じていたとき、同校勤務の佐々木先生に「生徒に言うだけでなく我々も目標を持って努力しよう」と言われ、このことが七段受験を決意し、きっかけとなりました。

試験に合格するためには稽古しかないのですが、どのような練習をすればよいのか、自分には何が足りないのか、様々なことを考えているとき、学生時代、恩師である三橋秀三先生・渡辺 香先生に教えていただいたことが蘇ってきました。沢山あるなかでも、特に心に残っていた言葉、「お前は、構えはいい。しかし気迫が足りない、攻め

を大切にしろ。攻めとは必要最小限の動きで最大の影響を相手に与えることだ」を思い出しました。あのころの剣道をイメージしながら自分を見つめ直してみると、良いと言っていたのだいた構えも右肩に力が入り少し斜になっていたり、面を打つとき顎が上がっているなど、技術的な面で改善点を把握することができました。また、精神面を鍛えるために部の遠征先では他県の先生方と共に汗を流し、稽古後の会話の中などからいただいたヒントを持ち帰り、そのことを意識しながら練習する、そんなことの繰り返しでした。

平成十九年、京都での受験が初めての試験でした。受験直後、自分ではそんなに悪くはなかったと思っていましたが、構えたときに腰を振る癖や打突の機会など、いま考えてみると恥ずかしくなるようなものがありました。また、試験前日まで大分県の日田高校に遠征中で、午後四時に日田市を出発し直接京都に入り、到着したのは午前0時でした。不合格になったのがこのことが原因ではなく、私の力不足であることは間違いないのですが、試験に臨む姿勢として「試験を甘く考えてはいけない」と渡辺先生に指摘され初めて自分の意識の低さを痛感しました。

六段のときから受験は京都と決めており、不合格ならば一年間稽古して翌年の京都試験を目指そうと思うていました。しかし、続けて受験することも大切だとアドバイスを受けたこともあり、八月に福岡審査も受験しました。一回目よりも内容はよくなってきたように思いましたが、相手に打たれる機会も有り、当然のごとく不合格でした。このとき、やはり翌年の京都試験までにもう一度基本を大切に練習し直してから受験することを決めました。稽古をする環境には恵まれていましたので、生徒とともに基本練習をしました。基本練習をするると五角稽古だけではわかりにくい部分を再認識でき、切り返し、一面・小手・胴打ち、応じ技など、地味な取り組みですが基本の大切さと苦しさを痛感しました。本を読み他の選手の技を試したり、先生方との稽古で教えていただいたことを意識して稽古し

ていたとき、身体的にも精神的にも充実し、最後まで集中した状態でやりきることを一度だけ経験することができました。このときの状態が誰に対してもできるようイメージし受験まで稽古しました。

三回目の試験日は学校行事があり、他の職員に迷惑をかけての受験でした。今回は、移動にも時間を余裕を持って京都に入り、リラックスした時間を過ごすことができませんでした。私は、少しぐらいなら夕食時にビールを飲んでもよいかと考えていましたが、あの佐々木先生がコンビニでコーラを買うのを見て、明日の試験にベストで臨もうとする意志の強さを感じ、私も我慢しました。このことも合格できた要因の一つかもしれません。試験当日は落ち着いて受験することが出来ました。一人目の立ち合いでは、出頭をねらっているのか攻めても反応がなく、間合いが詰まったため竹刀を抑えながら面に出ると初太刀一本を決めることができたので精神的に楽になり、あとは攻めて面に来たところを返し胴、小手を決めることができました。二人目は、初太刀小手に

合わされ面を打たれそうになりましたが気持ちを入れ替え、相手を攻め、面に来たところを抜き胴を打ち、一人目と同じような状態になり、最後は合い面にのつたところで試験は終了しました。合格発表で自分の受験番号があったときは嬉しかったのですが、それ以上に合格者の少なさに驚きました。この後すぐ、剣道形の試験に行ったため佐々木先生の立ち合いを見ることは出来ませんでした。先生も合格されました。一緒に合格でき、本当に嬉しかったです。

に思います。「初心忘るべからず」受験前の「求める気持ち」をもう一度思いだし、謙虚に取り組むことの大切さを今さらながら感じていきます。最後になりましたが、火曜日の稽古会で鍛えていただいた河田先生をはじめ諸先生方、遠征先で稽古していただいた近大附属高校の高本先生など、ご指導や応援を頂いた多くの方々、そして生徒たちにも深く感謝申し上げます。

「剣心自育」剣道の修練を通して心を磨き、人間として成長できるよう懸命に取り組みたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。



## できない自分を認める

佐々木 和人

昨年五月の京都審査において、初挑戦から五回目の受験で七段に合格させて頂きました。この四年間は充実した毎日で、様々な意味において、剣道勉強をさせていただいた貴重な日々となりました。先生方や周囲の方々には、ご指導頂き、心より感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、七段受験であります。最初は友人に誘われるままに軽い気持ちで受験を決めた私ですが、もちろん簡単に合格できるはずありませんでした。二回の受験後、「こんなはずじゃない」、体がなまっているから自分の剣道ができていないと考えたことから、歩くことからはじめ、ランニング、基礎体力作り、食事管理を行い、八キロ程度の減量を行いました。体は自分の思うとおりに動くようになり、のびのびと剣道することで若い頃に戻り、最高潮だと

感じられる時期がありました。しかし、不合格は体力だけが原因ではありませんでした。技能はもちろん、受験に対する気持ちの甘さ、剣道七段に対する考え方が不十分であったからだと思います。調子のよい時期は長くは続かず、受験を意識するあまり、自分の剣道というものがわからなくなり、構えや打突の欠点を修正しようと、改めて基本練習にも取り組みました。技術面においても沢山の先生方に教えを頂きました。こんなに真正面から剣道に向き合ったのは久しぶりなかつたかもしれません。

今回の受験直前は満足のいく内容の稽古ができない日々が続いていました。一年前には自信を持って京都に向かったものの、当日の朝になると体が全く動かず、さんざんな状態で臨んでしまったという苦い経験もしました。そのため今回はコンディション作りだけはできる限りのことをしておくと、好きなこと（お酒）も我慢し気持ちを集中させました。迎えた当日。一緒に受験に来ていた同僚の曽根先生が素晴らしい立ち合いをし、先に合格を確信しました。

一人目、初太刀まではよい攻め合いができたと思いましたが、内容的には今回もだめだと思いました。しかし、この一回目の「だめだ」と思う気持ちのまま二回目をやらないこと、心の動揺を抑え目の前の相手と立ち合うことが、今自分のすべきことだと思えました。そして、ここを全力でやりきることが次の審査につながるのだと考えました。合格をいただけただけ今になって思うことですが、一本打たれようが、一つ失敗しようが、心を動かすことなく新たな気持ちで次の瞬間をやりきる。こそが大切だったのだと思います。二回目の立ち合いも満足のいく出来であったとは思えず、周りで見ている下だった先生や友人の評価もそれほどのもではありませんでしたが、観覧席に上がり他の受験者の立ち合いを見ながら、一人考えました。今回での合格に期待することはありませんでしたが、「次はやる。」「二回目の立ち合いを平常心でやれたことで、次の審査までに何をすればいいのか、どんな立ち合いをするのか。そんな確信のようなものが自分の中に沸いてきま

した。

私はこれまでの四回の受験で結果発表を見に行ったことがありませんでした。「恥ずかしい」という気持ちがあったのです。自分の立ち合いに納得することが出来ず、このような内容では受かっていないと思っただけのことでした。しかし、それは大きな間違いだったと思います。たとえだめだと思っても、その事実をしっかりと見て受け止めることが大切なことでした。そんな想いで合格発表の場所に向かう途中、大学時代の友人にもきちんと自分の目で見ることの大切さを指摘されました。発表掲示板に自分の番号を発見したときには本当に信じられませんが、「少しはわかってきたな。」と今後の精進に期待を下さった合格のような気がしました。車で一緒に帰る曾根先生に気を遣わせないようにとの心配りであったのかも知れません。剣道を真剣に考えれば考えるほど、その奥深さを思い、自分はまだ剣道の入り口に立ったに過ぎないと痛感する日々です。一層修練に努めたいと思います。

## 六段に合格して

阿南支部 磯部 健治

平成二十年五月に名古屋審査会にて、幸運にも六段に合格することが出来ました。誌面をお借りしまして、日頃からご指導頂いた先生方に心から御礼申し上げます。

剣道との出会いは小学一年生の時、当時祖父磯辺茂治が指揮をとっていた那賀川少年剣道クラブに入門したことに始まる。以来二十八年と歳月は流れ今日の私がある。しかし、これまで順風満帆の日々は続かず、二年六ヶ月の間竹刀を一度も手にすることもなく入退院を繰り返したことがあった。そんな私が何故六段審査を受けようと考えたのか。それは衝撃的で忘れられない記憶があった。平成十六年五月に八段を合格された、恩師河田清実先生の昇段祝賀会の席でのことだった。審査時のVTRが会場で上映された。緊迫した攻防が展開され、次の瞬間相手の面が空を切り、先生の竹刀が胴を切った。この攻防は筆舌に尽くし難い。

目にする者全てを魅了する鮮やかな胴だった。「あんな立会いが出来るといふなりた」挫折の真っ只中、逸る気持ちと現実の間に苛立ちがあった。しかし、あの衝撃的な立会いの印象が、六段審査へと駆り立てる要因となった。

平成二十年春になりやっと竹刀が持てるまでに回復した。しかし、服用している薬の副作用が出て、精神的にも体調面でも不安定なまま月日だけが流れた。「これは無理やな」そんな時だった。高校時代からの友人に誘われて外出した。退院をしてからというものの、仕事以外は外に出ることが億劫になっていたが、気分転換にと車を走らせた。「ほんなんええでないか、今できるものでいいと思うよ」本当に何気ない会話の中の一言だった。この一言が私を後押ししたのと同時に、河田清実先生のあの衝撃的な立会いが一気に胸中を駆け巡った。それから、とにかく審査日に照準を合わせて体調を整えていった。審査直前というのに、防具を着けての稽古は数える程しかできなかった。半ば開き直った感じで審査会にの

ぞんだ。「無心」というと大層な表現だが、立会の時には「余計な考えがない」「良い結果を求めない」というのか、今まであまり経験したことのない心境だった。時々「自分が何をどうしたか覚えていない」ということを聞くことがある。それは極度の緊張による記憶喪失的なものなのか。或いは絶対的な稽古量に裏付けされた、無意識の技によるものなのかはわからない。しかし、今回の私の場合はそのどちらでもなく、完全に何事にも「とらわれない心」での立会だった。自分がどういう技を出して、どのように応じて、相手がどうなったかという一連の流れを記憶している。人間というのは「欲」深いものだと思う。生きていくうえで煩惱に悩まされることはよくあることであり、そうでなければならない時だつてあるだろう。

臨済宗の禅僧、沢庵和尚が柳生宗矩に宛てた手紙『不動智神妙録』がある。それは大学時代に触れたものであり、剣禅一如の教科書として剣道を志す者の間では有名なものである。その中で沢庵和尚は、「とら

われない心」の大切さを説いている。例えば、相手の打突に心をとられたり、相手の動きにとらわれれば、身体を自由自在に動かすことは出来なくなる。心は常に流れる水のように止まらず、自由であることが大切であると言っている。私ごときが、そんな「悟りの境地」に迫ることは到底無理なこと。しかし、今回ばかりは違っていた。正に「合格したい」ということに、心がとらわれていたならば、全く裏付けのない浮いた私の構えなど、自由さを欠き、無残な結果となっていたことは言うまでもない。では、「なぜ審査を受けたのか」「受けることと体が欲ではないか」と言われればそうかもしれない。しかし、今回は明らかに審査を受けることにより自分が存在していることを確認するための「無欲の方向づけ」だったと振り返る。「魂は肉体を凌駕する」というが、心のありようひとつで、身体に変化を与える典型だと、沢庵和尚の「とらわれない心」に改めて感じた。結果はともかく、逸る気持ちを抑えつつ、審査までの経緯が経緯だけに、実技審査の後は何とも

言えない、清々しい気分を味わうことができた。

最後にこれまで人間味溢れる素晴らしき先生や先輩に出会い、温かいご指導を頂きました。取り分け高校時代には河田清実先生、大学時代には作道正夫先生、神崎浩先生に出会い自らの実践的指導を頂いたことは、私の大きな財産であり生きる糧となっている。剣道の魅力をどこに置き、どういう位置づけで生活をし、どういう方向を求めていくかは人それぞれである。少なくとも「剣の理法の修練による人間形成の道である」ことは確かである。

今後は身体のご機嫌を伺いながら、「方向づけ」を担う立場にいる一人として、切磋琢磨して行きたいと考えております。今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

## 六段に合格して

谷 喜 史



平成二十年十一月十六日、名古屋市中で行われた審査会で六段に合格することができま

た。ご指導していただいた先生方、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

この数年、同じ年代の方々が次々と六段に合格され、私も受験しなければならぬと審査を意識していました。しかし、何かと理由を付け次へ次へと先へ延し、受験資格がありながらも二年が過ぎていました。今更ですが自分の甘さを反省しています。

今回、受験を決断したのは同じ職場の藤本雅史先生からの年賀状に書かれた「六段に挑戦」の文字でした。今年受験しなければまた先延ばしになってしまふ。「今年だ！」気持ちを固めました。先生には基本

稽古をはじめとし、審査の心構えなど細かく指導していただき、審査当日は本当に落ち着いて受験することができました。ありがとうございました。また、名古屋での審査会を選んだのも工作上、合えて一番忙しい時期を選びました。甘えを敢えて無くし逃げ道を無くす、それが常套手段であり、一番良い結果を出すことできると条件と考へ実行しました。

九月からは剣道連盟の稽古会、阿南支部の稽古会、阿南工業での稽古会など週四回程の稽古会に参加させていただきました。諸先生方との稽古の中で様々なことを指導していただいたことで、自分の剣道を見直すよい機会になったと実感しています。特に剣道連盟の稽古会では近藤巨先生に剣道の厳しさや、気構え、心構えなど稽古を通じて教えていただきました。本当にありがとうございました。

さて審査ですが、実技の合格が発表されたとき合格者番号と自分の垂れに貼られた番号を三回見直しました。二回目の立ち会い終了間際まで無心で立ち合うことができ

ていました。しかし、「打ちたい！」と欲を出した瞬間、今まで一番意識して稽古していた部分を見事な出端面で打ち抜かれたからです。自分勝手な剣道がその一本を打たれた結果であり、剣道は単に打った、打たれただけのものではないことをその一本で確信しました。しかし、それが今回の審査で自分に与えられた課題でもあると受け止め反省したところです。

今回、六段に合格できたことは、自分はもちろん家族も一緒に喜んでくれ、本当に嬉しく思っています。また、多くの先生方からお祝いの言葉を掛けてくださり、今後の励みにもなりました。しかし、私は今の剣道が六段の剣道とは思っていません。六段の剣道を身につける資格が与えられたと考えています。

何名かの先生方から「次は七段やな。」という激励の言葉もいただきました。今後は、その資格が与えられるよう努力していきたいと思いますので、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

平成二十年年度

称号・段位合格者一覽

— 剣道 —

【七段】

【教士】

五月六日

竹村 英信

曾根 徳治

五月十日

山田 浩司

十一月二十八日

加藤 哲裕

端村 武

東 徳美

【錬士】

五月六日

山本 泰史

磯部 健治

十一月二十八日

山名 信行

谷 喜史

林 洋行

【五段】

二月十日

山崎 砂織

九月十四日

中西 実

西岡 隆英

十一月二十三日

六條 勝仁

六條 洋二

平成二十一年

二月十五日

松本 真治

武藏 純郎

前田 奈々枝

【四段】

二月十日

トゥリニイ  
フライリッブ

竹原 匡

棟本 孝

九月十四日

仁木 隆夫

十一月二十三日

米澤 弘朗

山ノ井 陽介

佐藤 正彦

黒上 雅史

平成二十一年  
二月十五日

鎌谷 和輝

岸野 哲也

三宅 悠太

久保 智司

【三段】

二月十日

前川 淳史

齋藤 翼

小笠原 祐輝

矢野 翔太

蛇目 英樹

木下 功

菅野 和美

藤井 玲名

中野 由貴

西田 実紀

中原 恵麻

五月二十五日

武市 一樹

岡田 大資

白木 健一郎

戎 敬太郎

元木 覚

大寺 宏典

日野浦 陽二

小笠原 秀徳

元木 武仁

横川 由佳

樋口 せい

福永 有希

九月十四日

平野 将司

佐々木 健人

岡田 紘平

淀谷 瑞木

曾根 健貴

岡 俊介

三木 翔太

山下 達彦

岡内 修司

村上 浩一

加重 汐理

湊 友里

生田 圭

湯浅 萌

近藤 陽香

白石 けい子

仁木 悠美

芳田 裕美子

今川 和美

十一月二十三日

山下 基

高島 健

岡田 佑介

中本 恵理矢

櫻木 鉄也

岩雲 祥吾

重田 松弘

宮本 和年

喜多 あゆみ

櫻木 舞

大久保 紫陽

藤本 雅代

平成二十一年

二月十五日

【二段】

二月十日

陶久清隆 松本真生 松野秀昭 鈴木智也 湯浅翔平 岸本宗紀 出口卓弥 酒卷依暉 赤川健太 上村英四郎 遠藤和貴 林良憲 大西康裕 濱本秀一 福井昭浩 野上敦司 岡本真実子 片山由貴

手川洋次朗 久米紫穂 岡大二郎 土井篤 福田寛也 山内望 桑原麻美 樋口すずか

五月二十五日

山口喜生 生島大空 志磨康太 神元真樹 重田正輝 大澤裕大 出口智貴 大久保理樹 古川隆太 平尾将孝

永野辰樹 岡田宣孝 天羽悠 檜森史也 福田愉葵充 中田雄斗 小谷直也 谷篤彦 福田稜 関口真生 岡田紘樹 斎田悟志 篠原誠 高石稔也 西岡大輝 山西浩平 山西優大 山口剛史 坂口剛史 小野竜弥 五藤雄輝 宮本雄太朗 川野賢太 賀上陽介

藤田大地 山本直矢 山樂陽司 一藪京蔵 小藪章宏 渡部章宏 神余梢太 小林俊介 小章一 梶卓也 小柏卓也 時谷一郎 藤原昌広 後藤田雅俊 大倉靖史 甚上和広 鎌谷武嗣 笠井健嗣 中川一平 岡部聡之 蔭山圭太 藤井秀敏 橘浩司 岸弘典 前田道信

九月十四日

庄野陽介 安藤真琴 工藤麻美 藤本あみ 藤浦名穂 松浦名穂 河野結花 西野柚衣 佐藤綾佳 徳田結香 重田菜摘 山本千尋 福田有香梨 藤本千晴 杉谷悦雪 丸岡悦子 佐方千尋 米本祥子 園木美里 竹内美紀

生田真大 南谷和希 武田和也 香川一成 秋田卓哉 廣井大晃 住友勇輝 矢野一輝 新居大翼 坂本健太 原郷修一 吉田竜如 松浦慎治 宮浦真治 谷口奨真 朝井智奏 藤坂拓道 久米純矢 森康二 宮田祐至 井上稔大 井上幹大 片岡宙輝

稲井奨太 桑原和也 立石啓悟 宮浦昌平 住友新 杉崎聡 尾方俊彦 多田祐哉 青木万里子 中西綾華 井上亜美 岡内拓未 三島菜摘 小川瑞季 那佐萌 長谷川愛実 澤田菜摘 吉川礼華 宮本郁美 多田侑江 村上遥香 岡本万葉 大館希望

兼中 円  
藤本 奈緒  
中村 友香  
十一月二十三日  
谷 優佑  
北岡 雅  
米田 紘夢  
中西 一樹  
岡田 裕也  
藤本 哲太  
岩川 陽介  
新宅 真士  
坂本 雅敏  
原田 直樹  
小笠原 周子  
平成二十一年  
二月十五日  
小川 翼  
岡 知寛  
森 智秋  
岩本 拓巳

炭谷 幸一  
谷田 雅彦  
西岡 昭人  
関家 栄雄  
椿地 勝斉  
倭梨 子  
盛嘉 恵  
佐野 未幸  
出 幹子

【初段】  
四月二十九日  
長谷川 雄一  
岩木 佑都  
岡 佑馬  
谷 創貴  
濱田 洸太  
大林 伸浩  
岩佐 暁歩海  
福永 力也  
大原 慶太  
立川 晃司  
京元 俊樹  
永濱 裕基  
河野 翔太  
日岡 翔聖  
西岡 昌哉  
石原 昌純  
玉置 将也  
秋月 翔太  
濱田 巧義  
石村 元義

田原 正貴  
杉本 典優  
新居 航平  
堀 椋一  
山川 雄司  
中村 勇太  
安部 晋太朗  
工藤 康祐  
楠 拓馬  
福崎 泰樹  
湯浅 鼓太郎  
阿部 有矢  
佐々木 聡史  
河野 誉良  
山本 航太郎  
谷 健太郎  
四宮 拓哉  
宮城 良規  
宮保 達也  
久保 達也  
小川 翔  
木野 啓太  
近藤 誠也  
関谷 晋司

喜多 耕平  
佐藤 浩作  
味間 修一  
宇井 友隆  
竹内 直生  
酒卷 達也  
松原 弘明  
土井 敦斗  
岸田 義弘  
戸井 浩輔  
志磨 直  
小出 健太郎  
小保 孝緒  
久保 公緒  
川尻 智樹  
平野 智将  
岩佐 航太  
湯佐 龍馬  
江川 昌邦  
大場 昌  
三木 奏人  
藤田 稔貴  
小川 瞬平

清野 琢誠  
中川 椋太  
山本 真生  
黒木 景太  
蘆田 佳郁  
谷澤 慶彦  
西野 裕哉  
藤田 裕太  
小濱 訓大  
寺井 大地  
菱本 聖也  
山川 翔大  
小栗 雅彦  
森 智裕  
谷 史士  
天野 佑亮  
酒卷 徹  
石本 亘  
松村 拓矢  
布袋 拓  
布袋 剛  
橋本 将一  
山中 崇夫  
伊保木 聡太

鈴木 一義  
仲 真宏  
上村 充史  
坂東 貴裕  
丸岡 和史  
田村 隆佳  
福田 光宏  
福井 祐介  
稲井 祐介  
鹿島 史兆  
立花 和広  
酒卷 雄介  
長尾 崇功  
岡田 憲資  
庄野 陽介  
田中 理称  
東内 遥菜  
片岡 茉莉  
藤井 理央  
澤田 くるみ  
出 優里奈  
森野 美穂  
中村 亜梨沙  
美馬 史絵

中村亜希	有島さやか	穀内雅子	八橋明子	今崎彰子	片山紗央里	吉田明日華	濱田千帆	藤見有里絵	長宗梨沙	八木夏美	黒坂美咲	幸平裕貴実	西川知見	湯浅絵里加	川人わかな	矢三奈々絵	住友裕菜	佐藤涼香	石井まなみ	谷美聡	米本朱里	原郷瑞季	
関原紘太郎	結城洋輝	山本慎也	新矢祐介	湯浅慶亮	城尾佳孝	吉田佑介	樋本真也	杉山佳之	鈴江悠司	齋藤法信	土井池優樹	呉羽啓一	井上大輝	廣瀬柚	株田貴文	和田晃真	多田拓矢	杉本大	六月二十九日			鹿兒島千鶴	藤井友紀子
榎本まどか	齋藤春佳	泉野祐衣	阿部史香	辰野美季	中村啓子	斎藤春香	折部浩史	長井昭人	山口一樹	湯藤洋大	前田悠哉	木下裕樹	豊永賢太	近藤竜樹	北内哲太	盛敬大	黒田大樹	谷添竜志	井添竜志	西沢起生	上田慎太郎	矢倉拓美	
中西麻文	東川里穂子	中川由美子	西田純也	森口賢一	高橋佑輔	山本駿	上田圭吾	藤本凌平	住友拓夢	今出優輝	下川豪士	三馬瑞貢	呉羽大地	板東歩	森崎亮太	八月二十四日			久米杏奈	笹山実鈴	宮本由美子	朝野志静	矢部志織
喜多勝也	鷺池明日希	網師本翔太	高田晃平	原田拓裕	今村裕平	山下皓平	中川和馬	佐藤幸造	金山晴輝	桑野晴輝	栗林康平	柴山康平	吉野友貴	藤本量太	十月二十六日			亀井静華	東根沙月	延谷美葉	福多志穂	助道沙耶	川島颯記
橋村和幸	畠中雄人	吉岡賢志	大東侑生	寺井惇	濱本公一	廣永竜希	河口僚規	谷口僚規	井上和希	榎地大樹	筋野純弥	岩根宗助	安井優輔	撫中辰郎	平成二十年 一月二十五日			深見伊織	山本悠	楠本由美菜	澤田篤也	矢部憲生	
	赤松尚子	山本愛子	加藤成美	真鍋麻衣子	芝田弥生	佐藤真央	正木俊一郎	後藤憲司	梯哲郎	井内乃基	西岡涼平	友竹哲弥	高橋慶輝	山本典広	岩本翔士	鈴木健太郎	高橋和輝	三木涼平	篠原孝彰	須原健博	青木雄椰		

— 居合道 —

【範士】

五月十七日

鳩成隆正

鎌田貴

五月三日  
原田勝

池田隆

【四段】

【初段】

十一月十五日

五月十七日

寒川清  
林由美

三木奏人

【三段】

道上亮平

十一月十五日

片岡茉莉

十一月十五日  
三木恭子  
松原美和

湯佐龍馬



# がんばろう徳島

## 部活だより

### 『感謝』の気持ちを抱きながら

#### 北島中学校剣道部の紹介

北島中学校剣道部

顧問 本村賢二

本校剣道部は、三年生四名、二年生五名、一年生十六名、計二十五名の部員が在籍しています。うち十二名が中学校入学時から剣道を始めた初心者です。また経験者は、転校生を含む三名の他、北島町にある北島少年剣道教室（代表指導者…伊賀雅人先生）、誠武館道場（代表指導者…亀田秀雄先生）の二つの道場の門下生です。このような中、日々の剣道部活動を通して部員一同、基本に忠実な剣道を目指して練習に励んでいます。

さて、一昨年度、本校に村井正志教頭先

生が赴任されてから、県外での大規模な錬成会に参加できる機会を多く頂けるようになりました。私達の課題は、それら「非常」の機会に、「日常」での成果をどうつなげていくか、つまり日常をいかに積み上げるかだと考えています。

本校では、現在陸上競技部や女子バスケットボール部を中心に、早朝練習で持久走に取り組んでいます。その良い流れにつながっていくように、剣道部でも女子を中心に朝の持久走・筋力トレーニングに部員が自主的に取り組んでいます。この取り組みも村井教頭先生が先鞭をつけてくださいました。また日常の部活動も、生徒が自ら考え取り組む「自由練習」の幅を広げています。放課後には町内に二つある道場へ自主的に参加する生徒も見られます。さらには、後ほどの「部員の一言」にもあるように、部員の中に剣道部活動に「礼儀正しさ」を求めている者があります。また大会会場での手伝い、学校生活では作業、あいさつ、集会で呼名された際にはきはきした返事などを通して、剣道部活動で学んだことを実生活

に生かしていくことを大切にしていきたいと考えています。私も含め、まだまだ未熟ですが、引き続き部員個々の生活の中に剣道（部活動）での成果を生かしていきたいと考えています。

ところで、本校剣道部活動を陰で支えて下さっているのが、前述の町内二つの道場の先生方を含む板野東支部の先生方、また板野郡中学校総体、板野郡中学校新人大会で審判の労をお執りいただいている板野東支部あるいは近隣支部・学剣連の諸先生方です。

さらに本校剣道部保護者会は、平成三年度に組織されて以来、本校単独の部活動へのご支援ご協力のみならず、板野郡錬成会等の関連行事も含め、物心両面でのご協力をいただいています。このように本校剣道部を支えてくださっている多くの方々の存在なくしては私たちの活動は成立いたしません。誌面をお借りし、部員・顧問一同改めて御礼を申し上げます。

最後になりましたが、関係各位におかれましては、これまでに増しての本校剣道部

へのご支援ご協力を頂きますよう衷心より  
お願い申し上げます、本校部活動紹介の結びと  
致します。

今後共、宜しくお願い申し上げます。

なお、以下は、現部員の剣道部活動への  
抱負です。ご一読頂ければ幸いです。

#### 【部員の一言】

※三年生 三年生は持ち回りで全員がキャ  
プテンを務めてくれました。

朝井 智奏

中学での試合は三分。この短くも長くも  
感じる時間の中で、ただひたすら「一本」  
を決めなければいけない。「この一本」と  
いわれるような「一本」をいつか僕も打っ  
てみたい。

坂本 健太

僕は、小学校四年生の頃から剣道をして  
います。基本に忠実で心身のバランスとれ  
た剣道を目指しています。今までご指導い  
ただいた先生方、一緒に剣道をした人たち  
のお陰で、僕は初めて試合で勝つ喜びを知  
りました。これからも剣道が続けたいと思

います。

豊田 直樹

僕にとっての剣道―「始め。」審判がこ  
の合図をかけてから三分間の一対一の試合。  
両者が今まで築いてきた努力の結晶を三人  
の審判と仲間と多くの見守ってくれている  
人の前で、本気でぶつかり合う、プライド  
をかけた戦い。

豊永 賢太

僕は中学生から剣道を始めました。友達  
に誘われたのがきっかけでした。僕に剣道  
を教えてくれたその友達は、優しくて心の  
強いとて尊敬できる人です。そんな友達  
が教えてくれた剣道が大好きです。剣道か  
ら学んだことは「相手を思いやること」で  
す。剣道は、そこに礼儀がなければ、ただ  
人を棒で殴っているに過ぎません。相手を  
思いやることで、気持ちの良い試合ができ、  
さらに自分を高めていけるんだと学びまし  
た。僕は高校でも剣道をするつもりです。  
自分の夢を叶えるためにも、剣道からまだ

まだ学びたいです。高校では剣道と一緒に  
自分の夢に向かって走っていきたいと思っ  
ます。

#### ※二年生

男子キャプテン 阿部 有矢

僕の目標は、北中が県優勝し、全国でも  
優勝することです。県総体までは半年ほど  
あります。それまでに、北中を強くしてい  
き、全国に通用するようにします。

男子副キャプテン 杉山 佳之

剣道をやっていたら礼儀が自然と正しく  
なるのが不思議です。剣道は身体能力の高  
さだけでなく、相手との間合や精神面が勝  
負の決め手になるところが、僕のがんばり  
どころです。僕の目標は総体で優勝し、全  
国大会に行くことです。

男子副キャプテン 大泉 光毅

僕の目標は、昇級審査で一級をとること  
です。そのために基本を大事にしたいです。  
特に切り返しをはじめ、基本練習を大事に

したいです。そのために日々努力したいです。

**女子キャプテン 田中 理称**

私は、小学校一年生の頃から剣道を続けてきました。苦しいときや、悲しいときもあつたけど周りの人たちの支えがあつてここまでこれました。中学校最後の総体は悔いの残らない試合が出来るよう全力で頑張りたいです。

**女子副キャプテン 廣野 友賀**

私の剣道の目標は、声を出す事と、左手を振るように意識して面などの技を打つ事です。

私は今年で三年生になります。総体で、悔いの残る試合をしないように、一日一日の練習を、楽しみながらもしっかりとやっています。

**※一年生男子**

**尾崎 光**

僕は剣道をして、体を鍛えると同時に、

心も鍛えて礼儀もしっかりと学んでいきたいと思えます。目標は、昇段審査で初段をとることです。

**河島 寛**

剣道は、もともと入部する部がなかったので入部しただけです。でも、剣道での得意な技ができました。目標は、いつも負けているのでいろんな技を出して勝つことです。

**後藤 和泉**

僕は、中学校から剣道を始めました。始めてからすごく楽しいのです。試合でも勝つたらうれしかったけど、負けたときはすごくくやしいです。これからも試合に勝てるように頑張りたいです。

**坂野 晃太**

僕は、剣道を通して心身共に強い人間になりたいです。僕はまだ心が弱いので人をよく傷つけることがあります。だからより一層練習に励んで心身共に強くなりたいです。

す。

**島田凜一郎**

僕の剣道の目標は、中学校を卒業するまでに初段を取る事です。この一月に三級を受審するので、合格できるようにしたいです。

**白石 鎌丈**

僕の目標は、前の技があまりでないので、こわがらずにどんどん打っていききたいです。それから、声も出して頑張りたいです。

**藤本 優**

僕の剣道に対する思いは、礼儀正しくなれるところがすごいと思います。僕の目標は、県大会でベスト4に入ることです。だから頑張つて強くなりたいです。そのためには先生の教えをよく聞き、努力していきたいと思えます。

**宮川 尚士**

僕の剣道の思いは、夏はとても面をつけ

たくなかったけど、試合をすると緊張して暑さを忘れ、冬は、外されると体中が痛くなったけど、汗をかきだすと痛みがなくなるので、そんな状態で試合に臨むことが目標です。

### ※一年生女子

阿部 美月

剣道部に入って八ヶ月以上がたちました。入部当時と比べると、ずいぶん成長しました。同じ時期に入部した仲間と競い合いながら剣道を続けてきたから、楽しくできたのだと思います。これからも最高の仲間と楽しく剣道をしていきたいです。

荒瀬 睦水

私は、剣道部に入部して礼儀作法を学びました。それを普段の生活にも生かすようにし、あいさつを自ら進んでするようにになりました。

剣道は私にとってかけがえのない存在です。剣道を通して自分自身を高めていきたいです。

石川実可子

私は中学校になって剣道を始めました。初めはきつい練習で嫌になったこともありましたが、今は楽しくがんばっています。これからも先生や先輩の言うことをよく聞いて剣道が続けていきたいです。

佐藤 鮎

今、剣道のみんなで、毎日一生懸命練習しています。まだまだ分からないことはたくさんありますが、先輩達が詳しくていねいに教えてくれるので、がんばることができます。先輩達には本当に感謝しています。

島田都希子

私は剣道を始めて一年以上たちました。初めは練習にいくのがいやでしたが、今では剣道の練習に行くのが一番の楽しみです。これからもこのメンバーで頑張っていきたいです。

高原 葵

今は、剣道をする楽しみが多くなってき

ました。みんなで辛い練習も乗り越えられるので、とても毎日が楽しいです。これからもがんばっていきたいです。

中釜 志保

私は剣道部に入りました。剣道部に入った理由は、もちろん剣道がしたかったというところもあるけど、それ以上に礼儀などを教えてほしかったからです。私は剣道を通して、礼儀なども身につけて、人間として成長できるようになりたいです。

福田 侑加

私は剣道が大好きです。その理由は、厳しい練習の中で自分をみがいていけることが嬉しいと思えるようになったからです。これからも剣道が続けていきたいです。



今春卒業した北島中学校剣道部3年生 ～優勝旗と共に～



平成20年度 北島中学校剣道部

# 道場・教室だより

## 「川島剣道スポーツ

## 少年団」だより

指導者代表 猪野和男

平成十四年四月に発足し、まだ七年目というおそらく県内の道場・教室の中では一番歴史が浅いと思われませんが、こうして道場だよりに記載させていただくことに感謝しつつ、川島剣道スポーツ少年団の紹介をさせていただきます。

発足のきっかけは、私の息子が吉野川市川島町にある川島小学校の一年生として入学した際に「お父さんと一緒に剣道がしたい。」という申し出の一言があったのがきっかけで発足しました。

当初は、知人の誘いもあり、一年生一名四年生三名、五年生一名という五名での稽古で始まりました。

稽古日は、学校と保護者とのほからいと

御協力もあり、毎週火・木・土曜日の午後七時から午後九時までの二時間実施ということでスタートしました。

稽古は、基本稽古が中心で、ほとんど二時間基本稽古で終わっていました。私も子供達の指導にはまず、「やって見せ、言うて聞かせてやらせてみせ、ほめてやらねば人は育たず。」という山本五十六の言葉を思いだし、基本はこうだとまずやって見せる事、そして何故それが必要なかを言うて聞かせる事、出来た時は即ほめてやる事、そういう事を頭において、指導していきま

した。そんな中、各地で剣道大会があるという事を聞き、初めて参加させていただいた大会に四名で参戦した時は、本当に見事なまでの惨敗で、他の道場の子供達のレベルの高さには驚きました。また、他のチームで声を揃えて「おはようございます。」と明るい挨拶の出来るチームと出逢い、其のチームの戦い振りを拝見し、勉強させて頂きました。大きい声で挨拶の出来るチームは氣迫あふれる懸声と共に、剣道の中味も立派



であることに気がつきました。

発足から七年目、まだまだという思いはありますが、現在の子供達、小学生九名、幼稚園三名の十二名しかいませんが、それなりの結果も出してくれて、先輩達に負けないように稽古に励んでおります。

現在の六年生が卒業したら、五年生一名、二年生三名、一年生三名、中学生十一名と



なり、小学生にとってはまた、少人数でのスタートとなりますが、試合で結果を残すことだけではなく「生涯剣道」を子供達が目指していけるよう指導者と保護者が一丸となって取り組んでいけるよう努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、今後とも、川島剣道スポーツ少年団への変わらぬ御理解と御指導をお願い申し上げます、紹介を終らせて頂きます。



## 道場だより

木頭錬心館 岡田 豊



木頭錬心館の歴史については、徳島県の剣道第二十一号と第二十二号に掲載させていた

だきましたので省略させていただきます。

当道場は現在、木頭小学校横にあります、柔剣道場に「大和錬心館」の看板を掲げ専用道場として使用させてもらっています。

六時過ぎまでは中学生、小学生は六時三十分からです。部員は、一年生三名、二年生一名、三年生三名、五年生一名、六年生二名、計十名と人数も大変少なくなってきましたが元気に竹刀を握り汗をかいております。

練習日は、月、水、金です。練習日には車で二十分かかる竹友館の六年生二名と部活がすんだ中学生三、五名が来ており、八時三十分を過ぎることもたびたびです。

指導者は、顧問走川輝一先生、佐々木武夫先生、館長松本繁嗣先生、山下伸也、小川大造、佐々木幸次、喜多弘の各先生方です。先生方の都合がついたときはご指導いただいております。常時は、私と小川大造先生とで行っています。

毎年恒例となっている木頭錬心館の初稽古は、元旦、八時三十分からです。福井軍二先生、佐々木和人先生、臼木崇先生、曾根徳治先生の出席を頂いております。その他OB関係者はもちろんのこと、この時ばかりは何時と使っている道場も所せましと、充実した年の始まりとなっております。

次に、私の事について延べさせていただきます。私は小学校五年から剣道を始め、師は走川輝一先生、中学校は故株木芳夫先生、両先生に厳しくご指導頂いた事が私の大きな財産となっています。昭和四十九年四月より剣道に携わりはじめ、当時原田勝先生が指導されていましたので私も一緒にさせてもらいました。原田勝先生が結婚を機に、私が少年剣道担当指導者として任さ

れました、将来有望な子供たちを任される事は大変責任を感じました。当時は思い出すとただ無我夢中、若さにまかせて、学生の時に教わった練習方法、基本を中心に掛り稽古を毎日毎日日課の如く続けました。今もその方法はかわっていません。私は、剣道は面を被ってなんぼの世界だと思っています。厳しい稽古にも関らず、子供たちは本場に道場に足を運んでくれます。深いご理解ある保護者はもちろんのこと子供たちにも感謝。

この伝統ある木頭錬心館の灯火をたやす事なく引き継いでいくことが今指導に携っている者の使命です。

剣道は、礼に始まって、礼を持って、礼に終わると言われますように、特に礼節を尊ぶ歴史的文化です。子供たちには、基本を大切に、礼儀作法を守り、将来どんな苦難に遭遇しても立ち向かっていく強い精神力を身に付けさせたいと思っています。また、これからも人間として社会人として頑張っていってほしいと心より願います。

最後に、今後とも県剣道連盟の先生方、



道場、教室の先生方のご指導よろしくお願  
い致します。



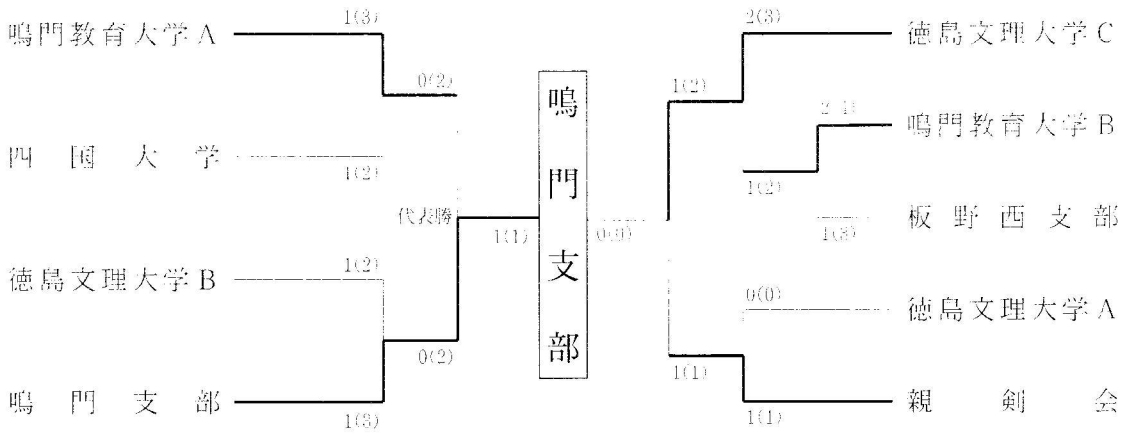
# 平成20年度 大会 記録

## 第29回 徳島県女子剣道大会 第25回 全国家庭婦人剣道大会県予選会

### 団体戦

日 時 平成20年5月11日(日) 午前9時30分  
場 所 徳島県立中央武道館

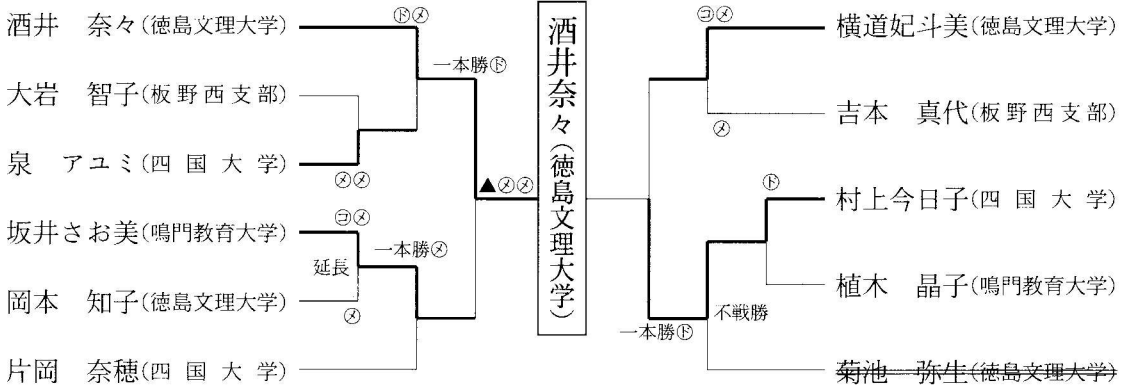
優勝 鳴門支部  
準優勝 徳島文理大学C  
第3位 鳴門教育大学A  
第3位 親剣会



### 決勝戦

	先鋒	中堅	大将	
	藤 本	藤 山	塚 原	
鳴門支部			⊗ 一本勝	1 (1)
徳島文理大学C	藤 井	丹 地	星 野	0 (0)

## 個人戦 <二段以下の部>



## 個人戦 <三段以上の部>



## 第60回 四国四県剣道大会

日 時 平成20年 5月18日(日) 午前9時  
場 所 徳島県立鳴門ソイジョイ武道館

県名	監督	区分	女子			20代		30代			40代			50代		60代	得点 (本数)	
			順	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将		副将
高知県	辻正史	氏名	森本展代	門田真弥	川村智香	西山弘一	宮地正治	石川博久	宇賀元紀	東野淳	宇賀孝篤	西村卓男	中越健司	恒石章彦	野中健作	岩崎崇訓	渡辺三則	3 (3本)
		得点	X	X	▲▲						⊗			⊗				
徳島県	美馬勝行	得点	X	X	⊗ ⊗	⊗ ⊗												4 (7本)
		氏名	小西美穂	猪尾満紀	平野悦子	六條洋二	隅田憲男	近藤正章	山名信行	福多博史	平野誠司	白木洋一	福多雅英	近藤 亘	米倉 滋	藤川和秋	北條憲治	

県名	監督	区分	女子			20代		30代			40代			50代		60代	得点 (本数)	
			順	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将		副将
愛媛県	富本武夫	氏名	中平敬子	三木千恵美	小笠原宏美	渡邊千剛	白石大輔	近藤真次	日野 剛	門田睦志	新谷定俊	門岡達也	濱田豊彦	真鍋公孝	向井俊二	田邊重義	上垣忠博	8 (15本)
		得点	⊗ ⊗	⊗ 一本勝	⊗ X		⊗ 一本勝	⊗ 一本勝			⊗ ⊗	⊗ X	⊗ 一本勝	⊗ ⊗	⊗			
徳島県	美馬勝行	得点			⊗				⊗ ⊗		⊗ ⊗				⊗ ⊗	⊗ ⊗		3 (9本)
		氏名	小西美穂	猪尾満紀	平野悦子	六條洋二	隅田憲男	近藤正章	山名信行	福多博史	平野誠司	白木洋一	福多雅英	近藤 亘	米倉 滋	藤川和秋	北條憲治	

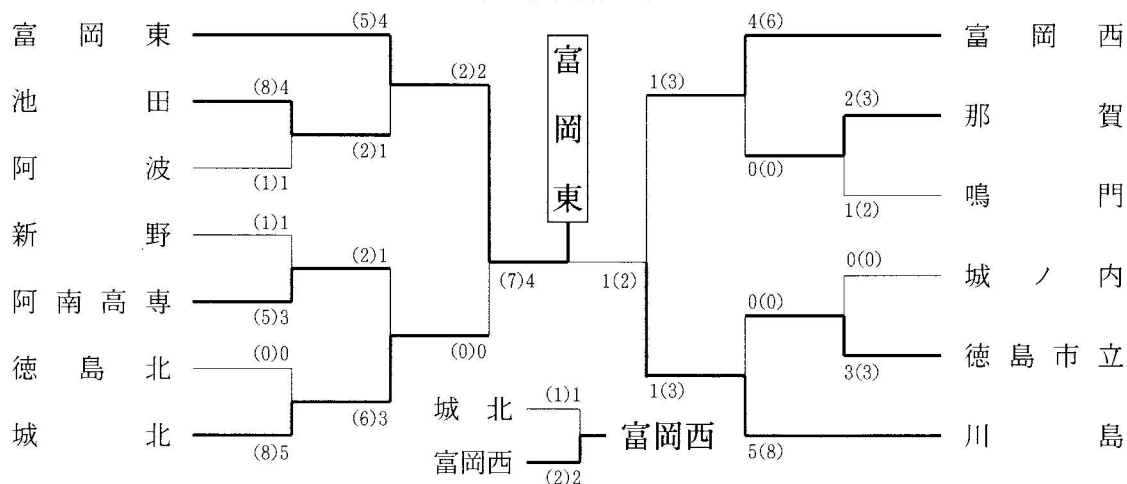
県名	監督	区分	女子			20代		30代			40代			50代			60代	得点 (本数)
			順	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	
香川	木内光良	氏名	三宅麻衣子	諏訪恵美	立川真美	松本和明	小林孝洋	藤本和也	井口雅博	福田大輔	宮本吉彦	村上盛彦	井上孝	氏家幹雄	村上誠	真鍋秀樹	高橋良平	(8本) 3
		得点	☐ ⊗			⊗ 一本勝		▲		⊗		☐	⊕		☐	⊗		
徳島	美馬勝行	得点		⊕ 一本勝	⊗		⊕ ⊗		☐ ⊗	☐ ⊗	☐ ⊗	☐ ⊗	☐ ⊗	☐ ⊗	☐ ⊗			(13本) 6
		氏名	小西美穂	猪尾満紀	平野悦子	六條洋二	隅田憲男	近藤正章	山名信行	福多博史	平野誠司	白木洋一	福多雅英	近藤亘	米倉滋	藤川和秋	北條憲治	

	香川	愛媛	高知	徳島	勝数	勝者数	勝本数	順位
香川		$\frac{6}{3}$	$\frac{8}{3}$	$\frac{8}{3}$	0	9	22	4
愛媛	$\frac{7}{3}$		$\frac{8}{3}$	$\frac{15}{8}$	2	14	30	2
高知	$\frac{14}{7}$	$\frac{10}{6}$		$\frac{3}{3}$	2	16	27	1
徳島	$\frac{13}{6}$	$\frac{9}{3}$	$\frac{7}{4}$		2	13	29	3

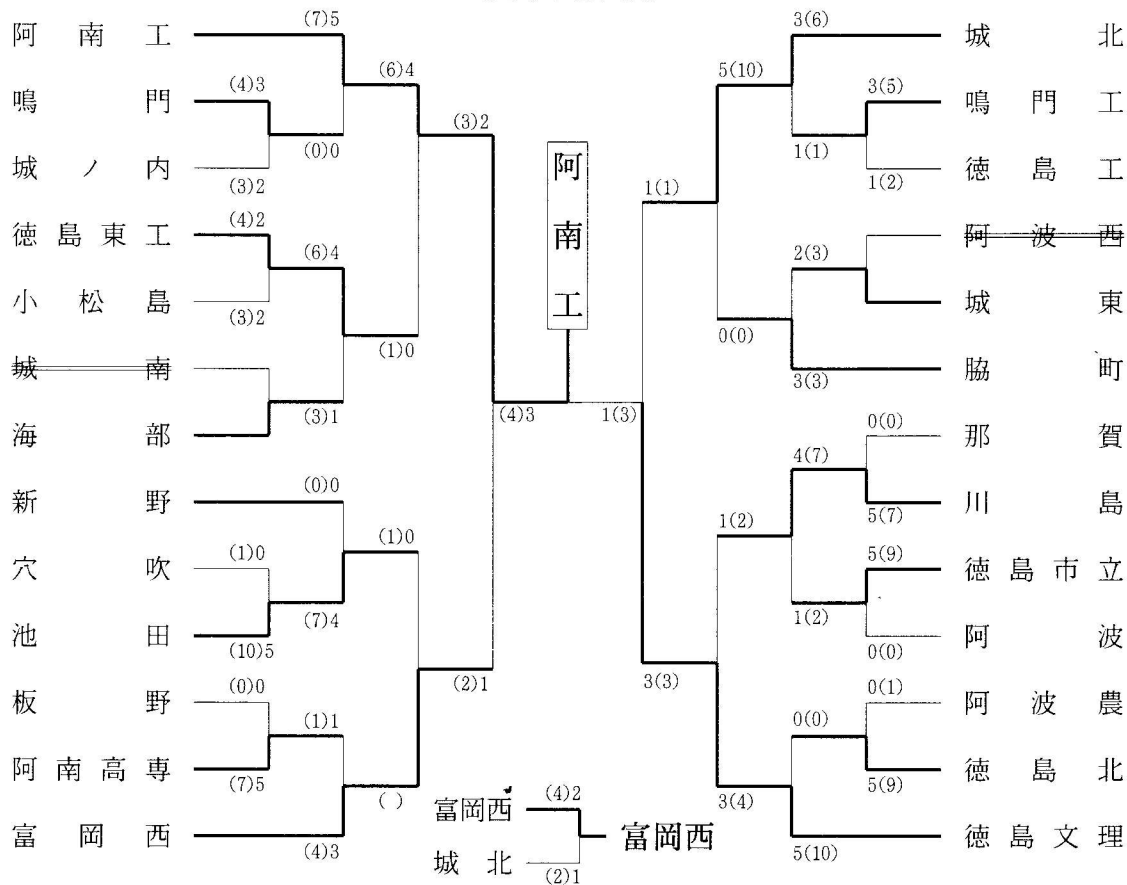
# 平成20年度 徳島県高等学校総合体育大会 剣道競技

日 時 平成20年 5月31日(土)～6月2日(月)  
 会 場 徳島県立城西高等学校体育館

## 〈女子団体戦〉



## 〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東城	仁木	湯浅	湊	近藤	大細川	2	2	
	▲延長	⊗一本勝	⊗一本勝	延長				
北	井上愛	梅本	井上奈	迎	中川	0	0	

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西城	高河村	原	西田	今川	大永浦	1	3	永浦
	延長	⊖延長		延長	⊖⊗			
川島	櫻木	酒卷	藤本	坂東	高橋	1	3	⊗高橋
		⊗	一本勝Ⓛ		⊖			

3 位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡北	井上愛	梅本	井上奈	迎	中川	1	1	
	延長	⊗一本勝	延長					
富岡西城	高河村	原	西田	今川	大永浦	2	2	
			▲一本勝	一本勝Ⓛ	一本勝Ⓛ			

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東城	仁木	湯浅	湊	近藤	大細川	4	7	
	⊖延長	Ⓛ⊗	Ⓛ⊗	Ⓛ⊗				
川島	櫻木	酒卷	藤本	坂東	高橋	1	2	
					Ⓛ⊗			

〈男子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南工	櫻木	湯浅	中福井	副鈴木	大福川	2	3	
	⊗延長	⊗一本勝		延長	延長			
富岡西城	松本	小西	福永	藤本	白木	1	2	
			⊗一本勝					

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡北	河村	元木	山口	副森出	大塚	1	1	
	延長				⊖一本勝			
徳島文理	淀谷	青木	松本	鈴木	出口	3	3	
	⊗	⊗一本勝	Ⓛ一本勝					

3 位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西城	松本	小西	中福永	副藤本	大白木	2	4	
	⊗一本勝	Ⓛ⊗		ⓁⓁ				
富岡北	河村	元木	山口	副森出	大塚	1	2	
			▲一本勝	ⓁⓁ				

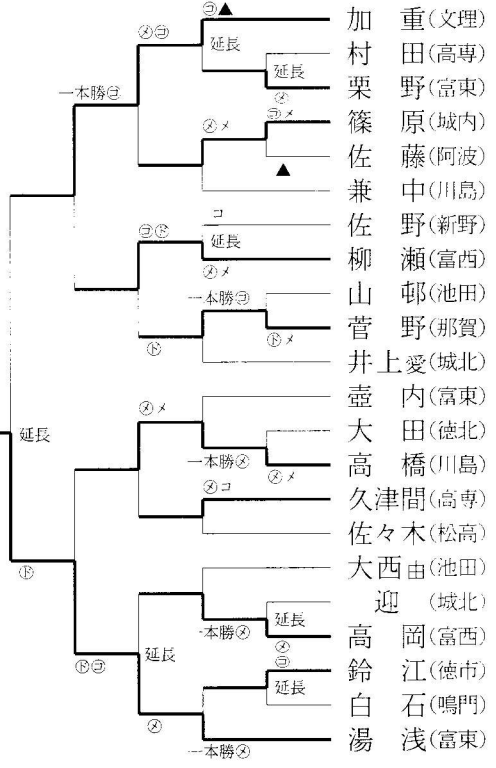
決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南工	櫻木	湯浅	中福井	副杉谷	大福川	3	4	
	延長	ⓁⓁ	Ⓛ		Ⓛ一本勝			
徳島文理	淀谷	青木	松本	鈴木	出口	1	3	
		Ⓛ		Ⓛ	▲			

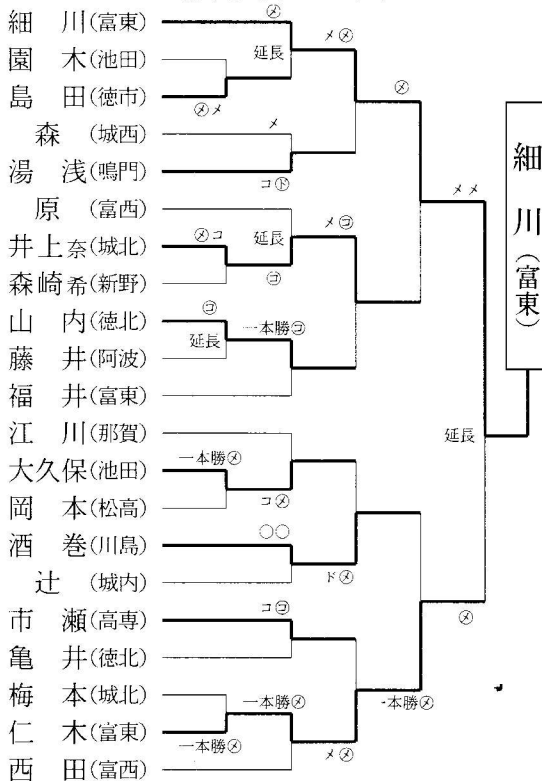
〈女子個人 1組〉



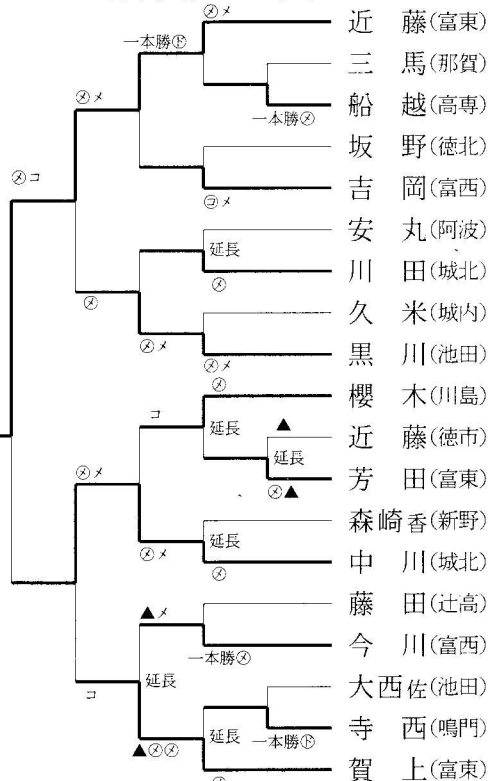
〈女子個人 2組〉



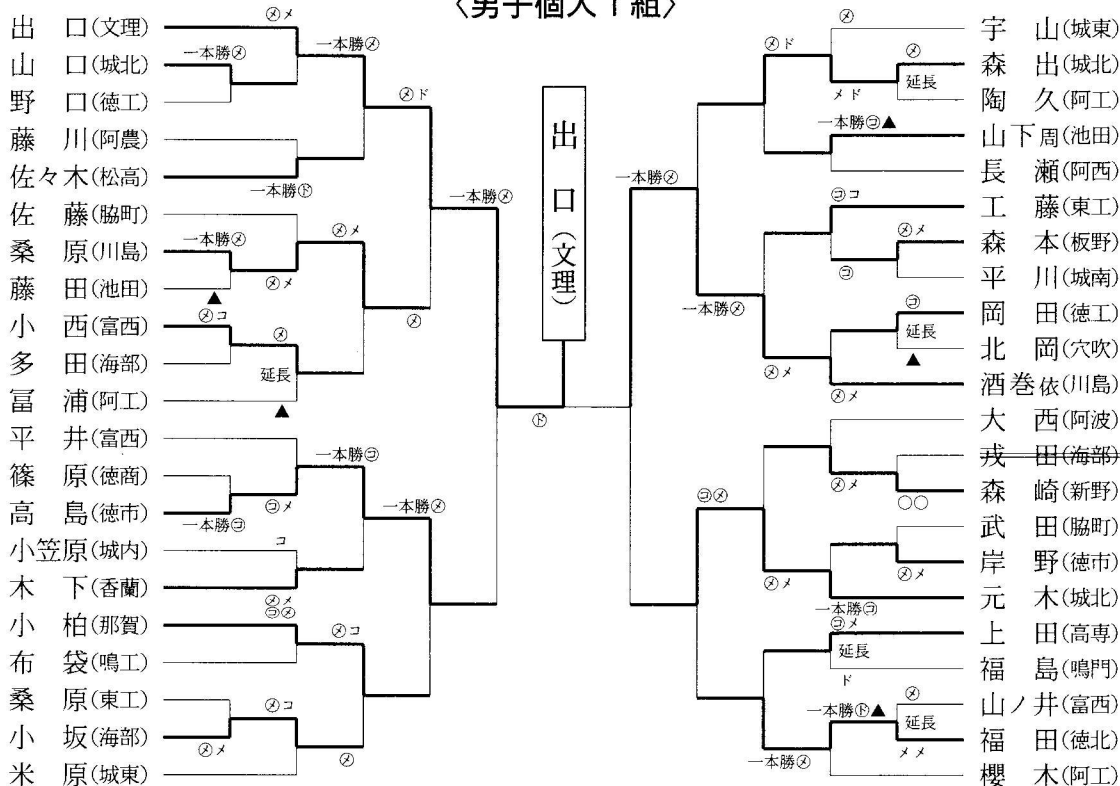
〈女子個人 3組〉



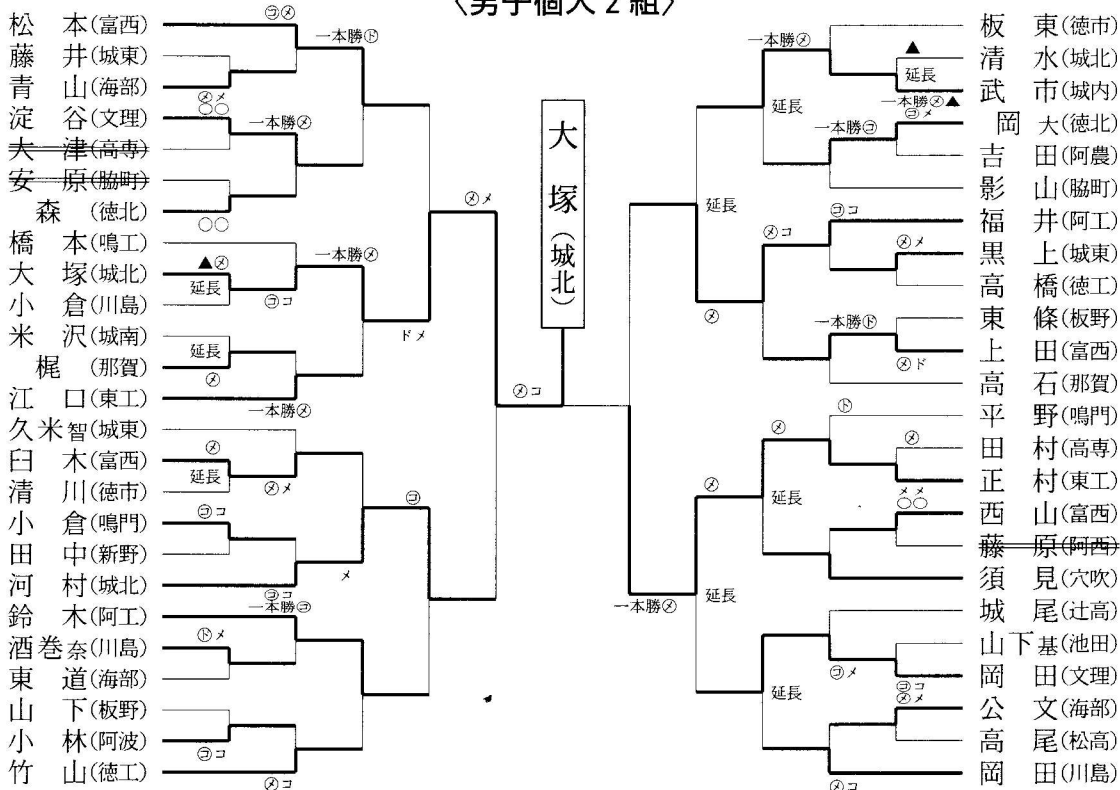
〈女子個人 4組〉



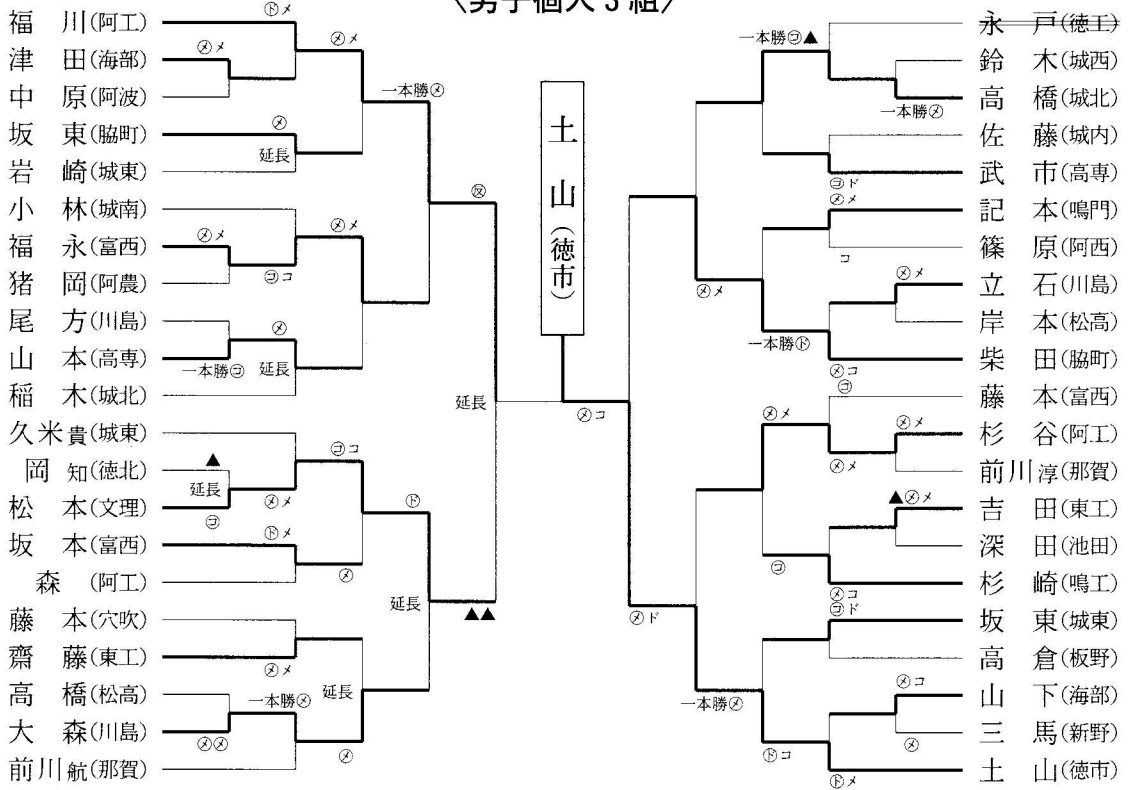
〈男子個人1組〉



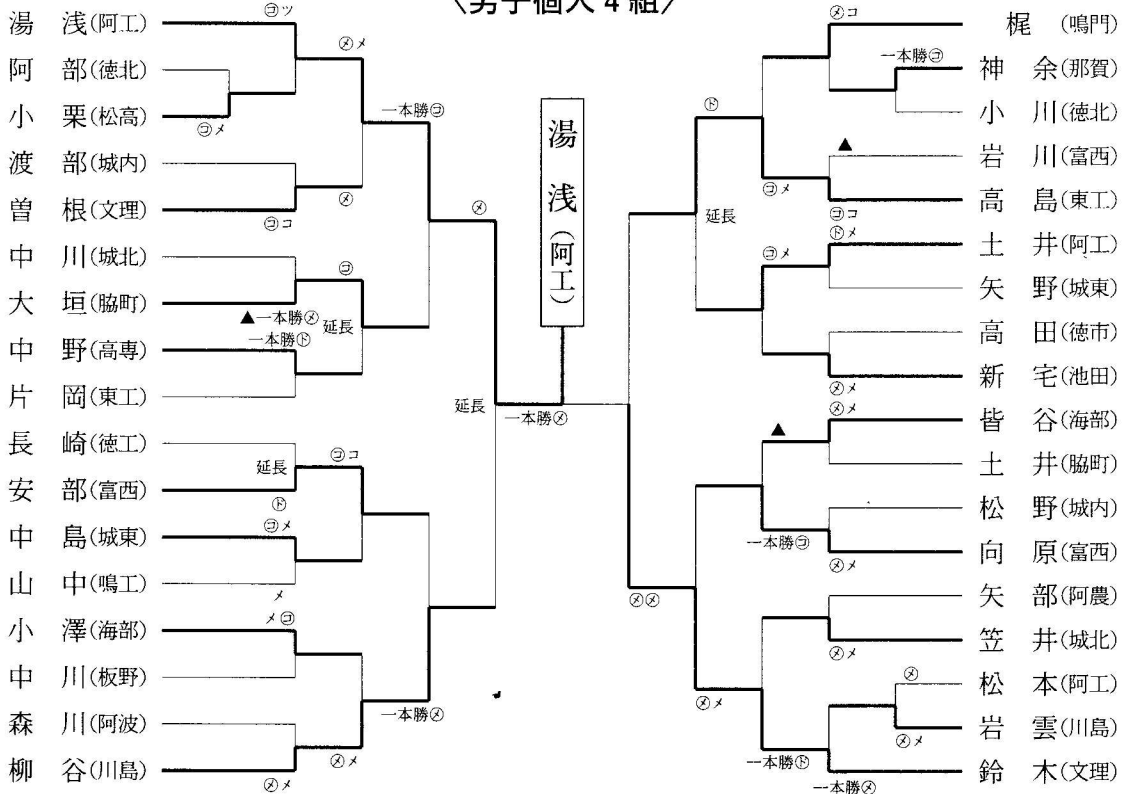
〈男子個人2組〉



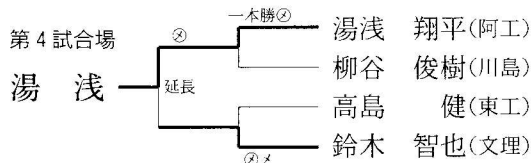
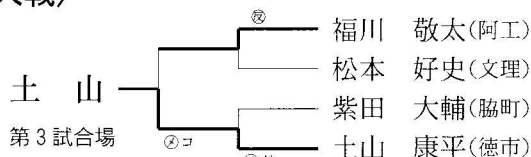
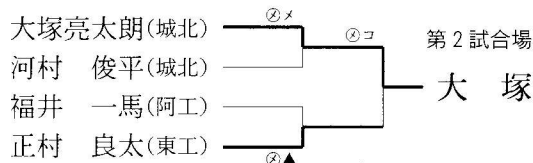
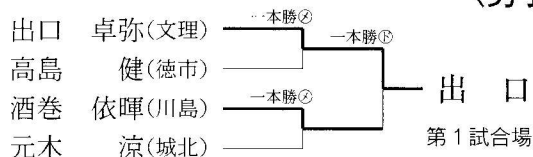
〈男子個人 3組〉



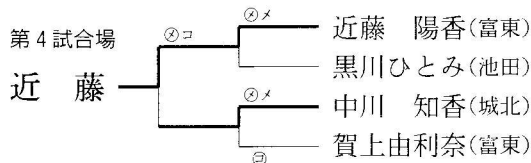
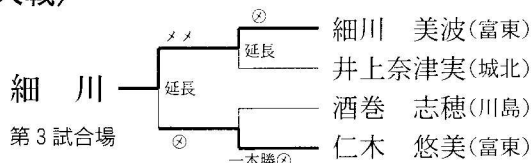
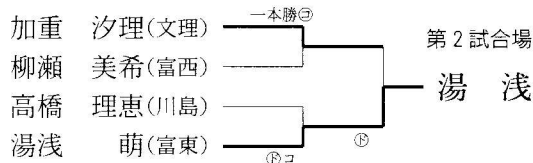
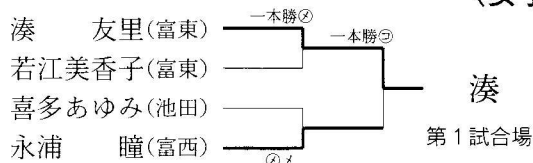
〈男子個人 4組〉



### 〈男子個人戦〉



### 〈女子個人戦〉



## 決勝リーグ

### 〈男子個人戦〉

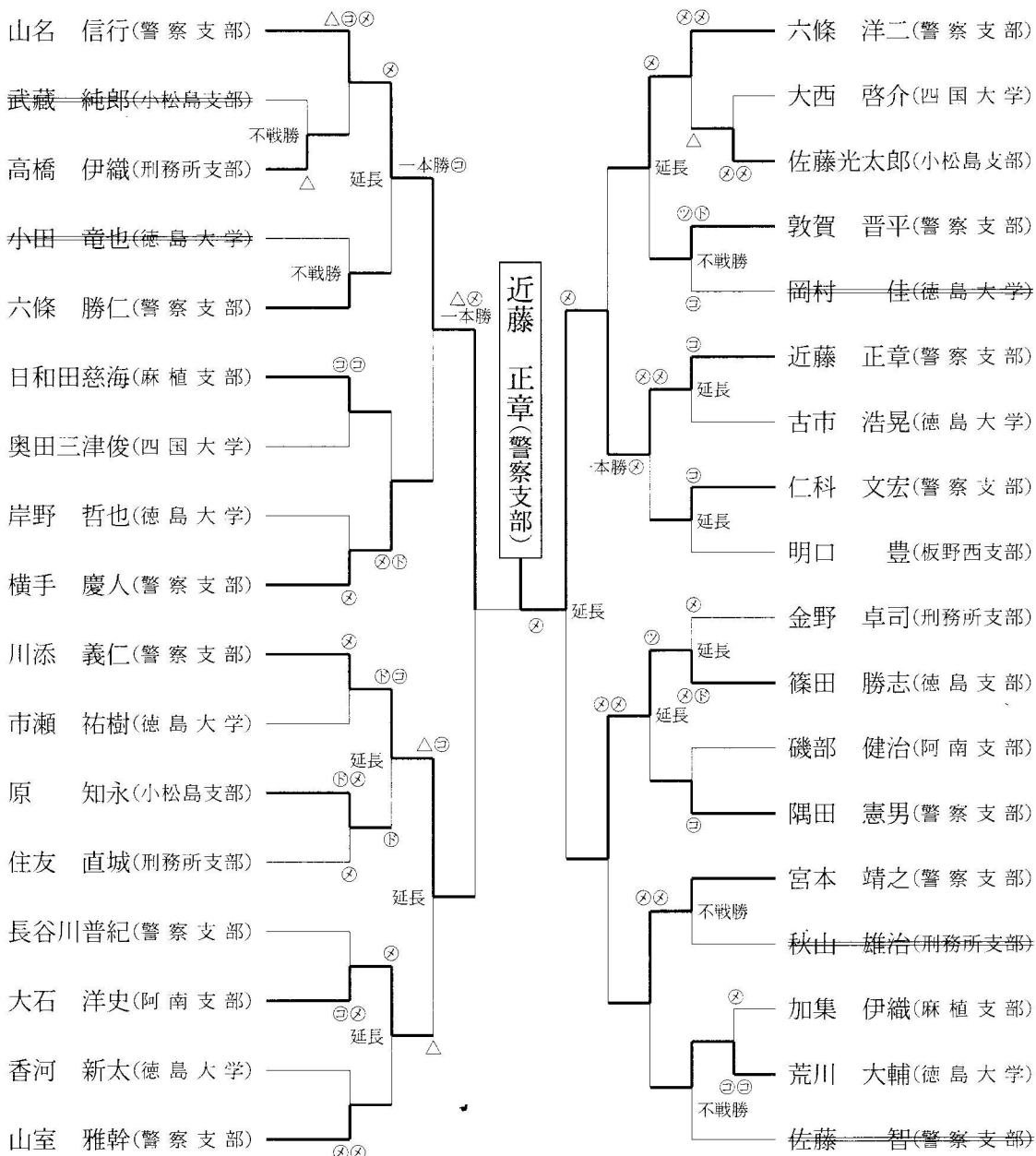
	出口	大塚	土山	湯浅	勝数	勝本数	得失差	順位
出口		⊗延長	⊗延長	△延長	2	2	+1	2
大塚	△延長		△	△	0	0	-3	4
土山	△延長	⊕一本勝		△	1	1	-2	3
湯浅	⊖延長	⊖一本勝	⊗コ		3	4	+4	1

### 〈女子個人戦〉

	湊	湯浅	細川	近藤	勝数	勝本数	得失差	順位
湊		⊗延長	△フ延長	⊗延長	2	3	+1	1
湯浅	△延長		⊗一本勝	△	1	1	-1	4
細川	⊗コ	△		⊖延長	2	3	+1	2
近藤	△延長	⊗一本勝	△延長		1	1	-1	3

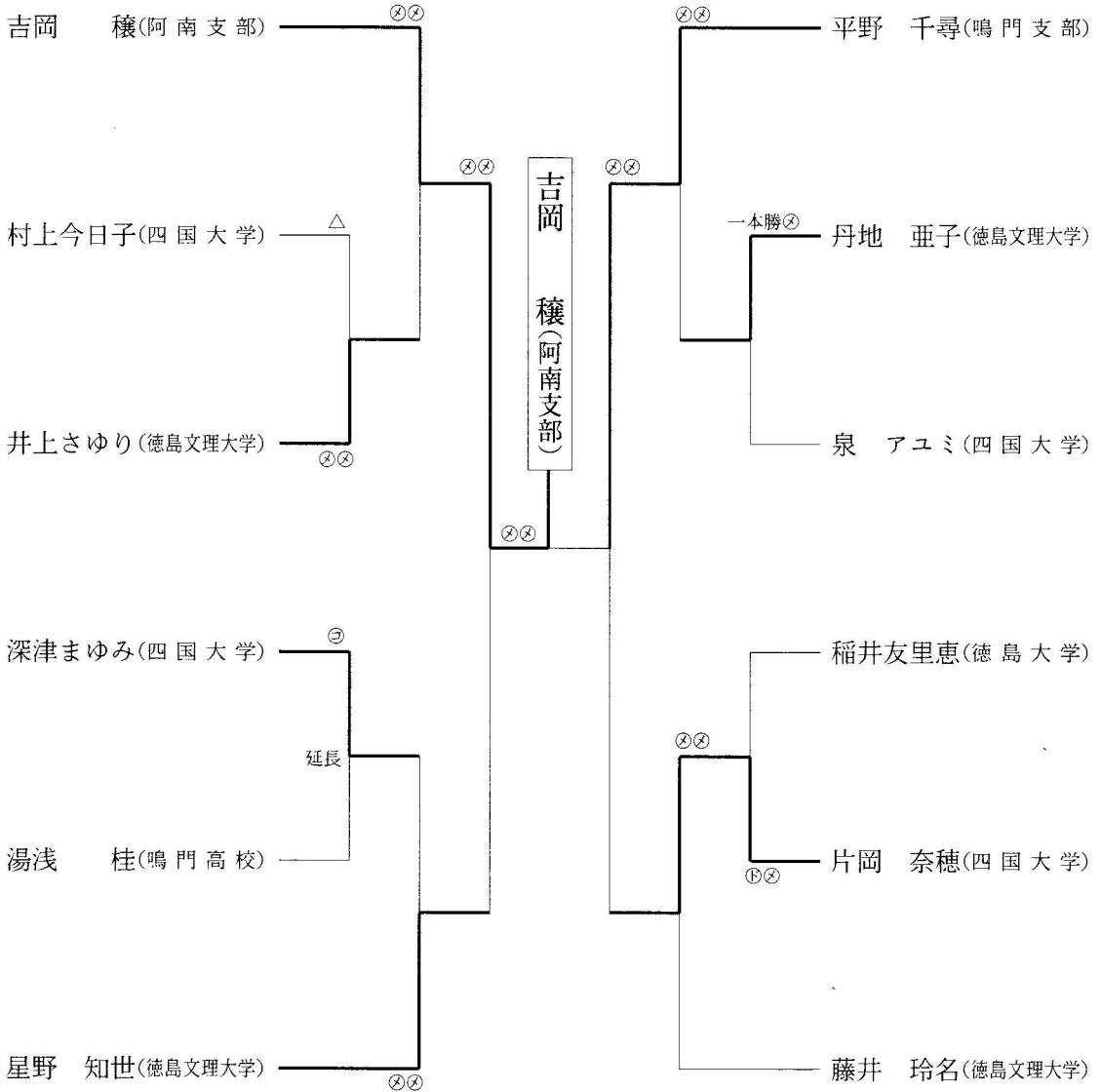
## 第20回 徳島県剣道選手権大会並びに 第56回 全日本剣道選手権大会県予選会

優勝 近藤 正章 (警察支部) 日時 平成20年7月20日(日) 午前9時30分  
 準優勝 山名 信行 (警察支部) 場所 松茂町第二体育館  
 第三位 川添 義仁 (警察支部)  
 第三位 篠田 勝志 (徳島支部)



# 第11回 徳島県女子剣道選手権大会並びに 第47回 全日本女子選手権大会県予選会

優勝 吉岡 穰 (阿南支部) 日時 平成20年7月20日(日) 午前9時30分  
 準優勝 平野 千尋 (鳴門支部) 場所 松茂町第二体育館  
 第三位 星野 知世 (徳島文理大学)  
 第三位 片岡 奈穂 (四国大学)



## 第62回 徳島県中学校夏季総合体育大会 剣道競技

日 時 平成20年 7月21日(月) 午前 8時40分  
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

### [団体戦]

順位	男 子	女 子
優 勝	那 賀 川 中 学 校	阿 南 第 一 中 学 校
準 優 勝	木 頭 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
第 3 位	鳴 門 第 一 中 学 校	加 茂 名 中 学 校
第 3 位	阿 南 第 一 中 学 校	牟 岐 中 学 校

### [男子決勝リーグ]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	本数/人数
那 賀 川	蘆 田	井 上 稔	廣 井	谷 口	井 上 幹		$\frac{2}{2}$
	⊗一本勝	⊗一本勝	延 長	延 長			
木 頭							$\frac{0}{0}$
	久 保	谷 澤	小 藪	関 口	小 野		

### [女子決勝リーグ]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	本数/人数
那 賀 川	西	湯 浅	長谷川	那 佐	岡 内	西	$\frac{1}{1}$
	⊗一本勝	延 長	延 長	延 長			
阿 南 第 一					⊗一本勝	⊗	$\frac{1}{1}$ 代表勝
	佐 藤	小 川	松 浦	藤 本	工 藤	工 藤	

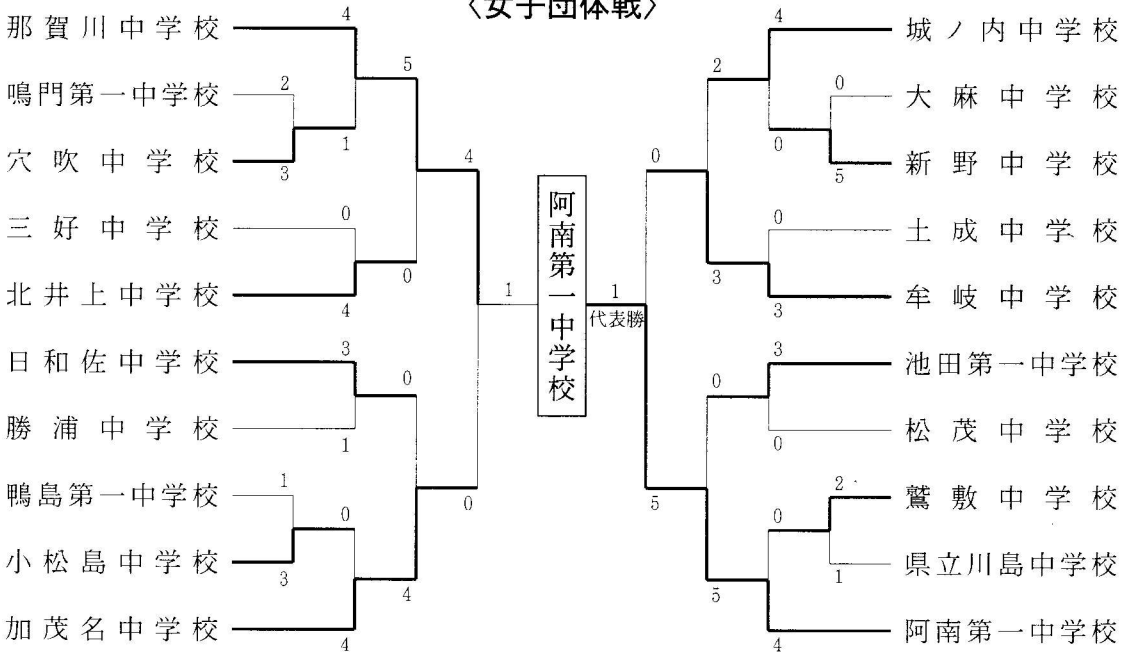
### [個人戦]

順位	男 子	学校名	順位	女 子	学校名
優 勝	久 保 公 緒	徳島文理	優 勝	西 柚 衣	那 賀 川
準優勝	久 保 孝 緒	徳島文理	準優勝	湯 浅 絵里加	那 賀 川
第3位	岡 田 宣 孝	加 茂 名	第3位	岡 内 拓 未	那 賀 川
第4位	賀 上 陽 介	阿 南 第 一	第4位	長谷川 愛 実	那 賀 川

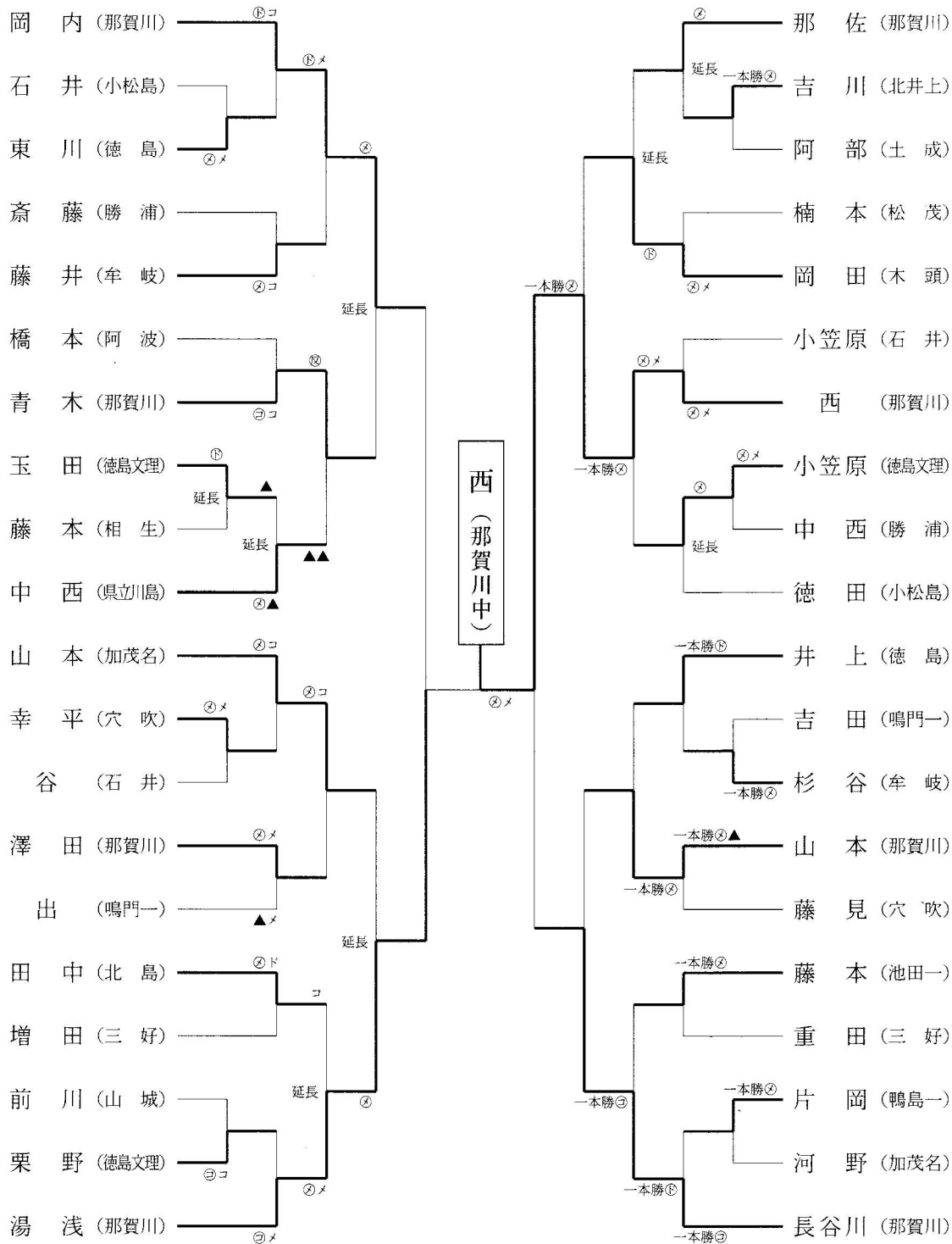
〈男子団体戦〉



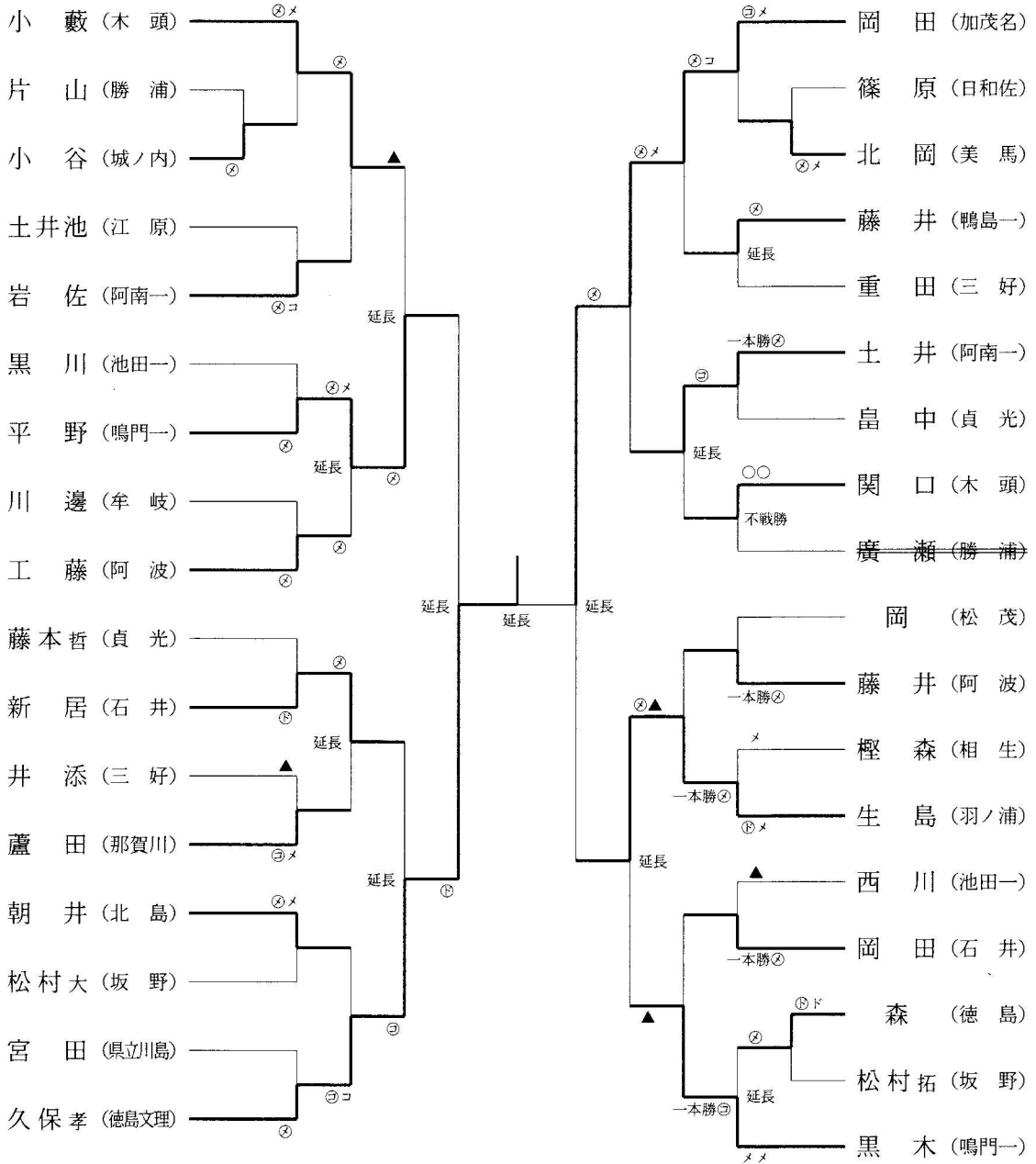
〈女子団体戦〉



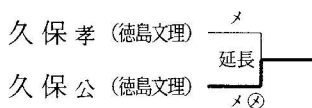
〈女子個人戦〉



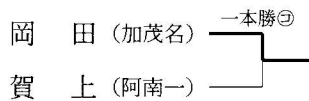
# 〈男子個人戦〉



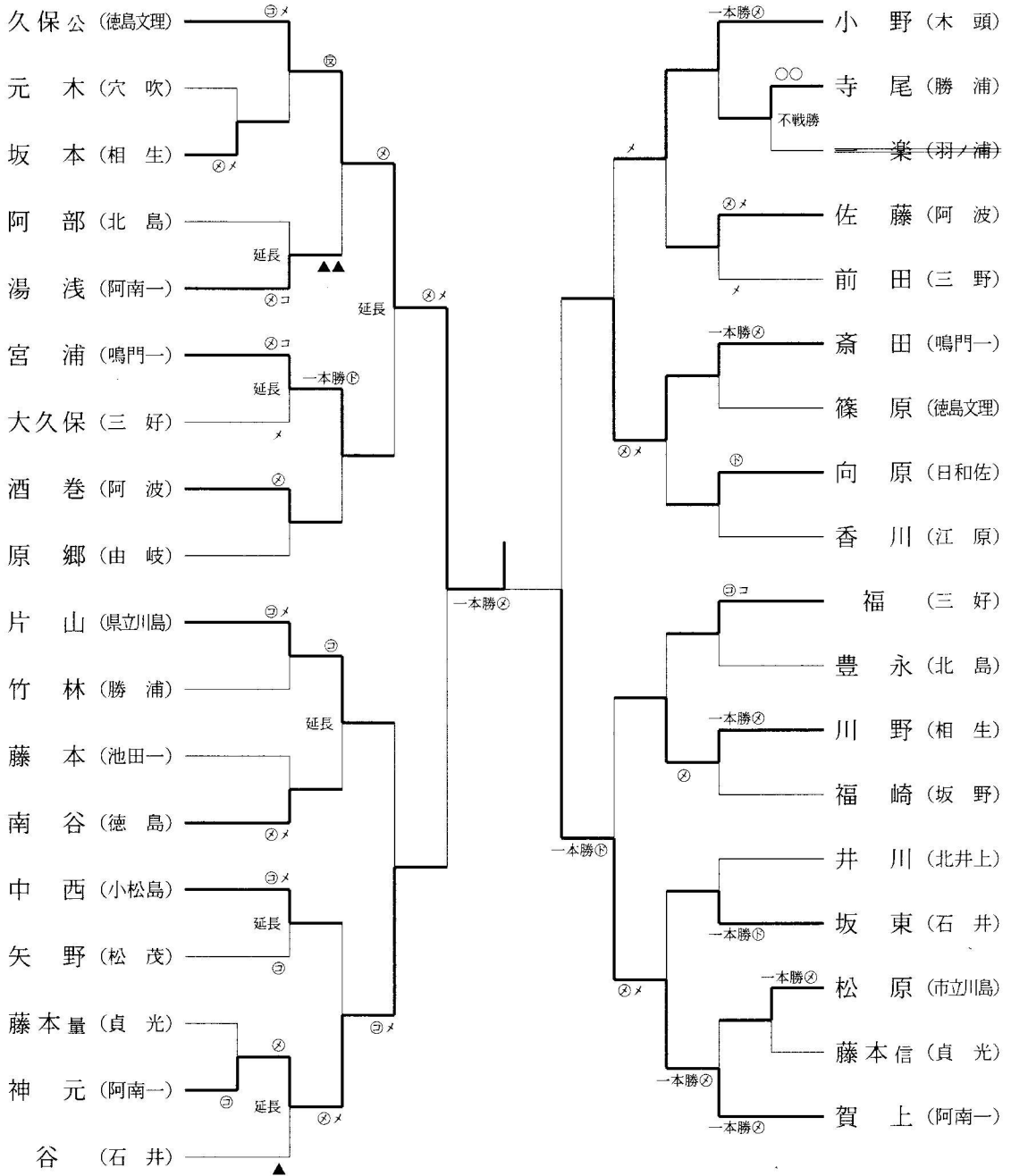
## 男子個人決勝



## 代表者決定戦



〈男子個人戦〉



# 第37回 徳島県社会人剣道大会

## 予選リーグ

日時 平成20年10月12日(日) 午前9時30分  
場所 鳴門ソイジョイ武道館

A	振武館 A	大鵬薬品 B	麻植支部 B	勝数	勝者数	勝本数	順位
振武館 A		(7/4)	(7/4)	2	8	14	1
大鵬薬品	(0/0)		(8/4)	1	4	8	2
麻植支部 B	(0/0)	(2/1)		0	1	2	3

B	阿波支部(松)	美馬支部 A	阿南支部 B	三好支部(風)	勝数	勝者数	勝本数	順位
阿波支部(松)		(4/2)	(1/1)	(1/1)	1	4	7	3
美馬支部 A	(0/0)		(2/0)	(2/1)	0	1	4	4
阿南支部 B	(7/4)	(6/3)		(1/1)	2	8	14	2
三好支部(風)	(7/4)	(4/2)	(5/4)		3	10	16	1

C	海部支部	徳島支部 B	名西支部	麻植支部 C	勝数	勝者数	勝本数	順位
海部支部		(3/2)	(3/2)	(8/4)	3	8	14	1
徳島支部 B	(2/2)		(1/1)	(8/4)	1	7	11	3
名西支部	(1/1)	(2/1)		(8/4)	2	6	11	2
麻植支部 C	(1/0)	(1/0)	(0/0)		0	0	2	4

D	小松島(少剣) B	蔵本剣道クラブ	阿波支部(竹)	大塚製薬	勝数	勝者数	勝本数	順位
小松島(少剣) B		(6/3)	(5/3)	(1/0)	2	6	12	2
蔵本剣道クラブ	(4/1)		(5/1)	(5/2)	1	4	14	3
阿波支部(竹)	(1/0)	(4/1)		(4/2)	0	3	9	4
大塚製薬	(2/1)	(8/3)	(7/3)		3	7	17	1

E	徳島支部 A	阿南支部(大野)	鳴門支部	美馬支部 B	勝数	勝者数	勝本数	順位
徳島支部 A		(3/1)	(7/3)	(8/4)	2	8	18	2
阿南支部(大野)	(6/3)		(7/3)	(10/5)	3	11	23	1
鳴門支部	(5/2)	(3/1)		(6/4)	1	7	14	3
美馬支部 B	(1/1)	(1/0)	(1/1)		0	2	3	4

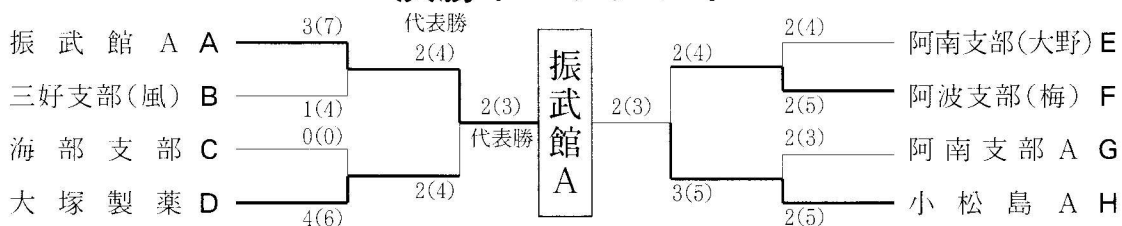
F	麻植支部 A	小松島 C	振武館 B	阿波支部(梅)	勝数	勝者数	勝本数	順位
麻植支部 A		(6/3)	(6/2)	(1/1)	2	6	13	2
小松島 C	(3/1)		(1/1)	(2/1)	0	3	6	4
振武館 B	(3/1)	(3/2)		(3/1)	1	4	9	3
阿波支部(梅)	(4/3)	(6/4)	(8/4)		3	11	18	1

### 予選リーグ

G	阿南支部 A	三好支部(林)	徳島錬心館	板野東支部	勝数	勝者数	勝本数	順位
阿南支部 A		9/5	9/5	6/3	3	13	24	1
三好支部(林)	1/0		4/1	7/3	2	4	12	2
徳島錬心館	0/0	2/1		4/2	1	3	6	3
板野東支部	1/0	2/2	3/1		0	3	9	4

H	小松島 A	上八万剣道倶楽部	板野西支部	勝数	勝者数	勝本数	順位
小松島 A		9/5	5/3	2	8	14	1
上八万剣道倶楽部	1/0		3/1	0	1	4	3
板野西支部	1/1	8/4		1	5	9	2

### 決勝トーナメント



### 準決勝戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
振武館 A	元木	松本	福多	上田	富田	富田	2 (4)
大塚製薬	西田	仁木	奥田	桜井	元木	元木	(4) 2

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
阿波支部(梅)	三木	割石	兼松	安田	藤井		2 (4)
小松島 A	原	切中	高木	西山	沢井	一本勝	(5) 3

### 決勝戦

- 優勝 振武館 A
- 準優勝 小松島 A
- 第3位 大塚製薬
- 第3位 阿波支部(梅)

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
振武館 A	元木	松本	福多	上田	富田	富田	2 (3)
小松島 A	原	切中	高木	西山	沢井	沢井	(3) 2

# 第19回 徳島県小・中学校剣道強化錬成大会

## 少年の部

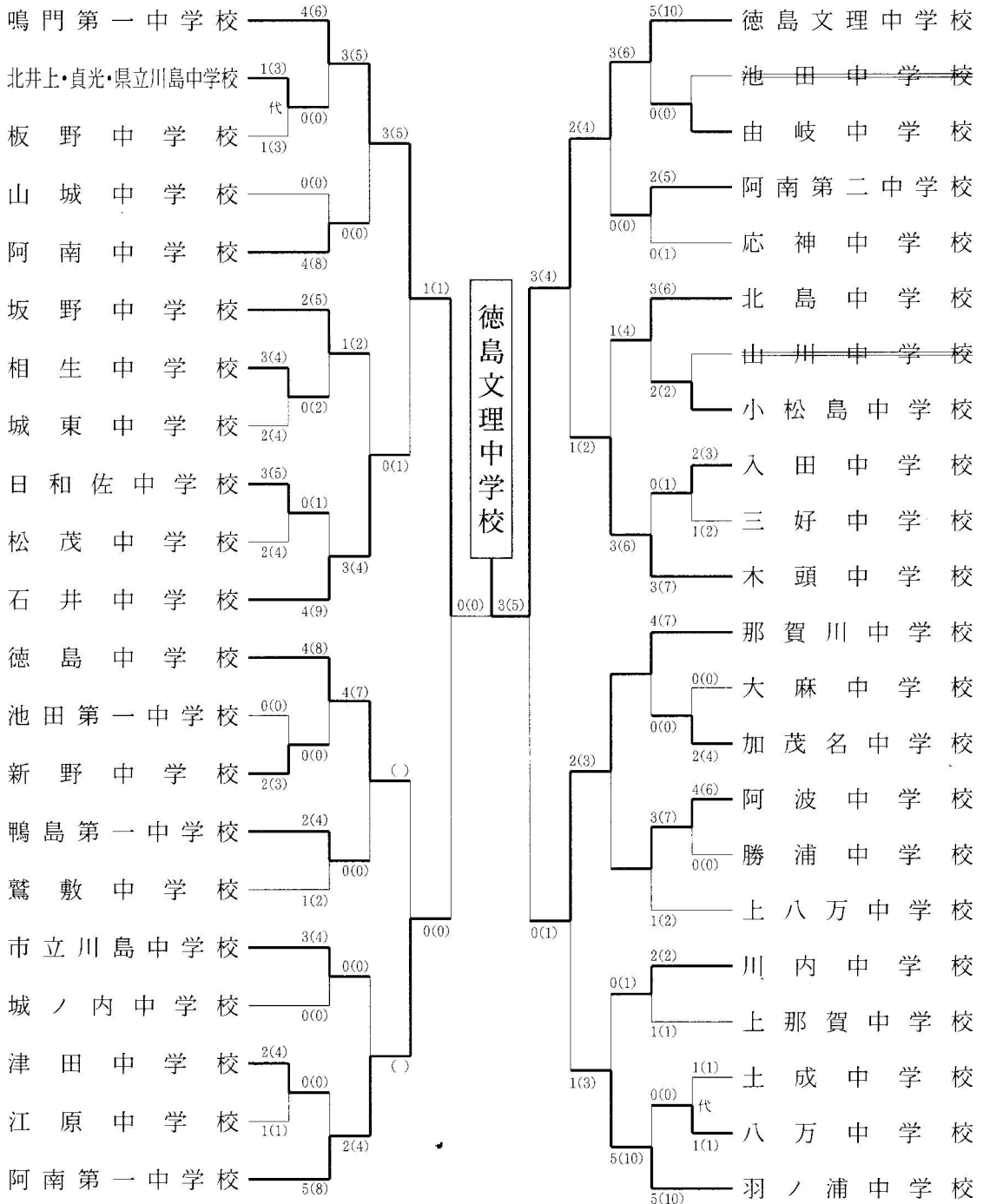
日 時 平成21年1月11日(日) 午前9時30分  
場 所 鳴門アミノバリューホール体育館

優勝 坂野少年剣道クラブ  
準優勝 小松島少剣クラブ  
第3位 徳島至誠館  
第3位 阿南少年剣道教室



# 中学生男子

優勝 徳島文理中学校  
 準優勝 鳴門第一中学校  
 第3位 阿南第一中学校  
 第3位 那賀川中学校





### 準決勝戦 (少年の部)

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
徳島至誠館	福田	佐々木	田中	玉田	朝田	0 (0)
坂野少年 剣道クラブ	野口	丸岡	松村	福崎	丸岡勇	1 (1)

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
阿南少年 剣道教室	田中	林	岩浅	杉本	魅生	0 (0)
小松島 少剣クラブ	一本勝 南谷	一本勝 長谷川	一本勝 平尾	一本勝 鳴川	川原	4 (4)

### 準決勝戦 (中学男子)

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
鳴門第一 中学校	岩木	黒木	平野	宇井	竹内	1 (1)
阿南第一 中学校	土井	近藤	安部	岩佐	湯浅	0 (0)

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
那賀川 中学校	米川	濱田	菱本	小濱	蘆田	0 (1)
徳島文理 中学校	一本勝 久保	一本勝 高木	一本勝 戸井	一本勝 岸田	久保	3 (4)

### 準決勝戦 (中学女子)

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
那賀川 中学校	山本悠	山本響	中村	住友	湯浅	3 (6)
城ノ内 中学校	佐藤	岸本	川人	福田	美馬	1 (2)

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
土成 中学校	佐藤	湯浅	阿部	森	笠井	0 (1)
北井上 中学校	一本勝 松浦	一本勝 矢部	一本勝 美馬	一本勝 下込	中村	4 (8)

## 決 勝 戦 (少年の部)

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	代表	
坂野少年 剣道クラブ	野口	丸岡由	松村	福崎	丸岡勇	丸岡	1 (2)
		⊖一本勝			⊗	⊗▲	
小松島 少剣クラブ					⊗ Ⓣ▲	▲	1 (2)
	南谷	長谷川	平尾	鳴川	川原	川原	

## 決 勝 戦 (中学男子)

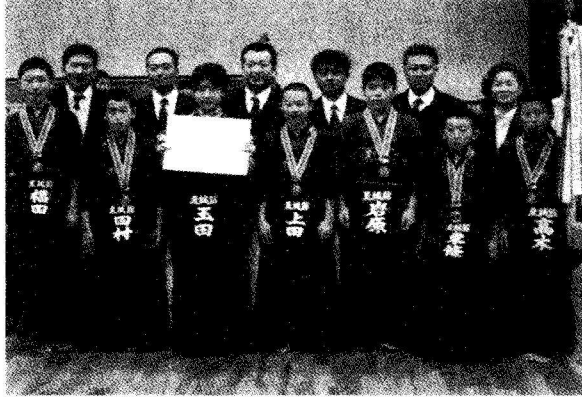
チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
鳴門第一 中学校	岩木	黒木	平野	宇井	竹内	0 (0)
徳島文理 中学校	Ⓣ Ⓣ			一本勝 ⊗	⊗ ⊗	3 (5)
	久保孝	高木	戸井	岸田	久保	

## 決 勝 戦 (中学女子)

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
那賀川 中学校	山本悠	山本響	中村	住友	湯浅	1 (3)
	⊗		Ⓣ ⊗			
北井上 中学校	⊗		⊗			0 (2)
	松浦	矢部	美馬	下込	中村	



県小学校剣道強化錬成大会で優勝した徳島至誠館



2月28日



# 徳島至誠館 3年ぶり王座

下し、3年ぶりの王座に  
返り咲いた。

◆第18回県小学校強化錬成大会(1月20日・鳴門アミノパビリオンホール)  
小学生48チームが参加。決勝は徳島至誠館が2-1で鳴門市光武館を

▽準決勝 徳島至誠館 1(本数勝ち) 徳島教室 鳴門市光武館 2-0

▽決勝 徳島至誠館 1(本数勝ち) 徳島教室 鳴門市光武館 2-0

木頭錬心館  
▽決勝 徳島至誠館 1(本数勝ち) 徳島教室 鳴門市光武館 2-0

【団体】準々決勝 徳島至誠館 2-1 川島スボ少、徳島教室 4-0 阿南教室、木頭錬心館 2-1 鴨島教室、鳴門市光武館 2-0

▽準決勝 徳島至誠館 1(本数勝ち) 徳島教室 鳴門市光武館 2-0

3月3日

## 男子予選 木頭が制す

四国中学強化錬成剣道

剣道の四国中学校強化錬成大会は2日、愛媛県武道館で男女の団体戦が

行われ、男子の木頭が予選1位トナメントを制した。

徳島関係の成績

男子 団体予選1位トナメント回戦 木頭1(本数勝ち)

1 大方(高知)、鳴門20宇多澤(香川)

▽決勝

木頭20 鳴門1

2位トナメント回戦 阿南1(本数勝ち) 1野市(高知)、羽ノ浦3 2 庄(香川)

▽決勝

阿南1 2 羽ノ浦

(代優勝)

女子 団体予選1位トナメント回戦 阿南1 3 0 若西(高知)

▽決勝

東予東1 0 阿南1

(愛媛)

3位トナメント回戦 兼(香川) 3 2 城ノ内 3 位 決

定戦 大方(高知) 1 0 城ノ内

▽4位トナメント回戦 北

井上3 1 牟岐 3 位 決定戦 小

田(愛媛) 2 1 牟岐

▽決勝

北井上 3 1 野

(高知)

3月6日



◆第33回県西部地区少年大会(2月11日・阿波西高体育館)

【団体】少年部①鳴門市光武館(先鋒)②福居周平、次鋒③新居健太、中堅④太田風人、副将⑤井形優、大将⑥山本大介

②入田錬成会③鴨島教室

▽中学男子①北島(先鋒)②阿部有矢、次鋒③山住之、中堅④豊永賢

大、副将⑥坂本健太、大将⑦朝井智奏、⑧阿波B

③阿波A▽同女子①三好(先鋒)②重田菜摘、中堅③米本祥子、副将④米本朱里、大将⑤増田恭子

②石井・山川・県立川島連合③土成A

【個人】小学3年①堀正太郎(大久保教室)②猪野明日香(川島スボ少)③太田あかり(鳴門市光武館)④秋山佳宏(大久保教室)▽4年①野口淳宏(入田錬成会)②原深太(土成スボ少)③大塚琴音(徳島春風館道場)④三角拓巳(入田錬成会)▽5年①山崎誠司(さくら少年剣友会)②庄村莉緒(川島スボ少)③笠井敬介(徳島清風館)④中井優里花(鳴門市光武館)▽6年①山本大介(鴨島教室)②本田将人(鴨島教室)③高松隼斗(入田錬成会)④前川真里奈(川崎少剣ク)



徳島市スポーツ少年団剣道交流大会団体戦で【上】低学年を制した北井上剣道教室A【下】高学年優勝、低学年準優勝の徳島少年剣道教室



徳島市スポーツ少年団剣道交流大会団体戦で【上】低学年を制した北井上剣道教室A【下】高学年優勝、低学年準優勝の徳島少年剣道教室

徳島市内のスポーツ少年団10団体から小中学生136人が参加。団体戦は、低学年の北井上剣道教室Aが2連覇、高学年の徳島少年剣道教室Aが3連覇を果たした。

【団体】小学校低学年①北井上教室A②徳島教室③加茂名教室④蔵本少

【個人】小学1・2年①山室和土(徳島教室)②高橋周平(入田錬成会)③北条弘登(徳島教室)④行啓心那(北井上教室)▽3年①美馬樹一(北井上教室)②樋田和泉(蔵本少剣ク)③秋田修平(徳島教室)④武知良祐(応神スポーツク)

◆第13回徳島市スポーツ少年団交流大会(2月17日・徳島市B&G海洋センター)

▽高学年①徳島教室A②入田錬成会③上八万倶楽部④養武館

【個人】小学1・2年①山室和土(徳島教室)②高橋周平(入田錬成会)③北条弘登(徳島教室)④行啓心那(北井上教室)▽3年①美馬樹一(北井上教室)②樋田和泉(蔵本少剣ク)③秋田修平(徳島教室)④武知良祐(応神スポーツク)

▽4年①菅生優輝(加茂名教室)②井川瑛士(北井上教室)③美馬悠一(同)④立川裕也(蔵本少剣ク)▽5・6年男子①佐賀敏典(徳島教室)②中崎正章(北井上教室)③西野智輝(上八万倶楽部)④工藤貴仁(徳島教室)▽同女子①永野みきみ(加茂名教室)②河野優季(同)③樋田小白合(蔵本少剣ク)④吉田歩生(同)

▽中学男子①岡田宣孝(清風館)②永野辰樹(加茂名教室)③岩木佑都(徳島教室)④新居大平(清風館)▽女子①山本千尋(蔵本少剣ク)②福田有香梨(同)③河野結花(加茂名教室)④藤涼香(入田錬成会)

### 徳島少年剣道教室A 団体高学年で3連覇 北井上AはV2

低学年 北井上AはV2



佐古剣道クが 団体戦頂点に

◆第14回藤花旗争奪少年大会(2日・石井中体育館)

22チームが参加した団体戦は、佐古剣道クラブが栄冠を手にした。個人戦には192人が出場し、4年生の上田真奈さん(鴨島教室)が連覇した。

【団体】①佐古ク(先鋒)②合本晃佑、次鋒③井上とも、中堅④西條翔太、副将⑤大嶺栄利子、大将⑥岩見聡、⑦蓋住スボ少③上浦教室③川島ス

ボ少

【個人】3年①美馬州一(北井上教室)②迎直樹(鴨島教室)③橋本理奈(市場教室)④杉本純(鴨島教室)⑤上田真奈(鴨島教室)⑥野口淳宏(入田錬成会)⑦多田加奈子(鴨島教室)⑧櫻川裕(同)▽5年①後藤田廉(川島スボ少)②笠井敬介(徳島清風館道場)③美馬あかり(北井上教室)④瀬川雄也(吉野教室)⑤西野智輝(上八万倶楽部)



藤花旗争奪少年剣道大会で団体の部を制した佐古剣道クラブ

3月20日





団体、個人三段以上の部を制した塚原④＝県立中央武道館

# 城ノ内レディースV

個人三段以上の部 塚原(鳴門)が制す

**県女子剣道**  
 剣道の徳島県女子大会が11日、中央武道館で行われ、団体の部は城ノ内レディースが初優勝を果たした。個人三段以上の部は塚原裕美(鳴門支部)が制した。塚原は団

体の部・城ノ内レディースの大將を務めており、2冠を獲得。二段以下の部は酒井奈々(徳島文理大)が2連覇した。

【団体】1回戦 鳴門教育大 0-1 坂野支部 2回戦 鳴門教育大 1-0 代表部 3回戦 鳴門教育大 徳島文理大 1-0 本戦 鳴門教育大 1-0 本戦勝ち 1回戦 城ノ内レディース 1-0 徳島南太

5月12日

藤本 藤井  
 藤山 丹地  
 塚原 星野  
 【個人三段以下の部準決勝】  
 酒井(徳島文理大) 1-0 坂井(鳴門教育大) 村上(四国大) 1-0 横道(徳島文理大)  
 ▼決勝  
 酒井 1-0 村上  
 ▼三段以上の部準決勝 藤井(徳島文理大) 1-0 公文(鳴門教育大) 塚原(鳴門支部) 1-0 星野(徳島文理大)  
 ▼決勝  
 塚原 1-0 藤井

○：女子団体を制した城ノ内レディースの3人は、城ノ内高剣道部の2002年卒業生。同剣道部から借りた胴を着けて気持ちを一気に勝ち進んだ。

「3人で一本を目標に臨んだ今大会、先鋒の藤本が慎重な試合運びでつなぎ、中堅・藤田が攻めて勢いづけた。すべての試合で決勝は大將まで回ったが、塚原が落ち着いて勝ちを決めた。3人は一気心の知れた仲間と楽しみなが、それだけが良い結果につながった」と笑顔をみせた。

## 徳島2勝1敗、3位



勝者数の差で優勝を逃した徳島の大将北條(鳴門ソイ)武道館

### 四国四県剣道

剣道の第60回四国四県大会が18日、鳴門ソイヨイ武道館でリーグ戦で行われ、徳島は2勝1敗で3位だった。2勝1敗で並んだ徳島、高知、愛媛の中で、勝者数で上回った高知が5年ぶり12度目の優勝を果たした。

徳島は美馬勝監督のほか、北條、藤川、米倉、近藤巨、福多雅、白木、平野誠、福多博、山名、近藤正、隅田、六條、平野悦、猪尾、小西の15人。リーグ戦 徳島 4-3 高知 愛媛 8-3 徳島、徳島 6-3 香川 高知 7-3 香川、高知 6-3 愛媛、愛媛 3-本数勝ち 3 香川 ▼順位①高知2勝1敗(勝者数16) ②愛媛2勝1敗(14) ③徳島2勝1敗(13) ④香川3敗(9) 3チーム並ぶ激戦

○：3年ぶりの11度目の優勝を目指した徳島だったが、わずかの差で3位に終わった。2勝1敗で3チームが並ぶ激戦。初戦で高知に4-1、3と辛勝。続く愛媛戦で3-8と敗れてしまった。

大將の北條は「愛媛戦は序盤でリズムを崩し、相手の勢いを止められなかった」と振り返った。香川を破ったが、勝者数の差で優勝を逃した。四県の競技力向上を狙い開催されている大会で、北條は「競り合って各県が全国で活躍できるようになれば」と話していた。

5月19日

6月3日

最終日

# 県高校総体

## 富岡東女子史上最多V17

### 男子 阿南工3年ぶり制覇

#### 剣道

城西高体育館

【男子】団体決勝

阿2-1富西 文理3-1城北

▽3位決定戦 富西2-1城北

▽決勝

阿 工3-1文理

榎木 1-淀谷

富岡東2-0城北 川島1代表勝

阿南工・福川主将(大)

つた准決勝(富岡西戦)

の延長戦は気持ちだけ負けないようにした。決勝も積極的にいったのがよかった。まず四国選手権で団体優勝し、全国総体では予選リーグ突破を目標

湯浅 ヌメロ 青木 ち1富西  
 福井 メー 松本  
 杉谷 一ノ木 鈴木  
 福川 トー 出口  
 △個人決勝リーグの湯浅翔平  
 (阿工)3勝の出口 文理2勝  
 1敗③山(市立)1勝2敗大塚  
 塚(城北)3敗

富岡東2-0城北 川島1代表勝

【女子】準決勝

富岡東2-0城北 川島1代表勝

△3位決定戦 富岡東2-1城北

▽決勝

富岡東 4-1 川島

△個人決勝リーグの湊友重(富岡東)2勝1敗③細川(富岡東)2勝1敗③近藤(富岡東)1勝2敗④湯浅(富岡東)1勝2敗 順位決定戦

近藤 コメー 坂東  
 細川 一ノ木 高橋

△個人決勝リーグの湊友重(富岡東)2勝1敗③細川(富岡東)2勝1敗③近藤(富岡東)1勝2敗④湯浅(富岡東)1勝2敗 順位決定戦

### 下級生の活躍喜ぶ 富岡東

富岡東の決勝の相手は代表決定戦までもつれた富岡西を下した川島。先鋒(せんほう)仁木が延長戦を制し、次鋒・湯浅は近藤に敗れたものの、個人戦ベスト8ぞろいの中堅の湊が鮮やかに二

富岡東の決勝の相手は代表決定戦までもつれた富岡西を下した川島。先鋒(せんほう)仁木が延長戦を制し、次鋒・湯浅は近藤に敗れたものの、個人戦ベスト8ぞろいの中堅の湊が鮮やかに二

下級生4人の活躍に「前の2年生たちが本当によくやってくれた」と目を細める。史上最多、大会17連覇の懸かる大一番だったが、安堵(あん



女子団体決勝・富岡東対川島 富岡東の中堅・湊④がコテを決め、直後にメンで川島・藤本を下し勝負を決める。城西高体育館



どこの表情も見せた。傍らで感激しながら目を赤くした。賀主将(かすけ)は「確かにプレッシャーはあったけど、よかったです。うれし」と、控えめながら喜んだ。くじ運にもよるが、全

「ぎっちりの勝つてくれた。みんな地方があるのりで、気を抜かないことだ。得意のメンで勝負を決めた。確かにプレッシャーはあったけど、よかったです。うれし」と、控えめながら喜んだ。くじ運にもよるが、全

国総体は6年連続の予選リーグ敗退が続く。当面の目標は四国選手権での優勝を挙げ、一その勢いでインターハイに乗り込み、一丸となってベスト8入りを果たしたい」と細川。チームを引っ張る大将は最後の夏に向け、「女子・富岡東の名を再び全国にアピールする。



6月16日

剣道

富岡東12度目V 女子団体



剣道女子団体決勝・富岡東対高知 次鋒戦で湯浅④がドウを決める—高知県武道館

【男子】団体予選リーグA組  
富岡西2(本教勝ち)2撃平▽B組  
高松西2—1徳島文理▽C組  
高知2—1阿南工▽D組 土佐3—2城北  
▽順位 A組③富岡西1勝2敗

(高知県武道館)

▽B組①徳島文理2勝1敗▽C組④阿南工1勝2敗▽D組②城北1勝1分け1敗 徳島文理が決勝トーナメントへ。  
▽決勝トーナメント1回戦 明徳義塾3—2徳島文理 決勝 帝京五3—2明徳義塾  
帝京五は3年ぶりの4度目の優勝。

新居浜東5—0城北▽B組 富岡東1—1帝京五▽C組 富岡西3—0嶺花▽D組 高知2—1川島  
▽順位 A組③城北1勝2敗  
B組①富岡東2勝1分け▽C組②富岡西2勝1敗▽D組④川島3敗  
富岡東が決勝トーナメントへ。  
▽決勝トーナメント1回戦 富岡東3—2高松商  
▽決勝

富岡東 3—1 高知  
壺内 一メ 寺峯  
湯浅 ドー 黒岩  
細川 メー 有澤  
近藤 ー 細川  
湊 ドー 山本  
富岡東は6年ぶりの12度目の優勝。  
役割を認識  
確実に実行 富岡東  
涙を流して勝利をかみしめた。2—1から大将

の湊が、一本勝ちを奪い優勝を決めた富岡東の選手たち。6年ぶりに四国選手権を制した選手に向かい、飯田監督は「全員がMVP」とたたえた。「絶対に優勝しよう」と全員で誓って臨んだ今大会。決勝は、上段に構える相手選手の対策として先鋒(せんぼう)に壺内が起用された。敗れはしたが、相手チームにペイスを握らせなかった。続く、湯浅、細川は「流れを引き寄せたい」と気合で一本勝ち。「後ろにプレッシャーをかけないように」と、近藤は引き分けてリードを保った。最後に湊がきっちり勝負を決めた。選手がそれぞれ役割を認識して、確実に実行した。細川は「インターハイでも勝って喜びの涙を流したい」。次の勝利を目指して、全国に挑む。(城福)

6月18日



◆第18回北島ライオンズクラブ少年大会(5月25日・サンフラワードーム北島)  
【団体】小学生①吉野教室②松茂教室  
▽中学男子①北島中A②川内中▽同女子①土成



鳴門市戦没者追悼少年剣道大会の入賞者

【小学校】低学年①千石貴基(運動公園)②田淵南帆(鳴門市光武館)③木原奨郷(運動公園)③矢野郁(鳴門市光武館)▽高学年①井形優智(鳴門市光武館)②川澄智樹(同)③納田竜希(同)③中井優里花(同)

【中学校】男子①斎田悟志②平野智将③山本大介③黒木景太▽女子①出優里奈②吉田明日華③八木夏美③藤田彩美▽所属はすべて鳴門一中

中②北島中  
【個人】小学3年以下

①坂野弘気(北島)②岩本大平(同)③小谷裕史(誠武館)③楠本沙耶(松茂)▽4年①本村昂大(誠武館)②村上朋可(北島)③宮川弘大(誠武館)③平井稜一(同)▽5年①玉川貴文(藍住)②深見桃子(同)③上野裕己(吉野)③早岡凜太郎(北島)▽6年①高橋遼(吉野)②永濱大智(応神)③石井頌之(同)③山本あかり(松

茂)①(同)③杉山佳之(同)中)②阿部文香(土成)▽中学男子①豊永賢太③矢野一輝(松茂中)▽中)③湯浅光莉(北島中)②朝井智奏(同)女子①田中理称(北島)小川未来(同)



個人6年生の部

竹内(応神)制す

◆佐藤勇先生追悼錬成大(6月21日・鳴門ソイジョイ武道館)  
11チーム81人の剣士が集い、鳴門運動公園教室

の指導者で1年前に亡くなった佐藤勇さんをしのんだ。

試合は学年別の個人戦と、参加者を東西2チームに分けた勝ち抜き戦を実施。個人戦は6年生の部で竹内透(応神)が制し、東西戦は村上朋可(北島)が6人抜きを演じて優秀賞を獲得した。

【個人戦】3年以下①坂野弘気(北島)②高橋周平(入田)③井川友暉(北島)③和田津皓也(北島)③和

7月3日

【東西戦優秀賞】6人抜き 村上朋可(北島)▽3人抜き 小笠理帆(板野)野口淳宏(入田)▽2人抜き 長野優輝(藍住)玉川博文(同)高橋茜(入田)【佐藤賞】漆原拓人(大麻)

# 鳴門一が3位

中学生の部

那賀川中と徳島至誠館(小学校)8強



◆第40回記念植田平太郎  
 腕士杯争奪少年大会(6  
 月22日・高松市総合体育  
 館) 徳島県関係の上位  
 記録のみ  
 中四国、近畿などから  
 小学校低学年79、同高学  
 年87、中学生65チームが  
 参加し、男女混合の団体  
 戦を行った。徳島県勢  
 は、鳴門一が中学生の  
 部で3位入賞したほか、  
 同部の那賀川中と、小学  
 校高学年の徳島至誠館が  
 ともに敢闘賞(ベスト



植田平太郎腕士杯争奪少年剣道大会で中学生の部3位入賞の鳴門一(中)と小学校高学年の部で敢闘賞を受賞した徳島至誠館

8)を受賞した。  
 【小学校】高学年準々(岡山)1-0 徳島至誠館  
 決勝 昇龍館一福道場  
 1-0 鳴門一(先鋒)  
 平野智将、次鋒 竹内直生、中堅 宮浦慎治、副道館

【中学】準々決勝 山将 黒木景太、大将 斎田悟志  
 田中(香川) 2-1 那賀川中A(徳島)、鳴門一  
 中(徳島) 4-0 松洋中A(和歌山)  
 ▼準決勝 京都弘道館 1-0 鳴門一  
 藤坂 藤坂 土井 王者



植田平太郎腕士杯争奪少年剣道大会で中学生の部3位入賞の鳴門一(中)と小学校高学年の部で敢闘賞を受賞した徳島至誠館

◆阿南署管内防犯少年大会(6月28日・阿南市武道館)  
 小学生は藤坂直道(那賀川B&G教室)、中学生は土井敦斗(阿南)が頂点に立った。小学生の上位4人と中学生の上位3人が、県防犯少年大会(8月9日・鳴門ソイジョイ武道館)に出場する。

【小学生】①藤坂直道(那賀川B&G教室わかあひ会) ②田中皓二(徳島至誠館) ③田中直人(阿南教室) ④馬見範子(新野教室)  
 ▼敢闘賞 朝田大樹、玉田真子、福田隆斗(以上徳島至誠館) 魁生誠(阿南教室)

## 小学生・川邊 1位 中学生・竹内



鳴門防犯少年剣道大会で小学生の部優勝の川邊と中学生の部を制した竹内

◆第5回鳴門防犯少年大会(6月14日・鳴門市剣道場)  
 小学生はトナメント戦の結果、川邊智樹(光武館)が優勝した。中学はトナメント戦の後、上位4人による決勝リーグと優勝決定戦などが行われ、竹内直生(鳴門一)が1位になった。

【小学生】①川邊智樹 ②宇井友隆 ③平野智将  
 【中学生】①竹内直生

【中学生】①土井敦斗(羽ノ浦) ②藤田佳郁(阿南一) ③岩原将平(阿南二) ④岩原将平、山本慎也、安部晋太郎(以上阿南一) 山川翔(阿南) 田村隆成(羽ノ浦)

7月10日

7月22日

# 阿南一 2年ぶり制覇

## 男子 那賀川が頂点

### 序盤リード 守り切る 那賀川

男子団体決勝は、那賀川が序盤のリードを守り切った。「ありがとう」。試合後、選手たちはがっつりと握手を交わし、互いの健闘をたたえ合った。

先鋒の蘆田(あした)が写真①が延長戦の末、相手の攻撃をかわし、を制したのが刺激となり、次鋒の井上(いの上)も「僕たちも頑張ろう」と、②も積極的な攻めでメンを決め1本勝ち。蘆田は「最後まであきらめなかつた」。井上も「自分で多く試合できるよ、全力を尽くす」と意気満々で振り返った。



## 全中王者に 劇的勝利 阿南

〇1で迎えた大将 速い動きに対抗するた戦。阿南一の工藤は昨夏、竹刀の振りや足の運の全中王者・那賀川の両内と、互角に戦いながら、ドアップに努めてきた。も決定打が出ない。しかし、試合終了直前、攻め込んできた阿賀川が上。でも、あきんできた阿賀川の竹刀を払わず最後まで集中して、メンを決めた。客席からはどよめきと歓声がわき起こった。「練習を信じ、無心に攻めた」と工藤。

「絶対にいける」。統の末、引き分けに持ち込む代表戦にも臨んだ工藤を、仲間たちは力強く励まし送り出した。開始早々に反則を取られるが、工藤はてきめをせず攻めた。その後、大将戦同様、互いにメンを決め、阿賀川に勝つたのは大きな自信。全中に向けてさらに言葉に猛練習に励んでいた。今チームは阿賀川と十数試合したが、すべて敗戦。阿賀川の選手との

### 剣道

- 【男子】団体1回戦 土成3、新野5、大塚、驚撃2、堀立川島2回戦 那賀川4、1六吹、北井4、0三好、日佐3、1勝浦、加茂名4、0小島、小松3、池田1、相生5、0市立川島、鳴門1、本数勝3、1昇、阿賀3、0江原、加茂名4、1三好、県立沼津2、台和佐、城ノ内2、1松茂、坂野3、1大塚、川内3、1山城、2回戦 那賀川5、0土成、徳島支隊5、0中岐、徳島3、0小松島、鳴門3、12相生、阿南1、3、1阿波、加茂名5、0県立川島、城ノ内3、1坂野、木頭5、0川内、準々決勝 那賀川2、1徳島支隊、鳴門3、0徳島、阿南2、1本数勝、2加茂名、木頭3、0城ノ内準決勝 那賀川3、2鳴門2、木頭3、1阿南1
- ▽決勝  
那賀川 2、0 木頭  
○蘆田 X、久保  
○井上 愈 X、谷澤  
廣井 1、小坂  
谷口 1、関口  
井上幹 1、小野
- ▽個人準々決勝 久保孝(徳島支隊)ト、平野(鳴門)、阿田(加茂名) X、1 生島(羽)浦)、久保公(徳島支隊) X、梅元(阿南)、賀上(阿南)ト、齋田(鳴門)、種法勝ト、久保孝子ト、阿田、久保公ト、賀上
- ▽決勝  
久保公 X、久保孝
- 【女子】団体1回戦 穴吹3、2鳴門、小松島、1鳴門、新野5、0大塚、驚撃2、堀立川島2回戦 那賀川4、1六吹、北井4、0三好、日佐3、1勝浦、加茂名4、0小島、城ノ内4、0新野、牟岐3、0土成、池田3、0江原、阿南4、0驚撃準々決勝 那賀川5、0北井上、加茂名4、0日佐、牟岐3、0城ノ内、阿南5、0池田、準決勝 那賀川4、0加茂名、阿南5、0牟岐
- ▽決勝  
阿南 1、1 那賀川  
(代表勝)
- 佐藤 1、西  
小川 1、湯淺  
松浦 1、長角  
勝本 1、那佐  
○工藤 X、阿内  
▽代表戦  
○工藤 X、西  
▽個人準々決勝 阿内(那賀川) X、青木(那賀川)、湯淺(那賀川) X、山本(加茂名)、西(那賀川) X、コ田(本)、長谷川(那賀川)、コ田(山本(那賀川)、準決勝 湯浅 X、阿内、西 X、長谷川
- ▽決勝  
西 X、湯浅



女子団体決勝・那賀川対阿南一 代表戦でメンを決める阿南一の工藤右、鳴門ソイヨイ武道館

(木村)





8月14日

徳島新聞

2008年(平成20年)8月14日 木曜日

# ドイツから剣道留学



米倉教士八段から指導を受けるベケレさん  
＝徳島市八万町馬場山

ミハエル・「日本で学びたい」  
ベケレさん

ドイツ人で剣道初段のミハエル・ベケレさん(右)が、徳島市八万町馬場山の米倉滋・教士八段(左)宅に7月中旬から約1カ月の日程で「短期剣道留学」に訪れている。連日けいこに励むベケレさんは「日本のレベルはやはり高い。勉強になる(こほかり)」と充実し毎日手心えを感じている。

1ヵ月間、徳島市の  
米倉教士八段指導

ドイツ西部のワイースバデン市に住むベケレさんは5年前、同市で開かれた大会を見たのをきっかけに剣道を始めた。地元クラブチームに所属。今年5月、地元剣士を対象にした市剣道連盟主催の合宿に講師として招かれた米倉さんに「力を伸ばすため日本で剣道を学びたい」と申し出て快諾を得た。

ベケレさんは5月に高校を卒業。大学に入学するまでの夏休みを利用して来県した。米倉さん宅にホームステイし隣接の道場で毎日約4時間けいこ。米倉さんからメンとコテ、ドウを打つ際の基本動作や手首の使い方、足の運び方など、きめ細かな指導を受けている。

米倉さんは「身体能力が高いうに努力家。まだまだ伸びるだろう。今後の活躍が楽しみ」。18日に帰国するベケレさんは「母国のナショナルチームの一員になるのが夢。徳島で学んだことを生かして頑張りたい」と意気込んでいる。

## 連日この基本や足の運び細かく

9月15日

徳島県代表

米倉・教士八段  
西軍勝利に貢献

全日本東西対抗剣道

剣道の第53回全日本東西対抗大会は14日、岡山県体育館で行われた。徳島県代表の米倉滋・教士八段は、西軍の十二将として出場。茨城県代表の香田郡秀・教士八段を下し、西軍の勝利に貢献した。

対抗戦は、東西の代表35人ずつが戦う剣道界では最も格式のある大会の一つに数えられる。

▽男子

西軍 21-14 東軍  
米倉 滋 香田 郡秀  
徳島 城 茨城

(通算成績は西軍の32勝1敗1分け)

▽女子

東軍 3-2 西軍  
(通算成績は東軍の3勝0敗)

9月23日

米倉が優秀試合賞

剣道全国演武大会

剣道の第8回伊勢神宮奉納全国演武大会が21日、三重県の皇學館大総合体育館で行われ、徳島県から米倉滋と近藤巨の両教士八段が出場。田崎弘光(京都)と演武した米倉が優秀試合賞を受賞した。  
米倉は「心技体が充実し、相手とも息が合った演武ができた。賞に選ばれて光栄」と喜びを話した。

# 2008 大分国体



## 剣道

【成年男子】2回戦  
愛知 3-2 徳島

大分 3-2 東京  
大阪は11年ぶりの優勝。

- 鶴飼③ コメ山 本①
- 外山⑥ コー 山名⑥
- 中村⑦ コメ 福多博⑥
- 東⑧ ーコ 福多雅⑦
- 祝⑧ メメ 西谷⑦

▽決勝

## 剣道

【成年女子】1回戦

- 三重 3-0 徳島
- 西村奈⑤ メ 平野③
- 西村真⑤ メ 上久④
- 井上⑦ コー 竹内⑦

## 剣道

【少年男子】決勝

- 大分 4-0 茨城
- 井上② メメ 篠崎③
- 中② メメ 瀬野井②
- 津島② メメ 青木②
- 菅田② ー 山下②
- 佐藤② メメ 高山③

【成年女子】決勝

- 大分 3-0 埼玉
  - 植山④ コー 久野⑥
  - 岩本⑤ コー 村山⑥
  - 西⑤ メメ コー 栗田⑥
- 大分は初優勝。
- 【少年女子】決勝
- 大分 4-1 福岡
  - 庭野② メメ 藤野③
  - 厨② メメ 松本③
  - 井上② コー 吉村③
  - 近藤③ ー 里井③
  - 大段② メメ 金丸③
- 大分は初優勝。



# 坂野が高学年制す

小学校 低学年は徳島至誠館  
団体戦



団体戦の小学校高学年を制するなど、個人・団体に活躍した坂野少年剣道クラブ

◆第26回坂野少年錬成大  
会(9月14日・小松島市  
立体育館)  
県内の小中学生が団体  
戦と個人戦を行い、小学  
校の団体戦は高学年が坂

野少年剣道クラブ、低学  
年は徳島至誠館が優勝し  
た。中学校は男子が鳴門  
一、女子は加茂名が制し  
た。

【団体】小学校低学年  
①徳島至誠館②坂野少剣  
ク③小松島少剣ク③鳴門  
市光武館▽高学年①坂野  
少剣ク②那賀川B&G教  
室わかあゆ会③木頭錬心

10月17日

館③徳島至誠館  
▽中学校男子①鳴門一  
②那賀川③羽ノ浦③坂  
野A▽同女子①加茂名  
②北井上③北島③徳島文  
理

【個人】小学校1年①  
朝田萌香(徳島至誠館)  
②後藤高志(同)③松山  
知樹(小松島少剣ク)③  
檜田胡桃(同)▽2年①

小川勘太(木頭錬心館)  
②北條弘登(徳島教室)  
③山室和士(同)③松葉  
そら(徳島至誠館)▽3  
年①樫森大知(相生竜虎  
館)②田上雄大(錬武館  
教室)③富田瑠莉(鳴門  
市光武館)③坪井香歩  
(那賀川B&G教室)▽

(同)③福良海都(同)  
③出奈々美(鳴門市光武  
館)▽5年①福田峻斗  
(徳島至誠館)②三馬愛  
理(振武館)③松本高史  
(錬武館教室)③村崎裕  
介(坂野少剣ク)▽6年  
①野口一(坂野少剣ク)  
②丸岡勇斗(同)③奥田  
紋子(振武館)③佐々木  
南波(徳島至誠館)



# 鳴門一攻めて初優勝

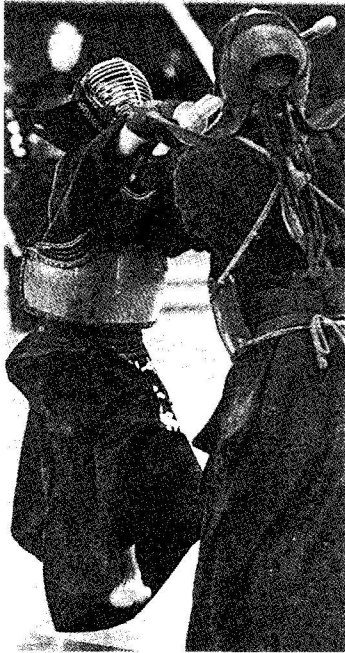
## 女子那賀川は3年連続

### 剣道

#### 県中学新人大会

剣道の第33回徳島県中学校新人大会は8日、鳴門ソイヨイ武道館で団体戦が行われ、49校が参加した男子は鳴門一が初優勝、20校の女子是那賀川が3年連続1度目の栄冠を獲得した。

- 【男子】1回戦 坂野4〇由岐川島1〇池田1〇阿波5〇〇國府、加茂5〇〇日和佐、阿房1〇城ノ内、小松3〇津田、驚敷2〇三好、土成4〇江原、相生1〇市場、脇野2〇付島、八万1〇美馬、新野4〇一盛住、勝浦3〇心神、北島2〇一城東、上那賀5〇大麻、川内3〇〇山川、入田3〇〇松茂、又2回戦 徳島文理41〇坂野、川島3〇〇阿南、阿波4〇山城、石井2〇〇加茂、木頭2〇1回戦、小松島21〇坂野、驚敷1代表勝51〇八万、阿南5〇〇土成、羽薄31〇相生、鳴島5〇〇脇野、八万4〇〇上板、徳島31〇新野、那賀川5〇〇勝浦、北島1〇〇那賀川、内4〇〇池田、鳴門15〇〇入田



男子決勝・阿南一対鳴門一 先鋒(せんぼう)戦でメンを決める鳴門一の平野を鳴門ソイヨイ武道館

- 3回戦 徳島文理4〇〇川島、石井41〇阿波、木頭51〇〇小松島、阿南3〇〇驚敷、羽薄31〇〇鳴島、徳勝41〇〇八万、那賀川21〇〇北島、鳴門5〇〇〇川内、準決勝 徳島文理4〇〇石井、阿南31〇木頭、羽薄31〇〇徳島、鳴門31〇〇那賀川、準決勝、阿南21〇徳島文理、鳴門21〇羽薄

竹内 湯浅  
「完べきな内容」  
「危なげない試合運びで、初の頂点に立った男子の鳴門一。就任4年目となる竹内監督は「各試合にうまく気持ちを合わせ、常に攻める姿勢をみせていた」と選手たちをたたえた。

3日に行われた清原杯県大会では徳島文理との頂上決戦で敗れ、今大会に懸ける意気込みは相当なものだったという。決勝の中堅戦でメンを決めて制した宇井は「自分のペースで戦えたことが勝因。相手の動きもよく見えた」と満足そうに振り返った。

一人一人が結果  
〇：女子は地方に勝る那賀川が3連覇を達成。山本主将は「写真裏には一人一人が役目を果たした結果。新チーム結成後、初めの優勝なのでうれしい笑み。昨年は全国中学校体育大会で2度目の栄冠に輝



- 〇鳴島1、土成2(本数勝ち)2城ノ内、加茂3、北島、北井上、日和佐、準決勝 那賀川21〇土成、北井上、1加茂名、決勝 那賀川3〇北井上、山本、梅、矢部、中村、松浦、松本、美馬、住友、下込、湯浅、梅、中村

き、四国総体は3連覇中と活躍している。旧チームからのレギュラーで大將を務めた湯浅は「同僚は「先輩たちの成績に少しも近づけるよう、頑張っていきたい」と力強く抱負を述べた。

11月9日

11月11日

# 男子 松本(徳島) 女子 湊(富岡) V

## 剣道

### 県高校選手権

剣道の第42回徳島県高校選手権は9日、鳴門ソイジョイ武道館で個人戦が行われ、108人が参加した男子は松本好史(徳島文理)が優勝、62人で競った女子は湊友里(富岡東)が2連覇を果たした。

【男子】準々決勝 湯浅(阿南工)コト 岡田(徳島文理)、松本(徳島文理)反ト 木下(香蘭)、平野(鳴門)ツト 土井

【女子】準々決勝 湊(富岡東)メト 原(富岡西)、仁木(富岡東)メト 岩原(富岡東)、湯浅(富岡東)ドー 若江(富岡東)、近藤(富岡東)ドー

栗野(富岡東)▽準決勝 湊メト 仁木、湯浅 メドトメ 近藤

▽3位決定戦 近藤 メト 仁木

▽決勝 湊 メドトコ 湯浅



校での優勝は初めてで大きな自信になる」

【女子】準々決勝 湊(富岡東)メト 原(富岡西)、仁木(富岡東)メト 岩原(富岡東)、湯浅(富岡東)ドー 若江(富岡東)、近藤(富岡東)ドー

栗野(富岡東)▽準決勝 湊メト 仁木、湯浅 メドトメ 近藤

▽3位決定戦 近藤 メト 仁木

▽決勝 湊 メドトコ 湯浅

自分信じて逆転

〇…女子は厚い選手層を誇る富岡東勢が、8強中7人を占めた。その中で試合巧者の湊が「勝負



女子決勝 延長戦を制して2連覇を達成した富岡東の湊(右)鳴門ソイジョイ武道館

どころで一気に攻めることができた」と、昨年が続いての優勝。決勝ではコテを許して先手を奪われたものの、

メンとドウを決めて逆転勝ち。「焦ることなく、最後まで自分を信じていた」と笑みをこぼした。



剣道

阿南 準優勝

◆第7回全国高等専門学校女子剣道大会  
校女子大会(8月23日・  
北海道釧路高専体育館)  
徳島県関係

全国から12校が参加。  
3ブロックに分かれて予  
選リーグを行い、Cプロ  
ックで1位になった阿南  
高専は決勝リーグに進出  
した。2試合を戦い、い

9月11日

第7回全国高等専門学校女子剣道大会



全国高専女子剣道大会で準優勝した阿南高専

ずれも引き分けた阿南は準優勝に輝いた。  
【予選リーグ】Cプロック 阿南1(本数勝ち)1熊本電波、阿南1(引き分け)1呉  
阿南高専は取得本数差で決勝リーグに進出。  
【決勝リーグ】阿南1(市瀬メヌ) 瀬田、村田、引き分け 福原、久1敗  
津間1メヌ寺崎)1徳山、阿南0(市瀬引き分け)松岡、村田、引き分け 馬場、久津間、引き分け 石井、〇鈴鹿、順位)鈴鹿1勝1分け2阿南(市瀬祐季奈、村田奈津季、横手茉結、船越拾奈、久津間)

11月3日



寺西杯争奪近県選抜少年剣道大会で中学校女子の部を制した小松島少剣(フ)と同男子準優勝の鳴門一中A



中学団体

小松島少剣ク栄冠

男子は鳴門一中A準優勝



剣道

◆第11回寺西杯争奪近県選抜少年大会(10月13日・鳴門アミノバリュートル) 中四国、近畿など11府

県から195チーム970人の小中学生が参加。中学生の団体女子は小松島少剣クラブが栄冠を手にした。同男子は鳴門一中Aが準優勝で、優勝は洗心道場(愛知)。小学生は低・高学年ともに昇龍館一福道場(岡山)が制した。

【小学校団体】低学年 昇龍館一福道場(岡山) 砂山少年剣友会(和歌山) 徳島至誠館(徳島) 白川台少年剣修会(兵庫県) 敢闘賞 穴師会(大阪) 鳴門市光武館A(徳島) 十河又ボ少(香川) 愛媛成武館(愛媛) 高学年(昇龍館一福道場) 洗心道場(愛知) 砂山少年剣道場(岡山) 徳島至誠館、砂山少年剣道場

【中学校団体】男子 ①友会▽敢闘賞 福田道場(岡山) 京都一龍館(京都) 穴師会A(大阪)、小松島少剣ク(徳島) 洗心道場②鳴門一中A(徳島) 先鋒▽平野野将、次鋒 岩木佑都、中堅 宇井友隆、副将 黒木景太、大将 竹内直生) 昇龍館一福道場、光武館・清風館合同チーム(徳島) 敢闘賞 阿南一中、木頭中、徳島文理中A(以上徳島) 京都一龍館

女子 ①小松島少剣ク(先鋒)青木万里子、中堅 長谷川愛実、大将 岡内拓実) 昇龍館一福道場③大川中(香川) 砂山少年剣友会▽敢闘賞 鳴門一中、石井中合同チーム、徳島中、木頭中合同チーム(以上徳島) 住吉川少年剣友会(大阪) 洗心道場

◆寺西杯争奪近県選抜少年剣道大会(10月11日・鳴門一中A)

【団体】小学校低学年 ①徳島教養の鳴門教養③北井上教室▽同高学年 ①坂野少剣ク②小松島少剣ク③川島スボ少▽中学校 ①鳴門市光武館②県立川島中③市立川島中 【個人】小学校1年①松山知樹(小松島)②桂林太郎(同)③櫻丸智也(山川)④炭元裕(光武館)▽2年①山登和(徳島)②北條弘登(同)③刑部浩輝(ふくひ)④刑部克輝(同)▽3年①木村泰成(光武館)②山口ひかり(市場)③極本優花(穴吹)④美馬亮太(上八万)▽4年①福岡ひかり(坂野)②島村裕人(市場)③兼松綾那(阿波)④下山雄稀(穴吹)▽5年①楢田柊吾(小松島)②木村知寛(光武館)③村崎裕介(坂野)④幸平麻里(穴吹)▽6年①藤本風汰(春風館)②佐藤みなみ(阿波)③林真優(北井上)④安丸友郎(上浦)

# 日和田 (吉野川市役所) 全国2位



◆第40回全日本官公庁大会(11月1日・東京武道館) 徳島県関係  
全日本官公庁剣道連盟の創立40周年の記念大会

があり、団体戦と男女の個人戦で気迫あふれる攻防を繰り広げた。徳島県は男子個人戦に日和田慈海(吉野川市役所・30歳)が出場。116人によるトーナメント戦を決勝まで勝ち上がり準優勝の快挙を遂げた。4度目の挑戦で初めて決勝進出を果たした日和田は「去年はベスト8だったので準優勝は上出来。決勝では一本を取られたが、思った以上に良い勝負ができてうれし」と喜びをかみしめた。1位の濱崎(警視庁剣道クラブ)をはじめ、大会上位は常に司法・警察関係者が占める中、自治体職員の上位入賞はま

れ。練習は週に1、2回で、仕事の傍ら地元の道場(子ともたちの指導もこなす。今後は「優勝はもちろんだが、勝ち負けにこだわらない良い剣道、良い指導者を目指す」と静かに抱負を語った。

【男子】1回戦 日和田慈海(吉野川市役所) 判定勝ち 遠藤(千葉)  
▽2回戦 日和田 ココ | 鈴木(埼玉)▽3回戦 日和田 ココ | 天内(神奈川)▽4回戦 日和田 メー 田中(千葉)▽準々決勝 日和田 ココ | 五十嵐(神奈川)▽準決勝 日和田 ココ | 社頭(京都)▽決勝 濱崎(東京)ド！ 日和田



全日本官公庁大会で準優勝を果たした日和田

## 北井上教室 団体戦制す

◆第15回徳島市少年剣道大会(11月2日・徳島市B&G海洋センター) 体育

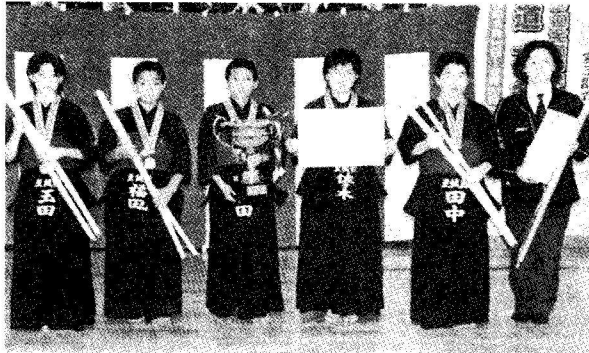
【個人】小学校1・2年①大西知哉(加茂名教室)②北條弘登(徳島教)③鎌田樹季(北井上教室)④高橋和也(養武館)▽3・4年①西原豊(徳島教室)②塚田圭吾(同)③鎌田実徳(北井上教室)④筒井誉大(同)▽5・6年①高井結喜(涓東教室)②田伏祥吾(養武館)③熊橋和真(徳島教室)④榎本千夏(上八万俱樂部)

【団体】①北井上教室(先鋒)②行譜心那、次鋒美馬州一、中堅井川瑛士、副将美馬あかり、大将中川拓弥②佐古ク③涓東教室④加茂名教室

徳島市内の道場で学ぶ小学生剣士が集い、各道場の先生や生徒と交流しながら錬成試合を行った。団体戦は北井上教室が制した。



徳島市少年剣道大会の団体戦で頂点に立った北井上教室



文理杯争奪剣道大会で小学生の部の初代王者になった徳島至誠館A



# 徳島至誠館Aが 初代チャンピオン

小学生の部

◆第1回文理杯争奪大会  
(10月26日、徳島文理中  
・高体育館)  
近畿、中四国から選抜  
された66チームが参加  
し、小学生と中学生男女  
の3部門で頂点を競つ

11月27日

た。小学生の部は決勝で  
徳島至誠館Aと小松島少  
剣クラブが激突。至誠館  
が2-1で小松島を退  
け、初代チャンピオンに  
輝いた。このほか、中学  
生女子是那賀川が準優勝  
し、同男子は徳島文理A  
と鳴門一がともに3位に  
入賞した。

【小学生】決勝トナ  
メント1回戦 六師会  
(大阪) 3-1新居浜会  
(愛媛)、小松島少剣ク  
3-2久校会(愛媛)  
徳島至誠館A 2-1黒瀬  
教室(広島)、愛媛成武  
館(愛媛) 3-0鳴門市  
光武館▽準決勝 小松島  
少剣ク 3-2六師会、徳  
島至誠館A 2-1愛媛成  
武館▽決勝 徳島至誠館  
A 2(福田 1メメ 南  
谷、佐々木 メーゴ 長  
穂、那賀川 2(代表勝

谷川、田中 ドメー 平  
尾、玉田 喜多、朝田  
メー 川原) 1小松島少  
剣ク

【中学生男子】決勝ト  
ナメント1回戦 上宮  
(大阪) 2-0那賀川、  
徳島文理A 4-1赤穂  
(兵庫)、西和(和歌  
山) 2-0住吉一(大  
阪)、鳴門一 3-1香芝  
(奈良)▽準決勝 上宮  
2(本教勝ち) 2徳島文  
理A、西和 2-1鳴門一  
▽決勝 上宮 5-0西和

【中学生女子】決勝ト  
ナメント1回戦 高知  
(高知) 3-0北井上、  
赤穂 4-1徳島文理、那  
賀川 4-0屋島(香  
川) 2 香芝 2(本教勝  
ち) 2 赤穂東(兵庫)▽  
準決勝 高知 2-1赤  
穂、那賀川 2(代表勝

11月25日

◆第36回小松島市体育大  
会(10月13日・市立体育  
館)

【小学生】1年①檜田  
胡桃(小松島少剣ク)②  
松山知樹(同)③桂林太  
郎(同)▽2年①今倉海  
人(和田島少剣ク)②宮  
城秀和(同)③井内駿也  
(小松島少剣ク)▽3年  
①喜多祐輔(小松島少剣  
ク)②鈴江拓斗(芝田少  
剣ク直心館)▽4年①丸  
岡由理奈(坂野少剣ク)  
②福良海都(同)③鳴川  
了介(小松島少剣ク)▽  
5年①上原大毅(和田島  
少剣ク)②檜田修吾(小  
松島少剣ク)③村崎裕介  
(坂野少剣ク)▽6年①  
松村潤(坂野少剣ク)②丸  
岡勇斗(同)③野口一(同)  
【中学生】①福崎泰樹  
(坂野)②金山幸造  
(同)③関谷晋司(同)





剣道

中学女子団体  
那賀川3連覇

◆第20回忠臣蔵旗少年大会(11月9日・兵庫県赤穂市民総合体育館) 徳島県関係  
全国各地から小学生57チーム、中学男子41チーム、同女子34チームが参加。中学女子団体は、前日の県中学新人大会を制した那賀川が、決勝で愛知県の福地を退け、3年連続4度目の覇者になった。大将の湯浅絵里加は優秀選手賞(大石内蔵助

【上】忠臣蔵旗少年剣道大会の中学女子で頂点に立った那賀川【下】清原杯争奪県下剣道大会の小学生の部で初優勝した川島剣道スポーツ少年団



賞)に輝いた。中学男子は徳島文理が3位、小学生は小松島少剣クラブがベスト8に入った。  
【小学生】1回戦 小松島少剣ク(徳島)4-1手(岡山)3-1小松島0有年(兵庫)▽2回戦 小松島少剣ク3-1砂川(北海道)▽3回戦 小松島少剣ク4-1山科(京都)▽準々決勝 山

阪)▽3回戦 徳島文理1-0赤穂(兵庫)▽準決勝 鶴城(愛知)3-0徳島文理  
【中学女子】1回戦 那賀川(徳島)1-0浜の宮(兵庫)▽2回戦 那賀川3-1高屋(広島)▽3回戦 那賀川3-1富田(三重)▽準決勝 那賀川2-1平坂(愛知)▽決勝 那賀川2(山本・山田、松本・コ八木、住友、メー三治、中村)1-0宮地、湯浅(磯貝)1福地(愛知)  
川島 初の栄冠  
◆清原杯争奪第53回県下大会(11月3日・阿南工業) 小学生のみ  
小学生の部は29チームが出場し、川島剣道スポーツ少年団が初優勝を飾った。徳島至誠館の3連覇はならなかった。  
【小学生】準々決勝 小松島少剣ク1-0徳島至誠館 錬武館教室3-2坂野少剣ク、川島スポーツ2-1那賀川B&G教室わかあゆ会、鳴門市光武館2(本数勝ち)2振武館▽準決勝 小松島少剣ク2(代表勝ち)2錬武館教室、川島スポーツ2(代表勝ち)2鳴門市光武館▽決勝 川島スポーツ(先鋒)庄村莉緒、次鋒猪野明日香、中堅田真成、副将松原由季、大将後藤田廉)3-1小松島少剣ク

徳島

# 平成の群像

20歳を迎えて

= 8 =

「剣道を通じて学んだ楽しさや厳しさなどを子どもに伝えたい」。言葉に力がこもる。昨春、那賀町の剣道クラブ・驚敷振武館に入会し、コーチを務めている西田義玄さん(会社員)だ。

掛け声が飛び交い、子どもたちの熱気であふれる驚敷B&G海洋センター体育館。「手首を柔らかく使って竹刀を振る」「つま先立ちで素早く」と優しく声を掛ける。「技術も大切だが、重要なのは礼儀。特にあいさつはきちんとするよう教えている」と話す。

剣道を始めたのは祖父

## 驚敷振武館コーチ

### 西田 義玄さん

那賀町朴野

の勧め。小学校二年生のときに地元の剣道クラブに入部し、進学した相生中学校、那賀高校でも剣道部に入った。「人との出会い」。剣道に引かれる理由を、こう話す西田さん。真剣勝負の相手と友情が生まれ、ほかの学校にも友人がたたくまで来たという。

そんな一人が高校一年から何度が試合し、全く歯が立たなかった対戦相手。徳島市内の高校で一

学年上の先輩だったが、自然と話をするようになった。試合内容や練習についてアドバイスをもらうとともに、「目標だった。少しでも追いつけるように練習した」と振り返る。

就職で最重要視したの

「剣道ができる環境」だった。地元で就職先を探していると、町内に工場を持つ県内企業から十一年ぶりに求人が舞い込んだ。社会人になって驚敷振武館のほか、会社でも剣道部に入った。現在三段、大会には積極的に出る

をする子どもが減っていること。少子化や部活の多様なことが原因だ。子化がいつそう進む。同級生の多くは、都会への転居が多くなってきているからこそ、剣道あこがれや就職などの理由で、町外に出て行った。まるで楽しいイベント

# 剣道の魅力伝えたい

一人が減ってトを開催して地域を盛り町に活気が感上げたい。大好きな地元に残った十二代が盛り上手としても歩み始める。



小学生を指導する西田さん(右)那賀町百台の驚敷B&G海洋センター体育館



1月25日

# 坂野少年、初の団体V

## 小松島少剣と接戦演じ



◆第19回県小学校強化錬成大会(11日・鳴門アミ

ノバリュールホール)小学生45チームがトーナメント方式で攻防を繰り広げた。決勝は坂野少年剣道クラブが小松島少剣クラブと接戦を演じ、代表戦の末に勝利をつかんだ。創立約30年の坂野

は、県大会で初の団体戦制覇を遂げた。

【少年の部】団体戦準々決勝 徳島至誠館1-

○那賀川B&G教室、坂分け 南谷飛鳥、丸岡由野少剣ク2-1 佐古ク、理奈 コー 長谷川瑞阿南教室1-0 徳島教実、松村潤 引き分け 鳴門市光武館▽準決勝 引き分け 鳴川ちひろ、坂野少剣ク1-0 徳島至誠館、小松島少剣ク4-1 原真実、代表戦 丸岡勇 阿南教室▽決勝 坂野メー 川原 1 小松島少剣ク1(野口一 引き剣ク



県小学校剣道強化錬成大会で初優勝した坂野少年剣道クラブ



徳島至誠館 子 7度目頂点 男

◆第25回新野少年錬成大会(12月23日・新野中体育館)

16チーム193人の小学生剣士が参加。団体戦の男子は徳島至誠館が2

年連続7度目、女子は小松島少剣クラブが2年連続4度目の頂点に立った。個人戦は4年生の丸岡由理奈(坂野少剣ク)が4連覇、3年生の朝田智輝(徳島至誠館)が3連覇を果たした。

【団体】男子①徳島至誠館(先鋒 福田峻斗、中堅 田中皓己、大将 朝田大樹)②小松島少剣クA③那賀川B&G教室

わかあゆ会  
▽女子①小松島少剣ク(先鋒 長谷川瑞実、中堅 鳴川ちひろ、大将 川原真実)②振武館③那

賀川少剣ク  
【個人】小学校1年①朝田萌香(至誠館)②榎田胡桃(小松島)③松山知樹(同)③斎幸佑(至誠館)▽2年①若本隆紀(至誠館)②松葉そら(同)③富田孔明(光武館)③矢野郁(同)▽3年①朝田智輝(至誠館)②田上雄大(錬武館)③西名晴輝(至誠館)③山崎舞(阿南)▽4年①丸岡由理奈(坂野)②福良海都(同)③湯浅混平(至誠館)③鳴川了介(小松島)▽5年①玉田真子(至誠館)②福田睦

(竜虎館)③具羽尚樹(阿南)③中瀬知勇(光武館)▽6年①大川奈美(錬武館)②林真樹(新野)③天羽みゆき(阿南)③安井絵梨(同)

1月29日

2月5日

昇龍旗争奪全国選抜少年剣道大会の中学1年の部でベスト8入りした田村



羽ノ浦の田村  
ベスト8入り

敢闘賞を受賞

◆2009年昇龍旗争奪  
全国選抜少年大会(1月  
10~12日・岡山県倉敷市  
水島緑地福田体育館) Ⅱ  
徳島県関係の上位  
団体戦は3部門に45

6チーム、個人戦は8部門に2044人が参加。全国各地の少年剣士が日ごろの練習の成果を試した。徳島県の田村隆晟(羽ノ浦中)は208人がエントリーした中学1年の部でベスト8入りし、敢闘賞を受賞した。

【中学1年】2回戦  
田村隆晟(羽ノ浦中)判定 藤谷(広島志尚会)  
▽3回戦 田村 メー  
近藤(愛知武徳館)▽4回戦 田村 メー 田上(熊本龍譲館)▽5回戦 田村 コー 今村(広島仁方剣友会)▽準々決勝 福本(兵庫朝日新聞倶楽部)メー 田村

富岡東が準優勝 子

四国高校新人剣道 女

剣道の2008年度四国高校新人大会は8日、香川県の琴平高で、4県から男女各4校計32校が参加して行われた。予選リーグ各組の1位が争う決勝トーナメントに女子の富岡東が進出し、準優勝した。優勝は男子が明德義塾、女子は帝京五だった。

◇徳島県関係と決勝

【男子】予選リーグA組④阿南工3敗▽B組④富岡西3敗▽C組③城北1勝1分け1敗▽D組③徳島文理1勝0敗  
▽決勝トーナメント決勝 明德義塾(高知)3-1高松中央(香川)  
明德義塾は4年連続4度目の優勝。

【女子】予選リーグA組③川島1勝0敗▽B組②富岡西1勝1分け1敗▽C組①富岡東3勝▽D組④城北3敗  
▽決勝トーナメント1回戦 富岡東3-1高松中央

▽決勝

帝京五 1-1 富岡東  
愛媛

(本教勝)

柳原詩 仁木  
須藤 コー 栗野  
松本 湯浅  
柳原光 近藤  
山本 漢  
帝京五は5年ぶり3度目の優勝。

2月10日



## 編集後記

前号の編集後記で、編集作業の能率と質を向上させるために「整理」「整頓」「清掃」「清潔」を心がける旨の決意表明をしている。その間、整理法や掃除に関する書籍を購入し、知識としては、かなり蓄積できているが、今の私の机回りをみると、その決意が継続できていないことが明らかである。編集作業も例年並みの状況であったように思う。

剣道試合・審判規則には有効打突の規定として「有効打突は、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものとする。」とある。この「充実した氣勢」「適正な姿勢」「刃筋正しく」「残心」は、仕事一般に通じる極意ではないかと考えている。例えば、私の部屋書類・用具の氾濫は、仕事のやりっ放しで「残心」がとれていないことが、主な原因ではないかと分析している。

「剣の理法の修練による人間形成の道」とは剣道の理念であるが、私自身の生活レベルに剣道精神が生かされていないことを痛感している。職場即道場の決意で今年は「残心」を大事にしていきたい。

## 『徳島の剣道』第二十五号

### 編集委員会

木	三	藤	手	中	美	出	影	伊	柴	近	松	佐
原	木	本	塚	村	馬	葉	山	賀	田	藤	永	々
資		雅	十三	総	和	成	美	雅	宗	敏	貴	和
裕	毅	史	子	裕	義	一	雄	人	忠	晴	史	人

## 『徳島の剣道』第25号

平成21年5月27日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 遠藤一美

☎770-0861 徳島市住吉三丁目9-6  
栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360